



対象トピックス:

セットアップとメンテナンス
VDIエンドポイントデバイスの基本
Atrustクライアントセットアップコンソール

モバイルシンクライアントソリューション
Atrust mt182L



ユーザーズマニュアル

Version 0.01

Copyright © 2019-20 Atrust Computer Corp.

著作権および商標に関する声明

Copyright © 2019-20 Atrust Computer Corp. All rights reserved.

This document contains proprietary information that is protected by copyright. No part of this document may be photocopied, reproduced, or translated to another language without the prior written consent of Atrust Computer Corp.

免責事項

Atrust Computer Corp. ("Atrust") makes no representations or warranties with respect to the contents or use of this document, and specifically disclaims any express or implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose. Atrust is not liable for technical or editorial errors or omissions contained herein. The information in this document is subject to change without notice.

商標に関する声明

Atrust is a trademark of Atrust Computer Corp.

Intel is a registered trademark of Intel Corporation or its subsidiaries in the United States and other countries.

Microsoft, Windows, Windows Server, RemoteFX, and MultiPoint are trademarks or registered trademarks of the Microsoft group of companies.

Citrix, ICA, XenApp, XenDesktop, VDI-in-a-Box, Virtual Apps and Desktops, are trademarks of Citrix Systems, Inc. and/or one or more of its subsidiaries, and may be registered in the United States Patent and Trademark Office and in other countries.

VMware, VMware View, and VMware Horizon View are trademarks or registered trademarks of the VMware, Inc.

PCoIP is a registered trademark of Teradici Corporation in the United States and/or other countries.

Other product names mentioned herein are used for identification purposes only and may be trademarks and/or registered trademarks of their respective companies.

このユーザズマニュアルについて

このマニュアルでは、Atrust mt182Lモバイルシンククライアントのセットアップ、使用、保守方法について詳しく説明しています。

マニュアルの構造と主題

章	主題
1	Atrust mt182Lモバイルシンククライアントの概要を説明します。
2	Atrust mt182Lモバイルシンククライアントのセットアップ方法の詳細な手順を説明します。
3	Atrust mt182Lモバイルシンククライアントの基本的な使用方法を説明します。
4	クライアント設定を構成し、AtrustクライアントセットアップコンソールでAtrust mt182Lモバイルシンククライアントをカスタマイズする方法について説明します。
付録	Atrust mt182Lモバイルシンククライアントの詳細設定、メンテナンス、アップグレードに関する補足説明を提供します。
仕様書	Atrust mt182Lモバイルシンククライアントの主要コンポーネントに関する詳細情報を提供します。

注意、ヒント、警告

このマニュアルでは、次の形式の注記、ヒント、および警告を使用して、重要な情報、役立つアドバイスを提供し、怪我、デバイスの損傷、またはシステム上のデータの損失を防ぎます。



注意

- 注記は、特定の状況に関する重要な情報を提供します。



ヒント

- ヒントは、タスクをより効率的に実行するための便利なアドバイスを提供します。



警告

- 警告は、怪我、デバイスの損傷、またはシステム上のデータの損失を防ぐために従わなければならない重要な情報を提供します。

スタイル規約

このマニュアルでは、入力デバイス、ハードウェアパネル、またはアプリケーションインターフェイスの操作項目を参照しながら、次のスタイルを使用しています。

項目	スタイル	例
キーボードのキー	太字	Ctrl + F2, Alt + F9, Alt + Tab
アプリケーションウィンドウまたはエントリリスト	頭大文字	確認ダイアログウィンドウ、RDP接続リスト、ICA接続リスト、接続リストの表示
ウィンドウ、ツールバー、タスクバー、またはメニューのボタンまたはタブ	太字	OK、次、保存、アプリケーションタブ
ウィンドウ、画面、リスト、またはメニューのオプション	太字	追加、ドメイン、接続タイプ、高品質
一連のオプションを選択する	太字	アプリケーション> Citrix ICA、アプリケーション>リモートデスクトップ、アプリケーション> VMware View、ネットワーク>ワイヤレス、デバイス>プリンター、システム>タイムゾーン

安全および規制に関する情報

規制声明

連邦通信委員会の干渉声明

この装置はテスト済みであり、FCC規則のパート15に基づくクラスBデジタルデバイスの制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅地での設置において有害な干渉から適切な保護を提供するように設計されています。この機器は無線周波数エネルギーを生成、使用、および放射する可能性があります。指示に従って設置および使用されない場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置状況で干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を引き起こしている場合は、機器の電源をオフにしてからオンにすることで判断できます。次のいずれかの方法で干渉を修正することをお勧めします。

- 受信アンテナの向きや位置を変えます。
- 機器と受信機の距離を離します。
- 受信機が接続されているものとは異なる回路のコンセントに機器を接続します。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談する

FCCの注意： コンプライアンスの責任者によって明示的に承認されていない変更または修正を行うと、この機器を操作するユーザーの権限が無効になる場合があります。このデバイスは、FCC規則のパート15に準拠しています。操作は次の2つの条件の対象となります。（1）このデバイスは有害な干渉を引き起こさない可能性があり、（2）このデバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、受信した干渉を受け入れる必要があります。

重要な注意点:

FCC放射線被ばくに関する声明

この装置は、制御されていない環境に対して示されているFCC放射線被ばくの制限に準拠しています。この機器は、ラジエーターとあなたの体の間の最小距離が20 cmになるように設置および操作する必要があります。

この送信機は、他のアンテナや送信機と同じ場所に配置したり、一緒に動作させたりしてはなりません。

規制情報

WEEE（廃電気電子機器）指令



欧州連合では、この記号はこの製品を家庭ごみと一緒に廃棄してはならないことを示しています。回収とリサイクルを可能にするために、適切な施設に保管する必要があります。適切な廃棄については、地域のリサイクルまたは有害廃棄物センターにお問い合わせください。

安全情報



警告

- 取扱説明書に記載されている電源装置のみを使用してください。



警告

- バッテリーを正しく交換しないと爆発の危険があります。製造元が推奨する同じタイプまたは同等のタイプとのみ交換してください。



警告

- 安全のため、機器に機械的または電気的な変更を加えないでください。
- 機器のカバーを取り外して、機器内のコンポーネントにアクセスしないでください。許可または認定された技術者がいない状態で装置内にアクセスすると、重大な怪我や損傷を引き起こす可能性があります。問題が発生した場合は、販売店にお問い合わせください。
- 製品ドキュメントで許可されている修理のみを行う必要があります。認定されたサービス技術者が実施しない修理、交換、拡張、およびアップグレードは、けがをしたり、システムを損傷したり、保証が無効になる場合があります。

目次

著作権および商標に関する声明	i
免責事項	i
商標に関する声明	i
このユーザーズマニュアルについて	ii
マニュアルの構造と主題	ii
注意、ヒント、警告	ii
スタイル規約	iii
安全および規制に関する情報	iv
規制声明	iv
規制情報	v
安全情報	v
1 概観	1
1.1 前書き	3
1.2 特徴	3
1.3 パッケージ内容	4
1.4 外装部品	5
1.5 始める前に	9
2 入門	11
2.1 基本を学ぶ	13
3 クライアント設定の構成	41
3.1 Atrustクライアントのセットアップ	43
3.1.1 インターフェイスの概要	43
3.1.2 クライアント設定の概要	44
3.2 システム設定の構成	45
3.2.1 [システム]タブの概要	45
3.2.2 設定一覧	46
3.2.3 タイムゾーンとタイムサーバーの構成	47
3.2.4 Atrust Client Setupのアクセス権限とパスワードの構成	48
3.2.5 ローカルデスクトップのログインパスワードの設定	52
3.2.6 リモートアシスタンスのシャドウ設定の構成	54
3.2.7 管理コンピューターからのファームウェアの更新	56
3.2.8 アプライアンスモードの有効化または無効化	58
3.2.9 自動セットアップの有効化または無効化	62
3.2.10 クイック接続モードの構成	62
3.2.11 クイック接続の詳細設定	64
3.2.12 電力使用の管理	68
3.2.13 コマンドライン機能の有効化または無効化	69
3.2.14 イベントログの収集と関連画面のキャプチャ	70
3.2.15 エラー報告のためのファイルのアップロード	72
3.2.16 リモートコンピューターの証明書のインポート	73
3.2.17 自動登録の有効化または無効化	77
3.2.18 システムおよびネットワーク情報の表示	78
3.3 ユーザーインターフェイス設定の構成	79
3.3.1 [ユーザーインターフェイス]タブの概要	79
3.3.2 設定一覧	80

3.3.3	表示設定の構成	80	
3.3.4	デスクトップとシステムの言語設定のカスタマイズ	83	
3.3.5	クイックアクセスショートカットの非表示または表示	86	
3.3.6	カスタム壁紙の使用	87	
3.3.7	キーボード設定の調整	88	
3.3.8	マウス設定の調整	90	
3.3.9	スクリーンセーバー設定の構成	91	
3.4	外部デバイス設定の構成	93	
3.4.1	[デバイス]タブの概要	93	
3.4.2	設定一覧	94	
3.4.3	USBストレージデバイスの設定の構成	94	
3.4.4	接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする	95	
3.4.5	接続されたオーディオデバイスの無効化または有効化	96	
3.4.6	オーディオデバイスの使用	97	
3.4.7	サウンドをミュートまたはミュート解除する	98	
3.4.8	ローカルプリンターの追加	99	
3.4.9	ネットワークプリンターの追加	102	
3.5	ネットワーク設定の構成	103	
3.5.1	[ネットワーク]タブの概要	103	
3.5.2	設定一覧	104	
3.5.3	有線ネットワーク設定の構成	105	
3.5.4	IEEE 802.1X認証の構成	108	
3.5.5	VPN接続の確立と停止	109	
3.5.6	仮想プライベートネットワーク設定の構成	113	
3.5.7	ホスト名へのIPアドレスのマッピングの作成	114	
3.5.8	フェールオーバークラスターリストの構成	116	
3.5.9	シンククライアントのホスト名の変更	118	
3.5.10	ワイヤレスインターフェイスの有効化または無効化	119	
3.5.11	ローミングのトリガーしきい値の構成	120	
3.5.12	ワイヤレス接続の確立と停止	121	
3.5.13	ワイヤレス接続設定の構成	124	
3.5.14	サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定の構成	125	
3.6	サービスアクセス設定の構成	127	
3.6.1	[アプリケーション]タブの概要	127	
3.6.2	設定一覧	128	
3.6.3	基本的なRDP接続設定の構成	129	
3.6.4	リモートデスクトップサービスへのアクセス	138	
3.6.5	詳細なRDP接続設定の構成	144	
3.6.6	基本的なICA接続設定の構成	159	
3.6.7	Citrix Receiverバージョンの切り替え	172	
3.6.8	Escを有効または無効にしてWebログイン画面で終了する	173	
3.6.9	Citrix ICAセッションのキーボードレイアウトとタイプの設定	174	
3.6.10	Citrixサービスへのアクセス	175	
3.6.11	ICA接続の詳細設定	182	
3.6.12	基本的なVMware View接続設定の構成	212	
3.6.13	VMware ViewまたはHorizon Viewサービスへのアクセス	214	
3.6.14	詳細ビュー接続設定の構成	216	
3.6.15	SSH接続設定の構成	221	
3.6.16	SSHおよびTelnetセッションの起動	223	
3.6.17	ブラウザセッションの基本設定の構成	224	
3.6.18	ブラウザセッションの起動	226	
3.6.19	ブラウザセッションの詳細設定	227	
3.6.20	基本的なRAS / RDP接続設定の構成	228	
3.6.21	リモートデスクトップまたはアプリケーションへのアクセス	233	
3.6.22	高度なRAS / RDP接続設定の構成	235	

付録 247

A.1	mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットする	249
A.2	mt182Lのファームウェアの更新	250

A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用 252

A.4 オートセットアップのフローチャート 259

仕様書 261

1

概観

この章では、Atrust mt182Lの概要について説明します。

1.1 前書き	
デスクトップ仮想化とシンプルなエンドポイントデバイス	3
1.2 特徴	
Atrust mt182Lの主な機能	3
1.3 パッケージ内容	
パッケージの内容を確認してください	4
1.4 外装部品	
Atrust mt182Lの外装部品	5
1.5 始める前に	
バッテリースリープモードについて	9

1.1 前書き

デスクトップ仮想化は、ITインフラストラクチャの設計と実装を再考するための新しい視点を提供します。デスクトップ仮想化インフラストラクチャでは、ステーションはもはや煩雑なデスクトップではなく、単にユーザーがサーバーから配信サービスにアクセスするためのエンドポイントデバイスです。

デスクトップ仮想化テクノロジーの導入により、次のメリットを大幅に享受できます。

- オンデマンドアプリケーション/デスクトップ
- 作業環境の一元管理
- エンドポイントのソフトウェア/ハードウェアの問題を大幅に削減
- システム保守の簡素化とシステムセキュリティの向上
- 低コストのエンドポイントデバイスによる拡張性の向上


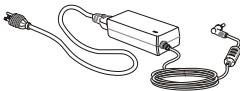

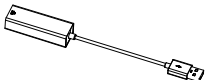
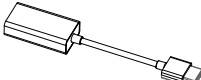
1.2 特徴

Atrust mt182Lモバイルシンクライアントの主な機能は次のとおりです。

- 内蔵ワイヤレス802.11 ac / a / b / g / n、Bluetooth 4.2、およびイーサネットネットワークインターフェイス
- 業界をリードする企業の幅広いデスクトップ仮想化ソリューションのサポート：
 - Microsoft® Remote Desktop
 - Citrix® XenApp™, XenDesktop®, Virtual AppsおよびDesktops™, VDI-in-a-Box™
 - VMware® View™およびHorizon View™
- 高解像度テクノロジーのサポート
 - Microsoft® RemoteFX®
 - Citrix® HDX™
 - VMware® View™ PCoIP®
- さまざまなアプリケーション/デスクトップへの簡単なクリックアクセス
- ローカル管理とリモート管理の両方をサポート

1.3 パッケージ内容

パッケージの内容を確認してください。すべてのアイテムがパッケージに含まれていることを確認してください。不足または破損しているものがある場合は、ただちに販売店にご連絡ください。

Atrust mt182L	ACアダプター	クイックスタートガイド
		
USB-to-RJ45アダプター	HDMI-to-VGAアダプター (オプション)	
		

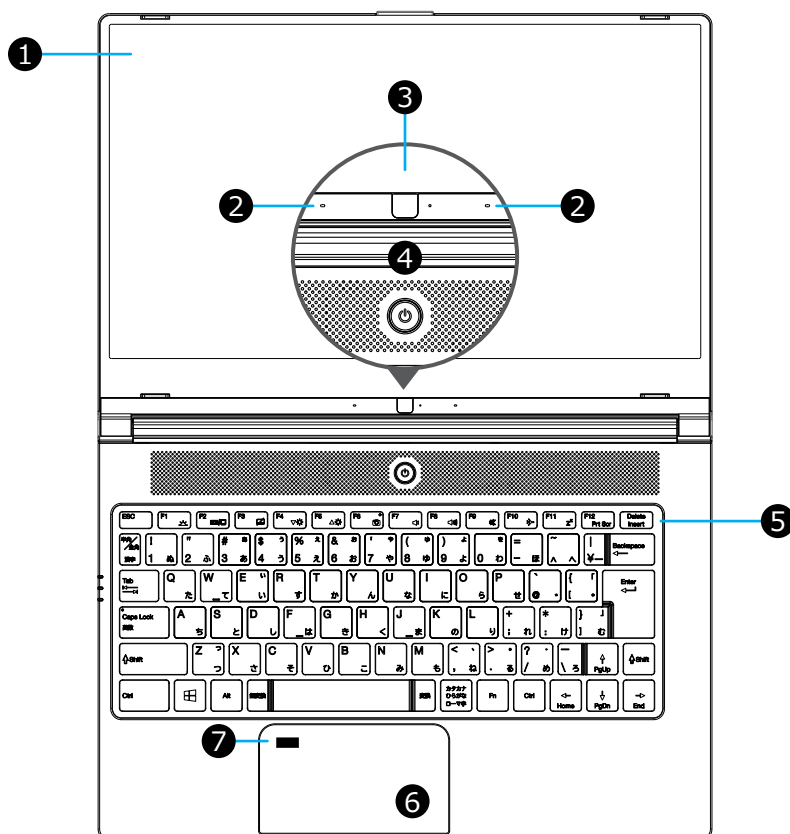



注意

- パッケージには、クイックスタートガイドのハードコピーが含まれていない場合があります。この場合、PDF形式のソフトコピーが提供されます


1.4 外装部品

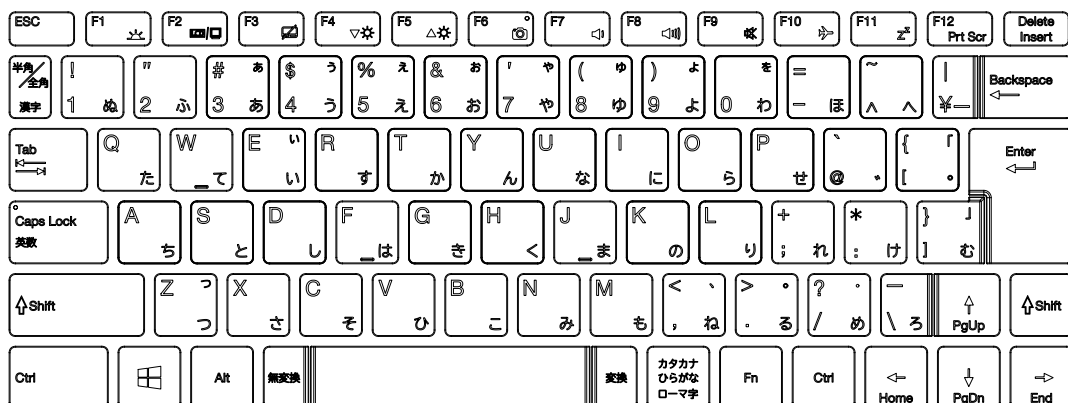
ディスプレイおよびベースコンポーネント



No.	符号	成分	説明文
1		液晶ディスプレイ	視覚的な出力のための内蔵ディスプレイ。
2		マイクロフォン	オーディオ入力用の内蔵マイク。
3		ウェブカメラ	リアルタイムビデオ用の内蔵ビデオカメラ。
4		電源スイッチ	<ul style="list-style-type: none">• 押して、mt182Lの電源を入れます。• mt182Lがオンのときに押してシャットダウンします。
5		キーボード	制御および入力用の内蔵キーボード。
6		タッチパッド	制御および入力用の内蔵ポインティングデバイス。
7		指紋センサー	指紋サインイン用の内蔵リーダー（mt182Lは非対応）。




























Fnキーの組み合わせ

Fn  と別の特定のキー（ほとんどに1つの印刷された記号が付いている）の組み合わせにより、ニーズに合わせてハードウェア設定をすばやく調整できます。

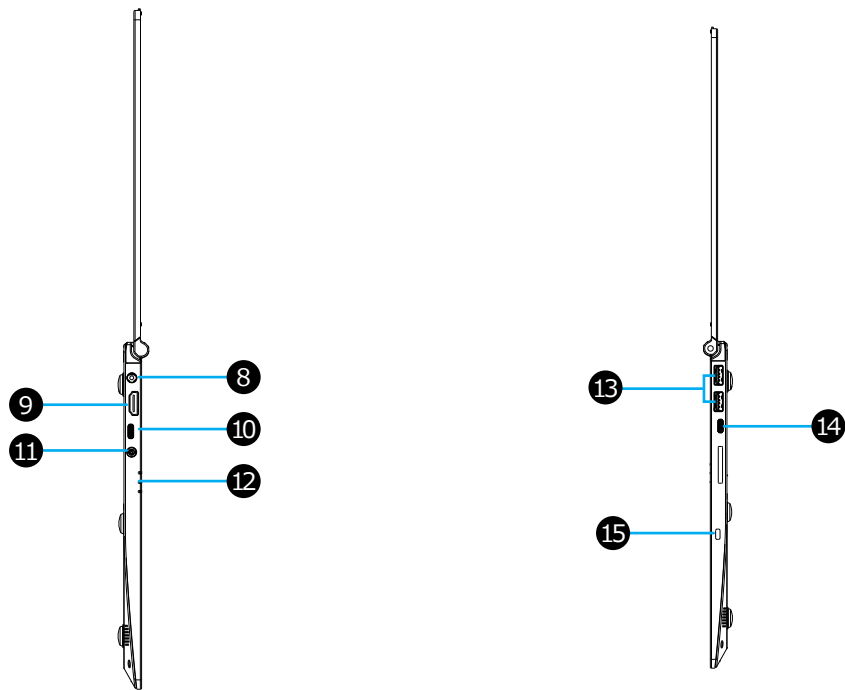








注意

- Fnキーの組み合わせを使用するには、**Fn**を押したまま、別のキーを押します。

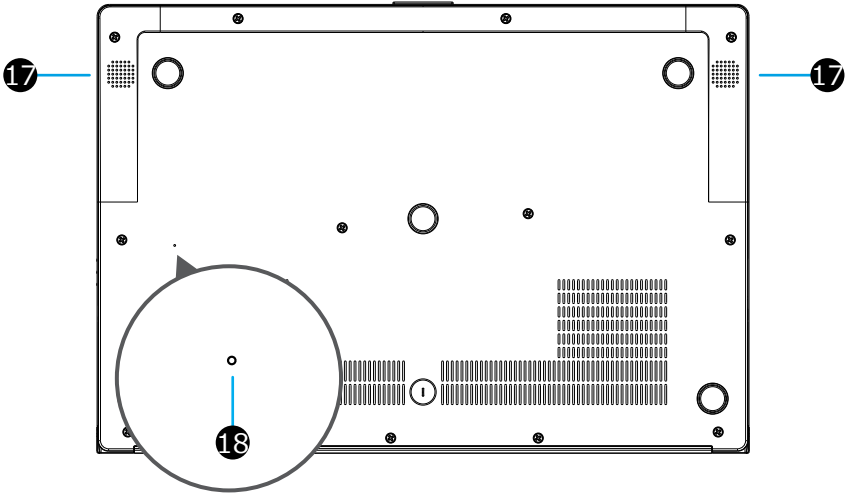
組み合わせ	説明文	組み合わせ	説明文
 + 	Fn + F1 キーボードのバックライトの明るさを切り替えます。	 + 	Fn + F9 サウンドをミュート/ミュート解除するために使用します。
 + 	Fn + F2 ディスプレイの使用を切り替えるために使用します。	 + 	Fn + F10 機内モードを有効/無効にするために使用します。
 + 	Fn + F3 タッチパッドを有効/無効にするために使用します。	 + 	Fn + F11 を使用して、システムスリープモードに入ります。電源ボタンまたは任意のキーを押して終了します。
 + 	Fn + F4 LCDディスプレイの輝度を下げるために使用します。	 + 	Fn + F12 Pri Scr キーとして機能するために使用します。
 + 	Fn + F5 LCDディスプレイの輝度を上げるために使用します。	 + 	PgUp キーとして機能するために使用します。
 + 	Fn + F6 ウェブカメラを有効/無効にするために使用します。	 + 	PgDn キーとして機能するために使用します。
 + 	Fn + F7 内蔵スピーカーの音量を下げるときに使用します。	 + 	ホーム キーとして機能するために使用します。
 + 	Fn + F8 内蔵スピーカーの音量を上げるために使用します。	 + 	End キーとして使用します。


左側と右側のコンポーネント



No.	符号	成分	説明文
8	---	DC IN	ACアダプターに接続します。
9	HDMI	HDMIポート	高品質のデジタルオーディオビジュアルデバイスに接続します。
10		USB-Cポート (USB 3.1 Gen 1)	USB-Cデバイスに接続します。
11		オーディオコンボジャック	ヘッドフォンのセットに接続します。
12		パワーLED	<ul style="list-style-type: none">システムがオンのときは青く光ります。システムがオフになると消灯します。システムがスリープモードのときはオレンジ色に点灯します。
		バッテリーLED	<ul style="list-style-type: none">バッテリーの充電中はオレンジ色に点灯します。バッテリーが完全に充電されると青く光ります。
		ワイヤレスLED	<ul style="list-style-type: none">ワイヤレスネットワークが有効になると、青色に点灯します。機内モードが有効になると消灯します。 機内モード ：無効になっているワイヤレスネットワーク
13		USB-Aポート (USB 3.1 Gen 1)	USB-Aデバイスに接続します。
14		USB-Cポート (USB 3.1 Gen 1)	USB-Cデバイスに接続します。
15		ケンジントンセキュリティスロット	ケンジントンケーブルを接続して、モバイルシンクライアントを保護します。

下部コンポーネント



No.	符号	成分	説明文
17		スピーカー	オーディオ出力用の内蔵スピーカー。
18		バッテリーオフホール	内部のボタンを押して、バッテリースリープモードに入ります。 詳細は、“バッテリースリープモードについて” on page 9 を参照してください。

1.5 始める前に

バッテリースリープモードについて

初めて使用する場合は、内蔵バッテリーがスリープモードを終了するために、付属のACアダプターを使用してmt182Lを電源コンセントに接続する必要があります。

必要なときにバッテリースリープモードに入るには、次のようにしてください：

1. mt182Lをシャットダウンして取り外します。
2. 開いたペーパークリップの先端（または先のとがっていない同様の物体）を使用して、バッテリーオフ穴の内側のボタンを軽く押します。



注意

- バッテリースリープモードを終了してmt182Lの電源をオンにするには、まず付属のACアダプターを使用してプラグを差し込む必要があります。

2

入門

この章では、mt182Lの基本的な使用方法について説明します。

2.1 基本を学ぶ

トピック 1: Atrust クイック接続	14
トピック 2: ワイヤレス接続のセットアップ	16
トピック 3: タイムゾーンの構成	18
トピック 4: デスクトップまたはアプリケーションへのアクセス	19
トピック 5: 組み込みアプリケーションの使用	36
トピック 6: 電力の使用の表示と管理	38

2.1 基本を学ぶ

以下のトピックでは、mt182Lの基本的な使用方法について説明します。

トピック 1: Atrust クイック接続

トピック 2: ワイヤレス接続のセットアップ

トピック 3: タイムゾーンの構成

トピック 4: デスクトップまたはアプリケーションへのアクセス

- Microsoft Remote Desktop Services (RDP sessions)
- Citrix Services (ICA sessions)
- VMware View or Horizon View Services (View sessions)

トピック 5: 組み込みアプリケーションの使用

トピック 6: 電力の使用の表示と管理



注意

- mt182Lのデフォルトで自動セットアップが有効になっている場合、そのユーザー環境はこことは異なる場合があります。プリセット構成によって異なります。セクション 3.2.9 および appendix A.4を参照してください。詳細については、IT管理者にお問い合わせください。



注意

- mt182Lには3つのクライアントモードがあります。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 新しいセッションを再開する • シンククライアントの再起動 • シンククライアントをオフにする
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです：（Webブラウザーには該当なし）</p> <ul style="list-style-type: none"> • ローカルデスクトップに戻る • 新しいセッションを再開する • シンククライアントの再起動 • シンククライアントをオフにする
3	クイック接続	<p>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>

- クイック接続モードでは、クライアント構成をあまり必要とせずに、Microsoftリモートデスクトップ / Citrix / VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにすばやくアクセスできます。この章の主な目的は、クイック接続モードでmt182Lを使用する方法を説明することです。mt182Lのデフォルトはクイック接続モードではありません（再起動後、Atrustクイック接続画面ではなくローカルLinuxデスクトップに入ります）。
- 他のモードを理解し、詳細設定を構成し、mt182Lをカスタマイズするには、第3章の“クライアント設定の構成 (P.41)”を参照してください。


トピック 1: Atrust クイック接続

mt182Lの使用を開始するには、次の手順に従ってください。

1. 電源ボタンを押して、クライアントの電源を入れます。システムがローカルのLinuxデスクトップに入るまでしばらく待ちます。

ローカルLinuxデスクトップ



2. デスクトップの**Atrustクイック接続**  をクリックして、Atrustクイック接続画面に入ります。




ヒント

- そのショートカットが表示されない場合は、[スタート]> [設定]> [Atrust Client Setup]> [システム]> [クイック接続]をクリックして、クイック接続を有効にします。

3. (a) 必要に応じて、**トピック 2** に進み、ワイヤレス接続をセットアップします。
- (b) **トピック 3** に移動して、初めて使用するタイムゾーンを設定します。
- (c) タイムゾーンが設定されている場合は、**トピック 4**にアクセスしてサービスにアクセスしてください。


Atrustクイック接続画面

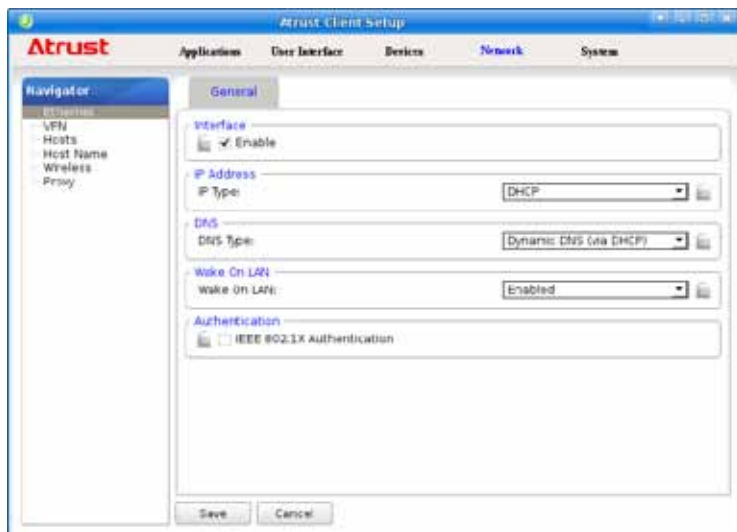


No.	アイコン	説明文
1	電源オフ	クリックして、システムをシャットダウン、一時停止、または再起動します。
2	ローカルデスクトップ	クリックして、ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
3	セットアップ	クリックしてAtrust Client Setupを起動します。
4	ミキサー	クリックしてオーディオ設定を構成します。
5	パワー	<p>電源（アダプター、バッテリー、またはその両方）と状況を示します。 詳細については、クリックして電源管理を起動してください。</p> <p>注意: 電源管理では、mt182Lの省電力設定を構成できます。ニーズに合わせて適切なオプションを選択できます。詳細は“トピック 6: 電力の使用の表示と管理 (P.38)”を参照してください。</p> <p>注意: mt182Lがシステムスリープモードに手動で (Fn + F12 または  > サスペンド) または自動的に (システム>電力管理を介してAtrust Client Setupで構成) に入った場合でも、一定量の電力が必要です。代わりに[シャットダウン]オプションを使用して、電力を大幅に節約できます。</p> <p>注意: バッテリーのみを電源として使用する場合は、データの損失を防ぐのに十分な電力があることを確認してください。</p>
6	ネットワーク	<p>ネットワークタイプ（有線または無線）とステータスを示します。 クリックしてネットワーク設定を構成します。</p> <p>注意: 無線接続を設定するには、“トピック 2: ワイヤレス接続のセットアップ (P.16)”を参照してください。</p>

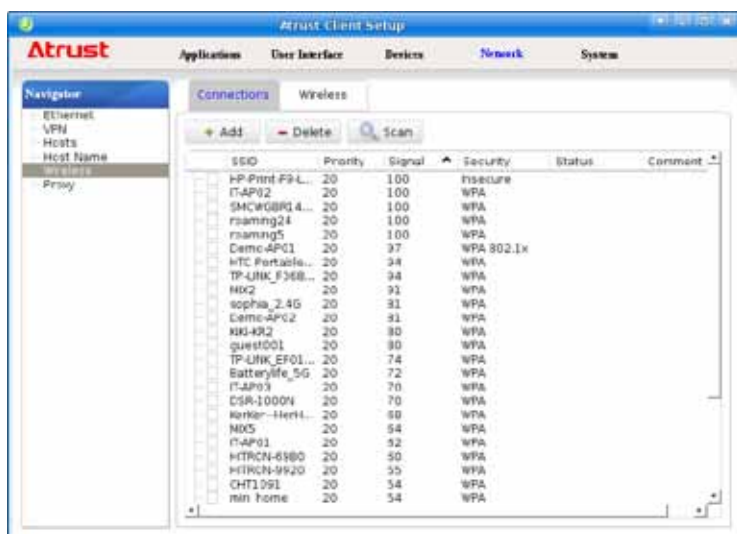
トピック 2: ワイヤレス接続のセットアップ

ワイヤレス接続をセットアップするには、次の手順を実行してください。


1. Atrustクイック接続画面で、Network  アイコンをクリックします。Atrust Client Setupが起動します。




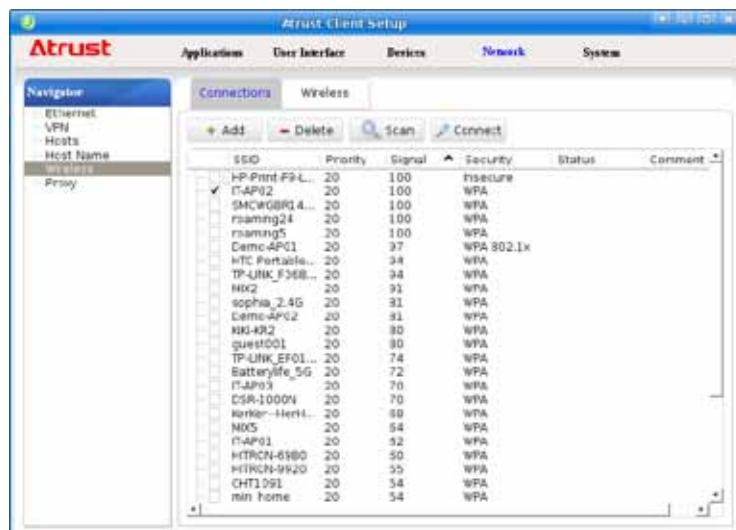
2. **ワイヤレス**をクリックします。ワイヤレスネットワークリストが[接続]サブタブの下に表示されます。




注意

- mt182Lはネットワーク探索を**1回**実行し、[接続]サブタブの[ワイヤレスネットワーク]リストで使用可能なすべてのワイヤレスネットワークを指定します。このワイヤレスネットワークリストを更新するには、リストの上部にある  をクリックします。

3. クリックして、目的のワイヤレスネットワークを確認します。接続ボタン  がワイヤレスネットワークリストの一番上に表示されます。



4.  **Connect** をクリックして、選択したワイヤレスネットワークを介してワイヤレスネットワーク接続を作成します。
5. 確認または認証を求めるウィンドウが表示されます。



注意

- 以前にこのワイヤレスネットワークにアクセスしたことがある場合、パスワードは今後のアクセスのために自動的に記録されます。この場合、パスワードを再度入力する必要はありません。無線接続の確立を確認するだけです。
- 認証に必要な情報については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。


6. 必要なパスワードを入力し、**[接続]**をクリックして続行します。または、**[OK]**をクリックして、ワイヤレス接続の確立を確認します。
7. 完了すると、ワイヤレスネットワークの[ステータス]列に**接続**が表示されます。

	SSID	Priority	Signal	Security	Status	Comment
<input checked="" type="checkbox"/>	IT-AP02	20	100	WPA	connected	Connected before
<input type="checkbox"/>	sophia_2.4G	20	92	WPA		
<input type="checkbox"/>	roaming5	20	87	WPA		
<input type="checkbox"/>	roaming24	20	100	WPA		
<input type="checkbox"/>	guest001	20	87	WPA		
<input type="checkbox"/>	dlink_DWR-113	20	38	WPA		
<input type="checkbox"/>	dir-810-5g	20	45	WPA		
<input type="checkbox"/>	dir-810-2g	20	94	WPA		
<input type="checkbox"/>	amphenol_S...	20	72	WPA		

8. Atrust Client Setupを閉じます。

トピック 3: タイムゾーンの構成

mt182Lのタイムゾーンを設定するには、次の手順を実行してください。

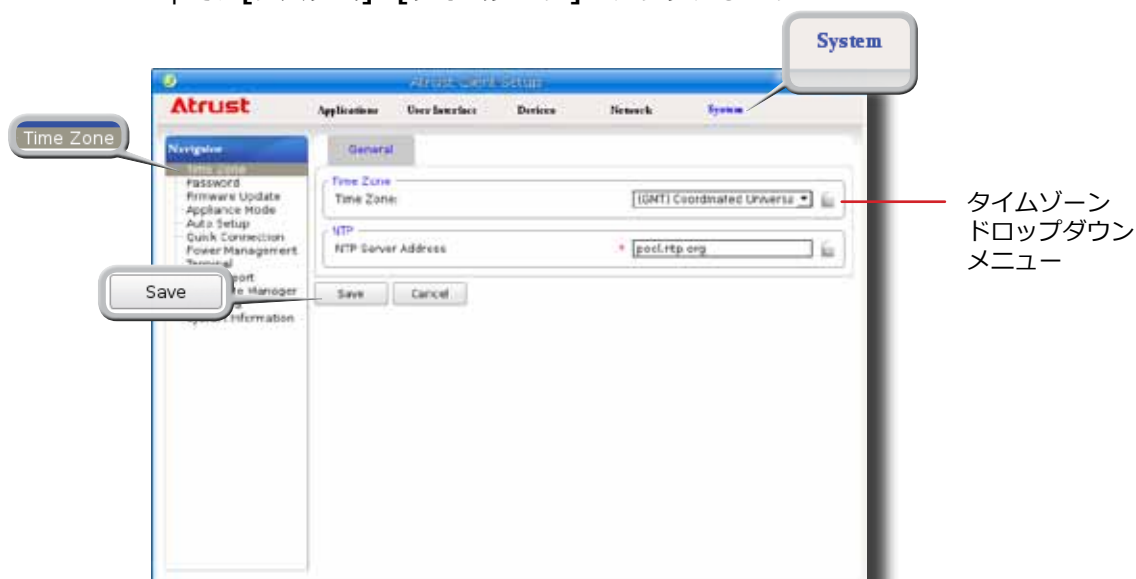
1. **Setup**  アイコンをクリックして、Atrust Client Setupを起動します。



注意

- クライアント設定を構成し、Atrust Client Setupでmt182Lをカスタマイズする方法の詳細については、第3章の“クライアント設定の構成 (P.41)”を参照してください。

2. Atrust Client Setupで、**[システム]>[タイムゾーン]**をクリックします。



3. [タイムゾーン]ドロップダウンメニューをクリックして、目的のタイムゾーンを選択します。
4. **[保存]**をクリックして適用し、Atrust Client Setupを閉じます。

トピック 4: デスクトップまたはアプリケーションへのアクセス

Atrustクイック接続画面から、リモートデスクトップ、Citrix、VMware Viewの3種類のデスクトップ仮想化サービスにアクセスできます。


Atrustクイック接続画面



アイコン	説明文	ページ
リモートデスクトップ	クリックして、Microsoftリモートデスクトップサービスにアクセスします。	20
Citrix	クリックして、Citrix XenApp、XenDesktop、またはVDI-in-a-Boxサービスにアクセスします。	21
VMware View	クリックして、VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにアクセスします。	33

Microsoftリモートデスクトップサービスへのアクセス


Microsoftリモートデスクトップサービスにアクセスするには、次の操作を行います。

1. Atrustクイック接続画面で  をクリックします（[トピック4](#)）の画面を参照）。
2. 表示されたウィンドウで、サーバーのコンピューター名またはIPアドレス、ユーザー名、パスワード、およびドメイン（ある場合）を入力し、**[接続]**をクリックします。



注意

- ネットワーク経由で利用可能なWindows MultiPoint Serverシステムを検出するには、次の手順を実行してください。

1. コンピューターフィールドの左側にある  をクリックします。
2. 完了すると、検索結果を示すウィンドウが表示されます。




3. ドロップダウンメニューをクリックして目的のシステムを選択し、**[OK]**をクリックします。
 4. 選択したシステムのIPアドレスが[コンピュータ]フィールドに表示されます。
- **Atrustクイック接続画面**（[トピック4](#)）の画面を参照）に戻るには、**Esc**キーを押します。

3. リモートデスクトップが画面に表示されます。

Citrixサービスへのアクセス

サーバーへの接続

Citrixサービスにアクセスできるサーバーに接続するには、次の操作を行います。

1. Atrustクイック接続画面で  をクリックします（[トピック4](#)）の画面を参照）。
2. 表示される**Atrust Citrix接続画面**で、サーバーの適切なIPアドレス/ URL / FQDNを入力し、**[ログオン]**をクリックします。

Atrust Citrix接続画面



注意

- XenDesktopおよびXenAppの新しいバージョンでは、サーバーのサブパスをさらに指定する必要がある場合があります。詳細については、次の表を参照してください。

Citrix 製品	接続するコンポーネント	接続アドレス
XenApp 6.5以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
XenDesktop 5.6以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
仮想アプリとデスクトップ (XenAppおよび XenDesktop 7.5以降)	StoreFront	IP / URL / FQDNおよびサブパス
		例えば - FQDN : X75.CTX.poc サブパス : / Citrix / StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス : X75.CTX.poc / Citrix / StoreWeb

- FQDNは完全修飾ドメイン名の頭字語です。
- **Atrustクイック接続画面**（[トピック4](#)）の画面を参照）に戻るには、**Esc**キーを押します。

Citrixサービスへのログイン

サーバーに接続すると、**Citrixログイン画面**が表示されます。表示される画面とCitrixサービスに必要な認証情報は、サービスの種類とバージョンによって異なる場合があります。



注意

- 「この接続は信頼できません」という警告メッセージが表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、セクション“3.2.16 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.73)”を参照してください。バイパスするには、**[リスクを理解する]> [例外を追加]> [セキュリティ例外を確認]**をクリックします。

Citrixログイン画面の例を以下に示します。

XenDesktop 5.6 Platinum:

Citrixログイン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログイン]**をクリックして仮想デスクトップにアクセスします。



注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

XenApp 6.0の基礎 :

Citrixログオン画面

必要なユーザー名、パスワード、ドメインを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想アプリケーションにアクセスします。



注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。
- XenAppサーバーがどのドメインにも属していない場合は、サーバーのコンピューター名を「ドメイン」フィールドに入力します。

XenApp 6.5 Platinum:

Citrixログオン画面

必要なユーザー名、パスワード、ドメインを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想アプリケーションにアクセスします。



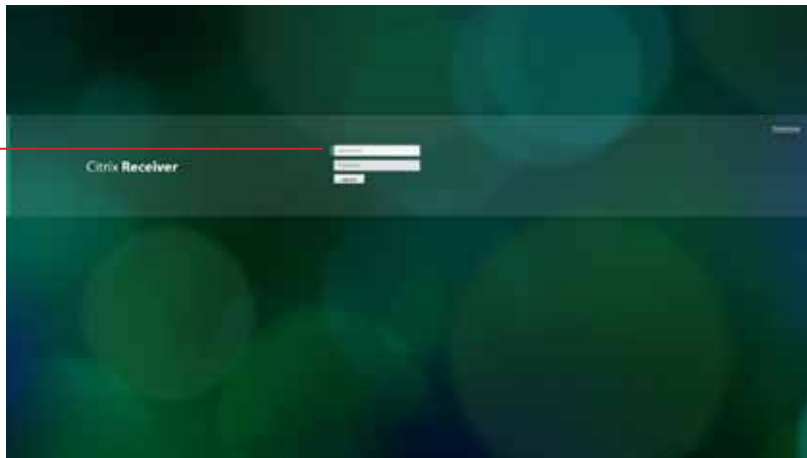
注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。
- XenAppサーバーがどのドメインにも属していない場合は、サーバーのコンピューター名を「ドメイン」フィールドに入力します。

VDI-in-a-Box:

Citrixログオン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想デスクトップにアクセスします。



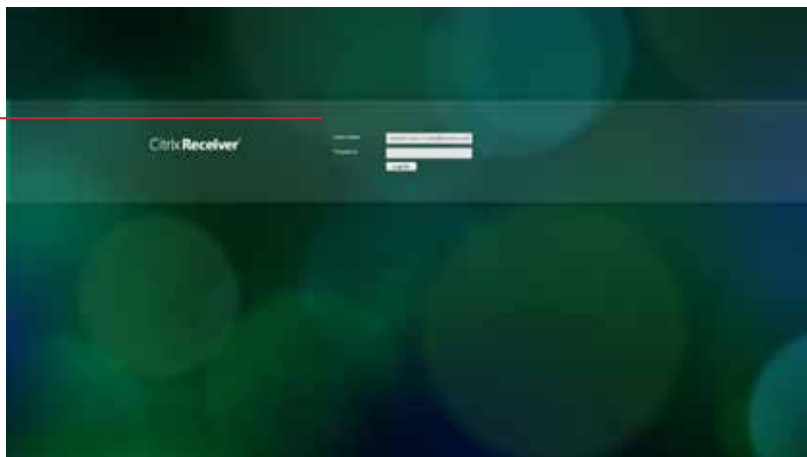
注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

XenAppおよびXenDesktop 7.5 Platinum :

Citrixログオン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想デスクトップにアクセスします。



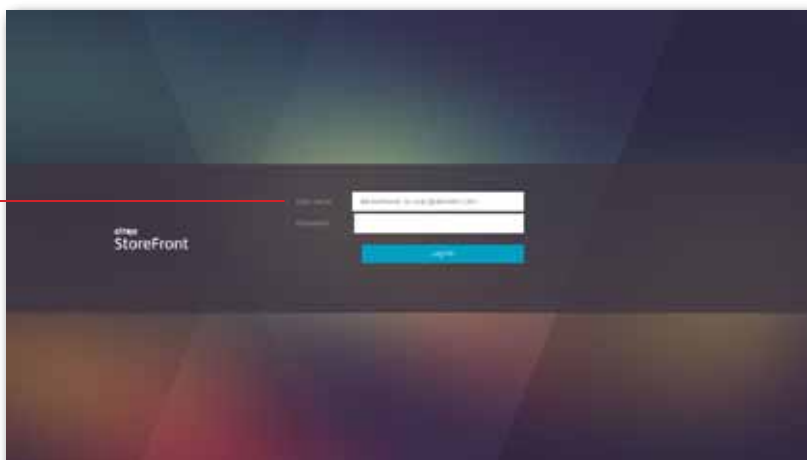
注意

- Atrustクイック接続画面に戻るには、**Esc**を押します。

仮想アプリとデスクトップ7 1808.2 :

Citrixログオン画面

必要なユーザー名とパスワードを入力し、**[ログオン]**をクリックして仮想アプリケーションとデスクトップにアクセスします。



注意

- クイック接続画面に戻るには、**Esc**キーを押します。

仮想デスクトップとアプリケーションへのアクセス

ログイン後、**デスクトップの選択画面**または**アプリケーションの選択画面**に入ります。画面で、目的のデスクトップまたはアプリケーションをクリックして選択できます。



注意

- 提供された資格情報に割り当てられている仮想デスクトップのタイプが1つだけの場合は、仮想デスクトップを直接入力できます。



ヒント

- Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションまたはデスクトップを選択して復元します。

以下は、選択画面と提供されるデスクトップおよびアプリケーションの例です。

XenDesktop 5.6 Platinum:

1. ログイン後、**デスクトップの選択画面**が表示されます。

デスクトップ選択画面



2. 目的のデスクトップをクリックして選択します。
3. 選択した仮想デスクトップが画面に表示されます。

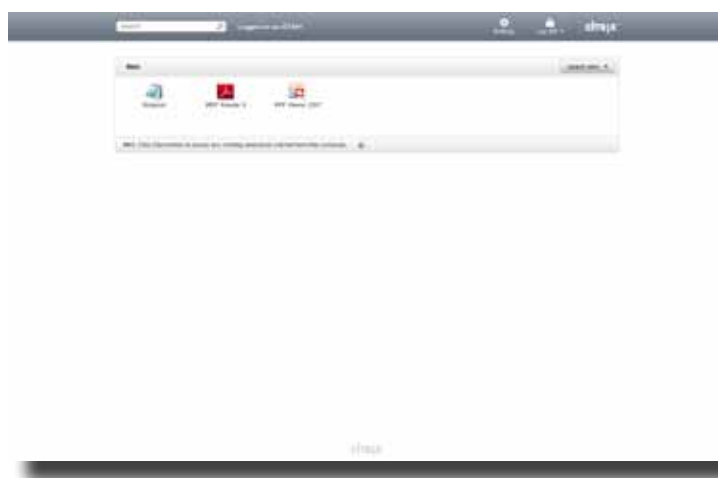
仮想デスクトップの例 : Windows 7 Ultimate



XenApp 6.5 Platinum:

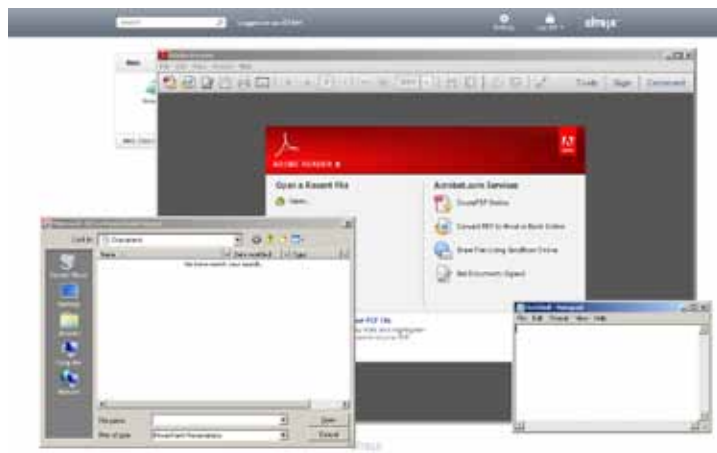
1. ログオン後、**アプリケーションの選択画面**が表示されます。

アプリケーション選択画面



2. 目的のアプリケーションをクリックして選択します。
3. 選択したアプリケーションが画面に表示されます。

仮想アプリケーションの例 PowerPoint Viewer, Adobe ReaderおよびNotepad



注意

- アプリケーション選択画面をクリックすると、画面が前面に表示され、起動されたすべてのアプリケーションウィンドウが非表示のままになります。 **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションウィンドウを選択して復元します。
- 仮想デスクトップまたはアプリケーションを終了すると、**デスクトップの選択**または**アプリケーションの選択画面**に戻ります。画面では、次のことができます。
 - クリックして別の仮想デスクトップを起動するか、他のアプリケーションを起動します。
 - 画面上部の[ログオフ]をクリックして、Citrixログオン画面に戻ります。
 - **Esc**を押して、Atrustクイック接続画面に直接戻ります。

XenAppおよびXenDesktop 7.5 Platinum :

1. ログオン後、**アプリケーションの選択/デスクトップの選択画面**が表示されます。

アプリケーション選択画面

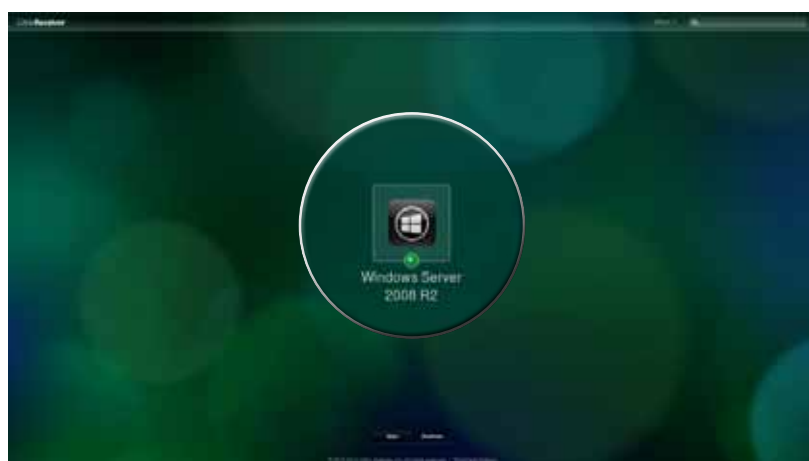


XenApp 7.5に初めてログインすると、この画面が表示される場合があります。クリックするだけで、リストからお気に入りのアプリを追加できます。



サーバー側の展開によっては、**アプリケーションとデスクトップの選択画面**を切り替えるために2つのボタンが使用できる場合があります。

デスクトップ選択画面



2. 目的のアプリケーションまたはデスクトップをクリックして選択します。
3. 選択したアプリケーションまたはデスクトップが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例 : Windows Server 2008 R2



仮想アプリケーションの例

Adobe Reader, Mozilla Firefox, and PowerPoint Viewer

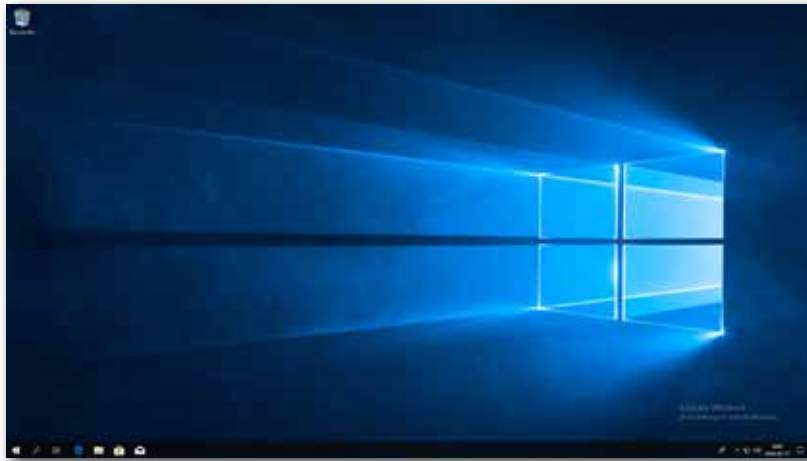


注意

- アプリケーション選択画面をクリックすると、画面が前面に表示され、起動されたすべてのアプリケーションウィンドウが非表示のままになります。 **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションウィンドウを選択して復元します。
- 仮想デスクトップまたはアプリケーションを終了すると、**デスクトップの選択**または**アプリケーションの選択画面**に戻ります。画面では、次のことができます。
 - クリックして別の仮想デスクトップを起動するか、他のアプリケーションを起動します。
 - 画面上部の**[ログオフ]**をクリックして、**Citrixログオン画面**に戻ります。
 - Esc**を押して、**Atrustクイック接続画面**に直接戻ります。

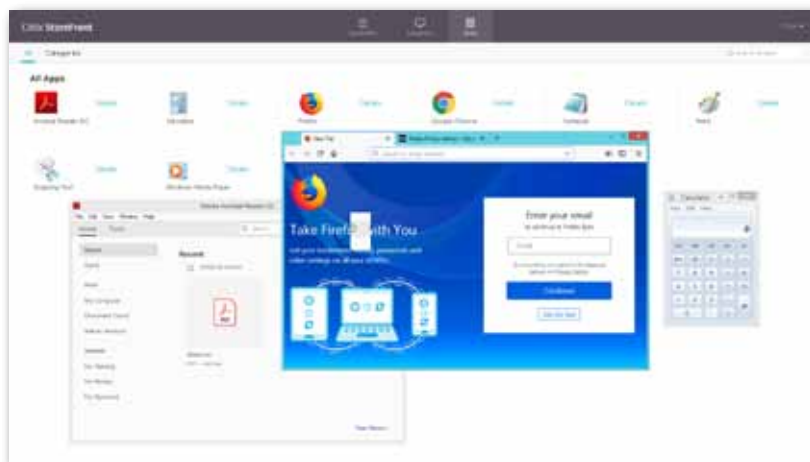
2. 目的のアプリケーションまたはデスクトップをクリックして選択します。
3. 選択したアプリケーションまたはデスクトップが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例 : Windows 10 Enterprise



仮想アプリケーションの例

Launched Adobe Reader DC, Mozilla Firefox, and Calculator




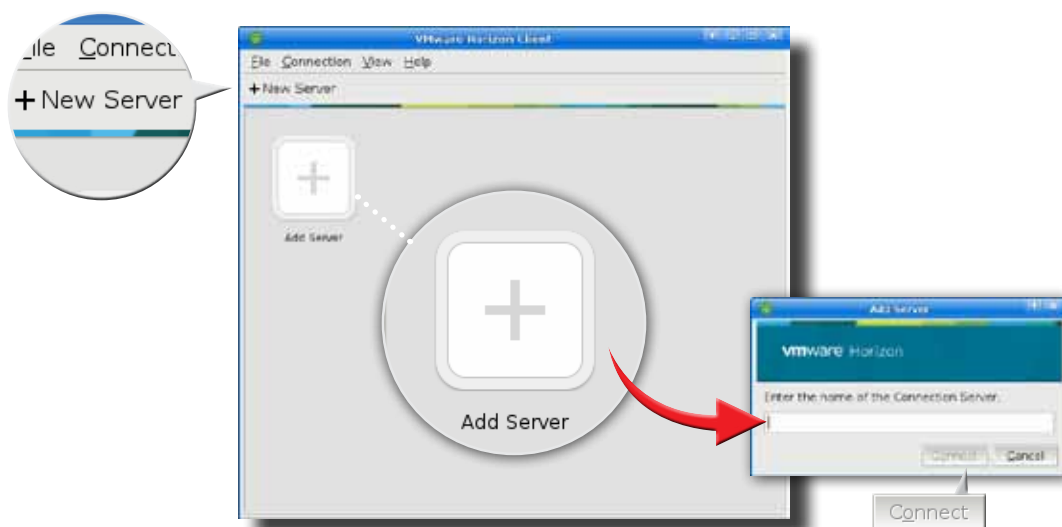
注意

- アプリケーション選択画面をクリックすると、画面が前面に表示され、起動されたすべてのアプリケーションウィンドウが非表示のままになります。 **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションウィンドウを選択して復元します。
- 仮想デスクトップまたはアプリケーションを終了すると、**お気に入り/デスクトップの選択/アプリケーションの選択画面**に戻ります。画面では、次のことができます。
 - クリックして別の仮想デスクトップを起動するか、他のアプリケーションを起動します。
 - 画面上部の**[ログオフ]**をクリックして、**Citrixログオン画面**に戻ります。
 - **Esc**キーを押して、**クイック接続画面**に直接戻ります。

VMware ViewまたはHorizon Viewサービスへのアクセス

VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにアクセスするには、以下を実行してください。

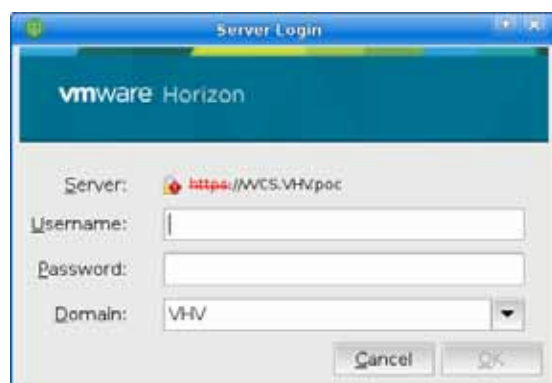
1. Atrustクイック接続画面で  をクリックします（トピック4の画面を参照）。
2. 開いたウィンドウで、[サーバーの追加]アイコンをダブルクリックするか、左上隅の[新しいサーバー]をクリックします。VMware View接続サーバーの名前またはIPアドレスの入力を求めるウィンドウが表示されます。
3. 必要な情報を入力し、[接続]をクリックします。



注意

- Atrustクイック接続画面（トピック4の画面を参照）に戻るには、開いているウィンドウを閉じます。

4. ウェルカムウィンドウが表示される場合があります。[OK]をクリックして続行します。
5. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、[ドメイン]ドロップダウンメニューをクリックしてドメインを選択し、[OK]をクリックします。

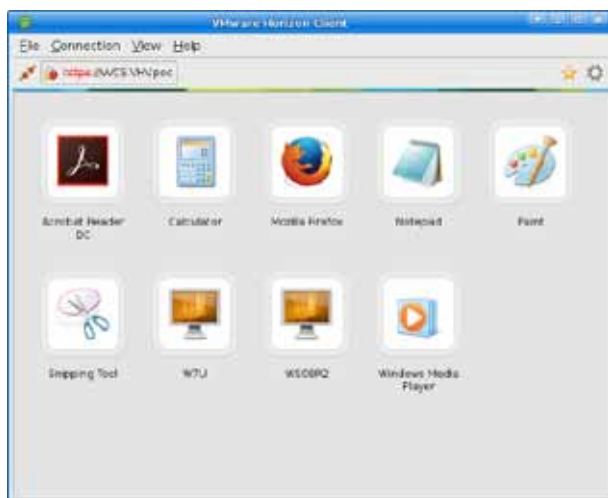




注意

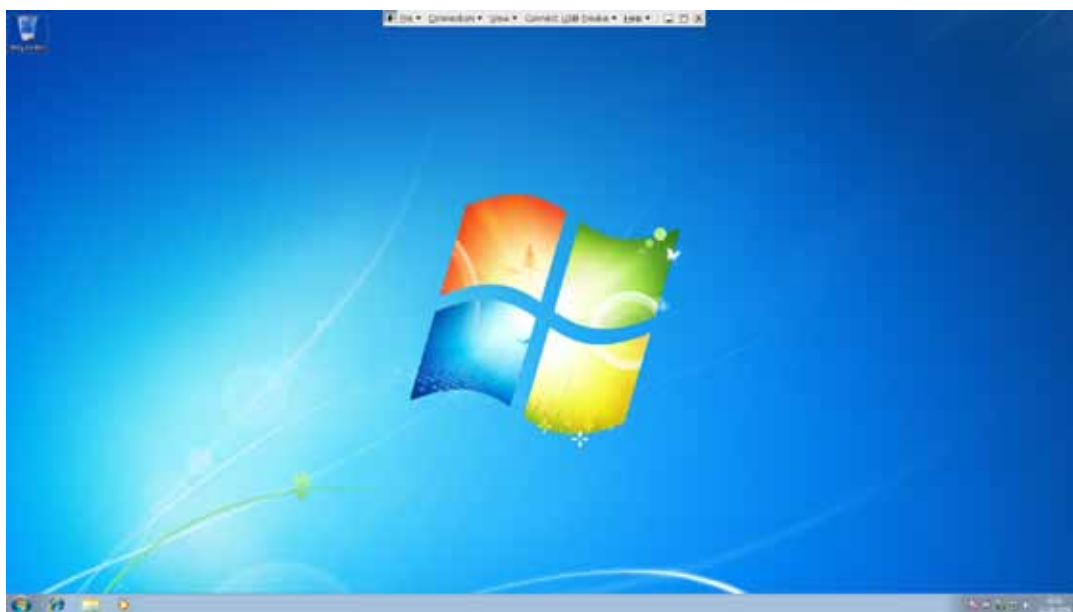
- リモートサーバーに関する証明書メッセージがウィンドウに表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、セクション“3.2.16 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.73)”を参照してください。バイパスするには、**[安全でない接続]**をクリックします。

6. デスクトップとアプリケーションのリストが表示され、提供された資格情報で使用可能なデスクトップやアプリケーションが表示されます。ダブルクリックして、目的のデスクトップまたはアプリケーションを選択します。

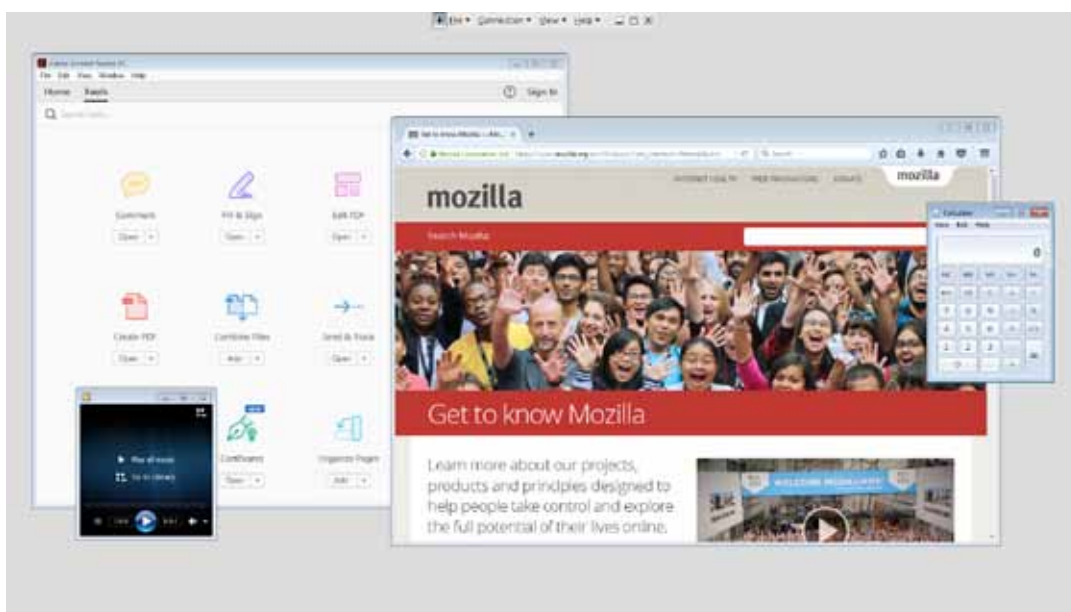


7. 仮想デスクトップまたはアプリケーションが画面に表示されます。

仮想デスクトップの例 Windows 7 Ultimate

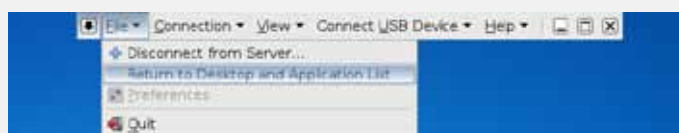


仮想アプリケーションの例 (VMware Horizon 6 with View) Adobe Reader, Windows Media Player, Mozilla Firefox, and Calculator

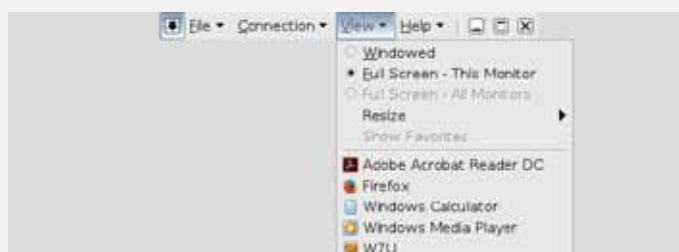


注意

- デスクトップまたはアプリケーションが全画面で表示されます。 あなたはできる :
 - 上部のツールバーで[ファイル]> [デスクトップとアプリケーションのリストに戻る]をクリックして、デスクトップとアプリケーションのリストを呼び出します。



- 上部のツールバーの[表示]をクリックして、仮想デスクトップまたはアプリケーションに切り替えます。



トピック 5: 組み込みアプリケーションの使用

組み込みアプリケーション（Webブラウザ、PDFビューア、LibreOfficeなど）を使用するには、次の手順を実行します。

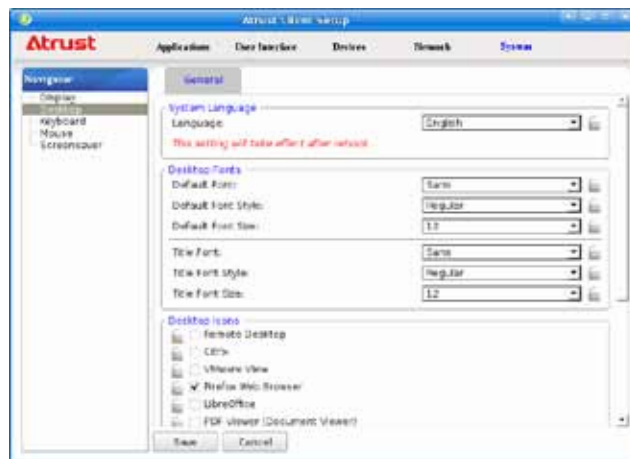


注意

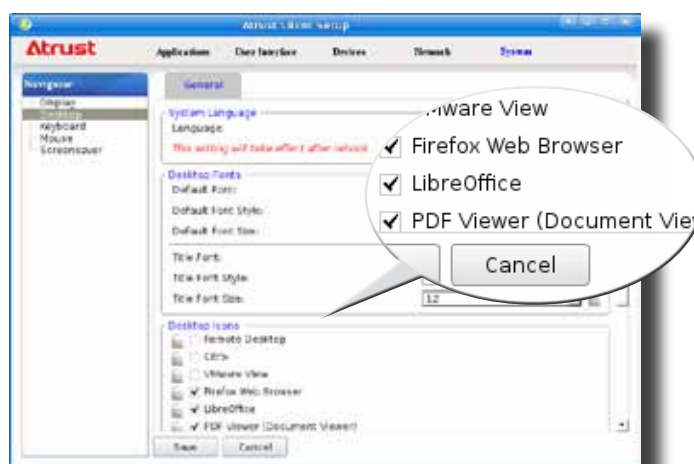
- 組み込みアプリケーションのアクセスショートカットは、デフォルトで非表示になっている場合があります。最初に、デスクトップと[スタート]メニューでこれらのショートカットの表示を有効にする必要があります。

1. ローカルデスクトップと[スタート]メニューにアプリケーションショートカットの表示を有効にします。

- ローカルデスクトップで、[スタート]> [設定]> [Atrustクライアントセットアップ]をクリックして、Atrustクライアントセットアップを起動します。
- Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]をクリックします。

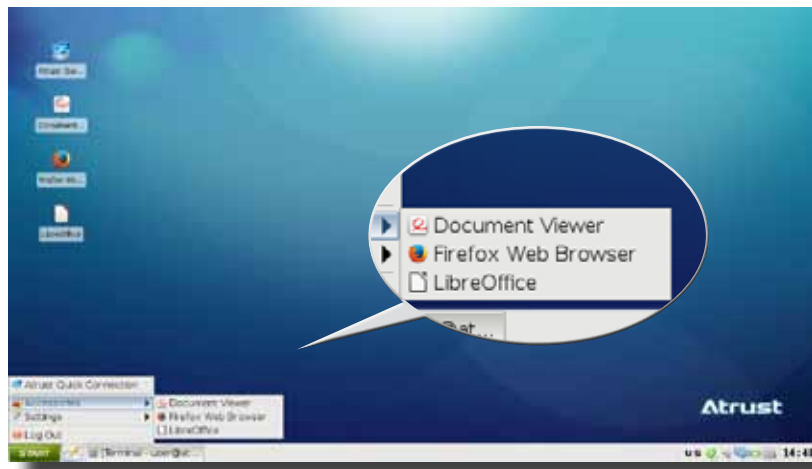


3) LibreOfficeとPDF Viewerをクリックしてチェックし、[保存]をクリックして適用します。



4) Atrust Client Setupを閉じます。


2. ショートカットはローカルデスクトップと[スタート]メニューに表示されます。



3. デスクトップまたは[スタート]メニューのショートカットをクリックして、アプリケーションを起動します。

トピック 6: 電力の使用の表示と管理

mt182Lの電力使用量を表示および管理するには、次の手順を実行してください。

1. Atrustクイック接続画面またはローカルLinuxデスクトップで、右下隅にある**Power**  アイコンをクリックしてPower Managementを起動します。ここでは、電力の使用と設定を表示できます。




2. 必要に応じて、**[調整]**をクリックしてAtrust Client Setupを起動し、電源の設定を構成します。



3. AC電源とバッテリーに必要な省電力モードを選択するか、**[カスタム]**を選択して個々の設定をカスタマイズし、**[保存]**をクリックして適用します。



注意

- mt182Lがシステムスリープモードに手動で(**Fn** + **F12** また  > サスペンド) または自動的に (システム>電源管理を通じてAtrust Client Setupで構成された) に入った場合でも、一定の電力が必要です。代わりに[シャットダウン]オプションを使用して、電力を大幅に節約できます。



警告

- バッテリーのみを電源として使用する場合は、データの損失を防ぐのに十分な電力があることを確認してください。

3

クライアント設定の構成

この章では、Atrust Client Setupを使用して詳細設定を構成し、mt182Lをカスタマイズする方法について説明します。


3.1 Atrustクライアントのセットアップ	
インターフェースの概要	43
設定一覧	44
3.2 システム設定の構成	
システムタブの概要	45
設定一覧	46
3.3 ユーザーインターフェイス設定の構成	
[ユーザーインターフェイス]タブの概要	79
設定一覧	80
3.4 外部デバイス設定の構成	
[デバイス]タブの概要	93
設定一覧	94
3.5 ネットワーク設定の構成	
[ネットワーク]タブの概要	103
設定一覧	46
3.6 サービスアクセス設定の構成	
[アプリケーション]タブの概要	127
設定一覧	128

3.1 Atrustクライアントのセットアップ

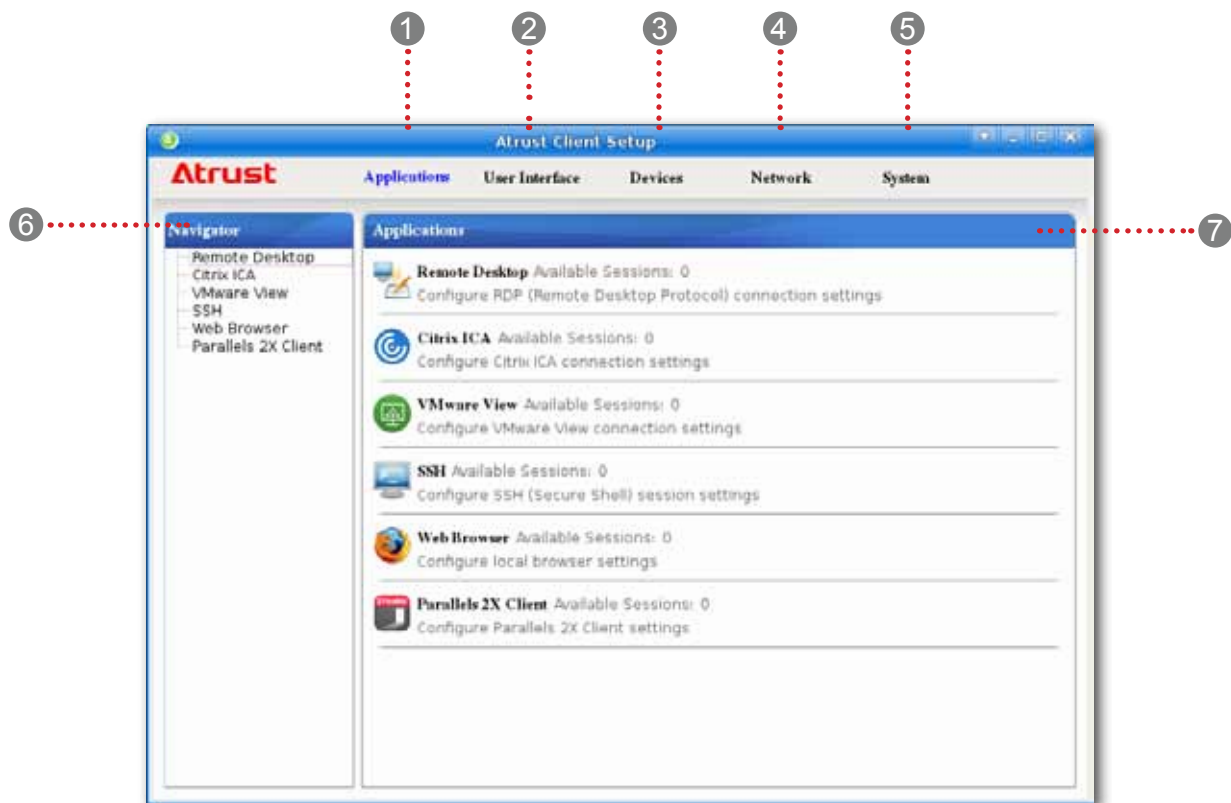
mt182Lには、クライアント設定の構成とmt182Lのカスタマイズに役立つ組み込みのローカルクライアント管理コンソールであるAtrust Client Setupが付属しています。

3.1.1 インターフェイスの概要

mt182LでAtrust Client Setupにアクセスするには、次の手順を実行してください。

1. Atrustクイック接続画面で、**Setup**  アイコンをクリックして、Atrust Client Setupを起動します。
2. Atrust Client Setupウィンドウが表示されます。

インターフェイスの概要



インターフェイス要素

No.	名前	説明文
1	アプリケーションタブ	クリックして、クライアントを介したサービスアクセスの設定を構成します。
2	[ユーザーインターフェイス]タブ	クリックして、クライアントのユーザーインターフェイスの設定を構成します。
3	デバイスタブ	クリックして、クライアントの外部デバイスの設定を構成します。
4	ネットワークタブ	クリックして、クライアントをネットワークおよびサーバーに接続するための設定を構成します。
5	システムタブ	クリックして、クライアントの操作とメンテナンスの設定を構成します。
6	ナビゲーションエリア	クリックすると、選択したタブの下の設定項目を選択したり、選択した設定項目の下の設定エントリを選択したりできます。

インターフェース要素

No.	名前	説明文
7	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

3.1.2 クライアント設定の概要

次の表は、5つの主要な設定カテゴリの下の各設定項目の簡単な説明を示しています。

タブ	設定項目	セクション	ページ
システム	<ul style="list-style-type: none"> • タイムゾーンとタイムサーバーの構成 • パスワードの構成 • リモートアシスタンス設定の構成 • ファームウェアの更新 • アプライアンスモードの有効化/無効化 • 自動セットアップを有効にする • クイック接続の構成 • 電力使用の管理 • テキストベースの（コマンドライン）関数の実行の有効化/無効化 • エラー報告用のイベントログの収集、関連画面のキャプチャ、ファイルのアップロード • リモートコンピューターの証明書のインポート • 自動登録の有効化/無効化 • システムおよびネットワーク情報の表示 	3.2 システム設定の構成	45
ユーザーインターフェース	<ul style="list-style-type: none"> • 表示設定の構成 • デスクトップとシステム言語のカスタマイズ • クイックアクセスショートカットの非表示/表示 • カスタム壁紙を使用する • キーボード設定の調整 • マウス設定の調整 • スクリーンセーバー設定の構成 	3.3 ユーザーインターフェイス設定の構成	79
デバイス	<ul style="list-style-type: none"> • USBストレージデバイスの設定の構成 • オーディオデバイスの設定の構成 • ローカル/ネットワークプリンターの設定の構成 	3.4 外部デバイス設定の構成	93
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> • 有線ネットワークの設定 • VPN設定の構成 • ホストの名前またはエイリアスへのIPアドレスのマッピングの作成 • フェールオーバークラスターリストの作成 • クライアントのホスト名を変更する • ワイヤレスネットワーク設定の構成 • サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定の構成 	3.5 ネットワーク設定の構成	103
アプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> • Microsoft RDP接続設定の構成 • Citrix ICA接続設定の構成 • VMware View接続設定の構成 • SSH接続設定の構成 • ローカルWebブラウザ設定の構成 • Parallels 2X接続設定の構成 	3.6 サービスアクセス設定の構成	127

3.2 システム設定の構成

3.2.1 [システム]タブの概要

[システム]タブでは、クライアントの操作とメンテナンスの設定を構成できます。[システム]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[システム]タブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[システム]タブの設定項目をクリックして選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

3.2.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
システム	タイムゾーン		クリックして、mt182Lのタイムゾーンとタイムサーバーを構成します。	3.2.3	47
	パスワード		クリックして、mt182LユーザーのAtrust Client Setupのアクセス権限を設定します。	3.2.4	48
			クリックして、ローカルデスクトップのログインパスワードを設定します。	3.2.5	52
			クリックして、リモートアシスタンスの設定を構成します。	3.2.6	54
	ファームウェアアップデート		クリックして、ネットワーク経由でファームウェアを更新します。この機能は、クライアントがリモートのAtrustデバイスマネージャーコンソールによって管理されている場合にのみクライアントに適用できます。	3.2.7	56
	アプライアンスモード		クリックしてアプライアンスモードを有効/無効にして、自動RDP / ICA / 表示 / Web / 2Xセッションを許可/禁止します。アプライアンスモードでは、クライアントは目的のRDP / ICA / 表示 / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後に構成されたアクションを実行します。	3.2.8	58
	オートセットアップ		クリックすると、自動セットアップが有効になり、クライアントが起動時にプリセット設定を取得して、目的のユーザー環境に自動的に入ることができます。	3.2.9	62
	クイック接続		クリックしてクイック接続モードを構成します。	3.2.10	62
				3.2.11	64
	パワー管理		クリックして電力の使用を管理します。	3.2.12	68
	ターミナル		クリックして、テキストベースの（コマンドライン）関数の実行を有効/無効にします。	3.2.13	69
	エラーレポート		クリックしてエラーログを収集し、エラーレポート用の画面キャプチャプログラムを起動します。	3.2.14	70
			エラー報告のために、指定したFTPサーバーにファイルをアップロードするときにクリックします。	3.2.15	72
	証明書マネージャー		クリックして、リモートコンピューターの証明書をインポートまたは管理します。	3.2.16	73
	アドバンス		自動登録などの詳細設定を構成するときにクリックします。	3.2.17	77
	システムインフォメーション		クリックすると、システムとネットワークの詳細情報が表示されます。	3.2.18	78



注意

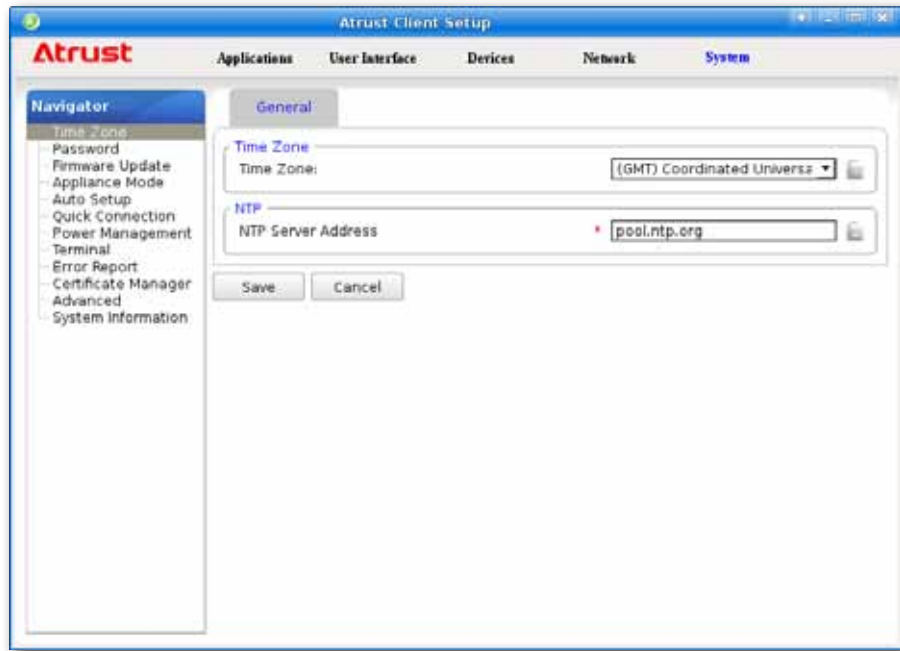
- Atrustデバイスマネージャーは、リモートの大規模クライアント管理コンソールであり、デスクトップ仮想化インフラストラクチャ内の多数のエンドポイントデバイスをリモートで管理するのに役立ちます。Atrustデバイスマネージャーの詳細については、Atrustデバイスマネージャーのユーザーズマニュアルを参照してください。

3.2.3 タイムゾーンとタイムサーバーの構成

タイムゾーン設定では、希望のタイムゾーンとタイムサーバーを設定して、mt182Lの正確なシステム時刻を取得できます。

目的のタイムゾーンとタイムサーバーを設定するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**システム> タイムゾーン**をクリックします。



2. [タイムゾーン]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして目的のタイムゾーンを選択します。
3. NTP (Network Time Protocol) セクションで、デフォルトを使用するか、目的のタイムサーバーを入力します。



注意

- デフォルトのタイムサーバーのIPアドレスはpool.ntp.orgです。デフォルトの詳細については、NTPプールプロジェクトのWebサイト (www.pool.ntp.org) を参照してください。
- タイムサーバーから正確な時刻を取得するには、mt182Lがネットワークまたはインターネットに接続されていることを確認してください。

4. **[保存]**をクリックして適用します。

3.2.4 Atrust Client Setupのアクセス権限とパスワードの構成

Atrust Client Setupのアクセス権は、パスワード設定でmt182Lユーザーに設定できます。



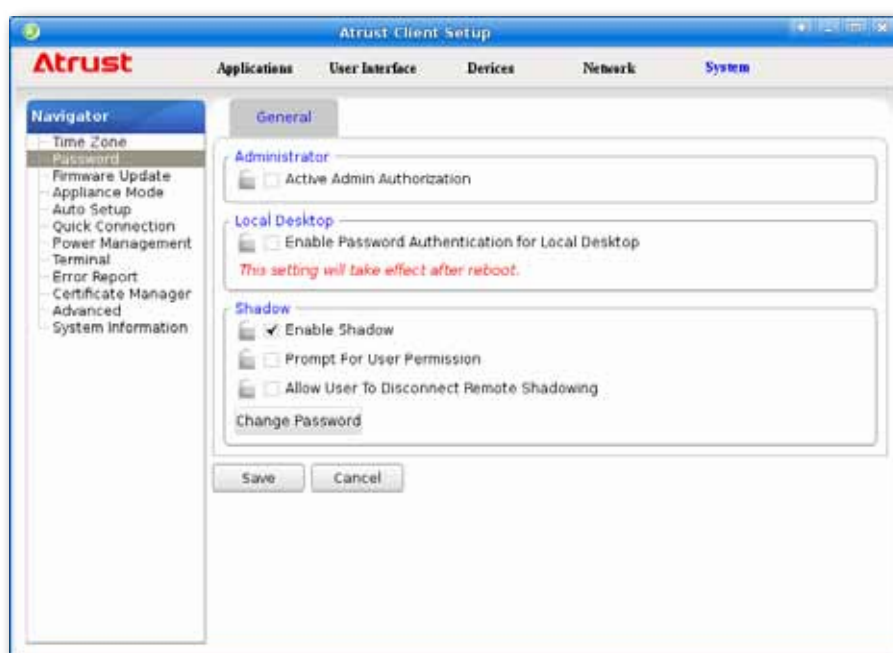
注意

- すべてのmt182Lユーザーは、工場出荷時のデフォルトでAtrust Client Setupにアクセスできます。この設定を使用して、必要に応じて変更を加えることができます。

管理者専用のアクセス権限とパスワードの設定

管理者のみにアクセス権とパスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [パスワード]をクリックします。



2. [管理者]セクションで、[アクティブな管理者の承認]をクリックしてオンにします。
3. 管理者のアクセス権限が付与され、パスワードを設定するためのウィンドウが表示されます。

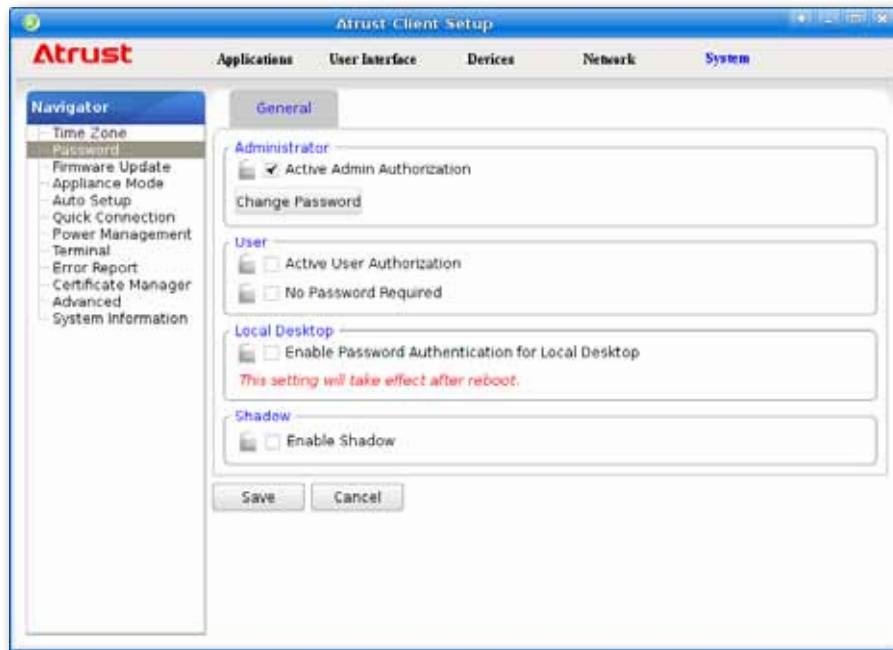


4. 目的のパスワードを入力し、[OK]をクリックして確認します。
5. [保存]をクリックして、すべての変更を保存します。

標準ユーザーにもアクセス権限とパスワードを設定する

標準ユーザーにもアクセス権限とパスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [パスワード]をクリックします。
2. [ユーザー]セクションで、[アクティブなユーザー認証]をクリックしてオンにします。



注意

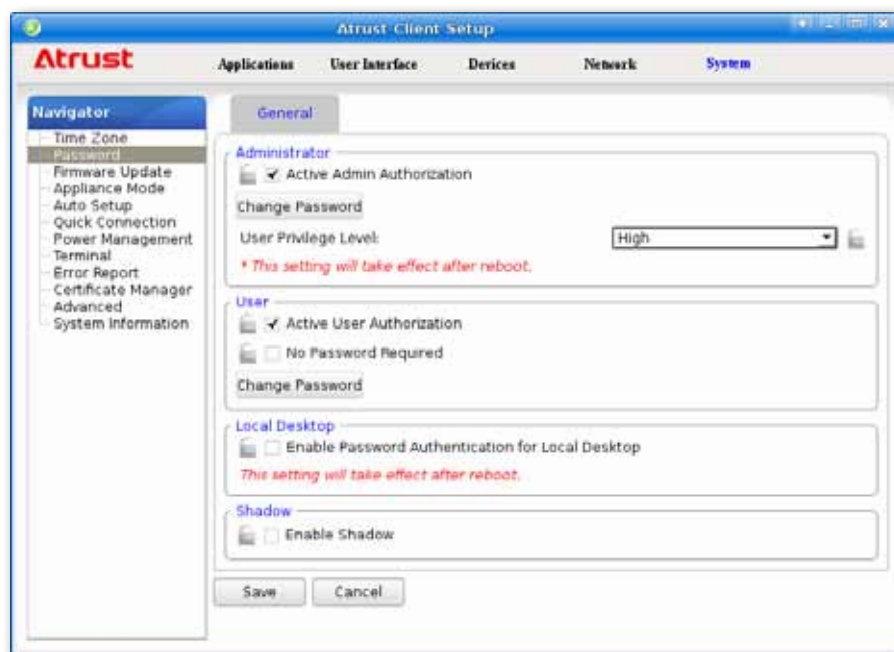
- 「ユーザー」セクションは、「アクティブな管理者承認」がチェックされている場合にのみ表示されます。

3. 標準ユーザーのアクセス権限が付与され、パスワードを設定するためのウィンドウが表示されます。



4. 目的のパスワードを入力し、[OK]をクリックして確認します。

5. 標準ユーザーのアクセス権限が付与されると、[管理者]セクションに[ユーザー権限レベル]ドロップダウンメニューが表示され、標準ユーザーの権限レベルを設定できます。この設定項目を使用して、標準ユーザーが使用できる設定の範囲を設定できます。



注意

- 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。

ユーザー特権レベル	利用可能な設定	
高	<p>アプリケーションタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートデスクトップ Citrix ICA VMware View SSH ウェブブラウザ Parallels 2X Client <p>[ユーザーインターフェイス]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスプレイ デスクトップ キーボード マウス スクリーンセーバー <p>デバイスタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> USBストレージ オーディオ プリンター 	<p>ネットワークタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> イーサネット VPN ホスト ホスト名 ワイヤレス プロキシ <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> タイムゾーン パスワード ファームウェアアップデート アプライアンスモード オートセットアップ クイック接続 パワー管理 ターミナル エラーレポート 証明書マネージャー アドバンス システムインフォメーション

中	<p>[ユーザーインターフェイス]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイ • デスクトップ • キーボード • マウス • スクリーンセーバー 	<p>ネットワークタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • イーサネット • ワイヤレス <p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイムゾーン • パスワード • エラーレポート
低	<p>[ユーザーインターフェイス]タブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスプレイ • デスクトップ • キーボード • マウス • スクリーンセーバー 	<p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • タイムゾーン • パスワード • エラーレポート
無し	<p>システムタブ</p> <ul style="list-style-type: none"> • パスワード • エラーレポート 	

- さらに、**[パスワード不要]**が[ユーザー]セクションに表示され、標準ユーザーの認証を無効にできます。
- 設定が完了したら、**[保存]**をクリックして変更を保存します。
- システムを再起動して変更を適用します。

3.2.5 ローカルデスクトップのログインパスワードの設定

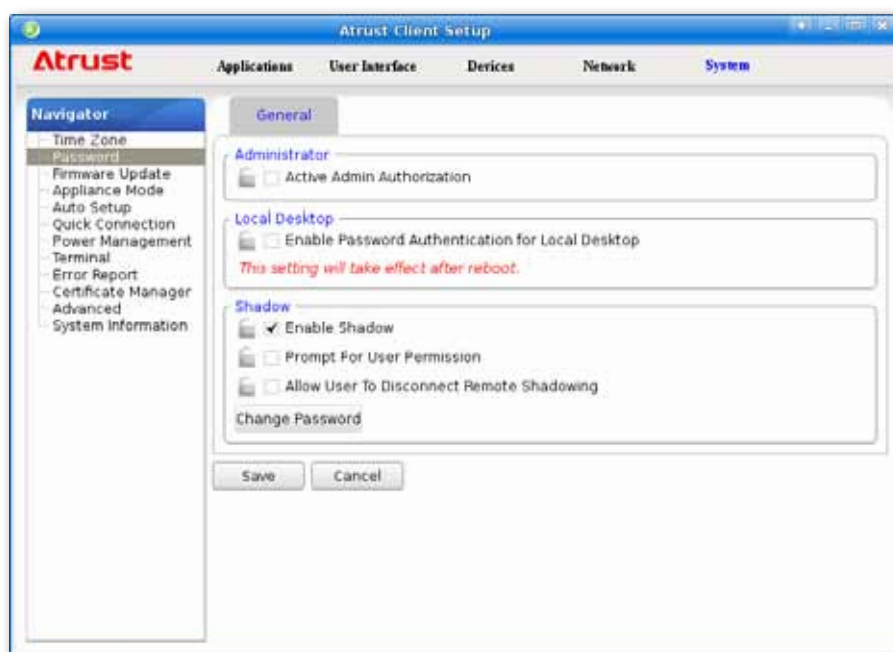
ローカルデスクトップのログインパスワードを有効にして設定するには、次の手順を実行します。



注意

- デフォルトの動作では、ログインパスワードなしでローカルデスクトップに入ります。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [パスワード]**をクリックします。



2. **[ローカルデスクトップ]**セクションで、**[ローカルデスクトップのパスワード認証を有効にする]**をクリックしてオンにします。パスワードを設定するウィンドウが表示されます。



3. 目的のパスワードを入力し、**[OK]**をクリックして確認します。
4. **[保存]**をクリックして適用します。



注意

- この機能を有効にすると、mt182Lを起動または再起動するたびに、ローカルデスクトップのログインパスワードを入力するように求められます。ログイン画面は以下のようになります。

ローカルデスクトップのログイン画面



3.2.6 リモートアシスタンスのシャドウ設定の構成

シャドウ機能を使用すると、管理者はクライアントユーザーがリモートで問題を解決したり、ローカル設定を構成したりできるようになります。この機能を有効にすると、管理者はローカルユーザーと同じようにリモートコンピューターからクライアントを監視および制御できます。

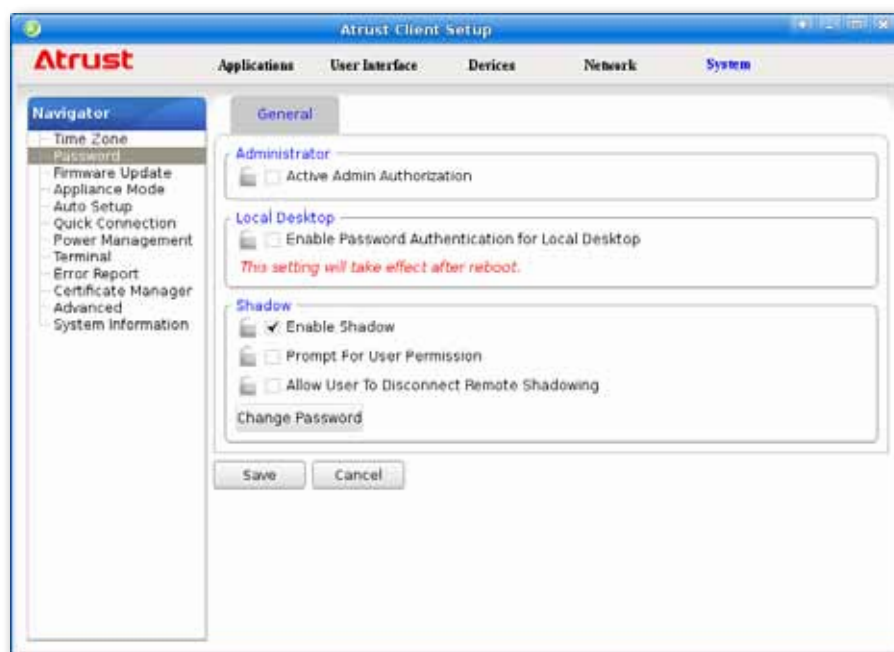


注意

- リモートコンピューターでシャドウ機能を使用するには、そのコンピューターにAtrustデバイスマネージャーコンソールをインストールし、Atrustデバイスマネージャーの管理対象グループにmt182Lを追加する必要があります。詳細については、Atrustデバイスマネージャーのユーザーズマニュアルを参照してください。

シャドウ機能を有効にしてリモートアシスタンスのパスワードを設定するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [パスワード]**をクリックします。



2. [シャドウ]セクションで、**[シャドウを有効にする]**チェックボックスがオフになっている場合は、オンにします。



注意

- デフォルトでは、シャドウ機能は有効になっています。**[パスワードの変更]**をクリックし、次の手順に従ってパスワードを設定します。

3. シャドウ機能が有効になり、リモートアシスタンス用のパスワードを設定するためのウィンドウが表示されます。




注意

- リモートコンピューターでは、管理者はAtrustデバイスマネージャーコンソールでシャドウ機能（リモートアシスタンス）を使用するためにこのパスワードが必要になります。詳細については、Atrustデバイスマネージャーのユーザーズマニュアルを参照してください。

4. 目的のパスワードを入力し、**[OK]**をクリックして確認します。
5. シャドウイング中にユーザー権限を取得するには、**ユーザー権限のプロンプト**を確認してください。
6. ユーザーがリモートシャドウを停止できるようにするには、**[ユーザーがリモートシャドウを切断できるようにする]**をオンにします。
7. **[保存]**をクリックして、すべての変更を保存します。



注意

- シャドウ機能がリモートAtrustデバイスマネージャーから実行されると、ターゲットクライアントで、ローカルLinuxデスクトップのタスクバーにアイコン  が表示され、右下隅に通知がポップアップ表示されます。クイック接続モードの場合、Atrustクイック接続画面の右下隅に通知がポップアップ表示されます。

3.2.7 管理コンピューターからのファームウェアの更新

ファームウェアの更新を使用すると、クライアントユーザーは管理コンピューターからファームウェアを更新できます。

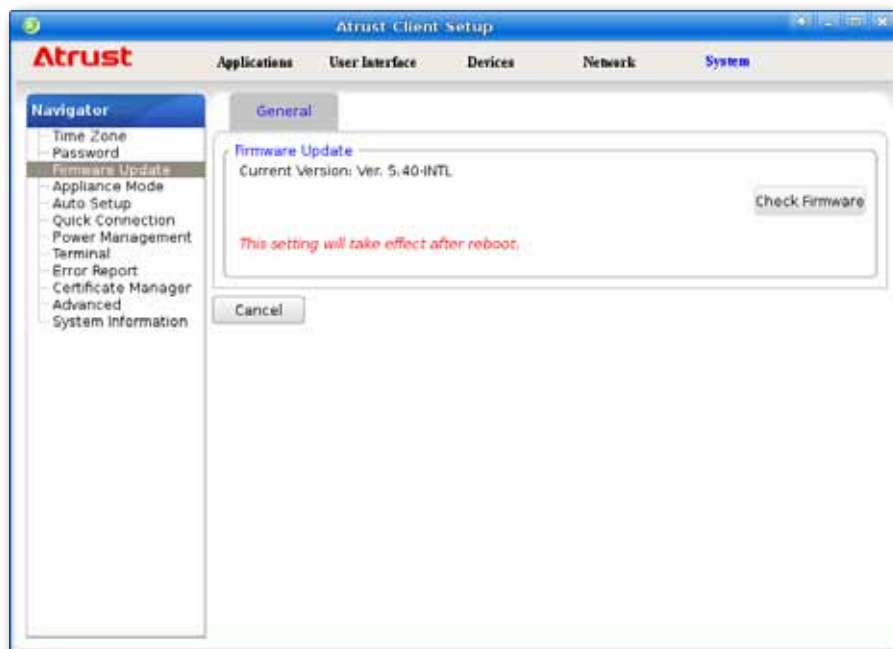


注意

- mt182LがリモートコンピューターにインストールされているAtrustデバイスマネージャーの管理対象グループに追加されていること、およびクライアントファームウェアファイルがAtrustデバイスマネージャーにインポートされていることを確認します。これらは、この機能の前提条件です。
- ファームウェアの更新とAtrustデバイスマネージャーの詳細については、Atrustデバイスマネージャーのユーザーマニュアルを参照してください。

管理コンピューターからファームウェアを更新するには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、**システム> ファームウェアアップデート**をクリックします。

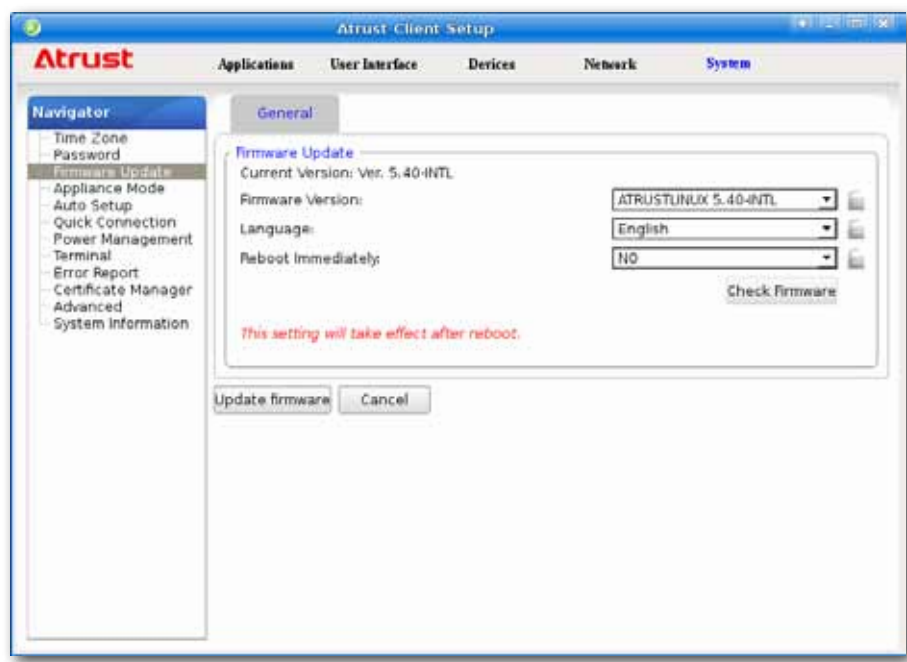


2. [ファームウェアの更新]セクションで、**[ファームウェアの確認]**をクリックします。
3. 完了すると、ファームウェアリストがロードされたことを通知するウィンドウが表示されます。



4. **[はい]**をクリックして続行します。

5. ドロップダウンメニューをクリックして、目的のファームウェアバージョンとその他の更新オプションを選択します。



ファームウェア更新オプション	
項目	説明文
ファームウェアバージョン	目的のファームウェアバージョンをクリックして選択します。
言語	Atrust Client Setupコンソールを含むシステムのインターフェース言語をクリックして選択します。 注意: 使用可能な言語は、選択したファームウェアバージョンによって異なる場合があります。
すぐに再起動	クリックして、ファームウェアの更新のためにシステムをすぐに再起動するか、後で手動でシステムを再起動するかを選択します。

6. [ファームウェアの更新]をクリックして、選択内容を確認します。再起動後、システムはファームウェアの更新を開始します。

3.2.8 アプライアンスモードの有効化または無効化

アプライアンスモードでは、mt182Lを目的のMicrosoftリモートデスクトップ、Citrix ICA、VMware (Horizon) View、Web、または2Xセッションで直接起動できます。このモードでは、ユーザーはスタンドアロンデスクトップコンピューターを使用しているかのように感じます。基盤となるクライアントオペレーティングシステムであるAtrust Linuxは、最初から隠されています。



注意

- mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです：（Webブラウザーには該当なし）</p> <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする
3	クイック接続	<p>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>

- これらのモードの詳細については、以下のセクションを参照してください。
 - 3.2.10 (P.62) と 2.1 (P.13) (クイック接続モード)
 - 3.2.8 (P.58) (アプライアンスモード)
 - 3.6.5 (P.144) (RDPセッションの自動開始モード)
 - 3.6.11 (P.182) (ICAセッションの自動開始モード)
 - 3.6.14 (P.216) (Viewセッションの自動開始モード)
 - 3.6.19 (P.227) (Webセッションの自動開始モード)
 - 3.6.22 (P.235) (2Xセッションの自動開始モード)

アプライアンスモードの有効化

アプライアンスモードを有効にするには、次の操作を行います。



注意

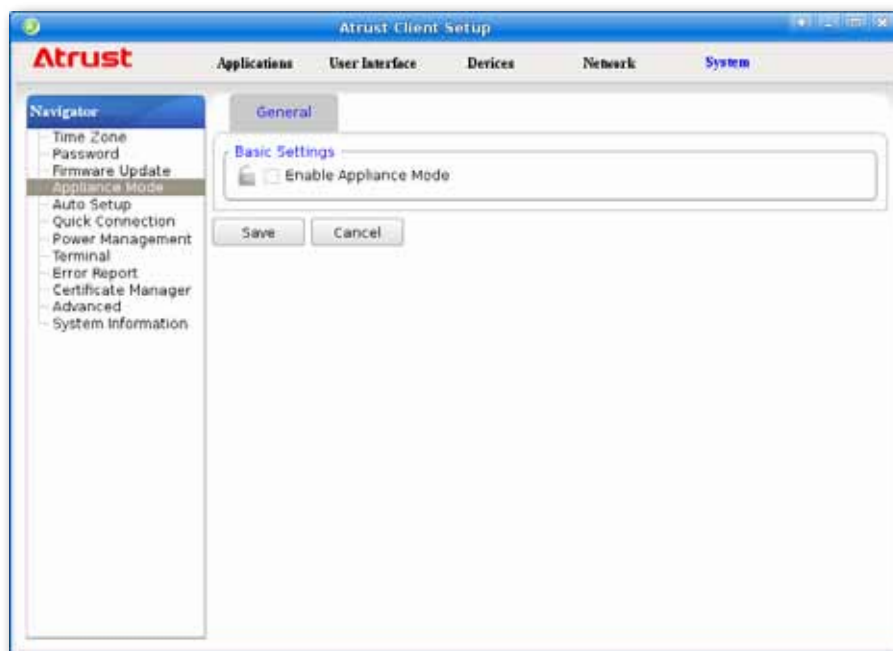
- **[アプリケーション]**タブで、目的のMicrosoftリモートデスクトップ、Citrix ICA、VMware (Horizon) View、Web、または2Xセッションの接続設定を構成したことを確認します。アプライアンスモードで使用するサービスタイプと接続設定エントリを指定する必要があります。詳細な手順については、セクションをご覧ください。
 - “3.6.3 基本的なRDP接続設定の構成 (P.129)”
 - “3.6.6 基本的なICA接続設定の構成 (P.159)”
 - “3.6.12 基本的なVMware View接続設定の構成 (P.212)”
 - “3.6.17 ブラウザセッションの基本設定の構成 (P.224)”
 - “3.6.20 基本的なRAS / RDP接続設定の構成 (P.228)”



注意

- 自動開始モードでは、クライアントがRDP / ICA / ビューセッションで直接起動することもでき、アプライアンスモードよりも柔軟に構成できることに注意してください。自動開始モードの詳細については、以下のセクションを参照してください。
 - “3.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.144)”
 - “3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”
 - “3.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.216)”
 - “3.6.19 ブラウザセッションの詳細設定 (P.227)”
 - “3.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.235)”

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [アプライアンスモード]**をクリックします。



2. **[アプライアンスモードを有効にする]**をクリックしてオンにします。
3. アプライアンスモードの他の設定が表示されます。 ドロップダウンメニューをクリックして、アプリケーション（またはサービス）のタイプ（**Citrix ICA**、**リモートデスクトップ**、**VMware View**、**Webブラウザー**、**Parallels 2Xクライアント**）、そのタイプで利用可能な特定のサービス、およびセッション終了後の目的のアクションを選択します。

Basic Settings

☒ Enable Appliance Mode

Application Type: Citrix ICA

Use Session: XD

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To minimize ICA Fullscreen Desktop: Press Left Ctrl+F2 then Alt+F9*

Basic Settings

☒ Enable Appliance Mode

Application Type: Remote Desktop

Use Session: WMS

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To toggle RDP fullscreen: Ctrl+Alt+Enter*

Basic Settings

☒ Enable Appliance Mode

Application Type: VMware View

Use Session: VHV

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To release keyboard and mouse from the virtual desktop, press Ctrl+Alt*

Basic Settings

☒ Enable Appliance Mode

Application Type: Web Browser

Use Session: Gmail

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To restart system : Shift+Ctrl+End*

Basic Settings

☒ Enable Appliance Mode

Application Type: Parallels 2X Client

Use Session: P2X-RAS-G

On Application Exit: Shutdown

** To launch Console: Shift+Ctrl+Delete*

** To restart system : Shift+Ctrl+End*



注意

- 選択したRDP / ICA / 表示サービスにどの解像度オプションを選択しても、アプライアンスモードでのRDP / ICA / 表示セッションは常にフルスクリーンモードを使用してリモート/仮想デスクトップを表示します。

4. **[保存]**をクリックして選択を確認します。
5. 再起動後、システムはアプライアンスモードに入ります。



注意

- アプライアンスモードを無効にするか、アプライアンスモードでAtrust Client Setupにアクセスするには、“アプライアンスモードの無効化 (P.61)”を参照してください。

アプライアンスモードの無効化

アプライアンスモードを無効にするには、次の手順を実行してください。

1. アプライアンスモードで、RDP / ICA / 2Xセッションのフルスクリーンモードを終了するか、Webブラウザウィンドウを最小化するか、キーボードとマウスをビューセッション（仮想デスクトップ）から離します。
 - RDPセッションのフルスクリーンモードを終了するには、**Ctrl + Alt + Enter**キーを押してから、セッションウィンドウを最小化します。
 - ICAセッションのフルスクリーンモードを終了するには、**Ctrl + F2**を押してから、**Alt + F9**を押します。
 - 2Xセッションのフルスクリーンモードを終了するには、リモートデスクトップからログアウトします。
 - キーボードとマウスをViewセッション（仮想デスクトップ）から解放するには、**Ctrl + Alt**を押します。



注意

- Viewセッション（仮想デスクトップ）からキーボードとマウスを離れた後、Viewセッション（仮想デスクトップ）がバックグラウンドに残ることに注意してください。

2. **Ctrl + Shift + Del**をクリックして、Atrust Client Setupを起動します。



注意

- アプライアンスモードでは、クライアントオペレーティングシステム（Atrust Linux）のタスクバーにアクセスできません。

3. Atrust Client Setupで、**[システム]> [アプライアンスモード]**をクリックします。
4. **[アプライアンスモードを有効にする]**をクリックしてオフにし、**[保存]**をクリックして変更を適用します。
5. 現在のRDP / ICA / 表示 / Web / 2Xセッションに戻ります。
 - 現在のRDP / ICA / Web / 2Xセッションに戻るには、**Alt + タブ**（**Alt**キーを押しながら**Tab**キーを押して別のアイテムを切り替える）を使用して、現在のセッションを選択して復元します。

- 現在のViewセッションに戻るには、背景のViewセッション（仮想デスクトップ）の任意の場所をクリックします。
6. 現在のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションを終了またはログオフします。
 7. その後、クライアントがシャットダウンする可能性があります。クライアントを手動で再起動します。

3.2.9 自動セットアップの有効化または無効化

自動セットアップにより、シンクライアントは起動時に事前設定された構成を取得し、目的のユーザー環境に自動的に入ることができます。その操作には、クライアント側の自動セットアップを除き、自動セットアップ環境とネットワーク接続が必要です。詳細については、自動設定の“A.4 オートセットアップのフローチャート (P.259)” およびユーザーガイドを参照してください。



注意

- シンクライアントがプリセット設定を取得した後に自動セットアップを無効にするには、クライアントをリセットします。“A.1 mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットする (P.249)” を参照してください。

3.2.10 クイック接続モードの構成

クイック接続モードでは、システムの起動後にAtrustクイック接続画面に入ることができます。この設定は、モバイルシンクライアントではデフォルトで無効になっています。



注意

- クイック接続モードでmt182Lを使用する方法の詳細については、セクション“2.1 基本を学ぶ (P.13)”を参照してください。
- mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">• 新しいセッションを再開する• シンクライアントの再起動• シンクライアントをオフにする
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のRDP / ICA / ビュー / Web / 2Xセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです：（Webブラウザーには該当なし）</p> <ul style="list-style-type: none">• ローカルデスクトップに戻る• 新しいセッションを再開する• シンクライアントの再起動• シンクライアントをオフにする
3	クイック接続	<p>システムの起動後、クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>

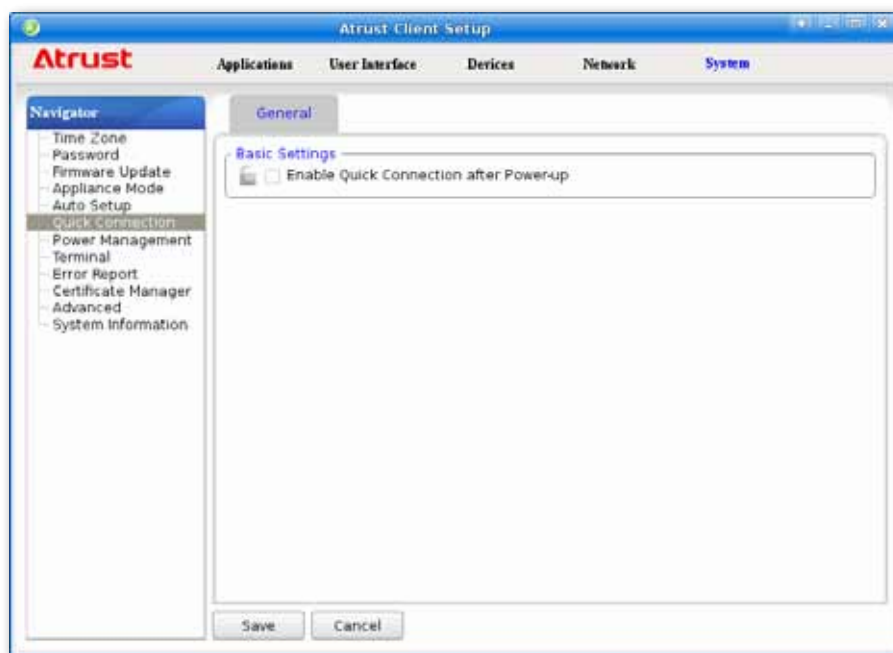


注意

- クイック接続モードを使用するには、アプライアンスモードと自動起動モードの両方が無効になっていることを確認してください。2つのモードのいずれかが有効になっている場合、クイック接続モードは機能しません。
- アプライアンスモードの詳細については、セクション“3.2.8 アプライアンスモードの有効化または無効化 (P.58)”を参照してください。
- 自動開始モードの詳細については、次のセクションを参照してください。
 - “3.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.144)”
 - “3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”
 - “3.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.216)”
 - “3.6.19 ブラウザセッションの詳細設定 (P.227)”
 - “3.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.235)”

クイック接続モードを有効/無効にするには、以下を実行してください：

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [クイック接続]**をクリックします。



2. **[電源投入後にクイック接続を有効にする]**をクリックしてオン/オフにし、クイック接続モードを有効/無効にし、**[保存]**をクリックして変更を適用します。



注意

- クイック接続の詳細設定については、次のセクション(3.2.11)を参照してください。

3.2.11 クイック接続の詳細設定

Atrust Client Setupの[システム]> [クイック接続]から、リモートデスクトップ、Citrix ICA、およびVMware Viewセッションの高度なクイック接続設定を構成できます。

リモートデスクトップセッションの高度なクイック接続設定

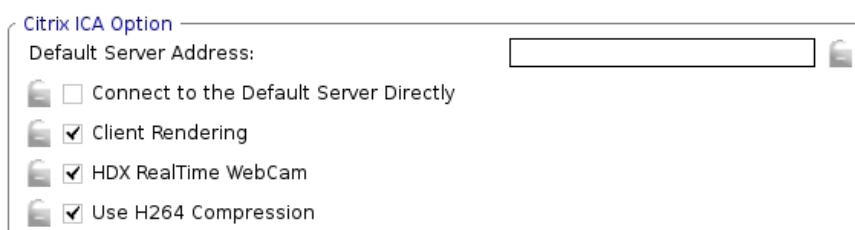
リモートデスクトップセッションのクイック接続の詳細設定を構成するには、次の表を参照してください。




リモートデスクトップオプション	
項目	説明文
マルチメディアリダイレクト	<p>マルチメディアリダイレクトを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。</p> <p>有効にすると、クライアントは元の圧縮マルチメディアストリームを受信し、ローカルでデコードして表示します。この機能はクライアントの負荷を増やしますが、サーバーリソースを節約し、帯域幅の使用を減らし、オーディオとビデオの再生エクスペリエンスを向上させます。</p> <p>デフォルトで有効になっています（クイック接続モードが有効な場合）。</p>

Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定

Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定を構成するには、以下の表を参照してください。



Citrix ICA オプション	
項目	説明文
デフォルトのサーバーアドレス	デフォルトのサーバーアドレスを指定するには、このフィールドに目的のアドレスを入力します。
既定のサーバーに直接接続する	チェックして、デフォルトサーバーに直接接続します。
クライアントレンダリング	<p>クライアントレンダリングを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。</p> <p>クライアントレンダリングを無効にすると、サーバーレンダリングが使用されます。</p>
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮を使用	オンにすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。


 ☐ Redirect Connected USB Devices

* All connected USB devices will be redirected unless more specific settings are specified below.

* Enabling USB Redirection on the server side is also required for this feature.

Citrix ICA オプション	
項目	説明文
リダイレクト接続 USBデバイス	オンにすると、接続されたUSBデバイスのリダイレクトがクイック接続モードで有効になります。以下で特定の設定を指定しない限り、接続されているすべてのUSBデバイスがリダイレクトされます。

Use of USB Storage Devices:

Mapping 

Use of USB Printers:

Mapping 

Citrix ICA オプション	
項目	説明文
USBストレージデバイスの使用	ICAセッションでUSBストレージデバイスを使用する方法をクリックして選択します。 マッピング、リダイレクト、無効 の3つのオプションを使用できます。
USBプリンターの使用	ICAセッションでUSBプリンターを使用する方法をクリックして選択します。 マッピング、リダイレクト、無効 の3つのオプションを使用できます。

Plugged USB Devices:

(Vendor: 2047 Product: 03d1) **①** Texas Instruments

(Vendor: 0bda Product: 0129) Realtek Semiconductor Corp. RTS5129 Card Reader Con

Redirection Rules:

* Use redirection rules to manage specific USB devices. **②**

* Maximum number of rules: 10

Allow  Vendor ID: Product ID: 

Citrix ICA オプション	
項目	説明文
リダイレクトルール	② にリダイレクトルールを作成して、 ① に関する情報で特定のUSBデバイスを管理します。



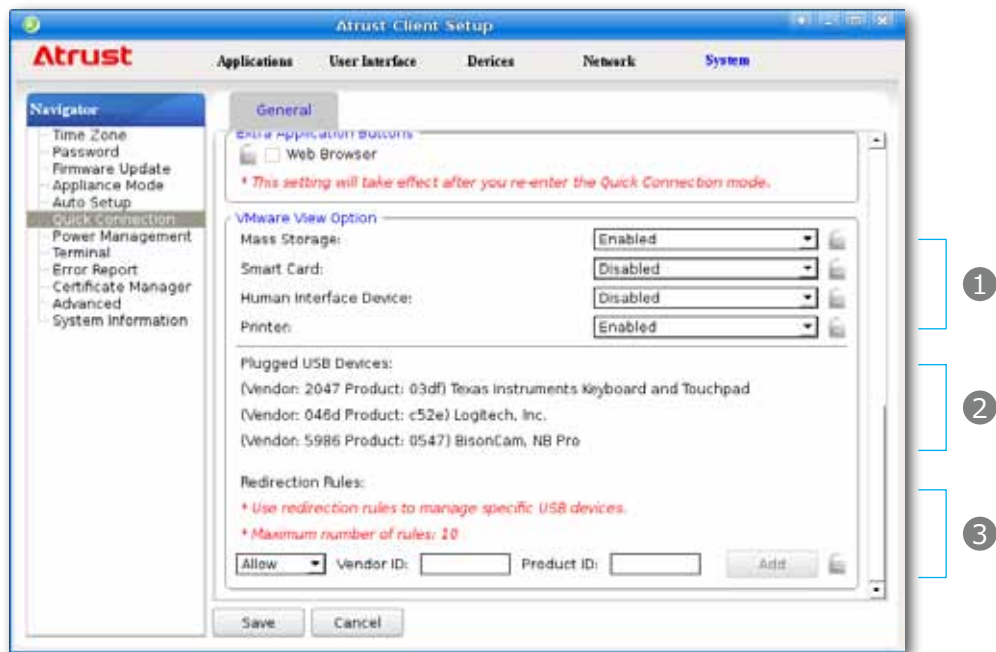
注意

- 接続されているすべてのUSBデバイスが、**プラグインUSBデバイス (①)** の下にリストされ、ルールの作成に必要なベンダーおよび製品情報が表示されます。

VMware Viewセッションの高度なクイック接続設定

VMware Viewセッションのクイック接続の詳細設定を構成するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [クイック接続]をクリックします。



2. ドロップダウンメニューをクリックして、大容量記憶装置、スマートカード、ヒューマンインターフェイスデバイスの**一般設定** (①) を構成します。 **有効**または**無効**の2つのオプションを使用できます。

Mass Storage:	Enabled	
Smart Card:	Disabled	
Human Interface Device:	Disabled	
Printer:	Enabled	

3. **リダイレクトルール**(③)を使用して、特定のUSBデバイスを管理します。

Plugged USB Devices: ②			
(Vendor: 046d Product: c52e) Logitech, Inc.			
Redirection Rules: ③			
* Use redirection rules to manage specific USB devices.			
* Maximum number of rules: 10			
Allow	Vendor ID:	Product ID:	Add

- (②) を参照して特定のデバイスのベンダーIDと製品IDを入力し、ドロップダウンメニューをクリックして**[許可]**または**[拒否]**を選択します。
- (③)にルールを追加するには、右側の**[追加]**をクリックします。



注意

- 接続されているすべてのUSBデバイスが、**プラグインUSBデバイス (2)**の下にリストされ、ルール作成に必要なベンダーおよび製品情報が表示されます。
- **リダイレクトルール (3)** は**一般設定 (1)**よりも優先されます。

4. **[保存]**をクリックして適用します。

クイック接続モードでローカルにインターネットにアクセスする

クイック接続モードでローカルにインターネットにアクセスするには、Atrustクイック接続画面にWebブラウザボタンを表示するように設定できます。

Extra Application Buttons

☐ Web Browser

** This setting will take effect after you re-enter the Quick Connection mode.*

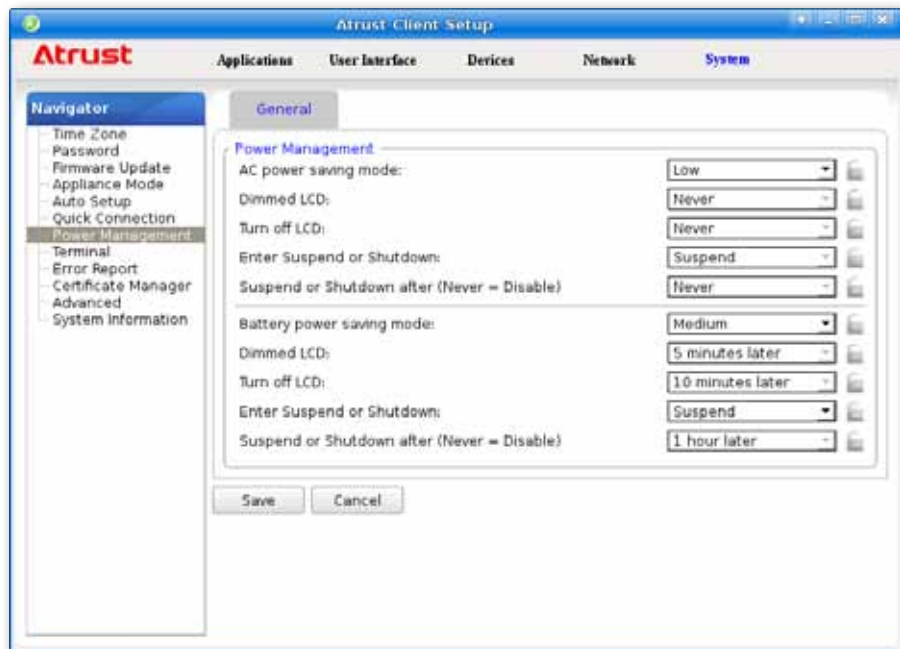
Atrustクイック接続画面



3.2.12 電力使用の管理

モバイルシンクライアントの電力使用を管理するには、次の手順を実行してください。


1. Atrustクライアントのセットアップでは、**[システム]> [電源管理]**をクリックします。



2. AC電源とバッテリーに必要な省電力モードを選択するか、**[カスタム]**を選択して個々の設定をカスタマイズし、**[保存]**をクリックして適用します。



注意

- mt182Lがシステムスリープモードに手動で (**Fn + F12** または  > **サスペンド**)、または自動的に (**システム>電力管理**を介してAtrust Client Setupで構成) に入った場合でも、一定量の電力が必要です。代わりに**[シャットダウン]**オプションを使用して、電力を大幅に節約できます。



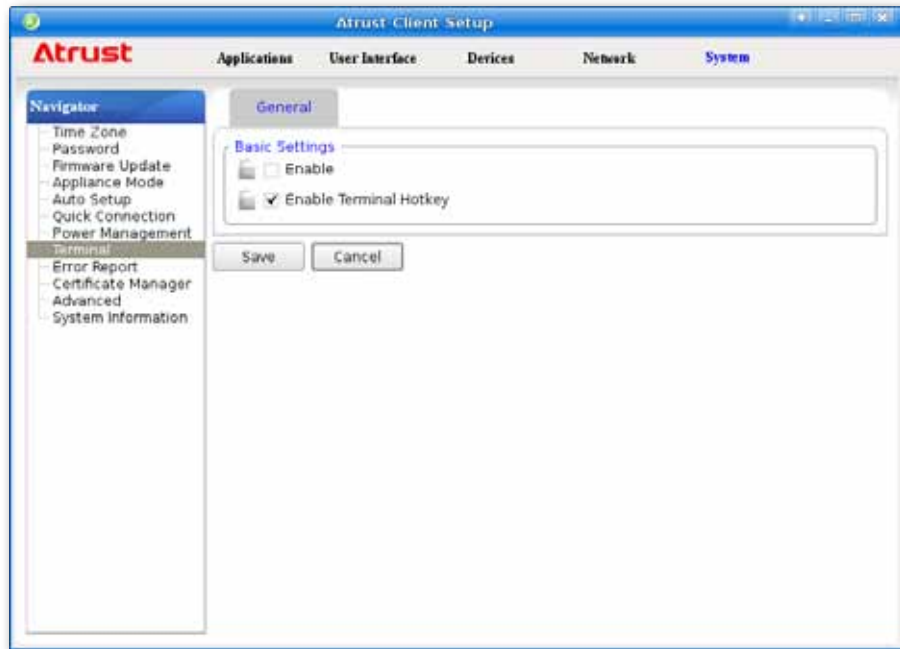
警告

- バッテリーのみを電源として使用する場合は、データの損失を防ぐのに十分な電力があることを確認してください。

3.2.13 コマンドライン機能の有効化または無効化

テキストベースの（コマンドライン）関数の実行を有効または無効にするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[システム]> [ターミナル]**をクリックします。



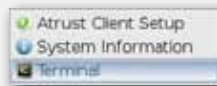
2. クリックして設定を構成します。

- スタート]メニューのショートカットを介してコマンドライン機能の実行を許可するには、**[有効にする]**をオンにします。
- ホットキーを介したコマンドライン機能の実行を許可するには、**[ターミナルホットキーを有効にする]**をオンにします。
- **ターミナル**を完全に無効にするには、両方のチェックを外します。



注意

- ショートカットから**ターミナル**を開くには、ローカルLinuxデスクトップで**[スタート]> [設定]> [ターミナル]**をクリックします。



- ホットキーで**ターミナル**を開くには、**Ctrl + Alt + T**を押します。

3. **[保存]**をクリックして変更を適用します。

3.2.14 イベントログの収集と関連画面のキャプチャ

エラーレポート機能を使用すると、イベントログを収集し、エラーレポートの関連画面をキャプチャできます。

イベントログの収集

mt182Lのイベントログを収集するには、次の手順を実行します。

1. USBフラッシュドライブをmt182Lに差し込みます。



注意

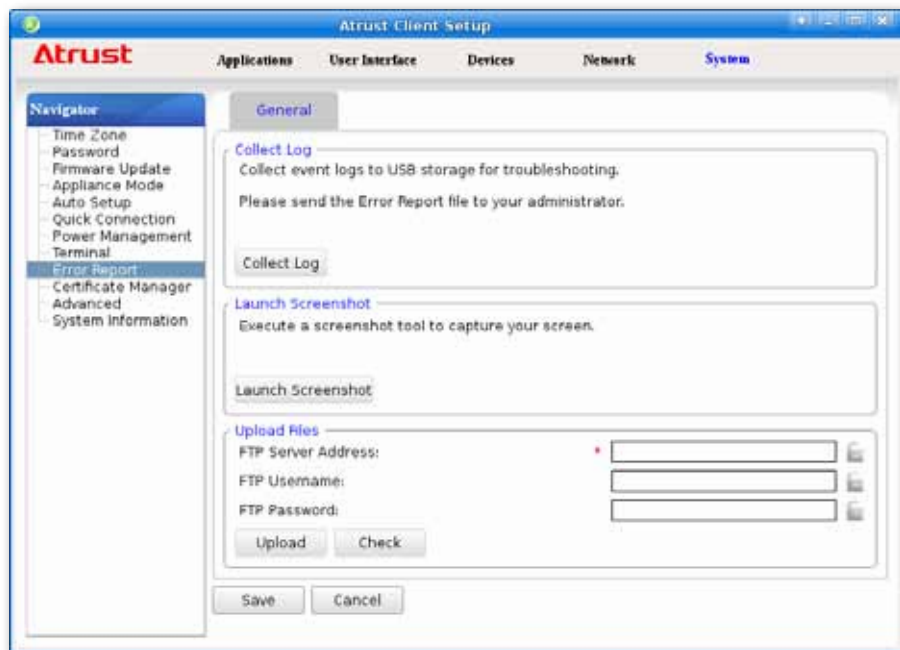
- このUSBフラッシュドライブは、mt182Lのイベントログの保存に使用されます。
- USBストレージデバイスのアクセスと自動マウントが有効になっていることを確認します。詳細な手順については、“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”を参照してください。



注意

- ローカルデスクトップに保存されたファイルは再起動後に削除されることに注意してください。

2. Atrust Client Setupで、システム> エラーレポートをクリックします。



3. 「**ログの収集**」をクリックします。ログファイルセット（**events.tar.gz**という名前）を保存する場所を選択するように求めるウィンドウが表示されます。接続されているUSBフラッシュドライブは、接続されている場合のデフォルトの場所です。[**保存**]をクリックして適用します。



エラー関連画面のキャプチャ

mt182Lのエラー関連画面をキャプチャするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**システム> エラーレポート**をクリックします。
2. [**スナップショットの起動**]をクリックして、画面キャプチャプログラムを開きます。



3. 必要に応じて、開いているウィンドウで画面キャプチャ設定を直接構成し、[**OK**]をクリックして目的の画面をキャプチャします。



ヒント

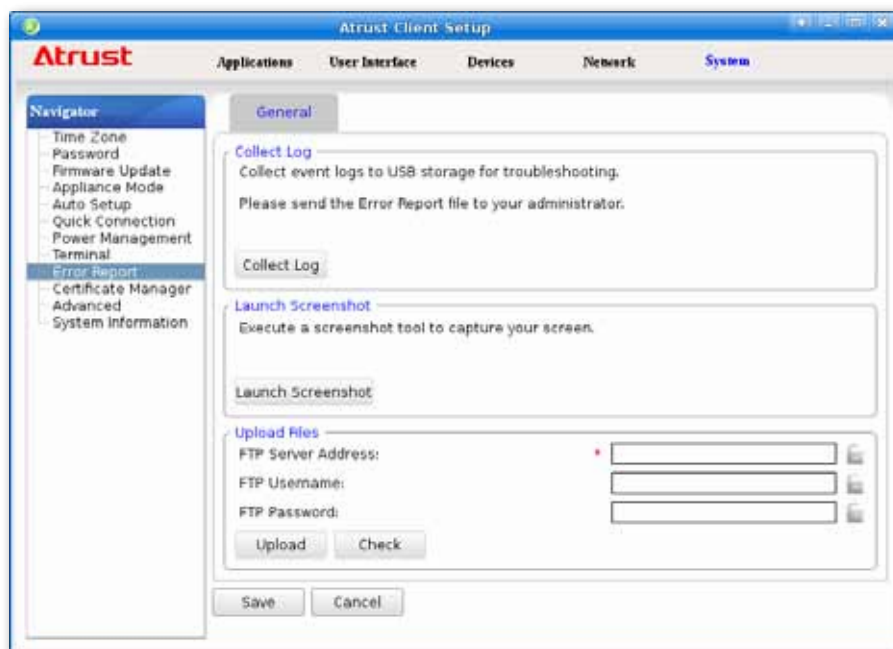
- 目的の画面またはウィンドウに切り替えるための時間を確保するために、キャプチャする前の遅延時間を少なくとも2秒に設定することをお勧めします。
- キャプチャした画面は、イベントログが保存されたのと同じUSBフラッシュドライブに保存することをお勧めします。
- ローカルデスクトップに保存されたファイルは再起動後に削除されることに注意してください。

3.2.15 エラー報告のためのファイルのアップロード

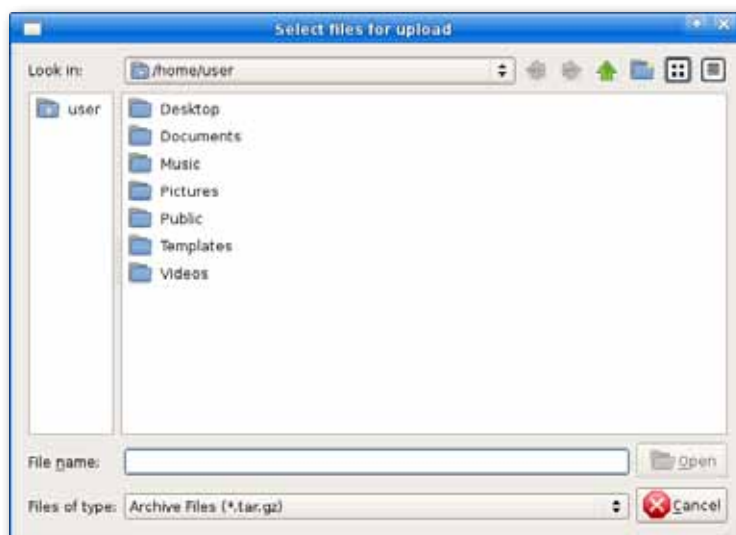
エラー報告のために、指定したFTPサーバーにファイルをアップロードできます。

FTPサーバーにファイルをアップロードするには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**システム> エラーレポート**をクリックします。



2. [ファイルのアップロード]セクションで、FTPサーバーのIPアドレスと資格情報を入力し、**[アップロード]**をクリックしてファイルを選択し、そのFTPサーバーにアップロードします。



ヒント

- 最初に**[確認]**ボタンを使用して、IPアドレスと資格情報の有効性を確認できます。

3.2.16 リモートコンピューターの証明書のインポート

次の方法でリモートコンピュータの証明書をインポートできます。

- ローカルデバイス（USBストレージデバイスから）
- ネットワーク（リモートコンピュータまたは管理コンソールから）



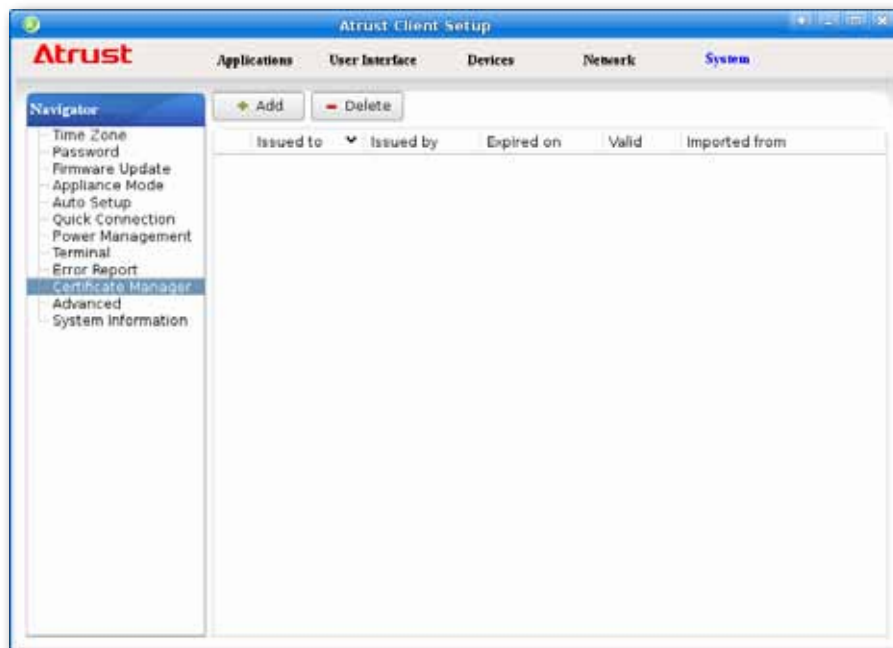
注意

- mt182Lで使用可能な管理コンソールは、複数のシンクライアント用のリモートおよびグループ管理コンソールであるAtrustデバイスマネージャーです。詳細については、Atrustデバイスマネージャーのユーザーズマニュアルを参照してください。

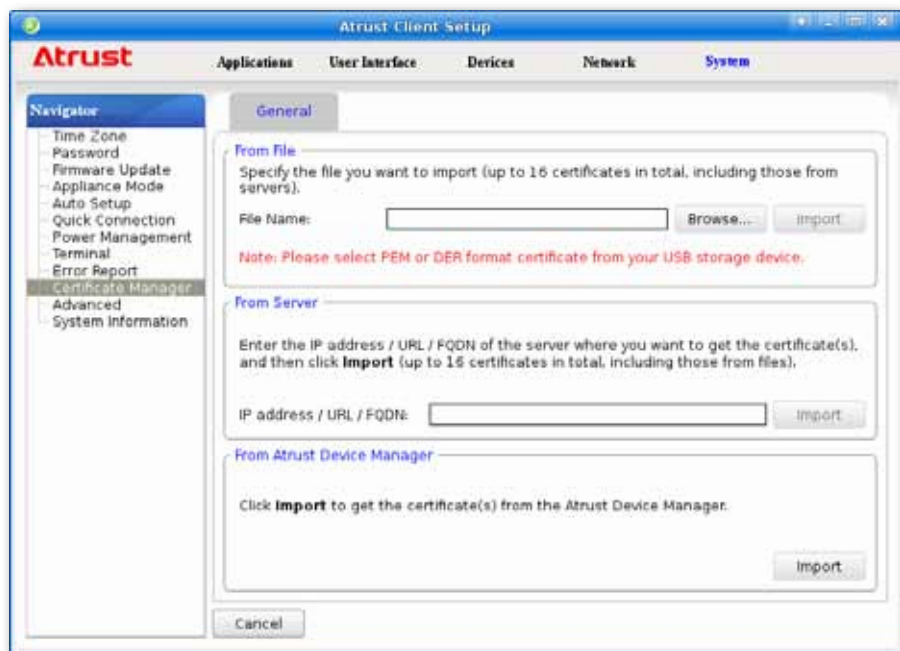
USBストレージデバイスを介した証明書のインポート

USBストレージデバイスを介してリモートコンピュータの証明書をインポートするには、次の手順を実行してください。

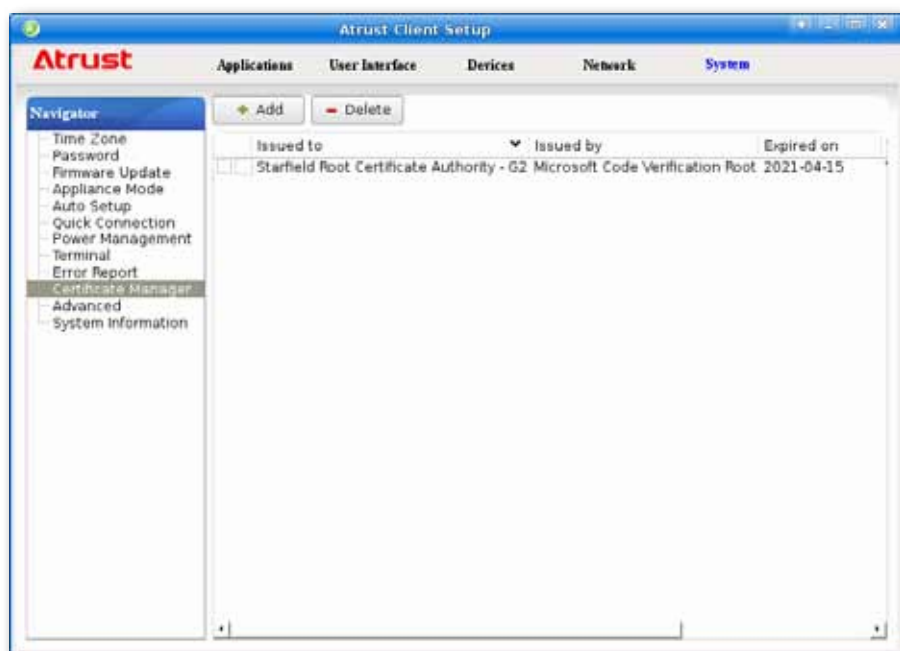
1. 証明書をUSBストレージデバイスにコピーし、このストレージデバイスをmt182Lに接続します。
2. Atrust Client Setupで、「システム」>「証明書マネージャー」をクリックします。
3. 証明書リストの上部にある[追加]をクリックします。



4. [ファイルから]セクションで、**[参照]**をクリックして目的の証明書ファイルを見つけ、**[開く]**をクリックして確認します。



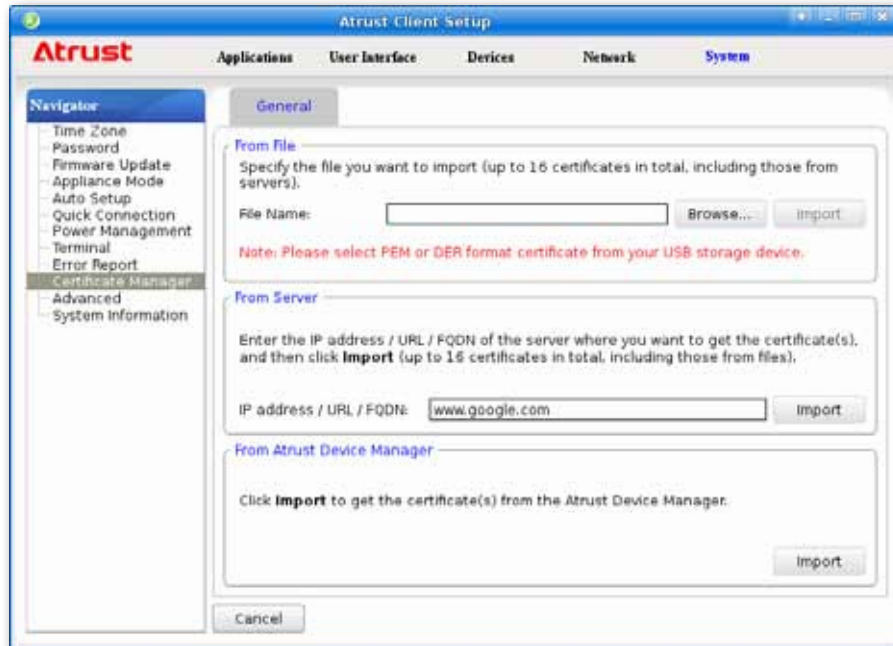
5. **[インポート]**をクリックして、証明書のインポートを開始します。
6. 完了すると、証明書が証明書リストに表示されます。



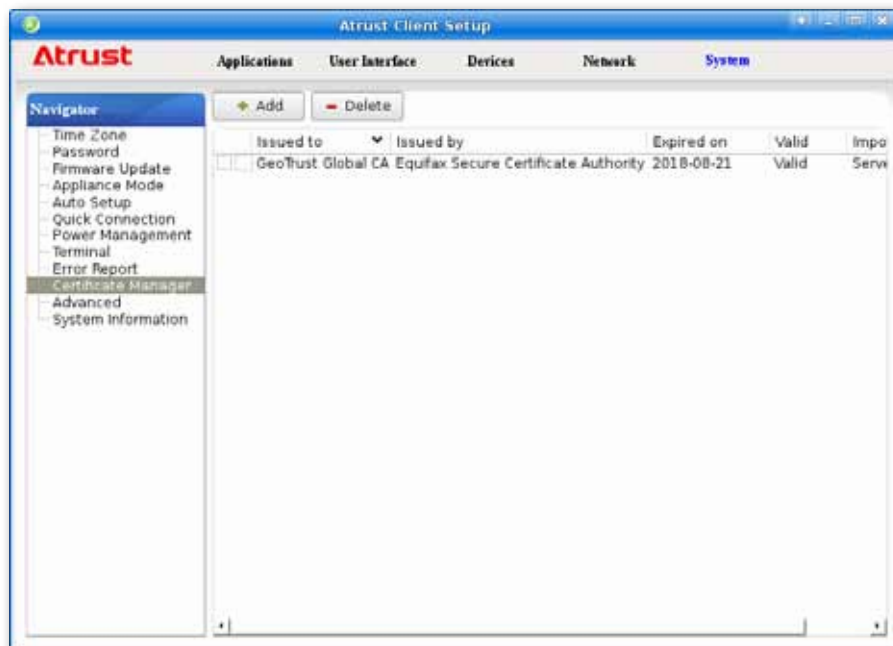
ネットワーク経由でリモートコンピューターから証明書をインポートする

ネットワーク経由でリモートコンピューターから証明書をインポートするには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、「システム」>「証明書マネージャー」をクリックします。
2. 証明書リストの上部にある[追加]をクリックします。
3. [サーバーから]セクションで、リモートコンピューターのIPアドレス/ URL / FQDNを入力し、[インポート]をクリックします。



4. 完了すると、証明書が証明書リストに表示されます。



ネットワークを介したAtrustデバイスマネージャーからの証明書のインポート

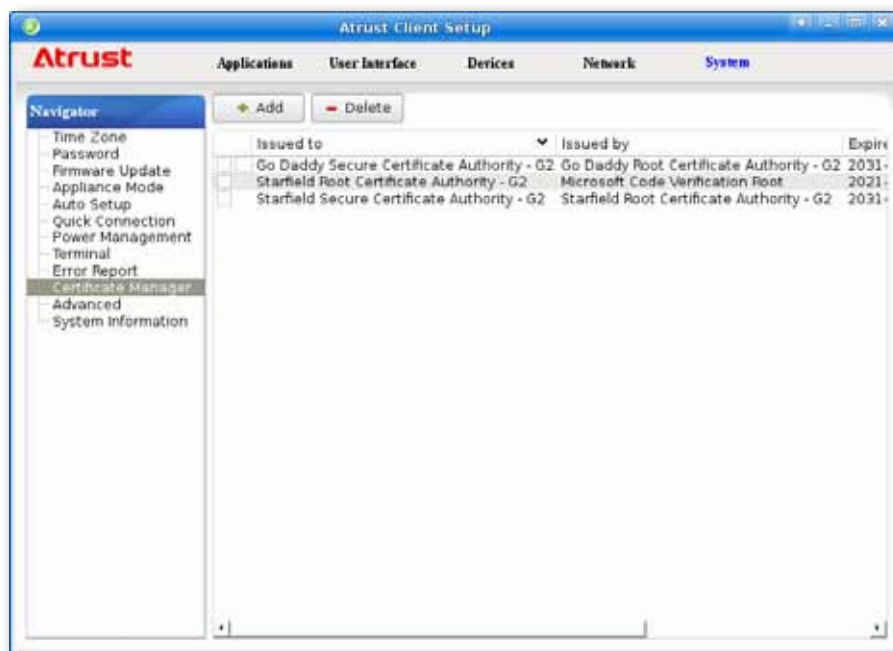
Atrustデバイスマネージャーからネットワーク経由で証明書をインポートするには、次の手順を実行してください。



注意

- 続行する前に、(1) シンククライアントが管理コンソールの管理対象グループ、つまり Atrustデバイスマネージャーに追加されていること、および (2) 証明書が管理コンソールにインポートされていることを確認してください。

1. Atrust Client Setupで、「システム」>「証明書マネージャー」をクリックします。
2. 証明書リストの上部にある[追加]をクリックします。
3. [Atrustデバイスマネージャーから]セクションで、[インポート]をクリックして、Atrustデバイスマネージャーで利用可能なすべての証明書のインポートを開始します。
4. 完了すると、証明書が証明書リストに表示されます。



3.2.17 自動登録の有効化または無効化

自動登録により、シンクライアントはオンラインのときにAtrustデバイスマネージャーに自動的に登録され、Atrustデバイスマネージャーによって管理されるようになります。

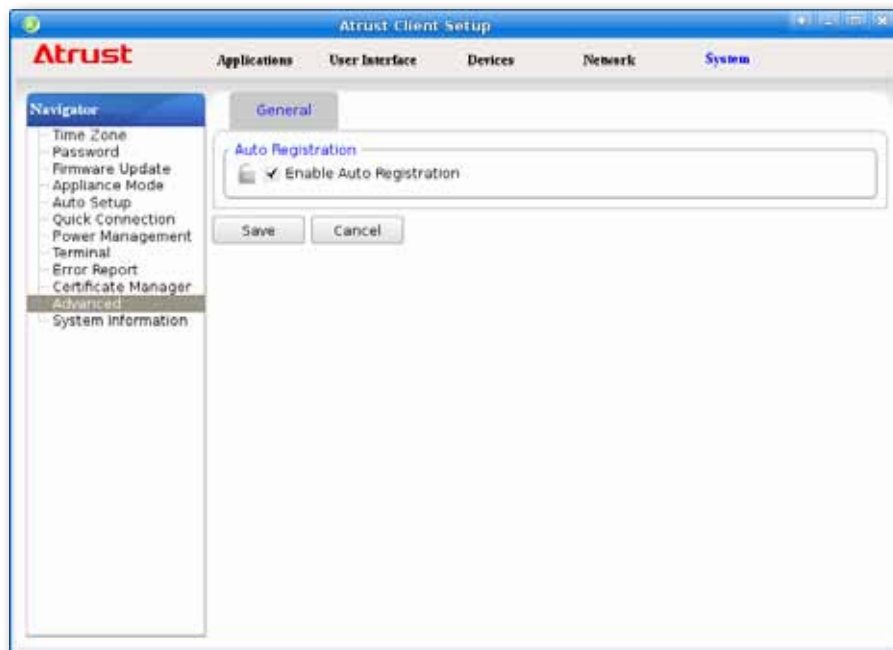


注意

- この機能を機能させるには、シンクライアントとターゲットの両方で自動登録を有効にする必要があります。さらに、ネットワーク上のDHCPサーバーまたはDNSサーバーでいくつかの構成が必要です。詳細については、のユーザーズマニュアルを参照してください。
- デフォルトでは、自動登録はシンクライアント側で有効になっており、を無効にします。

シンクライアントで自動登録を有効または無効にするには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**システム> アドバンス**をクリックします。
2. 自動登録を有効または無効にするには、**[自動登録を有効にする]**をオンまたはオフにします。



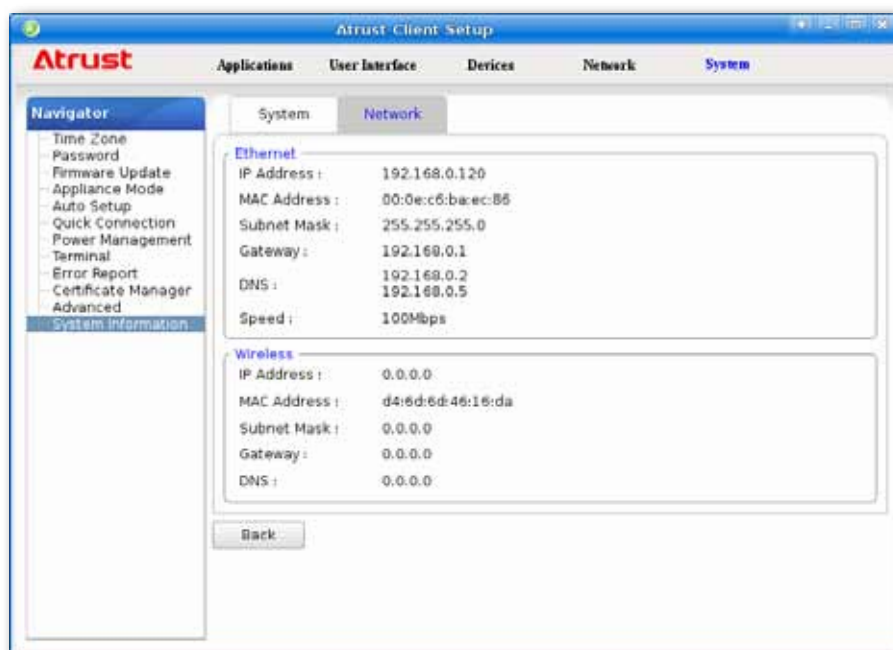
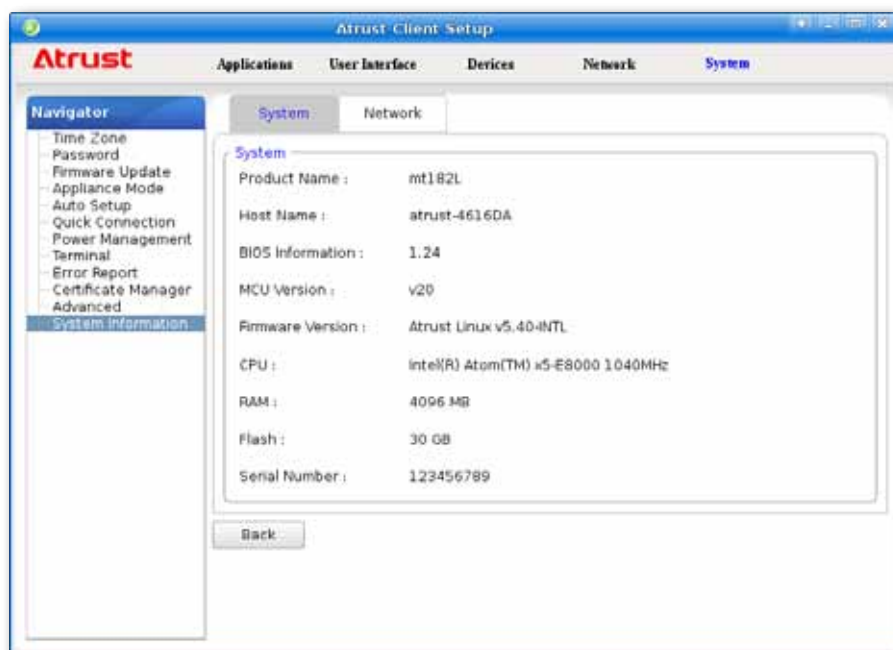
3. **[保存]**をクリックして適用します。

3.2.18 システムおよびネットワーク情報の表示

Atrust Client Setupを使用して、システムとネットワークの詳細情報を表示できます。

Atrust Client Setupを使用してシステムとネットワークの詳細情報を表示するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[システム]> [システム情報]をクリックします。
2. システム/ネットワークタブをクリックして、システム/ネットワーク情報を表示します。

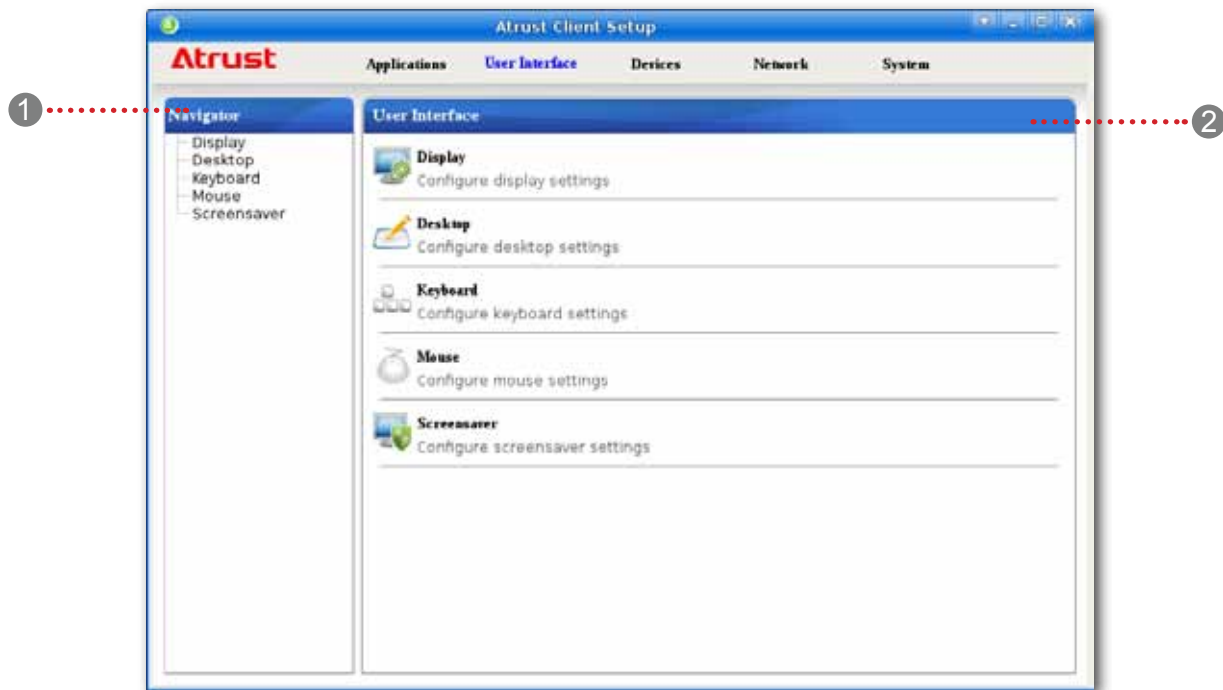


3.3 ユーザーインターフェイス設定の構成

3.3.1 [ユーザーインターフェイス]タブの概要

[ユーザーインターフェイス]タブでは、クライアントのユーザーインターフェイスの設定を構成できます。
[ユーザーインターフェイス]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

ユーザーインターフェイス タブ Overview



インターフェース要素		
No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[ユーザーインターフェイス]タブの設定項目をクリックして選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

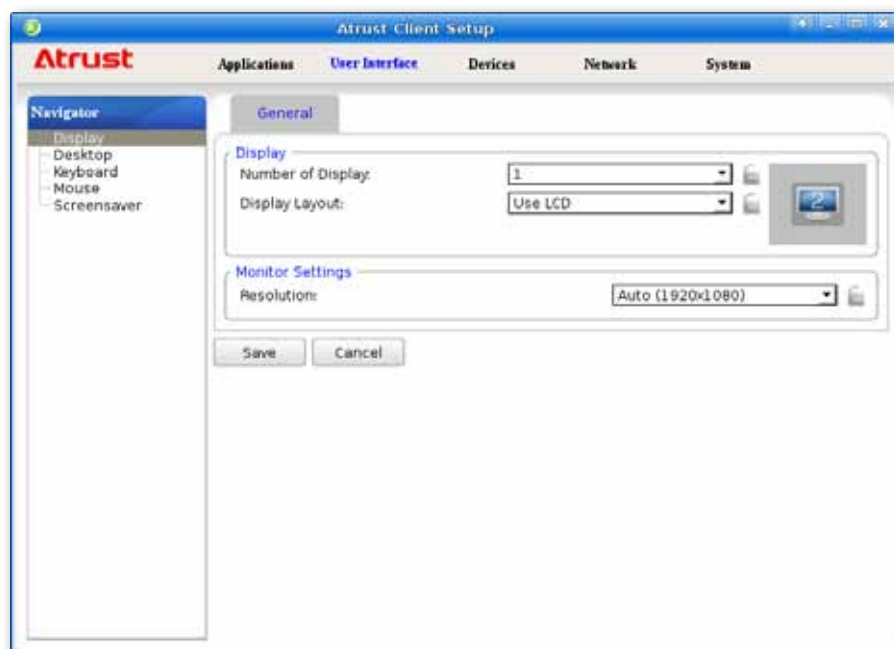
3.3.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
ユーザーインターフェイス	ディスプレイ		クリックして表示設定を構成します。	3.3.3	80
	デスクトップ		クリックして、デスクトップとシステムの言語をカスタマイズします。	3.3.4 3.3.5 3.3.6	83 86 87
	キーボード		クリックしてキーボード設定を調整します。	3.3.7	88
	マウス		クリックしてマウス設定を調整します。	3.3.8	90
	スクリーンセーバー		クリックしてスクリーンセーバーの設定を構成します。	3.3.9	91

3.3.3 表示設定の構成

mt182Lの表示設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [ディスプレイ]をクリックします。



2. ドロップダウンメニューをクリックして、接続されているディスプレイの数、ディスプレイの配置、解像度などを選択します。適切な設定値を選択するには、次の表を参照してください。



注意

- 使用可能な設定項目は、モデルおよび選択したディスプレイの数によって異なります。

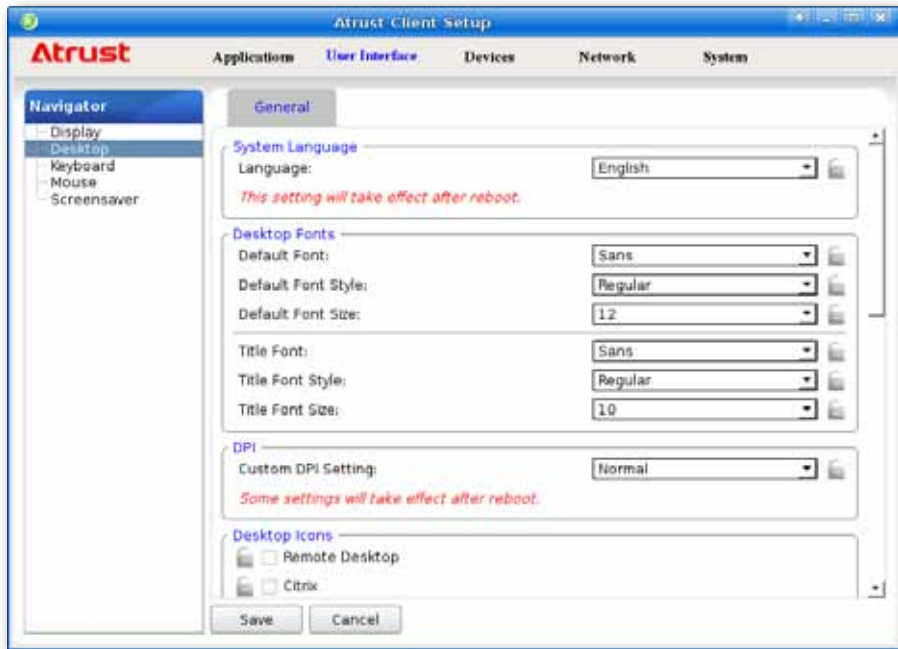
表示							
項目	説明文						
Number of Display	使用するディスプレイの数をクリックして選択します。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>1</td><td>1台のディスプレイが使用されます。</td></tr><tr><td>2</td><td>2つのディスプレイが使用されます。</td></tr></table>	オプション	説明文	1	1台のディスプレイが使用されます。	2	2つのディスプレイが使用されます。
	オプション	説明文					
	1	1台のディスプレイが使用されます。					
2	2つのディスプレイが使用されます。						
Display Layout	クリックしてディスプレイの配置を選択します。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>外部を使用</td><td>付属のシングル外付けディスプレイを使用してください。</td></tr><tr><td>LCDを使用する</td><td>単一の内部ディスプレイ（LCDパネル）を使用します。</td></tr></table>	オプション	説明文	外部を使用	付属のシングル外付けディスプレイを使用してください。	LCDを使用する	単一の内部ディスプレイ（LCDパネル）を使用します。
	オプション	説明文					
	外部を使用	付属のシングル外付けディスプレイを使用してください。					
	LCDを使用する	単一の内部ディスプレイ（LCDパネル）を使用します。					
	外部-LCD水平	デュアルディスプレイを使用します。 2つのディスプレイが水平に配置されています。外部ディスプレイは左側にあります。 右のLCD。 拡張 が選択されている場合、外部デスクトップはローカルデスクトップのメインディスプレイです。					
	LCD-外部水平	デュアルディスプレイを使用します。 2つのディスプレイが水平に配置されています。LCDディスプレイは左側にあります。 外部の権利。 拡張 が選択されている場合、LCD 1はローカルデスクトップのメインディスプレイです。					
	外部-LCD垂直	デュアルディスプレイを使用します。 2つのディスプレイが垂直に配置されています。外部ディスプレイは上部にあります。 LCDは下にあります。 拡張 が選択されている場合、外部デスクトップはローカルデスクトップのメインディスプレイです。					
LCD-外部垂直	デュアルディスプレイを使用します。 2つのディスプレイが垂直に配置されています。LCDの1つは上部にあります。 外部底。 拡張 が選択されている場合、LCD 1はローカルデスクトップのメインディスプレイです。						
Display Mode	この項目は、[ディスプレイの数]ドロップダウンメニューで [2] が選択されている場合にのみ使用できます。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>Extend</td><td>一方のディスプレイは、もう一方の拡張ディスプレイとして使用されます。</td></tr><tr><td>Clone</td><td>2つのディスプレイの表示内容は同じです。</td></tr></table>	オプション	説明文	Extend	一方のディスプレイは、もう一方の拡張ディスプレイとして使用されます。	Clone	2つのディスプレイの表示内容は同じです。
	オプション	説明文					
	Extend	一方のディスプレイは、もう一方の拡張ディスプレイとして使用されます。					
Clone	2つのディスプレイの表示内容は同じです。						

モニター設定							
項目	説明文						
電源投入時の自動検出を有効にする	クライアントの電源がオンになっているときに、使用されているモニターの自動検出を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>有効</td><td>使用されているモニターの自動検出が有効になっています。 システムは、クライアントの電源がオンのときに、使用されているモニターに適切な解像度を設定します。</td></tr><tr><td>無効</td><td>使用されているモニターの自動検出は無効になっています。 電源投入時の自動検出が無効になっている場合、クライアントでサポートされているすべての解像度が[解像度]ドロップダウンメニューに表示されます。一部の解像度はご使用のモニターに適用できない場合がありますことに注意してください。</td></tr></table>	オプション	説明文	有効	使用されているモニターの自動検出が有効になっています。 システムは、クライアントの電源がオンのときに、使用されているモニターに適切な解像度を設定します。	無効	使用されているモニターの自動検出は無効になっています。 電源投入時の自動検出が無効になっている場合 、クライアントでサポートされているすべての解像度が[解像度]ドロップダウンメニューに表示されます。一部の解像度はご使用のモニターに適用できない場合がありますことに注意してください。
	オプション	説明文					
有効	使用されているモニターの自動検出が有効になっています。 システムは、クライアントの電源がオンのときに、使用されているモニターに適切な解像度を設定します。						
無効	使用されているモニターの自動検出は無効になっています。 電源投入時の自動検出が無効になっている場合 、クライアントでサポートされているすべての解像度が[解像度]ドロップダウンメニューに表示されます。一部の解像度はご使用のモニターに適用できない場合がありますことに注意してください。						
モニター解像度	このアイテムを使用して、使用するディスプレイに適切な解像度を設定します。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>オート</td><td>このオプションは、[電源投入時に自動検出を有効にする]が選択されている場合にのみ使用できます。</td></tr><tr><td>別のオプション</td><td>使用するディスプレイの[解像度]ドロップダウンメニューから目的の解像度を選択します。</td></tr></table>	オプション	説明文	オート	このオプションは、 [電源投入時に自動検出を有効にする] が選択されている場合にのみ使用できます。	別のオプション	使用するディスプレイの[解像度]ドロップダウンメニューから目的の解像度を選択します。
	オプション	説明文					
オート	このオプションは、 [電源投入時に自動検出を有効にする] が選択されている場合にのみ使用できます。						
別のオプション	使用するディスプレイの[解像度]ドロップダウンメニューから目的の解像度を選択します。						
	注意: 電源投入時の自動検出が無効になっている場合、クライアントでサポートされているすべての解像度が[解像度]ドロップダウンメニューに表示されます。一部の解像度はご使用のモニターに適用できない場合がありますことに注意してください。						

3.3.4 デスクトップとシステムの言語設定のカスタマイズ

mt182Lのデスクトップおよびシステム言語設定をカスタマイズするには、次の手順を実行してください。

- Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]をクリックします。



- ドロップダウンメニューまたはチェックボックスをクリックして、必要な設定を選択します。 各設定項目の説明については、次の表を参照してください。

システム言語	
項目	説明文
言語	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、システム言語を選択します。</p> <p>注意: 使用可能な言語は、デバイスのファームウェアバージョンによって異なる場合があります。</p> <p>注意: 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。</p>
デスクトップフォント	
項目	説明文
デフォルトのフォント	ドロップダウンメニューをクリックして、メニュー、メニューのオプション、デスクトップショートカットのテキストラベル、プログラムウィンドウのタブなど、オペレーティングシステムのユーザーインターフェイスに使用する目的のフォント、スタイル、サイズを選択します。
デフォルトのフォントスタイル	
デフォルトのフォントサイズ	<p>注意: 変更は、開いているウィンドウのタイトル、Atrust Client Setupコンソール、およびシステム情報ウィンドウ（[スタート]> [システム設定]> [システム情報]）には適用されません。</p>
タイトルフォント	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のフォント、そのスタイル、および開いているウィンドウのタイトルに使用されるサイズを選択します。
タイトルのフォントスタイル	
タイトルのフォントサイズ	

DPI	
項目	説明文
Custom DPI 設定	ドロップダウンメニューをクリックして、1インチあたりのドット数を変更します。ユーザーインターフェイスの一部の変更を有効にするには、再起動が必要になる場合があります。
デスクトップアイコン	
項目	説明文
リモートデスクトップ	<p>[スタート]メニューのショートカットリモートデスクトップ  とサービスのクイックアクセス用のローカルLinuxデスクトップの表示/非表示をオン/オフにします。</p> <p>詳細については、“3.3.5 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.86)”を参照してください。</p>
Citrix	<p>[スタート]メニューでショートカットCitrix  を表示/非表示にするか、サービスのクイックアクセス用のローカルLinuxデスクトップをオン/オフにします。</p> <p>詳細については、“3.3.5 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.86)”を参照してください。</p>
VMware View	<p>[スタート]メニューでデスクトップショートカットのVMware View  を表示/非表示にするには、オン/オフをチェックしてください。</p> <p>詳細については、“3.3.5 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.86)”を参照してください。</p>
Parallels 2X Client	<p>[スタート]メニューでデスクトップショートカットのParallels 2X Client  を表示/非表示にするには、オン/オフにしてください。サービスにすばやくアクセスするには、ローカルのLinuxデスクトップをオンにします。</p> <p>詳細については、“3.3.5 クイックアクセスショートカットの非表示または表示 (P.86)”を参照してください。</p>
AnyDesk	<p>[スタート]メニューとローカルのLinuxデスクトップでデスクトップショートカットAnyDesk  を表示/非表示にするには、オン/オフにします。</p>
Teamviewer QuickSupport	<p>[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカットTeamviewer QuickSupport  を表示/非表示にするには、チェック/チェックを外します。</p>
Tokenadmin	<p>[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカットTokenadmin  を表示/非表示にするには、オン/オフにします。</p>
XDMCP	<p>[スタート]メニューおよびローカルLinuxデスクトップでデスクトップショートカットXDMCP  を表示/非表示にするには、チェック/チェックを外します。</p>
Firefox ウェブブラウザ	<p>[スタート]メニューでデスクトップショートカットのFirefox ウェブブラウザ  を表示/非表示にするには、チェック/チェックを外して、すばやくアクセスできるようにローカルLinuxデスクトップを表示します。</p> <p>“トピック 5: 組み込みアプリケーションの使用 (P.36)”も参照してください。</p>
LibreOffice	<p>[スタート]メニューでデスクトップショートカットLibreOffice  を表示/非表示にするには、チェックボックスをオン/オフにし、すばやくアクセスできるようにローカルLinuxデスクトップを表示します。</p> <p>“トピック 5: 組み込みアプリケーションの使用 (P.36)”も参照してください。</p>

PDFビューアー（ドキュメントビューアー）	<p>[スタート]メニューのデスクトップショートカット Document Viewer  とローカル Linux デスクトップを表示/非表示にするには、チェック/チェックを外してすばやくアクセスします。</p> <p>“トピック 5: 組み込みアプリケーションの使用 (P.36)”も参照してください。</p>												
アイコンサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、デスクトップアイコン/ショートカットの希望のサイズを選択します。												
アイコンのフォントサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、デスクトップアイコン/ショートカットの必要なテキストラベルサイズを選択します。												
デスクトップの背景													
項目	説明文												
デスクトップの壁紙を有効にする	<p>Atrust 壁紙の使用を有効/無効にするためにチェック/チェックを外します。</p> <p>注意: 無効にすると、無地の背景（濃い青）が使用されます。</p>												
カスタム壁紙を有効にする	<p>カスタム壁紙の使用を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。チェックすると、さらに多くの設定が表示されます。</p> <p>詳しくは“3.3.6 カスタム壁紙の使用 (P.87)”を参照してください。</p>												
からダウンロード													
カスタム壁紙ファイル													
壁紙スタイル	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、壁紙の適用方法を選択します。5つのオプションが利用可能です。 Centered, Tiled, Stretched, Scaled, および Zoomed.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Centered</td><td>元の画像を画面の中央に配置します。</td></tr> <tr> <td>Tiled</td><td>画面に元の画像を並べて表示します。</td></tr> <tr> <td>Stretched</td><td>画面に合わせて画像を中央に配置し、拡大/縮小します。</td></tr> <tr> <td>Scaled</td><td>上下または左右が画面に合うまで、画面に合わせて画像を中央に配置してサイズを調整します。</td></tr> <tr> <td>Zoomed</td><td>画像を中央に配置してサイズを調整し、画面全体に表示します。</td></tr> </tbody> </table> <p>注意: 接続されているディスプレイのサイズによっては、2つのオプションが同じ効果を持つ場合があります。</p>	オプション	説明文	Centered	元の画像を画面の中央に配置します。	Tiled	画面に元の画像を並べて表示します。	Stretched	画面に合わせて画像を中央に配置し、拡大/縮小します。	Scaled	上下または左右が画面に合うまで、画面に合わせて画像を中央に配置してサイズを調整します。	Zoomed	画像を中央に配置してサイズを調整し、画面全体に表示します。
オプション	説明文												
Centered	元の画像を画面の中央に配置します。												
Tiled	画面に元の画像を並べて表示します。												
Stretched	画面に合わせて画像を中央に配置し、拡大/縮小します。												
Scaled	上下または左右が画面に合うまで、画面に合わせて画像を中央に配置してサイズを調整します。												
Zoomed	画像を中央に配置してサイズを調整し、画面全体に表示します。												
壁紙	ドロップダウンメニューをクリックして、Atrust の壁紙の色を選択します。 グリーン、ブルー、オレンジ、シアン の4色をご用意。												
タスクバー													
項目	説明文												
タスクバーの自動非表示	自動的に非表示にするか、常にタスクバーを表示するには、チェックをオン/オフにします。												
タスクバーのサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のタスクバーサイズを選択します。												

3. **[保存]** をクリックして適用します。

3.3.5 クイックアクセスショートカットの非表示または表示

ローカルデスクトップですぐにサービスにアクセスしたい場合は、[スタート]メニューとローカルLinuxデスクトップにクイックアクセスショートカット**リモートデスクトップ / Citrix / VMware View**を表示するように選択できます。これらのショートカットを使用すると、クリックするだけでサービスにすばやくアクセスできます。

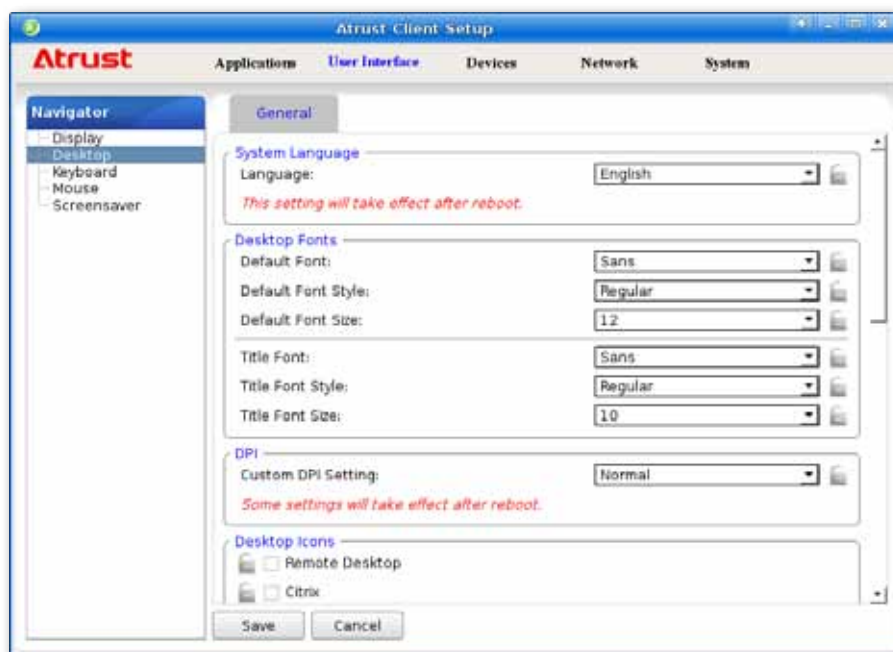


注意

- デフォルトでは非表示になっています。

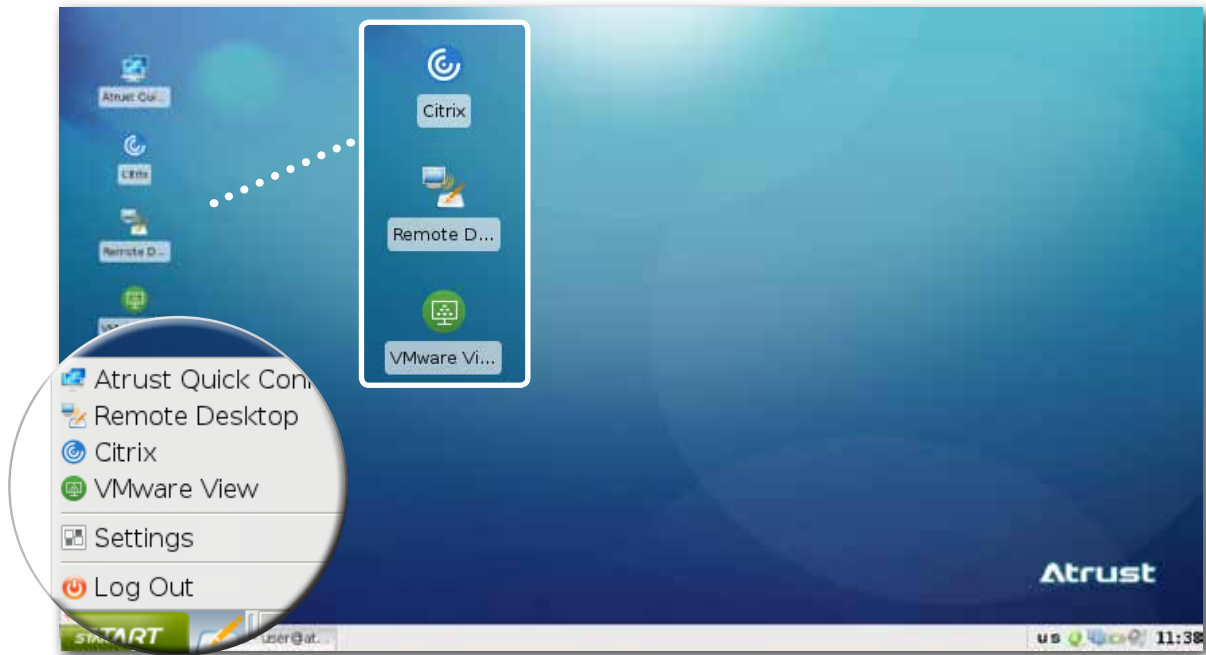
スタートメニューのショートカット**リモートデスクトップ / Citrix / VMware View**およびローカルLinuxデスクトップを表示/非表示にするには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]**をクリックします。



2. [デスクトップアイコン]セクションの**[リモートデスクトップ / Citrix / VMware View]**をクリックしてオン/オフにし、[スタート]メニューとローカルLinuxデスクトップのクイックアクセスショートカット**リモートデスクトップ / Citrix / VMware View**を表示/非表示にします。
3. **[保存]**をクリックして変更を適用します。

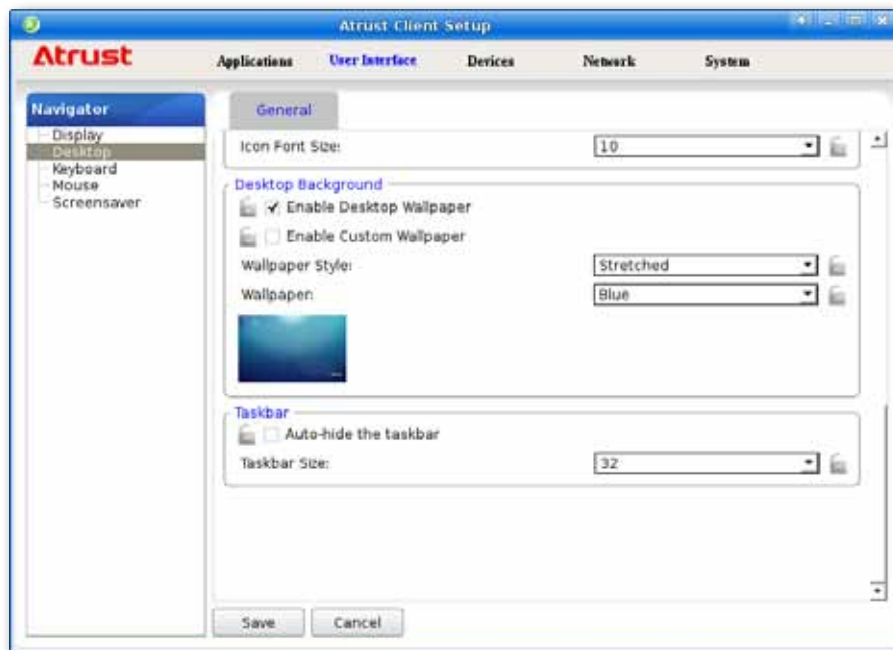
4. 選択したショートカットが表示/非表示になります。



3.3.6 カスタム壁紙の使用

カスタムの壁紙を使用するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [デスクトップ]をクリックします。



2. [カスタム壁紙を有効にする]をオンまたはオフにして、カスタム壁紙の使用を有効または無効にします。

3. 壁紙を適用する方法と、画像ファイルをダウンロードまたは取得する場所を選択します。壁紙を取得するには、**自動セットアップ**、**Atrustデバイスマネージャー**、**ファイル**の3つのオプションを使用できます。



注意

- **自動セットアップ**が選択されている場合、シンクライアントは自動セットアップ環境にあり、その環境用に適切に構成されている必要があります。詳しくは“3.2.9 自動セットアップの有効化または無効化 (P.62)”をご覧ください。
- が選択されている場合、シンクライアントはによって管理されている必要があります。詳細については、のユーザーマニュアルを参照してください。

4. 必要に応じて、その他の情報を提供します。



注意

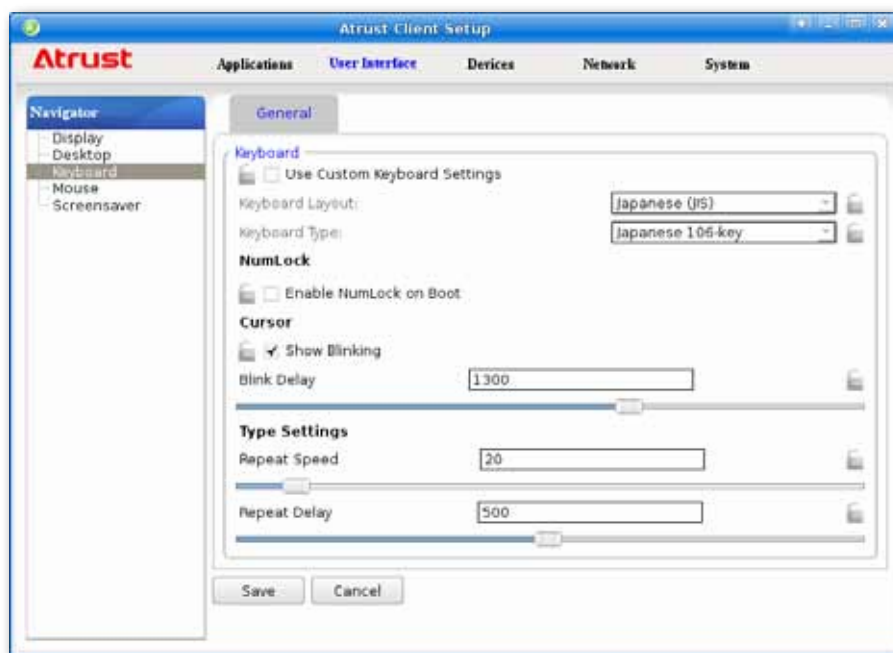
- **[ファイル]**を選択した場合は、ローカルに接続されたUSBフラッシュドライブなど、イメージファイルをローカルに取得する場所を指定する必要があります。
- カスタム壁紙ファイルの最大許容サイズは**5 MB**です。

5. **[保存]**をクリックして確定します。

3.3.7 キーボード設定の調整

mt182Lのキーボード設定を調整するには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、**[ユーザーインターフェイス]> [キーボード]**をクリックします。



2. ドロップダウンメニューをクリックするか、チェックボックスをオンまたはオフにするか、スライダーを動かして、目的の設定を選択します。各設定項目の説明については、次の表を参照してください。

キーボード		
項目		説明文
カスタムキーボード設定を使用する		カスタムキーボード設定の使用を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。 注意: この設定が有効になっている場合にのみ、キーボードのレイアウトとタイプを設定できます。
キーボード・レイアウト		ドロップダウンメニューをクリックして、目的のキーボードレイアウトを選択します。
キーボードタイプ		ドロップダウンメニューをクリックして、目的のキーボードタイプを選択します。
起動時にNumLockを有効にする		システムの起動後にNumLockキーを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。
カーソル	点滅を表示	カーソルの点滅を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します（ローカルデスクトップのみ）。
	点滅遅延	スライダーを動かして、カーソルが出現するまでの点滅間隔を選択します。
タイプ設定	繰り返し速度	スライダーを動かして、キーを押したときの文字リピート率を選択します。
	遅延を繰り返す	スライダーを動かして、各出現間の文字繰り返し遅延を選択します。



ヒント

- 上/下矢印の上にマウスを置いて、キーボードレイアウトリストをすばやく上下にスクロールします。



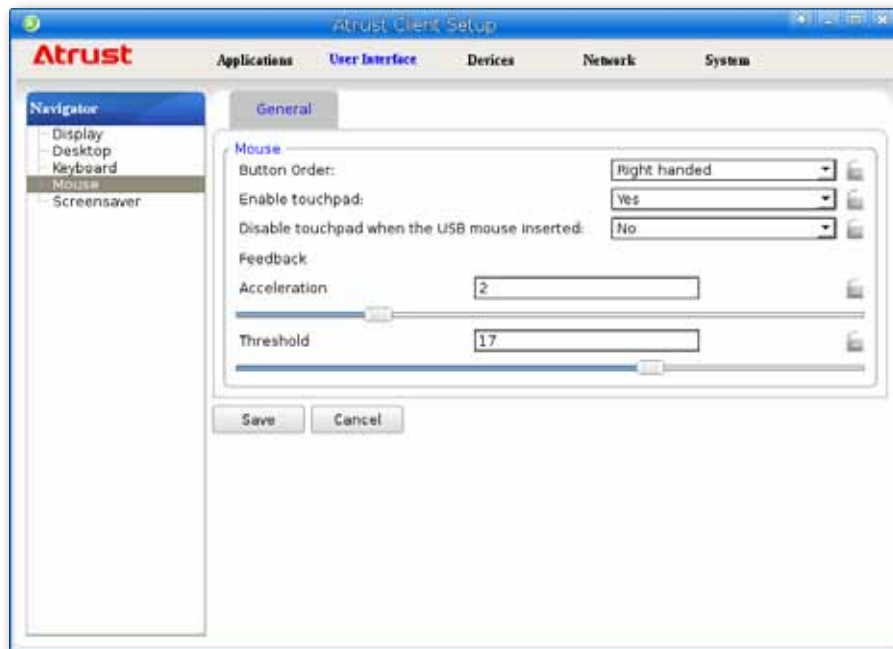
- 設定値を微調整するには、そのスライダーをクリックし、右/左キーを使用して値を1ずつ増減するか、ページ Up / ページ Downキーを使用して10ずつ増減します。

3. [保存]をクリックして適用します。

3.3.8 マウス設定の調整

mt182Lのマウス設定を調整するには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [マウス]をクリックします。



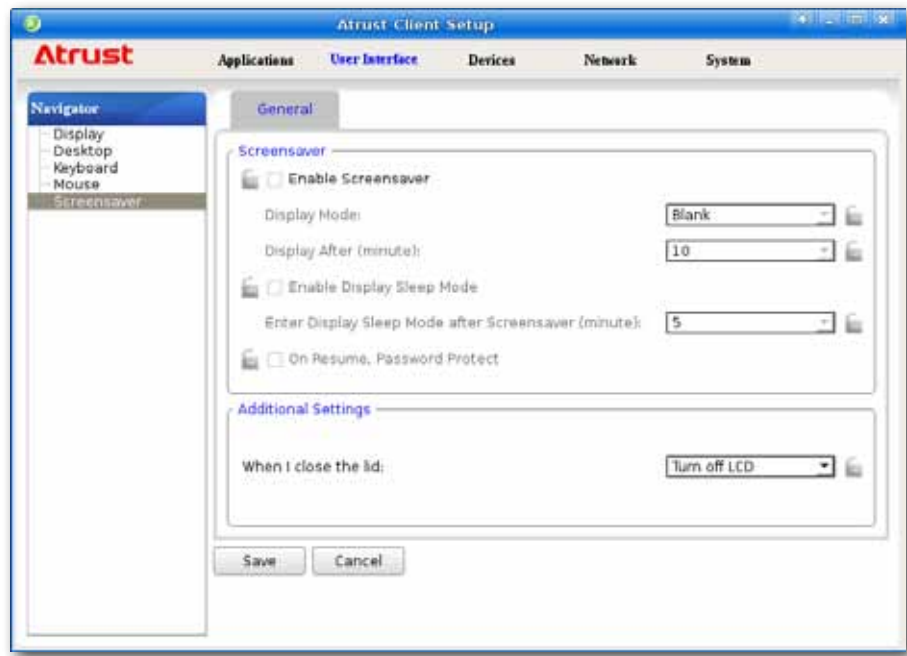
2. ドロップダウンメニューをクリックするか、スライダーを動かして、目的の設定値を選択します。各設定項目の説明については、次の表を参照してください。

マウス		
項目		説明文
ボタン注文		ドロップダウンメニューをクリックして、右利き用と左利き用のマウスボタンを切り替えます。
タッチパッドを有効にする		ドロップダウンメニューをクリックして、タッチパッドを有効または無効にします。
USBマウスを挿入したときにタッチパッドを無効にする		ドロップダウンメニューをクリックして、USBマウスが接続されているときにタッチパッドを無効にするかどうかを選択します。
フィードバック	加速度	スライダーを動かして、マウスの移動速度を選択します。
	敷居	スライダーを動かして、マウスが加速し始めるまでの移動距離（ピクセル）を選択します。

3.3.9 スクリーンセーバー設定の構成

mt182Lのスクリーンセーバー設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、[ユーザーインターフェイス]> [スクリーンセーバー]をクリックします。



2. ドロップダウンメニューまたはチェックボックスをクリックして、必要な設定を選択します。

スクリーンセーバー	
項目	説明文
スクリーンセーバーを有効にする	スクリーンセーバーを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。
ディスプレイモード	スクリーンセーバーの表示モードをクリックして選択します。 Blank, Logo, Image の3つのオプションを使用できます。
	<div>オプション</div> <div>説明文</div>
	<div>ブランク</div> <div>黒い画面を表示します。</div>
	<div>ロゴ</div> <div>Atrustフローティングロゴを表示します。</div>
	<div>画像</div> <div>指定した画像を表示します。</div>
表示後（分）	スクリーンセーバーの待機時間をクリックして選択します。

ソースを指定してください	クリックして画像を取得し、スクリーンセーバーに使用する場所を選択します。 3つのオプション、 デフォルト 、 自動セットアップ 、 Atrustデバイスマネージャー を使用できます。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>デフォルト</td><td>シンククライアントのデフォルトイメージを使用します。</td></tr><tr><td>自動セットアップ</td><td>自動設定から画像を取得して使用します。</td></tr><tr><td>Atrustデバイスマネージャー</td><td>Atrustデバイスマネージャーからイメージを取得して使用します。</td></tr></table>	オプション	説明文	デフォルト	シンククライアントのデフォルトイメージを使用します。	自動セットアップ	自動設定から画像を取得して使用します。	Atrustデバイスマネージャー	Atrustデバイスマネージャーからイメージを取得して使用します。
	オプション	説明文							
	デフォルト	シンククライアントのデフォルトイメージを使用します。							
	自動セットアップ	自動設定から画像を取得して使用します。							
	Atrustデバイスマネージャー	Atrustデバイスマネージャーからイメージを取得して使用します。							
注意: 自動セットアップの詳細については、ユーザーズガイドを参照してください。									
注意: Atrustデバイスマネージャーの詳細については、そのユーザーマニュアルを参照してください。									
毎回画像を変更	クリックして、表示される画像を変更する間隔を設定します。								
ディスプレイスリープモードを有効にする	オンにすると、ディスプレイがオフになり（信号の送信が停止され）、エネルギーを最大限に節約できます。								
スクリーンセーバーの後にディスプレイスリープモードに入ります（分）	スクリーンセーバーの起動後にディスプレイをオフにする（信号の送信を停止する）タイミングを選択するときにクリックします。								
再開時にパスワード保護	オン/オフすると、パスワードあり/なしで再開できます。								
追加の設定									
項目	説明文								
画面を閉じた時の動作	ふたを閉じたときの動作をクリックして選択します。								



ヒント

- スクリーンセーバーの待機時間を設定している間、上矢印/下矢印の上にマウスを置くと、分リストをすばやく上下にスクロールできます。

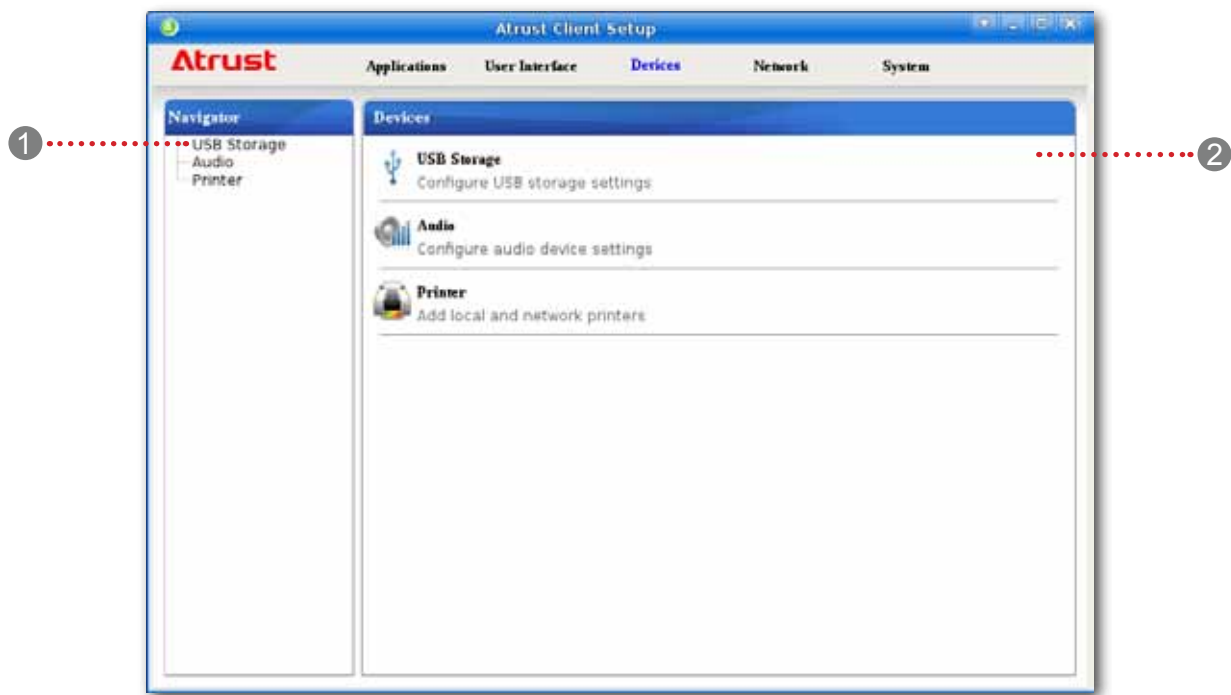
3. **[保存]**をクリックして適用します。

3.4 外部デバイス設定の構成

3.4.1 [デバイス]タブの概要




[デバイス]タブでは、クライアントの外部デバイスの設定を構成できます。[デバイス]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[デバイス]タブの概要



インターフェース要素		
No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[デバイス]タブの設定項目をクリックして選択するか、選択した設定項目の設定エントリを選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

3.4.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
デバイス	USBストレージ		USBストレージデバイスの設定を構成するときにクリックします。	3.4.3 3.4.4	94 95
	オーディオ		クリックして、オーディオデバイスの設定を構成します。	3.4.5 3.4.6 3.4.7	96 97 98
	プリンター		クリックして、ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加します。	3.4.8 3.4.9	99 102

3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成

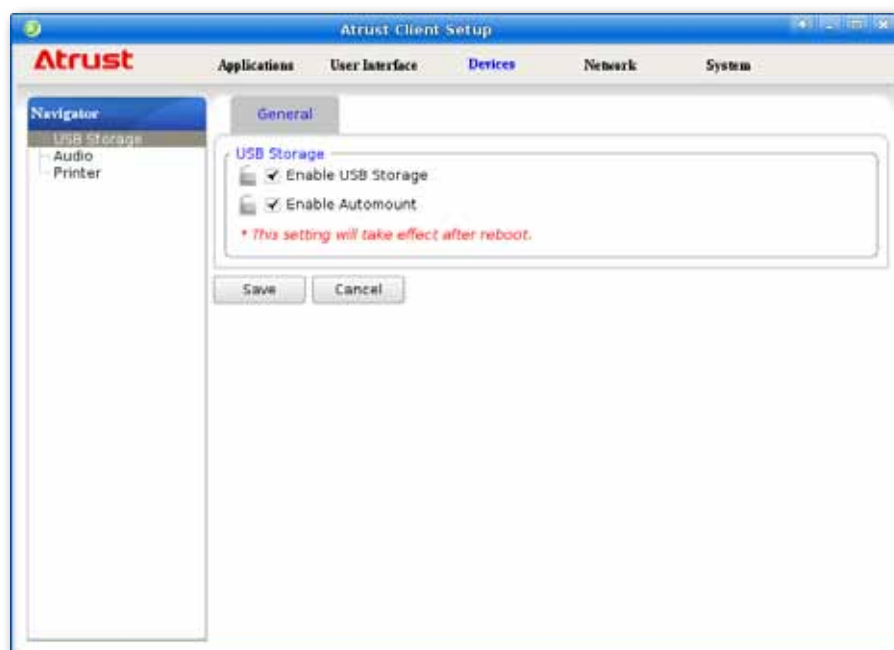
USBストレージデバイスの設定を構成するには、次の操作を行います。



注意

- ローカルまたは仮想セッションでローカルに接続されたUSBストレージデバイスにアクセスするには、この設定項目で適切な設定を構成する必要があります。

1. Atrust Client Setupで、[デバイス]> [USBストレージ]をクリックします。



2. チェックボックスをオンまたはオフにして、必要な設定を選択します。

USBストレージデバイスの設定	
項目	説明文
USBストレージを有効にする	<p>USBストレージデバイスへのアクセスを許可/禁止するには、このチェックボックスをオン/オフにします。</p> <p>注意: RDP / ICA / View / 2Xセッションでローカルに接続されたUSBストレージデバイスを使用するには、このセッションのRDP / ICA / View / 2X接続設定でローカルUSBストレージデバイスのマッピングを有効にする必要があります。詳細な手順と関連する設定については、セクションを参照してください。</p> <p>“3.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.144)” “3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)” “3.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.216)” “3.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成 (P.235)”</p>
自動マウントを有効にする	<p>USBストレージデバイスの自動マウントを有効/無効にするには、このチェックボックスをオン/オフにします。</p> <p>注意: この設定が無効になっている場合、ユーザーは接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントする必要があります。詳細な手順については、“3.4.4 接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする (P.95)”セクションを参照してください。</p>

3. **[保存]**をクリックして変更を保存します。



注意

- 変更を有効にするには、システムを再起動する必要があります。

3.4.4 接続されたUSBストレージデバイスを手動でマウントおよびイジェクトする

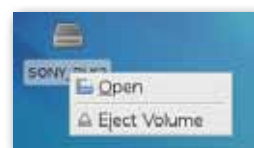
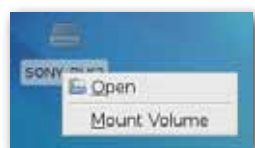
接続されたUSBストレージデバイスをマウント/イジェクトするには、次の手順を実行してください。



注意

- [自動マウントを有効にする]**がオンになっている場合 (“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”を参照)、接続されているUSBストレージデバイスが自動的にマウントされます。

- 接続されているUSBストレージデバイスのデスクトップアイコンを右クリックします。
- ポップアップメニューが表示されます。



- ボリュームのマウント/イジェクトボリューム**をクリックして選択し、接続されたUSBストレージデバイスをマウント/イジェクトします。

3.4.5 接続されたオーディオデバイスの無効化または有効化

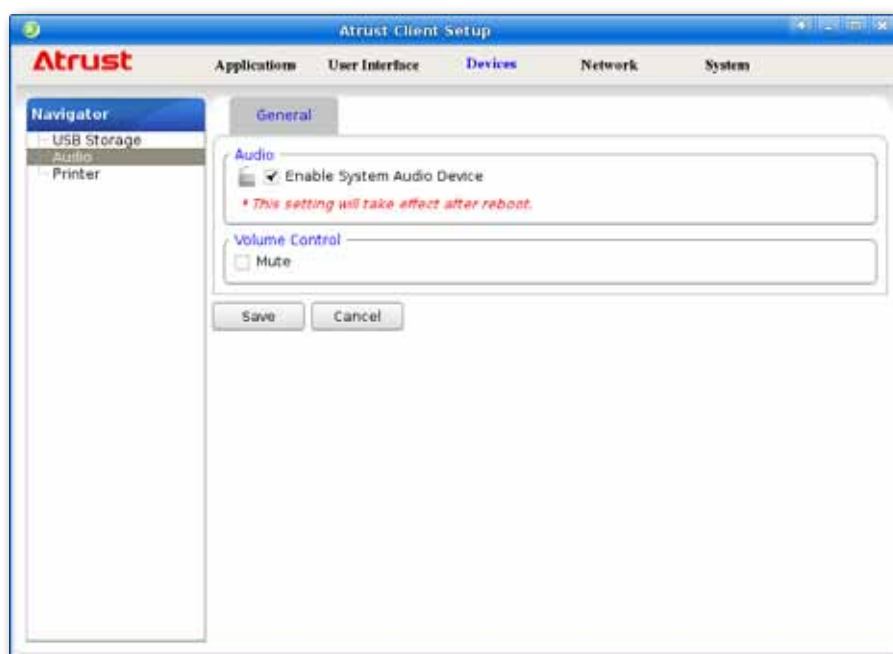
接続されているオーディオデバイスを無効/有効にするには、次の操作を行います。



注意

- ローカルに接続されたオーディオデバイスを無効にすると、クライアントユーザーは、RDP / ICA / ビューセッションでこれらのデバイスを使用したオーディオの再生または録音を実行できなくなります。
- RDP / ICA / Viewセッションでローカルオーディオデバイスを使用してオーディオの再生または録音を実行するには、ここでローカルに接続されたオーディオデバイス（**[デバイス]**タブの**[オーディオ]**設定項目）を有効にし、RDP / ICA / ビュー接続でオーディオ関連の設定を構成する必要があります。設定。詳細な手順については、セクションを参照してください。
 - “3.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.144)”
 - “3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”
 - “3.6.14 詳細ビュー接続設定の構成 (P.216)”

1. Atrust Client Setupで、**[デバイス]> [オーディオ]**をクリックします。



2. **[システムオーディオデバイスを有効にする]**をクリックしてオン/オフにします。
3. **[保存]**をクリックして選択を確認します。





注意

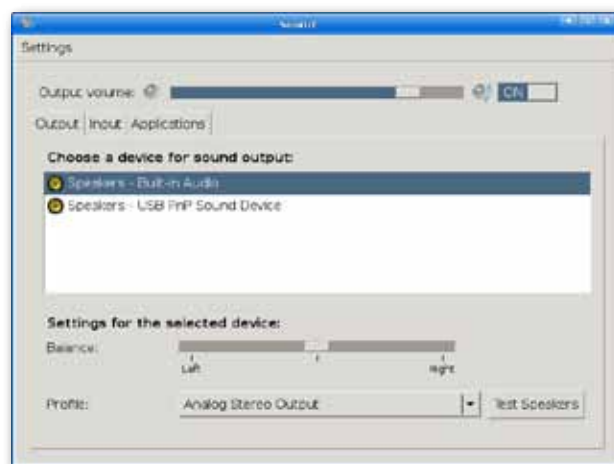
- この変更は、mt182Lが再起動されるまで有効になりません。

3.4.6 オーディオデバイスの使用

デフォルトでは、モバイルシンクライアントは、3.5 mmオーディオポートに接続された内蔵スピーカーやオーディオデバイスを使用します。他のインターフェースのオーディオデバイスを使用する場合は、デフォルトを変更する必要があります。

デフォルトのオーディオデバイスを構成するには、次の操作を行います。

1. 目的のオーディオデバイスをシンクライアントに接続します。
2. ミキサーウィンドウを開きます。
 - **クイック接続画面**で、右下隅の  アイコンをクリックします。.
 - **ローカルデスクトップ**で、右下隅の  アイコンを右クリックし、**[サウンド設定]**を選択します。

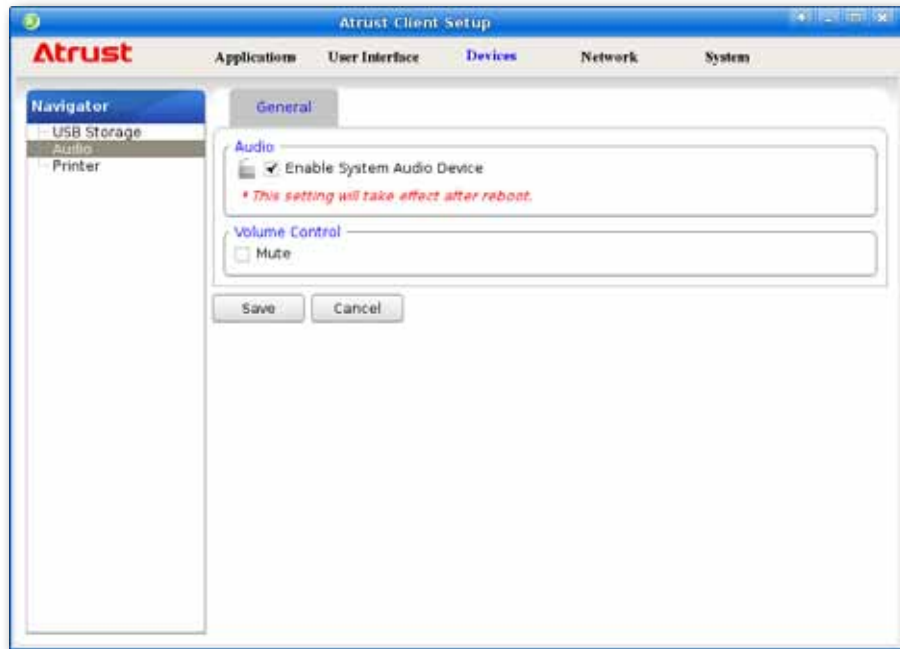


3. [出力/入力]タブをクリックし、サウンドの出力/入力のデフォルトデバイスを選択します。

3.4.7 サウンドをミュートまたはミュート解除する

Atrust Client Setupを使用してサウンドをミュート/ミュート解除するには、以下を実行してください：

1. Atrust Client Setupで、**[デバイス]> [オーディオ]**をクリックします。

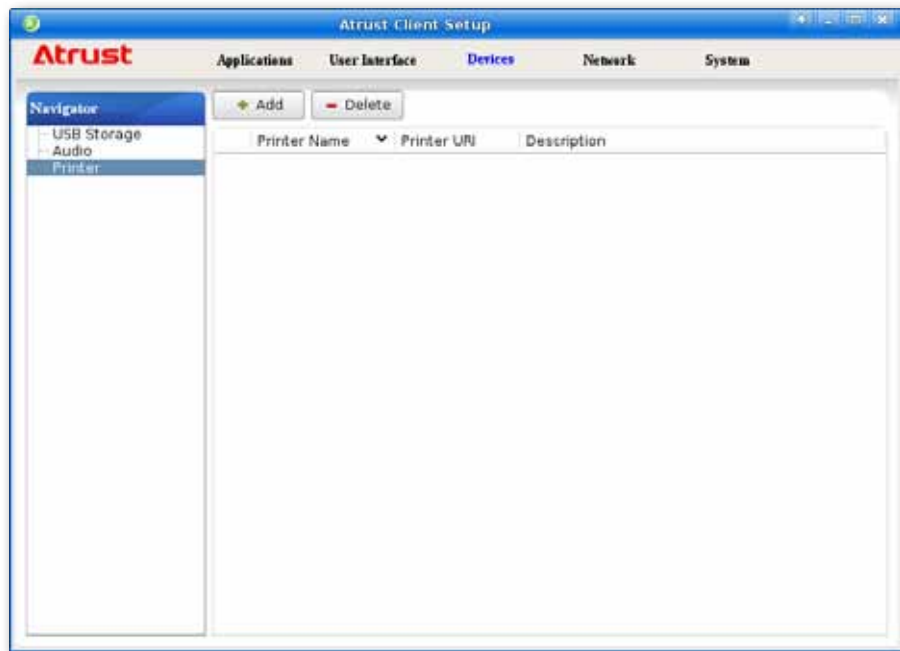


2. 音量コントロールセクションで、ミュートをオン/オフにして、サウンドをミュート/ミュート解除します。
3. **[保存]**をクリックして適用します。

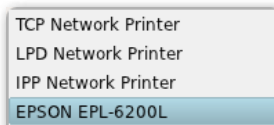
3.4.8 ローカルプリンターの追加

mt182Lのローカルプリンターを追加するには、次の操作を行います。

1. 目的のプリンターをmt182Lに接続し、プリンターの電源を入れます。
2. Atrust Client Setupで、**[デバイス]> [プリンター]**をクリックします。

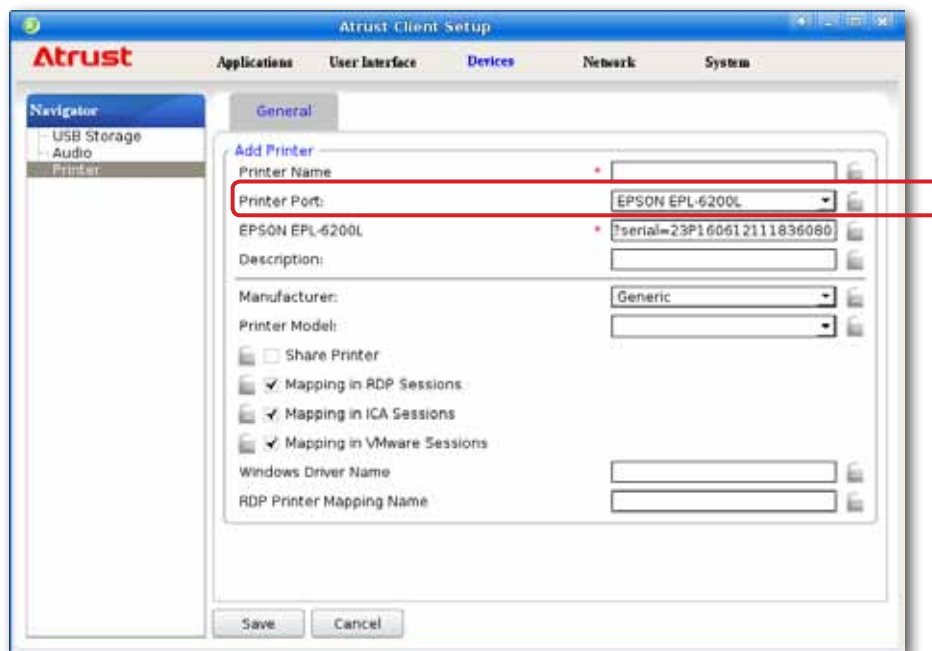


3. プリンターリストの上部にある**[追加]**をクリックします。
4. システムは、使用可能なローカルプリンターの検索を自動的に開始します。
5. 完了すると、検出されたローカルプリンターが**[プリンターポート]**ドロップダウンメニューに一覧表示されます。
6. **[プリンターポート]**ドロップダウンメニューをクリックして、目的のローカルプリンターを選択します。



7. **[プリンターの追加]**セクションのフィールドは、選択したプリンターの種類に合わせて自動的に変更されます。

8. 選択したプリンターのフィールドが表示され、プリンターURI（Uniform Resource Identifier）データがフィールドに自動的に入力されます。



注意

- URI（Uniform Resource Identifier）は、インターネット上のリソースを識別するために使用される文字のシーケンスです。

9. 製造元とプリンターモデルのドロップダウンメニューをクリックして、接続されているローカルプリンターの製造元とモデルを選択します。



注意

- プリンターが正常に動作するには、これら2つのフィールドに正しい情報を指定する必要があります。 そうしないと、プリンターが機能しなくなります。

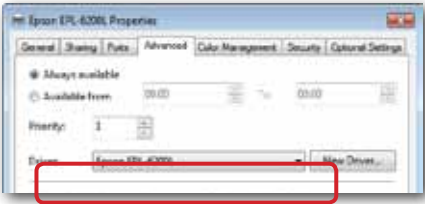
10. 次の表を参照して、必要な設定を構成してください。



注意

- プリンターのWindowsドライバー名を指定する必要がある場合があります。 詳細については、表の説明を参照してください。

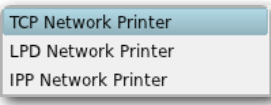
11. 目的のプリンター名を入力し、**[保存]**をクリックして適用します。

プリンターの設定	
項目	説明文
プリンタを共有	<p>プリンタを共有するには、チェックボックスをオン/オフにします。</p> <p>プリンタの共有がチェックされると、同じネットワークセグメント内の他のコンピュータがプリンタを使用できるようになります。</p> <p>この共有プリンターを他のコンピュータで使用できるように追加するには、次の操作を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows Server 2008 R2などのWindows Serverオペレーティングシステムを実行しているコンピュータの場合、最初にインターネット印刷クライアント機能を追加してください（[スタート]>[すべてのプログラム]>[管理ツール]>[サーバーマネージャ]>[アクション]>[機能の追加]>[インターネット印刷クライアント]をクリックし、ウィザードに従ってください。タスクを完了してから、システムを再起動します）。 2. [スタート]>[デバイスとプリンター]>[プリンターの追加]>[ネットワーク、ワイヤレスまたはBluetoothプリンターの追加]をクリックします。 3. [停止]をクリックしてプリンターの自動検索をキャンセルし、[探しているプリンターはこの一覧にはありません]をクリックします。 4. [名前で共有プリンターを選択する]で、http:// IPクライアントのIPアドレス：631 / printers / Printer Nameを入力します。 <p>注意: たとえば、プリンターがシンクライアントにローカルに接続され、Atrust Client Setup を介してプリンター名EPSでローカルプリンターとして追加され、シンクライアントのIPアドレスが192.168.50.146であるとしします。ここに入力する必要があります： http://192.168.50.146:631/printers/EPS</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. [次へ]をクリックして続行します。 6. プリンターの製造元とモデルを選択し、[OK]をクリックして正しいドライバーをインストールします。 7. 完了すると、成功メッセージが表示されます。[次へ]をクリックして続行します。 8. 表示されたページで、[テストページの印刷]をクリックしてプリンターをテストします。 9. [完了]をクリックして適用します。プリンターが[プリンタとFAX]リストに追加されます。
RDPセッションでのマッピング	RDPセッションでローカルに接続されているプリンターを有効/無効にするには、オン/オフにします。
ICAセッションでのマッピング	ICAセッションでローカルに接続されているプリンターを有効/無効にするには、オン/オフにします。
VMwareセッションでのマッピング	ビューセッションでローカルに接続されたプリンターを有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。
Windowsドライバー名	<p>プリンターがセッションで適切に機能する場合は、このフィールドを空白のままにします。プリンターが機能しない場合は、このフィールドに入力すると問題が解決することがあります。</p> <p>必要な情報を見つけるには、以下を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows OSを実行しているコンピュータにプリンターを接続し、必要なインストールを完了して、プリンターが正常に動作することを確認します。 2. [スタート]>[デバイスとプリンター]をクリックし、開いたウィンドウでプリンターを右クリックして、ポップアップメニューを開きます。 3. ポップアップメニューで、[プリンターのプロパティ]をクリックして選択します。 4. 開いたウィンドウで、[詳細]をクリックします。ドライバー名が表示されます。 
RDPプリンターマッピング名 (RDPセッションのみ)	セッションで目的のプリンター名を入力します（Windowsデスクトップ）。このフィールドが空白のままの場合、[プリンタ名]フィールドに入力した名前が使用されます。

3.4.9 ネットワークプリンターの追加

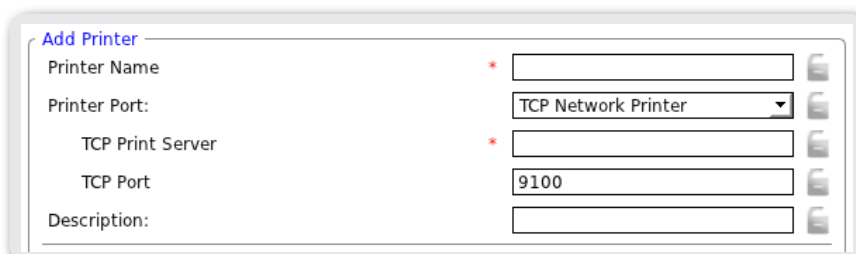
mt182Lのネットワークプリンターを追加するには、次の操作を行います。

1. mt182Lがネットワークに接続され、目的のネットワークプリンターの電源が入っていることを確認します。
2. Atrust Client Setupで、**[デバイス]> [プリンター]**をクリックします。
3. プリンターリストの上部にある**[追加]**をクリックします。
4. システムは、使用可能なローカルプリンターの検索を自動的に開始します。完了すると、検出されたローカルプリンターが**[プリンターポート]**ドロップダウンメニューに一覧表示されます。
5. **[プリンターポート]**ドロップダウンメニューをクリックして、目的のネットワークプリンターを選択します。**TCPネットワークプリンター**、**LPDネットワークプリンター**、**IPPネットワークプリンター**の3種類のネットワークプリンターを使用できます。



TCP Network Printer
LPD Network Printer
IPP Network Printer

6. **[プリンターの追加]**セクションのフィールドは、選択したプリンターの種類に合わせて自動的に変更されます。
7. TCPプリンターサーバー、LPDプリンターサーバー、またはIPP URIフィールドにネットワークプリンターのIPアドレスを入力します。



Add Printer

Printer Name *

Printer Port: TCP Network Printer

TCP Print Server *

TCP Port 9100

Description:



Add Printer

Printer Name *

Printer Port: LPD Network Printer

LPD Print Server *

LPD Queue Name

Description:



Add Printer

Printer Name *

Printer Port: IPP Network Printer

IPP URI *

Description:

8. 製造元とプリンターモデルのドロップダウンメニューをクリックして、目的のネットワークプリンターの製造元とモデルを選択します。
9. ページ101 の表を参照して他のプリンター設定を構成し、**[保存]**をクリックして適用します。

3.5 ネットワーク設定の構成

3.5.1 [ネットワーク]タブの概要

[ネットワーク]タブでは、クライアントのネットワーク設定を構成できます。[ネットワーク]タブの利用可能な設定にアクセスするには、*Atrust Client Setup*のタブをクリックします。

ネットワークタブの概要



インターフェース要素

No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	クリックして、[ネットワーク]タブの設定項目を選択するか、選択した設定項目の設定エントリを選択します。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

3.5.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
ネットワーク	イーサネット		クリックして有線ネットワーク設定を構成します。	3.5.3 3.5.4	105 108
	VPN		クリックしてVPN（仮想プライベートネットワーク）接続設定を構成し、VPN接続を作成します。	3.5.5 3.5.6	109 113
	ホスト		クリックして、ホストの名前またはエイリアスへのIPアドレスのマッピングを作成し、フェイルオーバークラスターリストを作成します。	3.5.7 3.5.8	114 116
	ホスト名		クリックして、Thin Clientのホスト名を変更します。	3.5.9	118
	ワイヤレス		クリックしてワイヤレスネットワーク設定を構成し、ワイヤレス接続を作成します。	3.5.10 3.5.11 3.5.12 3.5.13	119 120 121 124
	プロキシ		サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定を構成するときにクリックします。	3.5.14	125

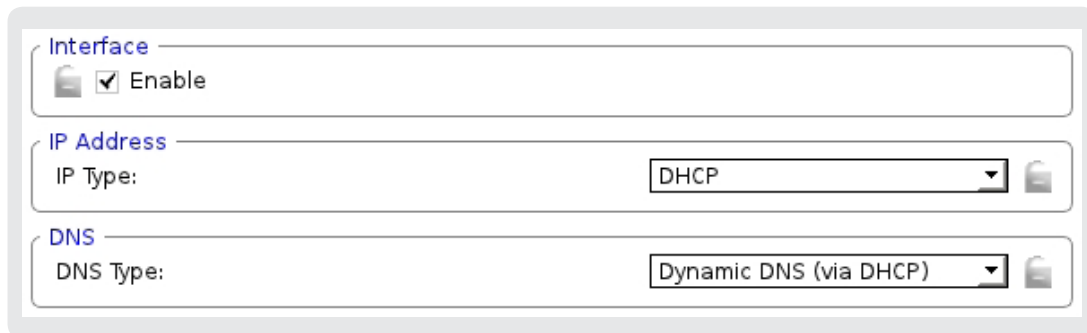
3.5.3 有線ネットワーク設定の構成

イーサネット設定を使用すると、mt182Lシンククライアントの有線ネットワーク設定を構成できます。

イーサネットネットワークインターフェイスの有効化または無効化

イーサネットネットワークインターフェイスを有効/無効にするには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [イーサネット]**をクリックします。
2. **[インターフェイス]**セクションで、**[有効にする]**をオンまたはオフにして、イーサネットネットワークインターフェイスを有効または無効にします。



The screenshot shows the 'Ethernet' configuration window. It has three main sections: 'Interface', 'IP Address', and 'DNS'. In the 'Interface' section, there is a checkbox labeled 'Enable' which is checked. In the 'IP Address' section, there is a label 'IP Type:' followed by a dropdown menu currently showing 'DHCP'. In the 'DNS' section, there is a label 'DNS Type:' followed by a dropdown menu currently showing 'Dynamic DNS (via DHCP)'. Each section has a small icon to its left.

3. **[保存]**をクリックして適用します。

動的IPアドレスの使用

動的IPアドレスを使用するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [イーサネット]**をクリックします。
2. **[IPアドレス]**セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、**[IPタイプ]**フィールドで**[DHCP]**を選択します。



注意

- DHCPが選択されている場合、ネットワーク上のDHCPサーバーは自動的にIPアドレスをmt182Lシンククライアントに割り当てます。これがデフォルトの設定です。

3. **[保存]**をクリックして適用します。

静的IPアドレスの使用

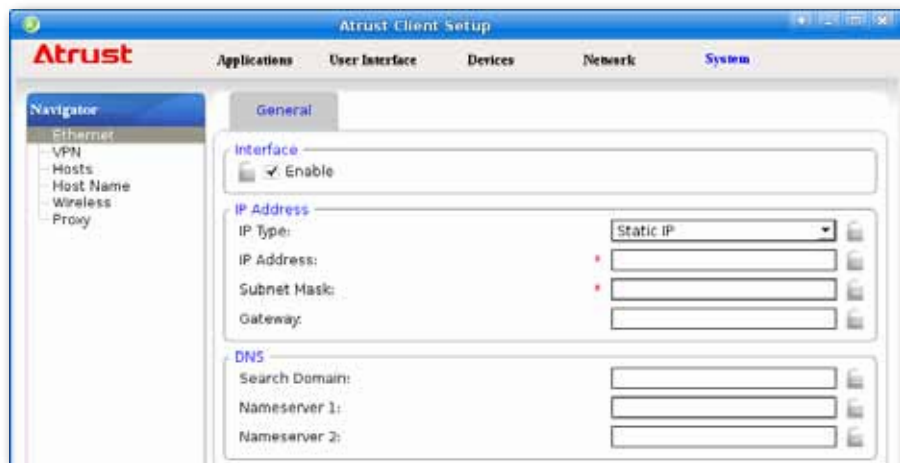
静的IPアドレスを使用するには、次の操作を行います。



注意

- 企業ネットワーク環境では、mt182Lシンククライアントに動的IPアドレスを使用することをお勧めします。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [イーサネット]**をクリックします。
2. **[IPアドレス]**セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、**[IPタイプ]**フィールドで**[静的IP]**を選択します。
3. IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイの各フィールドが**[IPアドレス]**セクションに表示されます。



4. mt182LシンクライアントのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力します。

IP address

IP type: Static IP

IP address: * 192.168.12.88

Subnet mask: * 255.255.255.0

Gateway: * 192.168.12.254



注意

- mt182Lが接続するネットワークに関する無料のIPアドレスやその他の必要なデータについては、ネットワーク管理者に問い合わせてください
- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。

5. **[保存]**をクリックして適用します。



注意

- 静的IPアドレスを使用する場合は、さらにDNSサーバーアドレスを手動で指定する必要があります。

DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する

DNSサーバーアドレスを自動的に取得するには、次の操作を行います。



注意

- DHCPサーバー経由でIPアドレスを取得しないことを選択した場合、DHCPサーバー経由でDNSサーバーアドレスを自動的に取得することはできません。

1. Atrust Client Setupで、[ネットワーク]> [イーサネット]をクリックします。
2. [DNS]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、[DNSタイプ]フィールドで**[動的DNS (DHCP経由)]**を選択します。
3. **[保存]**をクリックして適用します。

DNSサーバーのアドレスを手動で指定する

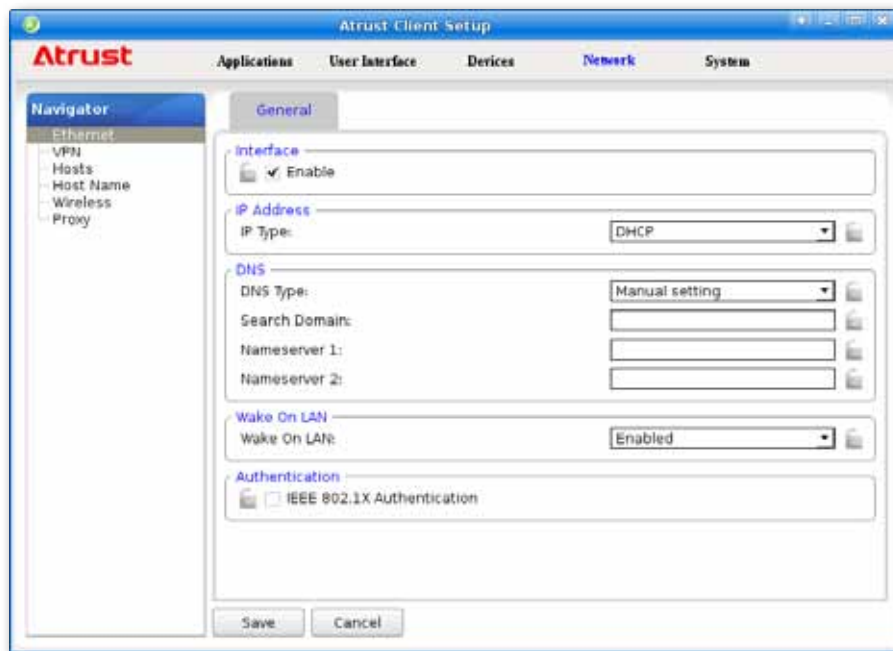
DNSサーバーアドレスを手動で指定するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、[ネットワーク]> [イーサネット]をクリックします。
2. [DNS]セクションで、プルダウンメニューをクリックして**[手動設定]**を選択します。
3. **[検索ドメイン]**、**[ネームサーバー1]**、および**[ネームサーバー2]**フィールドがDNSセクションに表示されます。



注意

- mt182Lシンククライアントに静的IPアドレスを使用する場合は、DNSサーバーアドレスを手動で指定する必要があります。この場合、[DNSの種類]フィールドは表示されないため、**[手動設定]**または**[動的DNS (DHCP経由)]**を選択することはできません。



4. Nameserver 1フィールドに優先DNSサーバーアドレスを入力し、存在する場合はNameserver 2フィールドに代替DNSサーバーアドレスを入力します。



注意

- [ドメインの検索]フィールドでドメイン名を指定すると、システムはそのドメイン内のコンピューターを、FQDN（完全修飾ドメイン名）ではなくコンピューター名だけで検出できるようになります。

5. **[保存]**をクリックして適用します。

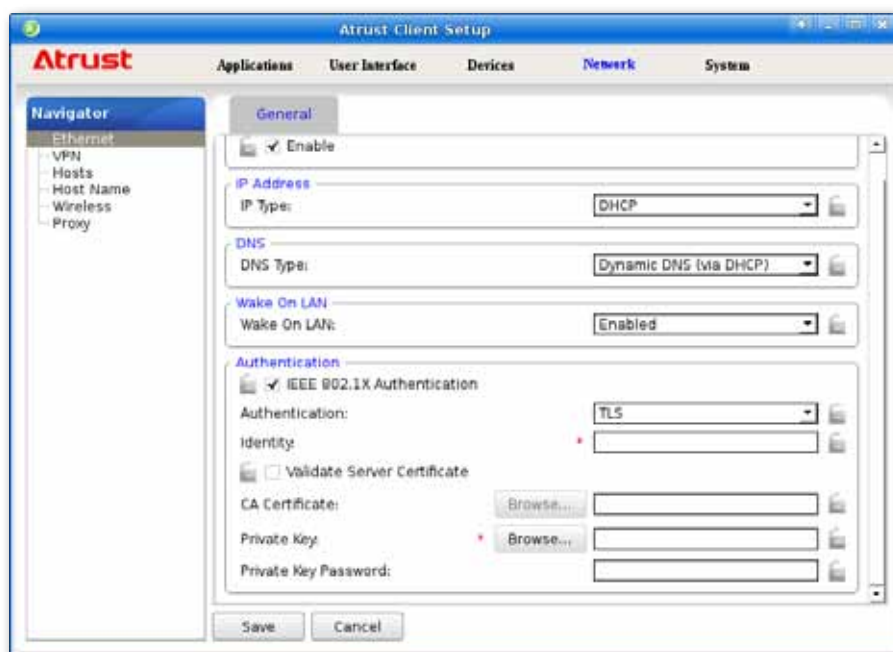
3.5.4 IEEE 802.1X認証の構成

IEEE 802.1X認証を構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[ネットワーク]> [イーサネット]をクリックします。



2. [認証]セクションで、[IEEE 802.1X認証]をオンまたはオフにして、IEEE 802.1X認証を有効または無効にします。



3. 目的の認証方法を選択し、必要に応じてファイルまたは情報を入力します。



注意

- 必要なファイルまたは構成と認証に関する情報については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

3.5.5 VPN接続の確立と停止

VPN設定により、mt182Lの仮想プライベートネットワーク接続を確立/停止できます。



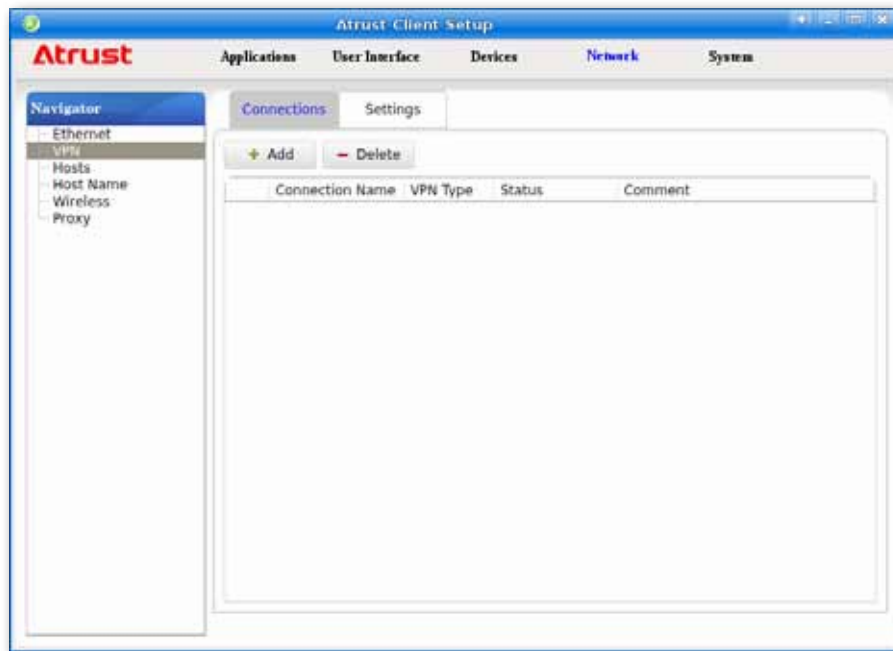
注意

- VPN設定では、仮想プライベートネットワーク設定を構成および管理することもできます。仮想プライベートネットワーク設定を構成および管理する方法については、セクション“3.5.6 仮想プライベートネットワーク設定の構成 (P.113)”を参照してください。

仮想プライベートネットワークの追加

仮想プライベートネットワークを追加するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupでは、仮想プライベートネットワークのリストを開くには、**[ネットワーク]>[VPN]**をクリックします。

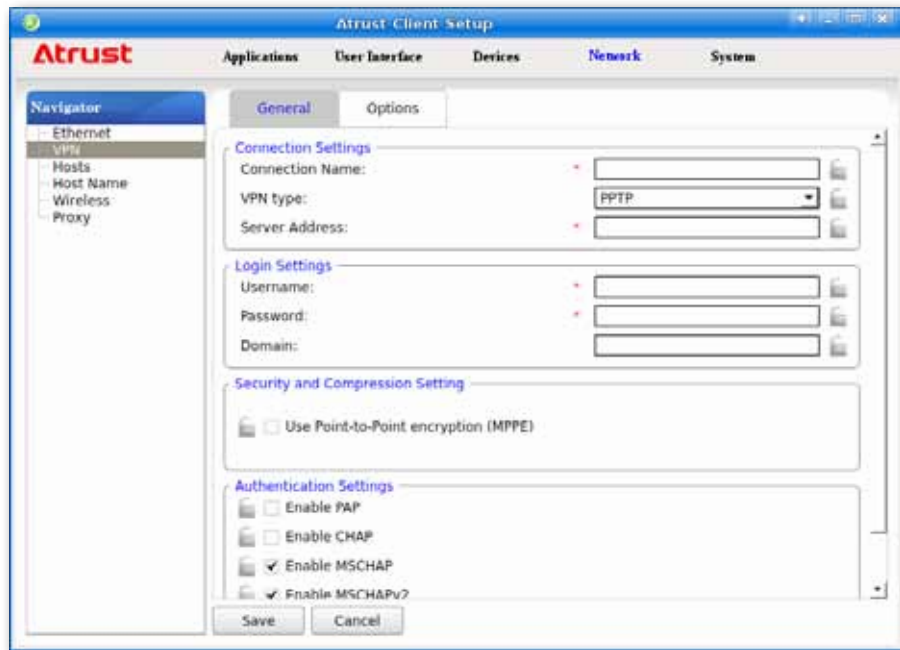


注意

- エントリを作成していない場合、仮想プライベートネットワークリストは空になります。

2. [仮想プライベートネットワーク]リストの上部にある**[追加]**をクリックします。

3. **[全般]**タブで、ドロップダウンメニューをクリックして、目的のVPNタイプを選択します。
PPTP、**L2TP**、および**Cisco AnyConnect**の3つのタイプを使用できます。



注意

- 設定項目は、選択したVPNの種類によって異なります。

4. 入力またはドロップダウンメニューをクリックして、構成と認証に関する情報を提供します。



注意

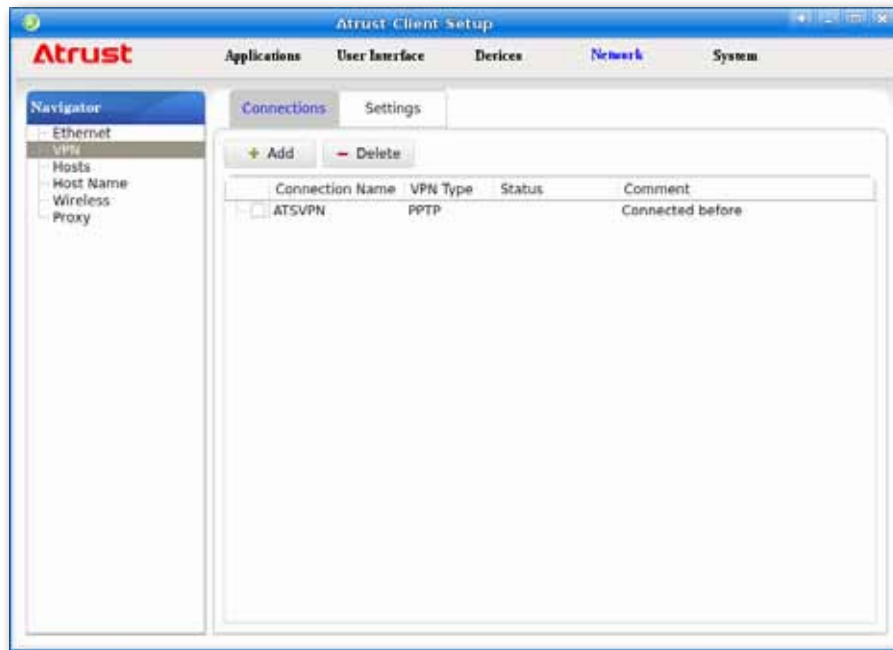
- 構成と認証に必要な情報については、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

5. **[オプション]**タブで、必要に応じてDNS関連の設定を構成します。
6. **[保存]**をクリックして、仮想プライベートネットワークを追加します。

仮想プライベートネットワーク接続の確立

mt182Lの仮想プライベートネットワーク接続を確立するには、次の手順に従ってください。

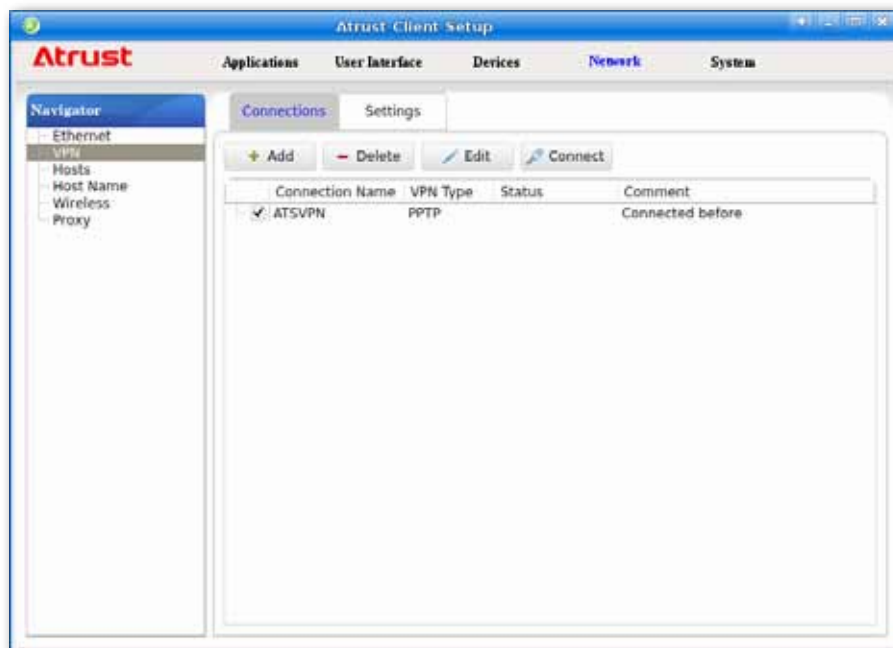
1. Atrust Client Setupで、仮想プライベートネットワークのリストを開くには、**[ネットワーク]>[VPN]**をクリックします。



注意

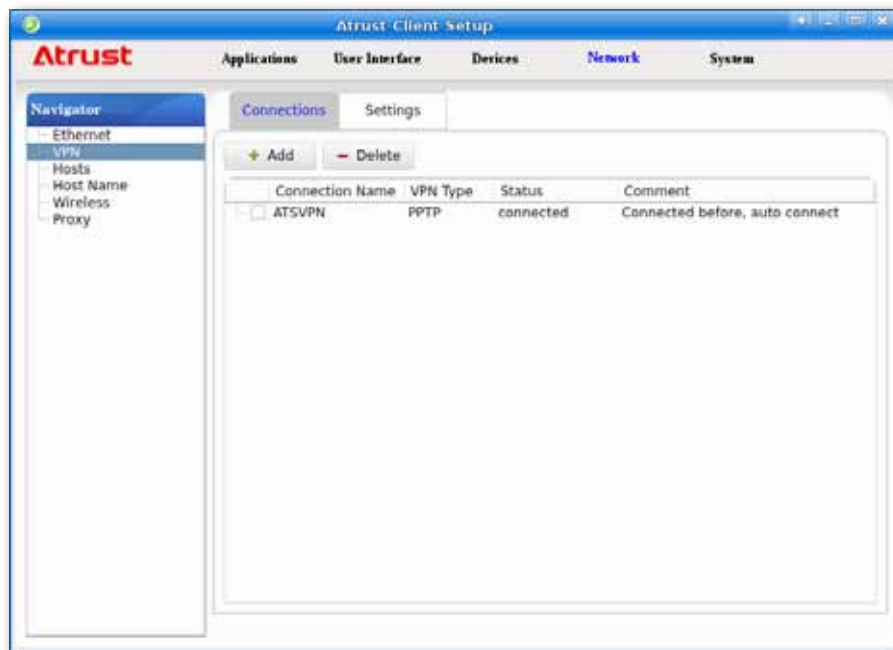
- エントリを作成していない場合、仮想プライベートネットワークリストは空になります。仮想プライベートネットワークを追加する手順については、前のトピックを参照してください。

2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。[Connect] の接続]ボタンが仮想プライベートネットワークリストの上部に表示されます。




3. [接続]をクリックして、選択したネットワークエントリを介して仮想プライベートネットワーク接続を作成します。

4. 完了すると、仮想プライベートネットワークの[ステータス]列に**接続**が表示されます。



仮想プライベートネットワーク接続の停止

仮想プライベートネットワーク接続を停止するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、仮想プライベートネットワークのリストを開くには、**[ネットワーク]>[VPN]**をクリックします。
2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。[仮想プライベートネットワーク]リストの上部に[ Disconnect の切断]ボタンが表示されます。
3. **[切断]**をクリックして、仮想プライベートネットワーク接続を停止します。

仮想プライベートネットワークの削除


仮想プライベートネットワークを削除するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、仮想プライベートネットワークのリストを開くには、**[ネットワーク]>[VPN]**をクリックします。
2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。
3. **[削除]**をクリックして、選択した仮想プライベートネットワークを削除します。

3.5.6 仮想プライベートネットワーク設定の構成

仮想プライベートネットワークの接続設定の調整

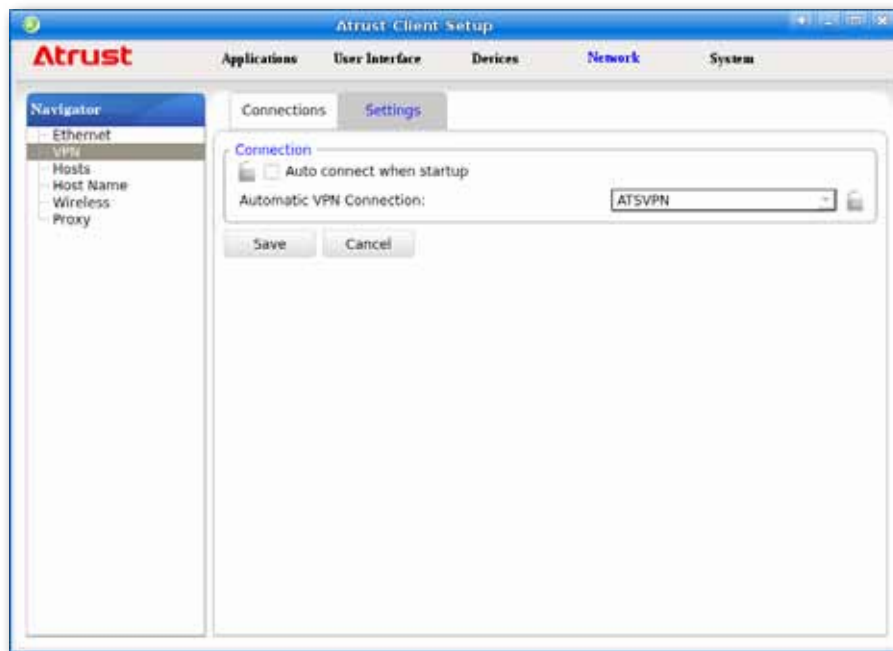
仮想プライベートネットワークの接続設定を調整するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、仮想プライベートネットワークのリストを開くには、**[ネットワーク]> [VPN]**をクリックします。
2. クリックして、目的の仮想プライベートネットワークを確認します。[仮想プライベートネットワーク]リストの上部に[ Edit]の編集]ボタンが表示されます。
3. **[編集]**をクリックして設定を調整し、**[保存]**をクリックして適用します。

仮想プライベートネットワーク接続の一般設定の構成

仮想プライベートネットワーク接続の一般的な設定を構成するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [VPN]**をクリックし、**[設定]**サブタブをクリックします。



2. [接続]セクションで、**[起動時に自動接続]**をクリックしてオン/オフにし、システム起動後の自動仮想プライベートネットワーク接続を許可/禁止します。この機能が有効になっている場合は、ドロップダウンメニューから目的の仮想プライベートネットワークを選択します。

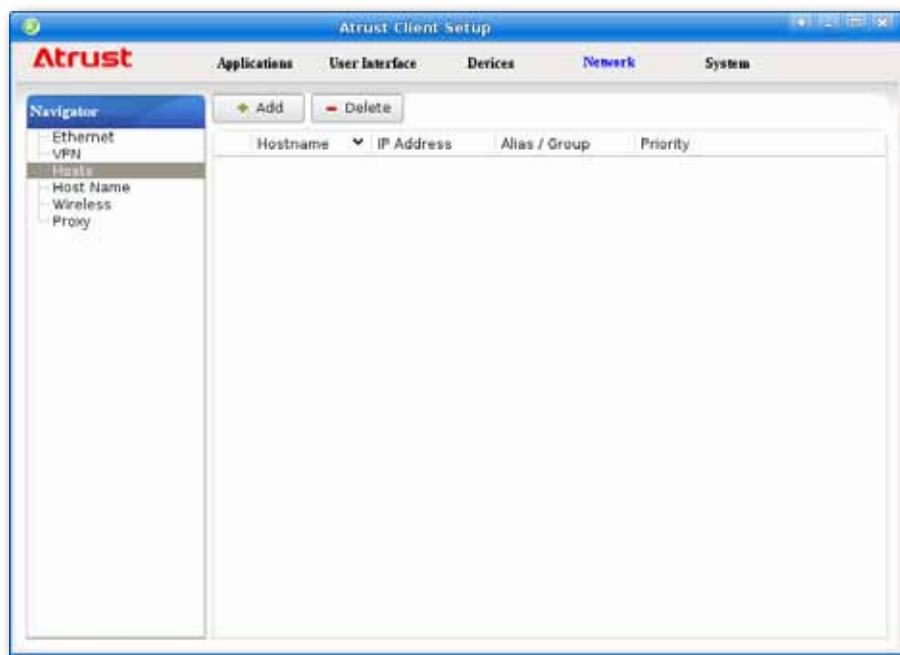
3.5.7 ホスト名へのIPアドレスのマッピングの作成

Atrust Client Setupでは、クライアント設定の構成中にIPアドレスを指定する必要がある場合は、IPアドレスの代わりにホストの名前またはエイリアスを使用できます。この機能を使用するには、まずIPアドレスからホストの名前またはエイリアスへのマッピングを作成する必要があります。

マッピングリストの作成

名前またはエイリアスへのIPアドレスのマッピングを作成するには、以下を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ホスト]**をクリックして、ホストリストを開きます。



2. **[追加]**をクリックして、新しいホストエントリの追加を開始します。
3. ホストの名前、IPアドレス、エイリアスを入力し、**[優先度]**フィールドを空白のままにして、**[保存]**をクリックして適用します。

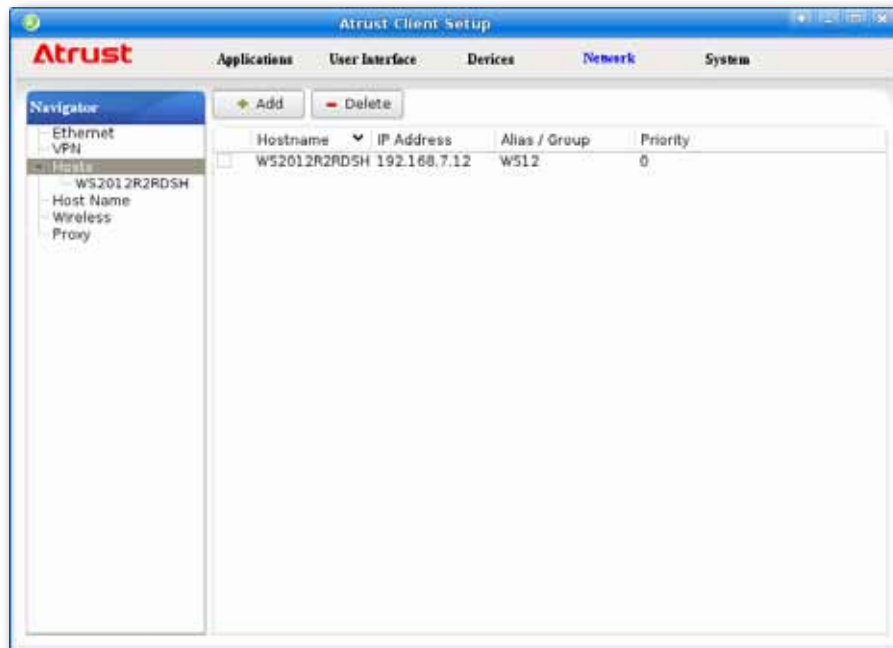
Hosts Table Settings	
Hostname:	* WS2012R2RDSH
IP Address:	* 192.168.7.12
Alias / Group:	WS12
Priority:	



注意

- ホストがドメインに属している場合は、**[ホスト名]**フィールドにFQDN（完全修飾ドメイン名）または**完全な**コンピューター名を入力しないでください。この必須フィールドには、ホストのコンピューター名のみを入力します。
- ホストフェイルオーバー機能を許可するフェイルオーバークラスターリストを作成する場合にのみ、**[優先度]**フィールドに数値を入力する必要があります。詳細は“3.5.8 フェイルオーバークラスターリストの構成 (P.116)”を参照してください。

4. 新しく追加されたエントリがホストリストに表示されます。



5. 手順2～3を繰り返して、別の新しいエントリを追加します。

6. これで、クライアント設定の構成中にAtrust Client SetupでIPアドレスを指定する必要がある場合は、IPアドレスの代わりにホストの名前またはエイリアスを使用できます。

マッピングリストの管理

マッピングリストを管理するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ホスト]**をクリックして、ホストリストを開きます。
2. ホストリストのエントリを管理する場合に選択します。

- エントリの設定を調整するには、エントリをダブルクリックするか、エントリをチェックオフしてから、マッピングリストの上部にある**[編集]**ボタンをクリックします。
- エントリを削除するには、エントリをチェックして、マッピングリストの上部にある**[削除]**をクリックします。
- 複数のエントリを削除するには、目的のエントリをすべてオフにして、**[削除]**をクリックします。確認を求めるウィンドウが表示されます。**[はい]**をクリックして確認します。

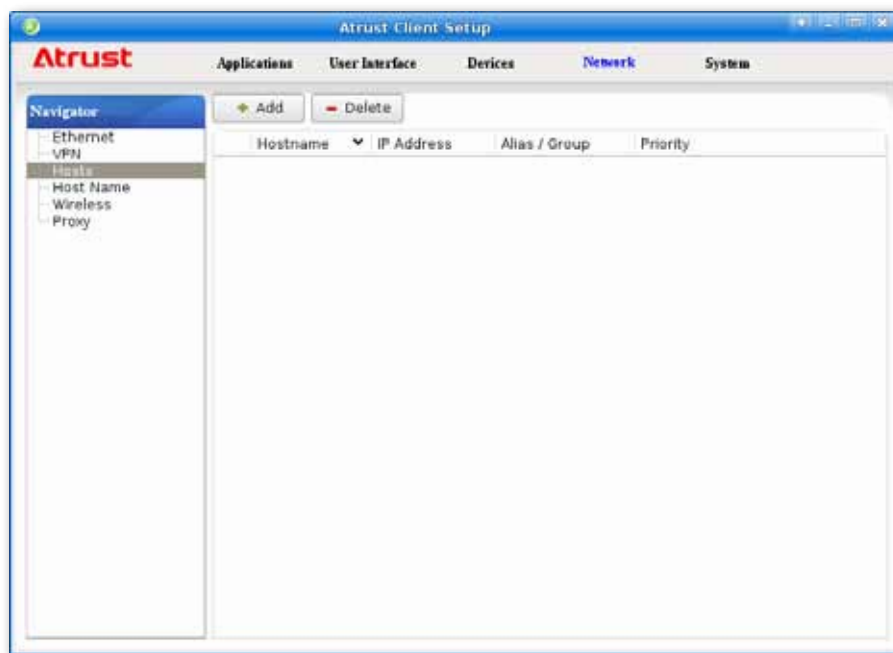
3.5.8 フェールオーバークラスターリストの構成

Atrust Client Setupを使用すると、フェールオーバークラスターリストを作成し、そのサーバーグループ（フェールオーバークラスター）からのサービスの高可用性を維持できます。

フェールオーバークラスターリストの作成

フェールオーバークラスターリストを作成するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ホスト]**をクリックして、ホストリストを開きます。



2. **[追加]**をクリックして、新しいホストエントリの追加を開始します。
3. 名前、IPアドレス、エイリアス、さらにクラスター（グループ）名、クラスター（グループ）の優先順位を入力し、**[保存]**をクリックして適用します。

Hosts Table Settings

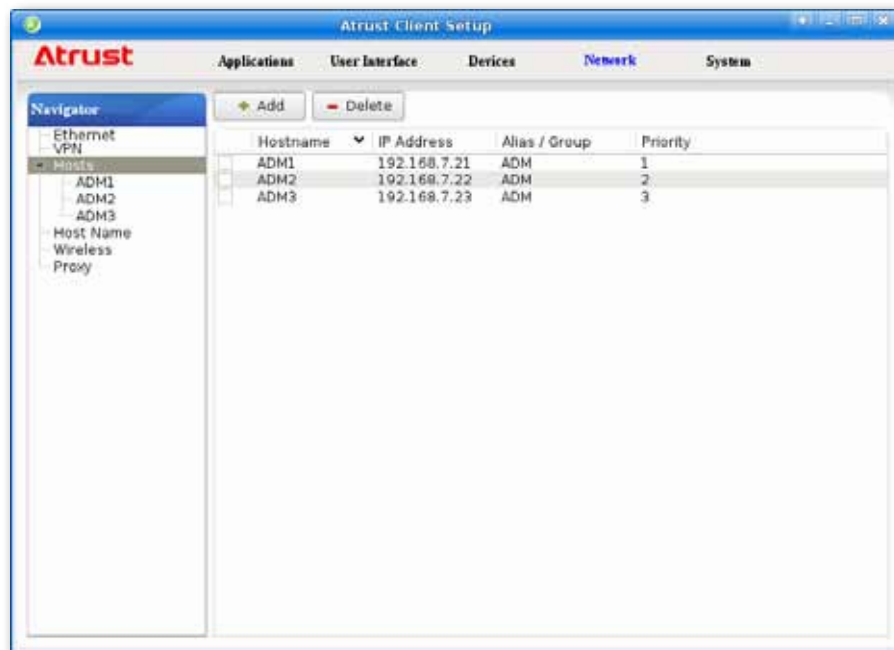
Hostname:	*	ADM1	
IP Address:	*	192.168.7.21	
Alias / Group:		ADM	
Priority:		1	



注意

- ホストがドメインに属している場合は、[ホスト名]フィールドにFQDN（完全修飾ドメイン名）または**完全な**コンピューター名を入力しないでください。この必須フィールドには、ホストのコンピューター名のみを入力します。

4. 手順2～3を繰り返して、別の新しいエントリを追加します。
5. 追加されたすべてのエントリがホストリストに表示されます。



6. mt182Lは、このフェイルオーバークラスター（グループ）に接続している間、指定された優先順位に従います。

	Hostname ▼	IP Address	Alias / Group	Priority
<input type="checkbox"/>	ADM1	192.168.7.21	ADM	1
<input type="checkbox"/>	ADM2	192.168.7.22	ADM	2
<input type="checkbox"/>	ADM3	192.168.7.23	ADM	3

フェイルオーバークラスターリストの管理

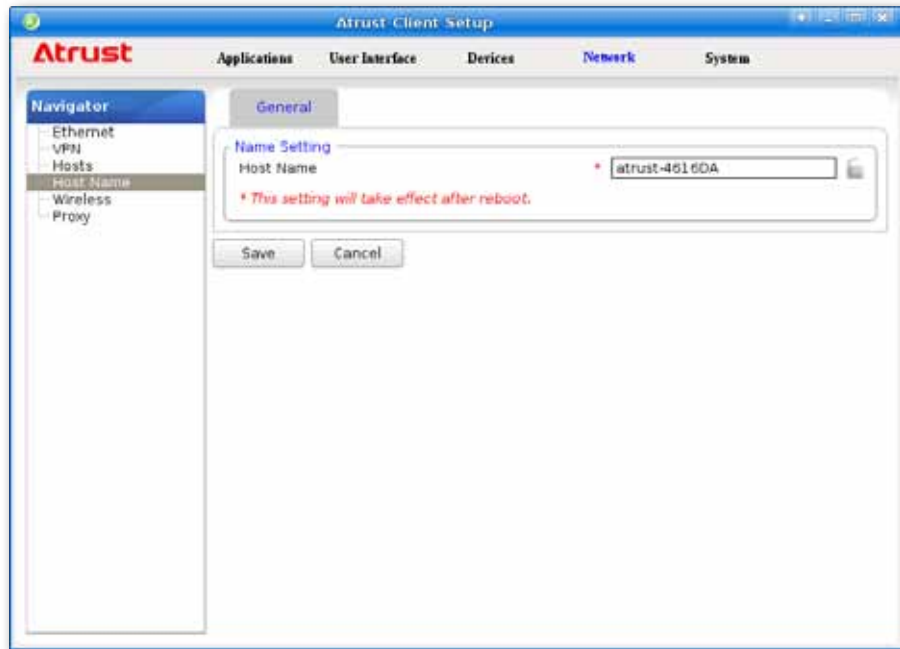
ホストリストを管理するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ホスト]**をクリックして、ホストリストを開きます。
2. ホストリストのエントリを管理する場合に選択します。
 - エントリの設定を調整するには、エントリをダブルクリックするか、エントリをチェックオフしてから、ホストリストの上部にある**[編集]**ボタンをクリックします。
 - エントリを削除するには、エントリをチェックして、ホストリストの上部にある**[削除]**をクリックします。
 - 複数のエントリを削除するには、目的のエントリをすべてオフにして、**[削除]**をクリックします。確認を求めるウィンドウが表示されます。**[はい]**をクリックして確認します。

3.5.9 シンククライアントのホスト名の変更

シンククライアントのホスト名を変更するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[ネットワーク]>[ホスト名]をクリックします。
2. シンククライアントのデフォルトのホスト名を変更します。



3. [保存]をクリックして確定します。
4. 変更を有効にするには再起動が必要です。

3.5.10 ワイヤレスインターフェイスの有効化または無効化

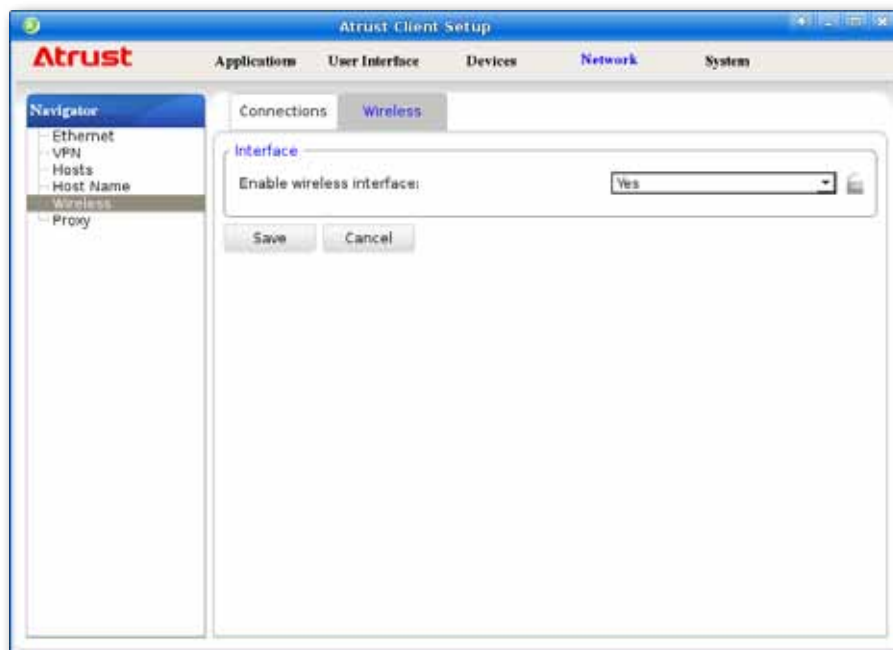
ワイヤレスインターフェイスを有効または無効にするには、次の操作を行います。



注意

- デフォルトでは、ワイヤレスインターフェイスは**有効**になっています。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ワイヤレス]**をクリックし、次に**[ワイヤレス]**サブタブをクリックします。

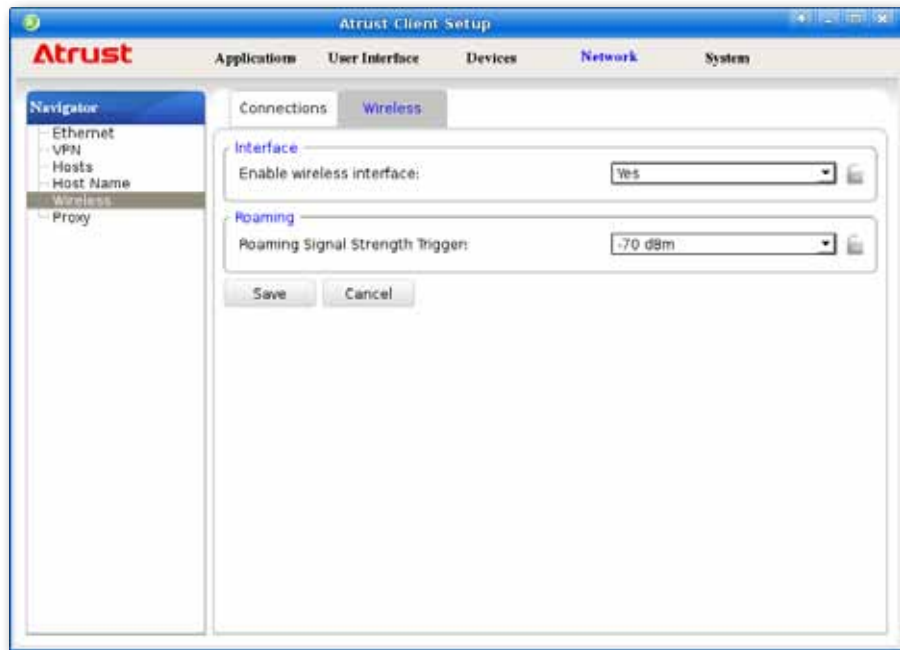


2. [インターフェイス]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、ワイヤレスネットワークインターフェイスを有効または無効にします。
3. **[保存]**をクリックして適用します。

3.5.11 ローミングのトリガーしきい値の構成

ワイヤレス接続のローミングトリガーしきい値を構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ワイヤレス]**をクリックし、次に**[ワイヤレス]**サブタブをクリックします。



2. [ローミング]セクションで、ドロップダウンメニューをクリックして、目的のトリガーしきい値を選択します。



注意

- ワイヤレスローミングを無効にするには、ここで**[ローミングなし]**を選択します。

3. **[保存]**をクリックして適用します。

3.5.12 ワイヤレス接続の確立と停止



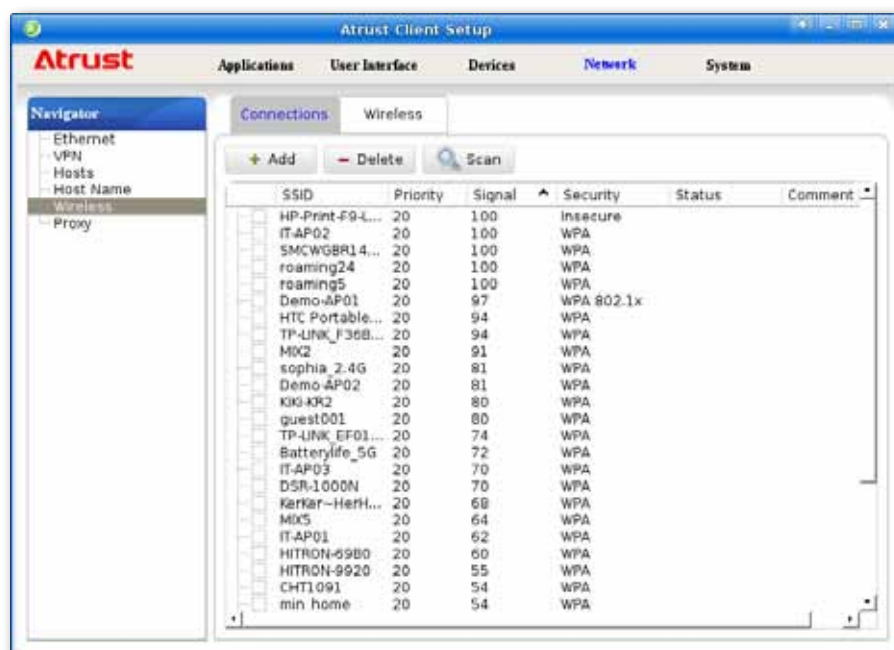
注意

- ワイヤレスインターフェイスが**有効**になっていることを確認します。“ワイヤレスインターフェイスの有効化または無効化” on page 119を参照してください。

ワイヤレスネットワーク接続の確立


mt182Lシンククライアントのワイヤレスネットワーク接続を確立するには、次の手順に従ってください。

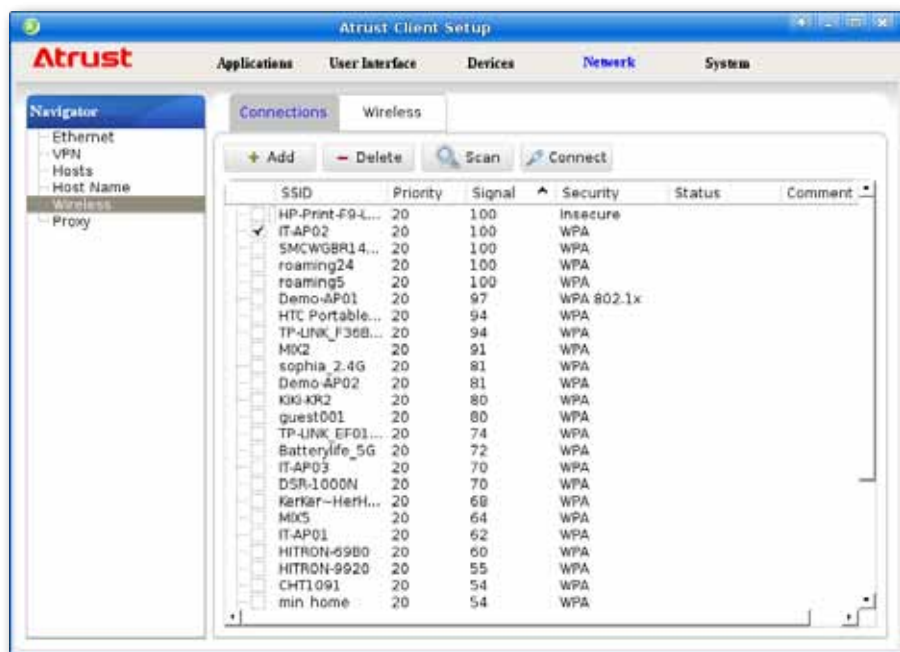
1. Atrust Client Setupで、[ネットワーク]> [ワイヤレス]をクリックして、[ワイヤレスネットワーク]リストを開きます。



注意

- mt182Lはネットワーク検出を**1回**実行し、使用可能なすべてのワイヤレスネットワークを指定します。更新するには、ワイヤレスネットワークリストの上部にある[スキャン]をクリックします。

2. クリックして、目的のワイヤレスネットワークを確認します。[ Connect]の接続]ボタンがワイヤレスネットワークリストの上部に表示されます。



3. **[接続]**をクリックして、選択したワイヤレスネットワークを介したワイヤレスネットワーク接続を作成します。
4. 確認または認証を求めるウィンドウが表示されます。



注意

- 以前にこのワイヤレスネットワークにアクセスしたことがある場合、パスワードは今後のアクセスのために自動的に記録されます。この場合、パスワードを再度入力する必要はありません。無線接続の確立を確認するだけです。
- 認証に必要な情報については、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

5. 必要なパスワードを入力し、**[接続]**をクリックして続行します。または、**[OK]**をクリックして、ワイヤレス接続の確立を確認します。
6. 完了すると、ワイヤレスネットワークの[ステータス]列に**接続**が表示されます。

	SSID	Priority	Signal	Security	Status	Comment
<input type="checkbox"/>	IT-AP02	20	100	WPA	connected	Connected before
<input type="checkbox"/>	sophia_2.4G	20	92	WPA		
<input type="checkbox"/>	roaming5	20	87	WPA		
<input type="checkbox"/>	roaming24	20	100	WPA		
<input type="checkbox"/>	guest001	20	87	WPA		
<input type="checkbox"/>	dlink_DWR-113	20	38	WPA		
<input type="checkbox"/>	dir-810-5g	20	45	WPA		
<input type="checkbox"/>	dir-810-2g	20	94	WPA		
<input type="checkbox"/>	amphenol_S...	20	72	WPA		

ワイヤレスネットワーク接続の停止

ワイヤレスネットワーク接続を停止するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ワイヤレス]**をクリックして、**[ワイヤレスネットワーク]**リストを開きます。
2. クリックして、目的のワイヤレスネットワークを確認します。ワイヤレスネットワークリストの上部に**[Disconnect]**の切断]ボタンが表示されます。
3. ワイヤレスネットワーク接続を停止するには、**[切断]**をクリックします。

ワイヤレスネットワークの追加

ワイヤレスネットワークリストで目的のワイヤレスネットワークが見つからない場合は、手動で追加できます。

ワイヤレスネットワークをワイヤレスネットワークリストに追加するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ワイヤレス]**をクリックして、**[ワイヤレスネットワーク]**リストを開きます。
2. ワイヤレスネットワークリストの上部にある**[追加]**をクリックします。
3. 開いたウィンドウで、ワイヤレスネットワーク名（SSID）を入力し、使用するワイヤレスセキュリティ方法を選択して、必要な情報を入力します。



4. **[接続]**をクリックして、ワイヤレス接続を作成します。



注意

- IPアドレスの設定方法については、“3.5.3 有線ネットワーク設定の構成 (P.105)”を参照してください。
- デフォルトでは、DHCPサーバーによって割り当てられた動的IPアドレスを使用します。

5. 完了すると、追加されたワイヤレスネットワークが**[ワイヤレスネットワーク]**リストに表示され、接続されていることが**[ステータス]**列に表示されます。

ワイヤレスネットワークの削除

ワイヤレスネットワークを削除するには、次の手順に従ってください。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [ワイヤレス]**をクリックして、**[ワイヤレスネットワーク]**リストを開きます。
2. 目的のワイヤレスネットワークをクリックしてチェックし、**[削除]**をクリックして、選択したワイヤレスネットワークを削除します。



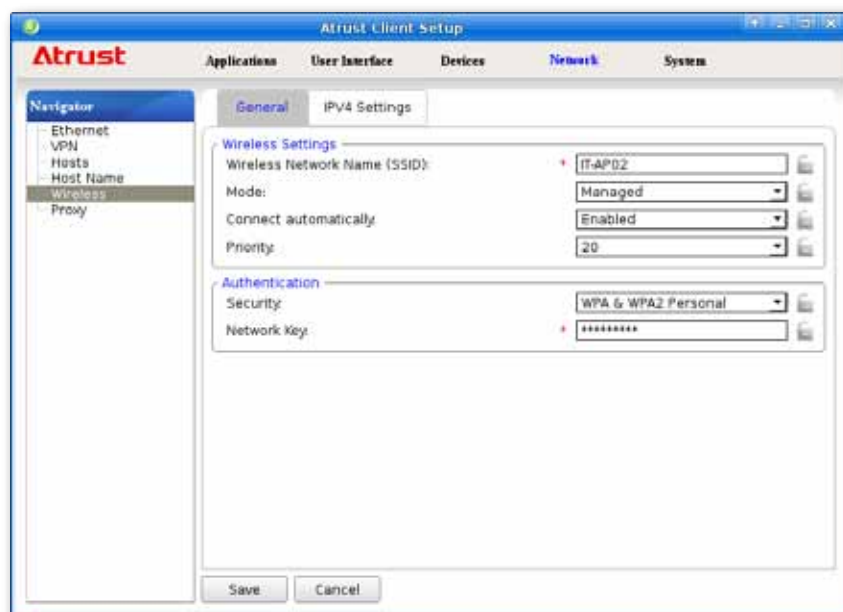
注意

- mt182Lは利用可能なワイヤレスネットワークを自動的に検出し、検出されたネットワークをワイヤレスネットワークリストに追加します。したがって、削除されたワイヤレスネットワークはリストに再び表示される可能性があります。保存されている認証データを含む接続設定は削除されます。

3.5.13 ワイヤレス接続設定の構成

ワイヤレスネットワークの接続設定を調整するには、次の操作を行います。

1. Atrust Client Setupで、[ネットワーク]> [ワイヤレス]をクリックして、[ワイヤレスネットワーク]リストを開きます。
2. クリックして、現在接続されている目的のワイヤレスネットワークを確認します。[Edit] の編集]ボタンがワイヤレスネットワークリストの上部に表示されます。
3. [編集]をクリックして設定を調整します。



- [全般]タブで、ドロップダウンメニューをクリックして、このワイヤレスネットワークが範囲内にあるときの自動接続、優先度、およびその他の接続設定を構成します。



注意

- デフォルトでは、クライアントがワイヤレスネットワークに正常に接続した場合、そのネットワークに自動的に接続します。
- 優先度順にワイヤレスネットワークに接続するために、**優先度**を設定できます。デフォルトでは、優先順位はなく、すべてのネットワークに最低値の**20**が指定されています。

- [IPv4設定]タブで、ドロップダウンメニューをクリックするか、フィールドに値を入力してIP設定を構成します。



注意

- [全般]タブで接続設定を構成する方法については、“3.5.12 ワイヤレス接続の確立と停止 (P.121)”セクションを参照してください。[IPv4設定]タブでIPアドレスを設定する方法については、“3.5.3 有線ネットワーク設定の構成 (P.105)”を参照してください。

4. **[保存]**をクリックして適用します。

3.5.14 サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定の構成

サービスへのWebベースのアクセスのプロキシ設定を構成するには、次の手順を実行してください。



注意

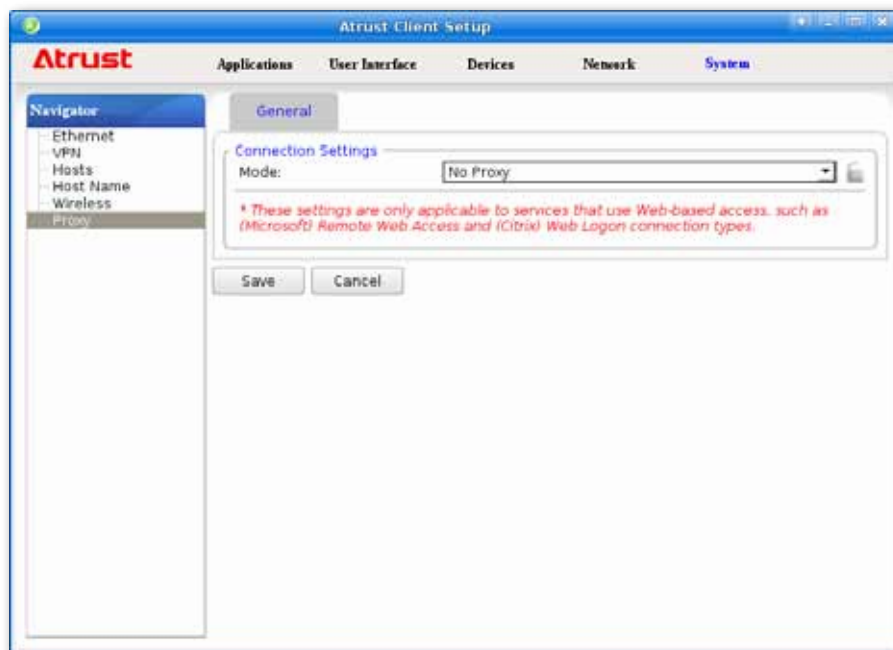
- ここで使用できる設定は、（Microsoft）リモートWebアクセスや（Citrix）Webログイン接続タイプなど、Webベースのアクセスを使用するサービスにのみ適用されます。

1. Atrust Client Setupで、**[ネットワーク]> [プロキシ]**をクリックします。
2. モードのドロップダウンメニューをクリックして、目的の構成モードを選択します。4つのモードを使用できます。**プロキシなし**、**プロキシ設定の自動検出**、**プロキシの手動設定**、および**自動プロキシ設定**。



注意

- 設定項目は、選択したモードによって異なります。



3. 必要に応じてデータを提供します。 各設定項目の説明については、以下の表を参照してください。

接続設定		
項目	説明文	
モード	目的のプロキシ構成モードをクリックして選択します。	
	モード	説明文
	プロキシなし	プロキシサーバーは使用しないでください。
	プロキシ設定の自動検出	ネットワークのプロキシ設定を自動的に検出します。
	手動プロキシ設定	プロキシ設定を手動で構成します。
	自動プロキシ設定	プロキシ設定ファイルへの接続を通じてプロキシ設定を自動的にロードします。
モード: 手動プロキシ設定		
HTTPプロキシ	HTTPプロキシサーバーのIPアドレスを提供します。	
ポート	HTTPプロキシサーバーが使用するポート番号を提供します。	
プロキシなし	プロキシリストを提供しません。 指定されたURLへの接続中にプロキシサーバーを使用しないでください。	
モード: 自動プロキシ設定		
URL	プロキシ設定をネットワーク経由でロードできるプロキシ設定ファイルのURLを提供します。	

3.6 サービスアクセス設定の構成

3.6.1 [アプリケーション]タブの概要

[アプリケーション]タブでは、クライアントでのサービスアクセスの設定を構成できます。[アプリケーション]タブの利用可能な設定にアクセスするには、Atrust Client Setupのタブをクリックします。

[アプリケーション]タブの概要



インターフェース要素		
No.	名前	説明文
1	ナビゲーションエリア	[アプリケーション]タブで設定項目を選択するか、選択した設定項目で設定エントリを選択するときにクリックします。
2	構成エリア	設定項目またはエントリを選択した場合の設定値を設定します。

3.6.2 設定一覧

タブ	設定	アイコン	説明文	セクション	ページ
アプリケーション	リモートデスクトップ		クリックしてRDP（リモートデスクトッププロトコル）接続設定を構成し、リモートデスクトップセッションのローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成します。	3.6.3 3.6.4 3.6.5	129 138 144
	Citrix ICA		クリックしてICA（独立コンピューティングアーキテクチャ）接続設定を構成し、ICAセッションのローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成します。	3.6.6 3.6.7 3.6.8 3.6.9 3.6.10 3.6.11	159 172 173 174 175 182
	VMware View		クリックして、VMware View接続設定を構成し、ローカルデスクトップとViewセッションの[スタート]メニューにショートカットを作成します。	3.6.12 3.6.13 3.6.14	212 214 216
	SSH		クリックしてSSH（Secure SHell）接続設定を構成し、ローカルデスクトップにショートカットを作成し、SSHセッションの[スタート]メニューを作成します。	3.6.15 3.6.16	221 223
	ウェブブラウザ		クリックして設定を構成し、ローカルデスクトップとブラウザセッションの[スタート]メニューにショートカットを作成します。	3.6.17 3.6.18 3.6.19	224 226 227
	Parallels 2X クライアント		クリックしてRAS（リモートアプリケーションサーバー） / RDP（リモートデスクトッププロトコル）接続設定を構成し、ローカルデスクトップとRAS / RDPセッションの[スタート]メニューにショートカットを作成します。	3.6.20 3.6.21 3.6.22	228 233 235

3.6.3 基本的なRDP接続設定の構成

リモートデスクトップ設定を使用すると、RDP（リモートデスクトッププロトコル）接続設定を構成し、サービスアクセス用のローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスして作業できます。



注意

- Microsoftリモートデスクトップサービスの詳細については、MicrosoftのWebサイト（www.microsoft.com）にアクセスしてください。

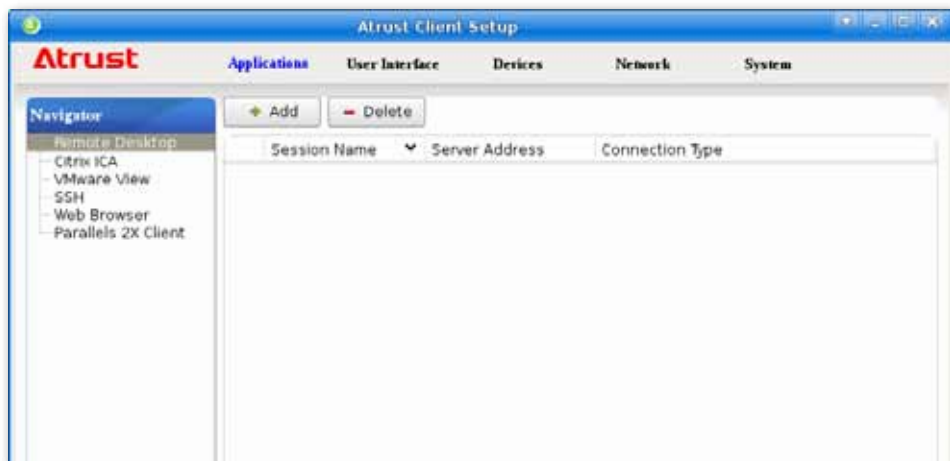
3つの接続タイプを使用できます。

接続タイプ	説明文	ページ
リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。	130
リモートWebアクセス	Webブラウザを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	132
ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	134

接続タイプ：リモートデスクトップ

リモートデスクトップ接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行します。

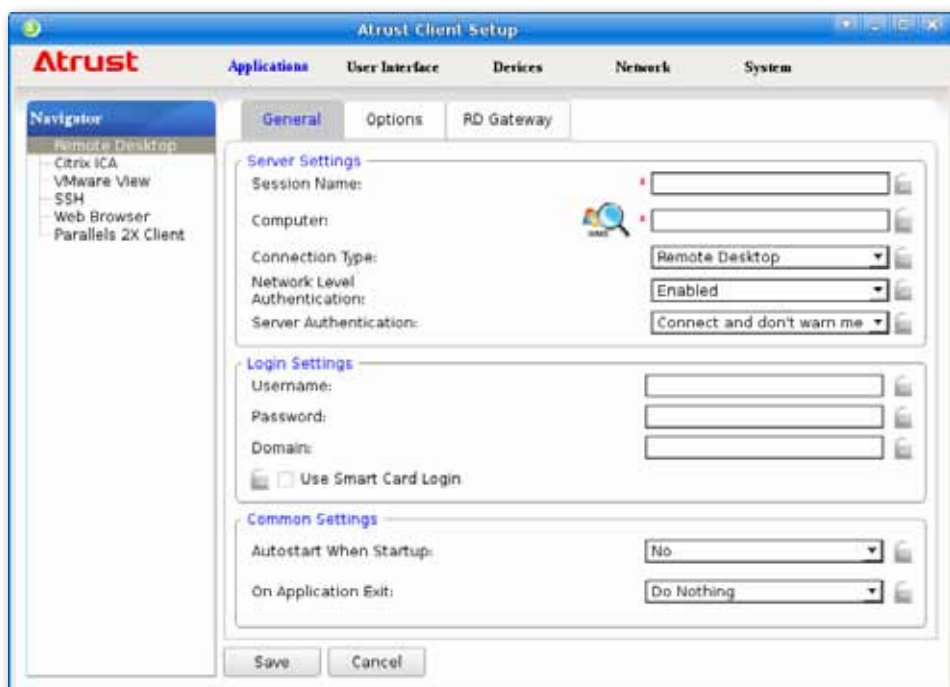
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [リモートデスクトップ]をクリックします。
2. RDP接続リストが構成エリアに表示されます。



注意

- エントリを作成していない場合、RDP接続リストは空になります。

3. RDP接続リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. 「一般」サブタブの「サーバー設定」セクションで、セッション名とサーバー/仮想マシンのアドレスを入力します。




注意

- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。
- リモートサービスでホストされるコンピューターは、物理サーバーまたは仮想マシンです。詳細については、MicrosoftのWebサイトwww.microsoft.comまたはsupport.microsoft.comにアクセスしてください。
- mt182Lは、最大2つのリモートデスクトップセッションを同時にサポートします。
- Windows® RemoteFX™は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。



注意

- MultiPoint™ RリモートデスクトップセッションのRDP接続設定のエントリを作成するには、以下を実行してください。
 1. [サーバー設定]セクションで、をクリックして、ネットワーク上のMultiPoint™ Serverシステムの検出を開始します。
 2. 開いたウィンドウで、ドロップダウンメニューをクリックして目的のサーバーを選択し、[OK]をクリックして確認します。
 3. 選択したサーバーの名前とIPアドレスが、対応するフィールドに自動的に入力されます。
- デフォルトのセッション名は、選択したMultiPointホストサーバーの名前になりますが、デフォルトを変更することもできます。
- Windows® MultiPoint™ は共有リソーステクノロジーです。このWindowsベースのオペレーティングシステムにより、ホストサーバーは複数の独立したステーションに電力を供給できるようになり、ユーザーは単一のサーバーの処理能力を共有できます。このオペレーティングシステムに基づいて、Atrustはサーバーとクライアントの両方を含む完全なソリューションを提供します。詳細については、当社のウェブサイトwww.atrustcorp.comをご覧ください。

5. [保存]をクリックして、このRDP接続エントリを追加します。
6. リモートデスクトップサービスのショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なRDP接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.5 詳細なRDP接続設定の構成 (P.144)”を参照してください。

接続タイプ：リモートWebアクセス

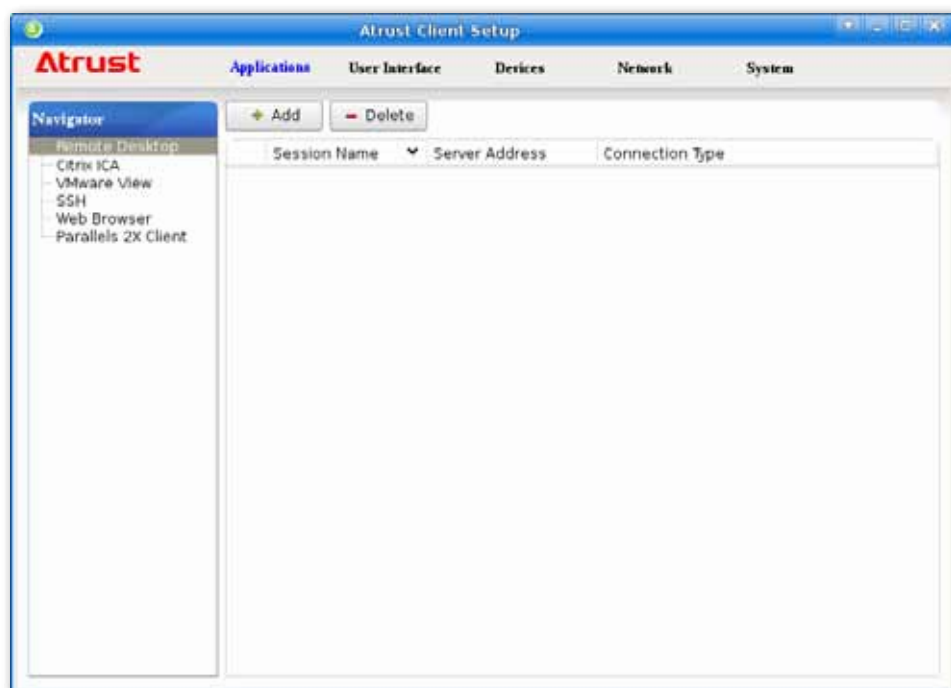
リモートWebアクセス接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。



注意

- Atrust mt182Lは、Windows Sever 2012 R2に基づくRD Webアクセスのみをサポートしています。Windows Server 2008 R2ベースはサポートされていません。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [リモートデスクトップ]をクリックします。
2. RDP接続リストが構成エリアに表示されます。



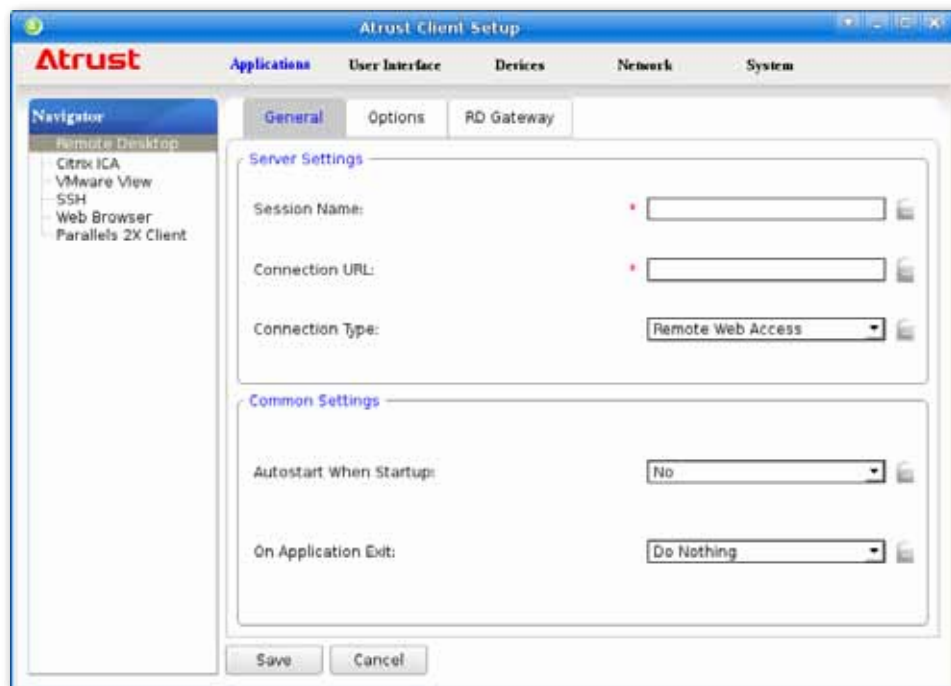
注意

- エントリを作成していない場合、RDP接続リストは空になります。

3. RDP接続リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. **[全般]**サブタブで、**[接続タイプ]**ドロップダウンメニューをクリックして、**[リモートWebアクセス]**を選択します。



5. Webベースのリモートアプリケーションにアクセスするためのセッション名と接続URLを入力します。



注意

- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。
- 適切な接続URLについては、IT管理者にお問い合わせください。

6. **[保存]**をクリックして、このRDP接続エントリを追加します。
7. リモートWebアクセスのショートカットは、ローカルデスクトップと**[スタート]**メニューに自動的に作成されます。

接続タイプ : Webフィード

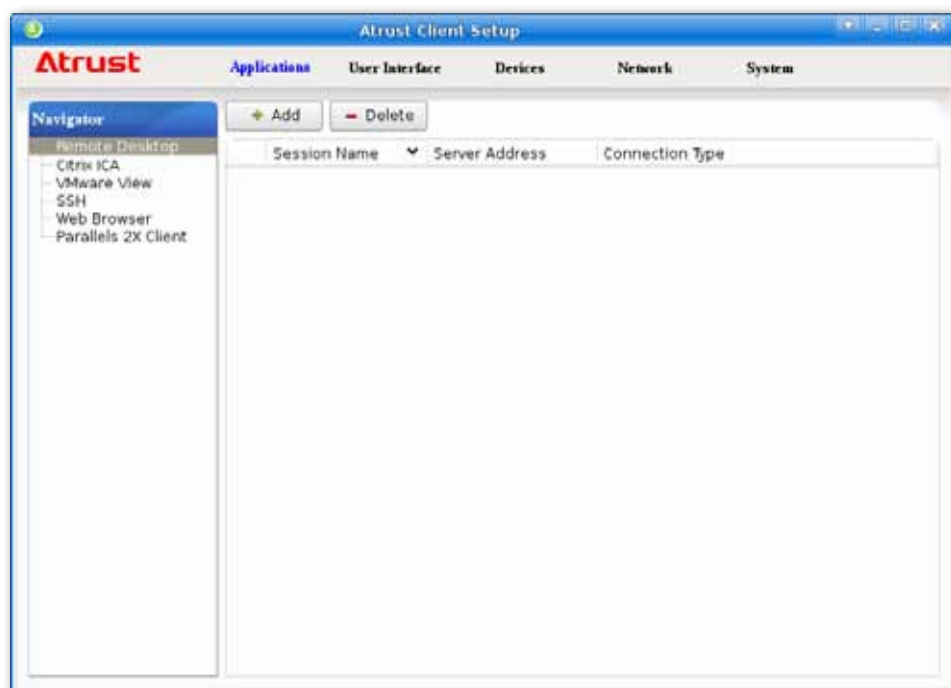
Webフィード接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。



注意

- Atrust mt182Lは、Windows Sever 2012 R2に基づくRD Webフィードのみをサポートしています。Windows Server 2008 R2ベースはサポートされていません。

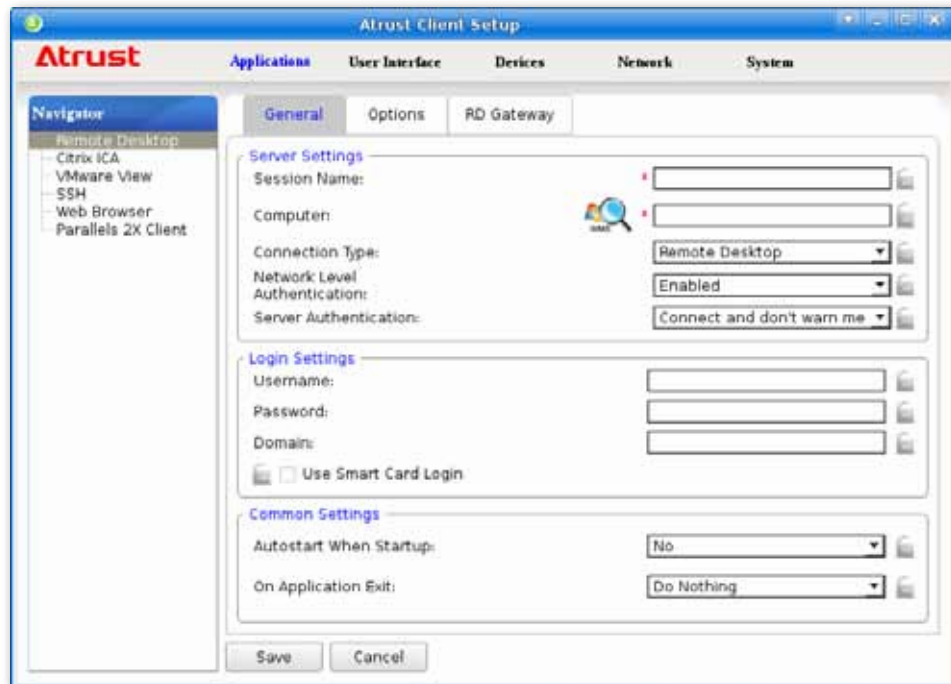
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [リモートデスクトップ]をクリックします。
2. RDP接続リストが構成エリアに表示されます。



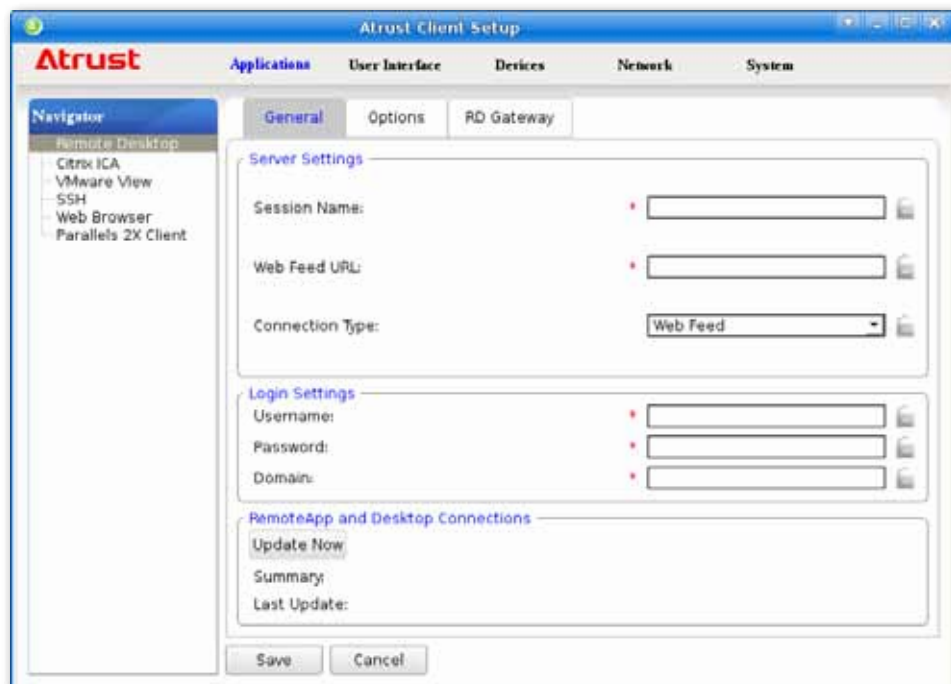
注意

- エントリを作成していない場合、RDP接続リストは空になります。

3. RDP接続リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. **[全般]**サブタブで、**[接続タイプ]**ドロップダウンメニューをクリックして、**[Webフィード]**を選択します。



5. セッション名、リモートアプリケーションにアクセスするためのWebフィードURL、およびWebフィードの資格情報を入力します。



注意

- 赤いアスタリスクは必須フィールドを示します。
- 適切なWebフィードURLについては、IT管理者にお問い合わせください。

6. [RemoteAppとデスクトップ接続]セクションで[今すぐ更新]をクリックします。完了すると、そのセクションに結果が以下のように表示されます。

RemoteApp and Desktop Connections

Update Now

Summary: 3 applications, 0 desktops
Last Update: Mon Jun 30 2014 10:13:16



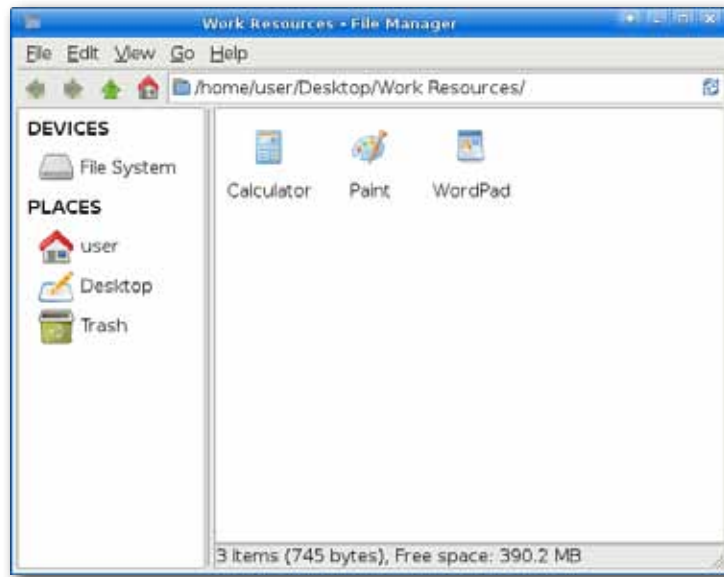
注意

- 新しく公開されたアプリケーションがある場合は、**今すぐ更新**を使用してWebフィードの概要を更新する必要があります。そうしないと、新しいアプリケーションにアクセスできなくなります。

7. [保存]をクリックして、このRDP接続エントリを追加します。
8. アクセスショートカットのある**Work Resources**という名前のフォルダーがローカルデスクトップに自動的に作成されます。



9. 利用可能なアプリケーションへのアクセスショートカットは、そのフォルダーにあります。



注意

- 新しく公開されたアプリケーションがある場合は、ステップ6で説明されている「**今すぐ更新**」を使用してWebフィードを更新する必要があります。 そうしないと、新しいアプリケーションは表示されません。

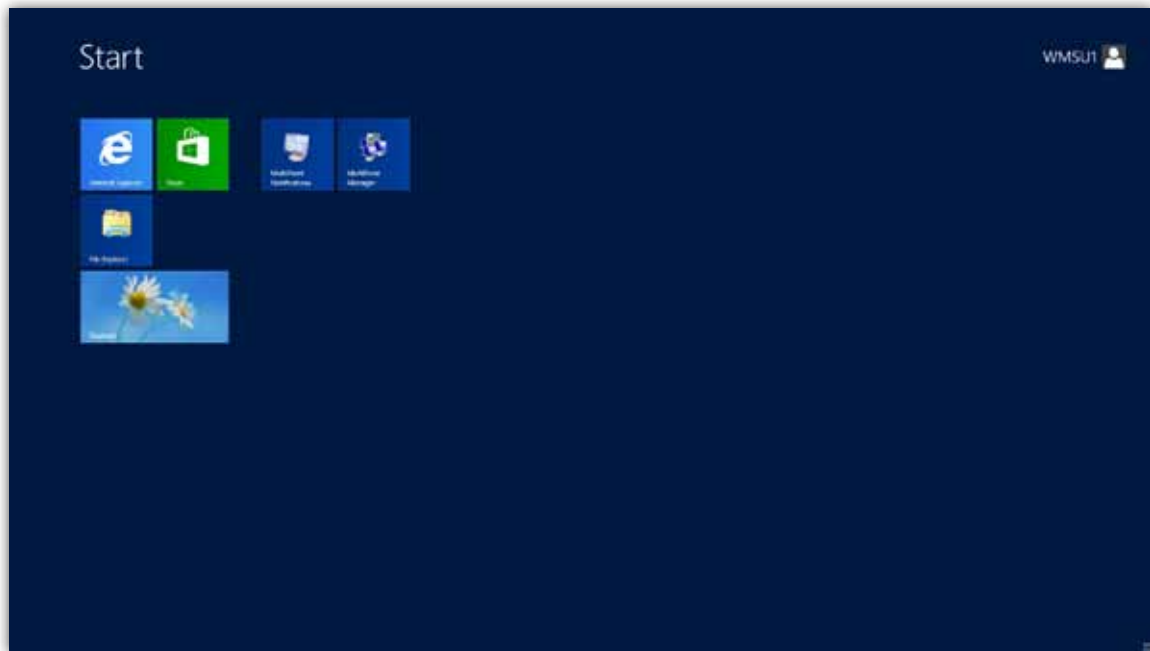
3.6.4 リモートデスクトップサービスへのアクセス

接続タイプ：リモートデスクトップ

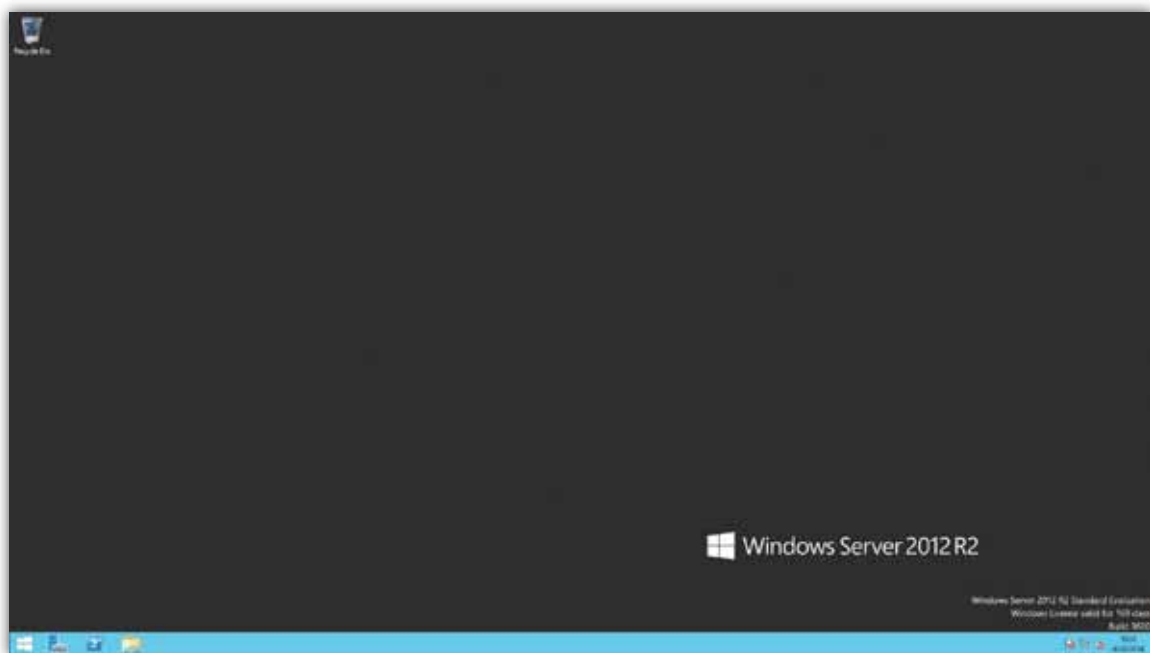
リモートデスクトップにアクセスするには、次の操作を行います。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 画面の指示に従い、必要に応じて必要な資格情報を提供します。
3. リモートデスクトップが画面に表示されます。

例：Windows MultiPoint Server 2012



例：Windows Server 2012



接続タイプ：リモートWebアクセス

リモートアプリケーションにアクセスするには、次の手順を実行してください。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。



注意

- 「この接続は信頼できません」という警告メッセージが表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、“3.2.16 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.73)”を参照してください。バイパスするには、**[リスクを理解する]> [例外を追加]> [セキュリティ例外の確認]**をクリックします。

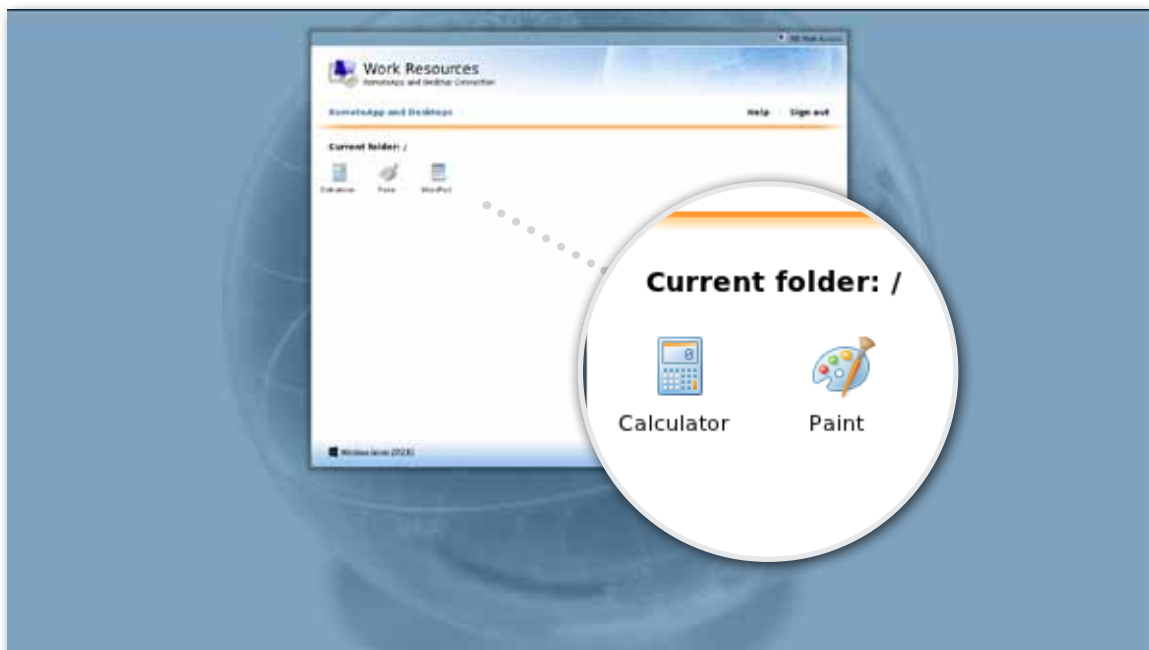


ヒント

- このログオン画面または他の画面を終了してローカルデスクトップに**戻る**には、**Alt + F4**キーを押してください。

3. 資格情報を入力し、**[サインイン]**をクリックします。

4. アクセスショートカットが画面に表示されます。



5. クリックまたはダブルクリックして、目的のアプリケーションを選択します。
6. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。



7. 資格情報を入力し、[OK]をクリックして、選択したアプリケーションを起動します。

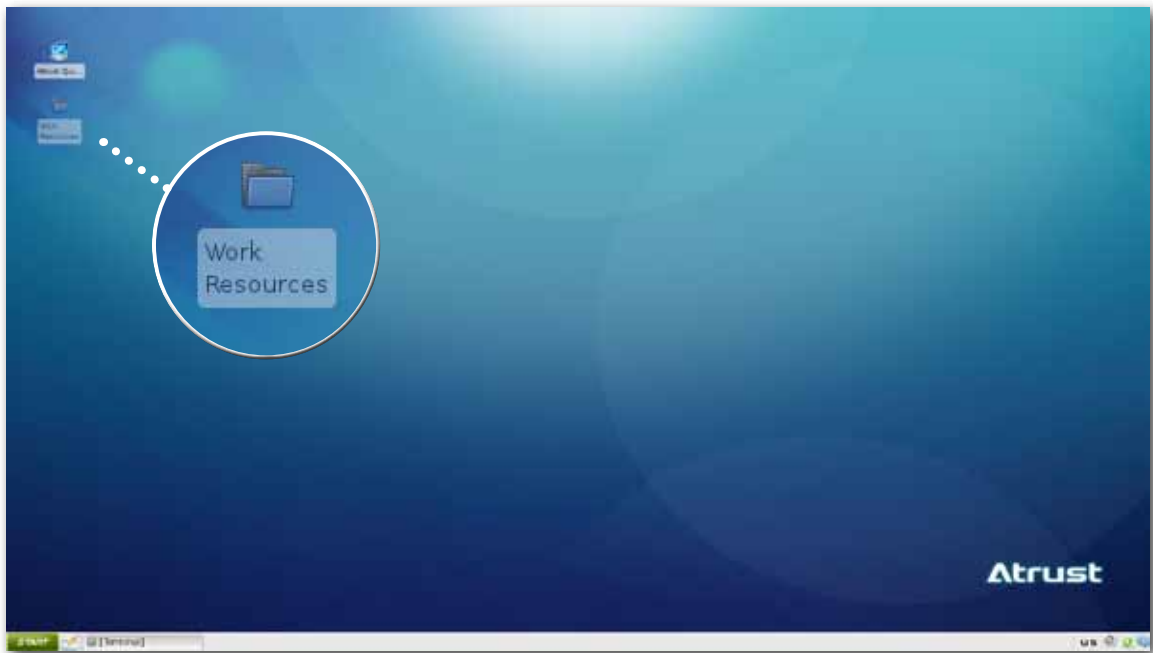


ヒント

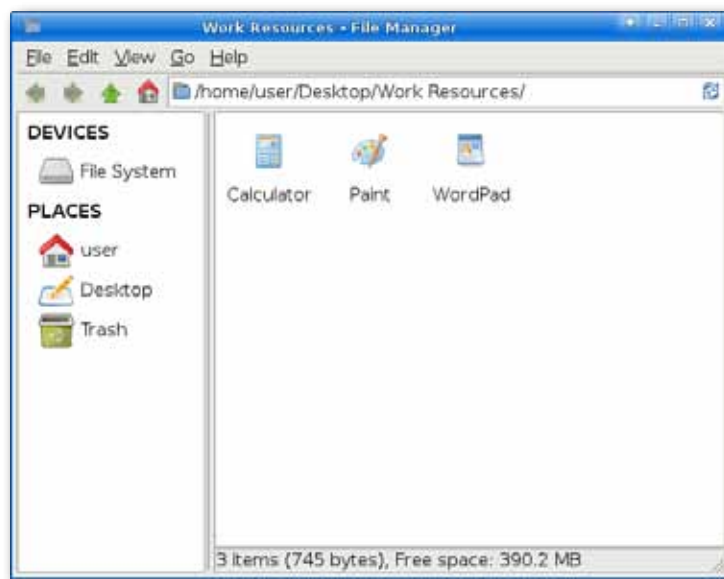
- **Alt + Tab**を使用して、非表示または最小化されたアプリケーションまたはデスクトップを選択して復元します。

接続タイプ : Webフィード

1. ローカルデスクトップの**Work Resources**フォルダをダブルクリックします。



2. 利用可能なアプリケーションへのアクセスショートカットは、そのフォルダにあります。



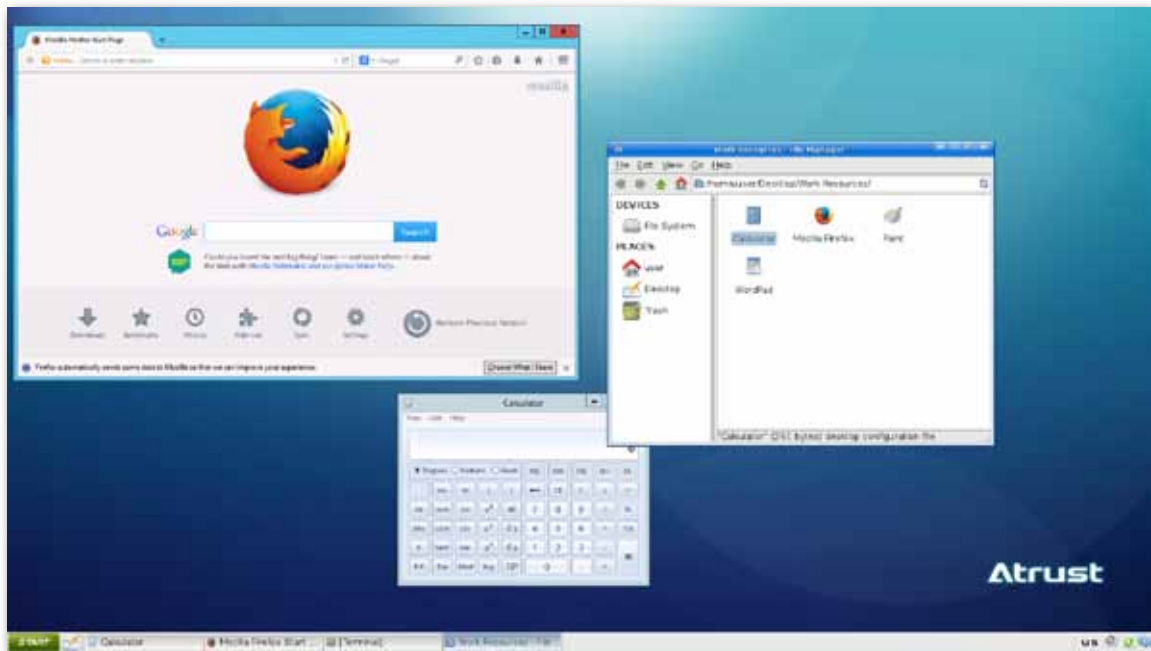
3. ダブルクリックして目的のアプリケーションを選択します。

4. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。




5. 資格情報を入力し、[OK]をクリックして、選択したアプリケーションを起動します。

リモートアプリケーションの例 Mozilla Firefoxおよび電卓




3.6.5 詳細なRDP接続設定の構成

以下の表は、RDP接続の各設定項目の説明です。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。

**注意**

- 使用可能な設定は、選択した接続タイプによって異なることに注意してください。

リモートデスクトップの接続タイプの設定

**注意**

- リモートWebアクセスの接続タイプの設定の説明については、“リモートWebアクセスの接続タイプの設定 (P.151)”を参照してください。
- Webフィードの接続タイプの設定については、“Webフィードの接続タイプの設定 (P.155)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定									
項目	説明文								
セッション名	リモートデスクトップセッションの名前を入力します。								
コンピューター	リモートデスクトップセッションを配信するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。								
接続タイプ	この表では、 リモートデスクトップ が選択されている場合に使用可能な設定についてのみ説明します。								
	3つの接続タイプを使用できます。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>リモートデスクトップ</td><td>リモートデスクトップセッションの名前を入力します。</td></tr><tr><td>リモートWebアクセス</td><td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td></tr><tr><td>ウェブフィード</td><td>公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。</td></tr></table>	オプション	説明文	リモートデスクトップ	リモートデスクトップセッションの名前を入力します。	リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
	オプション	説明文							
	リモートデスクトップ	リモートデスクトップセッションの名前を入力します。							
リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。								
ネットワークレベルの認証	ネットワークレベル認証を有効/無効にします。 注意: ネットワークレベル認証は、ログオン画面が表示されてセッションが作成される前にユーザーの認証を要求することにより、サーバーのセキュリティを強化するために使用される認証方法です。これは、リモートコンピュータを悪意のあるユーザーやソフトウェアから保護するのに役立つ、より安全な認証方法です。								


サーバー認証	クライアントがリモートコンピューターのIDを確認できない場合の次の処理を選択します。3つのオプション、 [接続して警告しない] 、 [警告する] 、および [接続しない] を使用できます。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>接続して警告しない</td><td>警告なしでとにかく接続します。</td></tr><tr><td>警告する</td><td>警告し、ユーザーが接続するかどうかを選択できるようにします。</td></tr><tr><td>接続しない</td><td>接続を拒否します。</td></tr></table>	オプション	説明文	接続して警告しない	警告なしでとにかく接続します。	警告する	警告し、ユーザーが接続するかどうかを選択できるようにします。	接続しない	接続を拒否します。
	オプション	説明文							
	接続して警告しない	警告なしでとにかく接続します。							
警告する	警告し、ユーザーが接続するかどうかを選択できるようにします。								
接続しない	接続を拒否します。								
注意: リモートコンピューターの証明書をインポートするには、セクション“3.2.16 リモートコンピューターの証明書のインポート (P.73)”を参照してください。									
ログイン設定									
項目	説明文								
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。								
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。								
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。 注意: ドメインは、共通のデータベースとセキュリティポリシーを共有するネットワーク上のコンピューターのコレクションです。サーバーがどのドメインにも属していない場合は、このフィールドを空白のままにします。								
スマートカードログインを使用する	オンにすると、スマートカードを使用したログオンが有効になります。								

共通設定

項目	説明文												
起動時に自動起動	mt182L起動時（オートスタートモード）に、リモートデスクトップセッションを自動的に開くかどうかを選択します。 注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。 3つのモードと優先順位は次のとおりです。												
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td>1</td><td>アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする						
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする										
2	自動起動	クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする											
3	クイック接続	ステム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
	注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。												
アプリケーション終了時	リモートデスクトップセッションが終了したときの動作を選択します。 何もしない、アプリケーションの再起動、アプリケーションの強制再起動、再起動、シャットダウン の5つのオプションを使用できます。												
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>何もしない</td><td>mt182LローカルLinuxデスクトップに戻ります。</td></tr><tr><td>アプリケーションの再起動</td><td>リモートデスクトップセッションを再度開きます。</td></tr><tr><td>アプリケーションの強制再起動</td><td>リモートデスクトップセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。</td></tr><tr><td>再起動</td><td>mt182Lを再起動します。</td></tr><tr><td>シャットダウン</td><td>mt182Lの電源を切ります。</td></tr></table>	オプション	説明文	何もしない	mt182LローカルLinuxデスクトップに戻ります。	アプリケーションの再起動	リモートデスクトップセッションを再度開きます。	アプリケーションの強制再起動	リモートデスクトップセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。	再起動	mt182Lを再起動します。	シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。
	オプション	説明文											
	何もしない	mt182LローカルLinuxデスクトップに戻ります。											
	アプリケーションの再起動	リモートデスクトップセッションを再度開きます。											
	アプリケーションの強制再起動	リモートデスクトップセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。											
再起動	mt182Lを再起動します。												
シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。												

オプションサブタブ

プログラム									
項目	説明文								
接続時に次のプログラムを起動します	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、アプリケーションモードを有効または無効にします。このオプションを使用して、セッションタイプを選択します。2つのリモートセッションタイプを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> リモートデスクトップ（アプリケーションモードが無効な場合） リモートアプリケーション（アプリケーションモードが有効な場合） <p>注意: リモートアプリケーションセッションは、フルデスクトップではなく特定のアプリケーションのみにアクセスするために使用されるリモートセッションです。</p> <p>注意: リモートアプリケーションセッションを開く前に、ホストサーバー上のRemoteAppマネージャーを使用して、目的のアプリケーションをRemoteAppプログラムリストに追加する必要があります。サーバー上のRemoteAppプログラムリストに目的のアプリケーションを追加する方法の詳細については、MicrosoftのWebサイト（www.microsoft.com）にアクセスしてください。</p>								
次のフォルダから始めます	<p>接続時に次のプログラムを起動するが有効になっている場合は、目的のアプリケーションの場所（ホストサーバー上）を入力します。</p> <p>注意: このフィールドに目的のアプリケーションの場所/パスを入力し、プログラムパスとファイル名（次のフィールド）にアプリケーションの名前のみを指定できます。または、[プログラムのパスとファイル名]にアプリケーションの完全なパスと名前を入力し、このフィールドを空のままにすることができます。</p>								
プログラムのパスとファイル名	<p>[接続時に次のプログラムを起動する]が有効になっている場合は、目的のアプリケーションの名前を入力します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Remote APP</th><th>フォーマット例</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Windows Media Player</td><td>C:\Programs Files (x86)\Windows Media Player\wmplayer.exe</td></tr> <tr> <td>Adobe Reader X</td><td>C:\Programs Files (x86)\Adobe\Reader 10.0\Reader\ArcoRd32.exe</td></tr> <tr> <td>Adobe Reader X</td><td>C:\Programs Files (x86)\Adobe\Reader 10.0\Reader\ArcoRd32</td></tr> </tbody> </table> <p>注意: ファイル拡張子は省略できます。</p>	Remote APP	フォーマット例	Windows Media Player	C:\Programs Files (x86)\Windows Media Player\wmplayer.exe	Adobe Reader X	C:\Programs Files (x86)\Adobe\Reader 10.0\Reader\ArcoRd32.exe	Adobe Reader X	C:\Programs Files (x86)\Adobe\Reader 10.0\Reader\ArcoRd32
Remote APP	フォーマット例								
Windows Media Player	C:\Programs Files (x86)\Windows Media Player\wmplayer.exe								
Adobe Reader X	C:\Programs Files (x86)\Adobe\Reader 10.0\Reader\ArcoRd32.exe								
Adobe Reader X	C:\Programs Files (x86)\Adobe\Reader 10.0\Reader\ArcoRd32								
ウィンドウ設定									
項目	説明文								
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、自動、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: RemoteFXが有効になっている場合、ここで選択した色深度に関係なく、32ビット/ピクセルが適用されます。</p> <p>注意: [自動]オプションは、ホストサーバーによって定義された設定を使用します。</p> <p>注意: ホストサーバー上のリモートデスクトップセッションの色深度の上限を構成できません。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>								

解像度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションに必要なディスプレイ解像度を選択します。 フルスクリーン、ラージウィンドウ、ミディアムウィンドウ、スモールウィンドウの4つのオプションを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フルスクリーン</td><td>ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。</td></tr> <tr> <td>ラージウィンドウ</td><td>大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td></tr> <tr> <td>ミディアムウィンドウ</td><td>中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td></tr> <tr> <td>スモールウィンドウ</td><td>小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td></tr> </tbody> </table> <p>注意: ローカルデスクトップの表示解像度を構成するには、セクション “3.3.3 表示設定の構成 (P.80)”を参照してください。</p>	オプション	説明文	フルスクリーン	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。	ラージウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。	ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。	スモールウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。
オプション	説明文										
フルスクリーン	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。										
ラージウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
スモールウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
ツールバー	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションでAtrustツールバーを使用するかどうかを選択します。 ツールバーを使用すると、セッションウィンドウのサイズを調整したり、セッションを一時停止したりできます。</p> 										
フルスクリーン切り替え	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Ctrl + Alt + Enterによるリモートセッションの全画面切り替えを許可/禁止します。</p>										
カーソルの自動非表示	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションでの非アクティブ時のマウスカーソルまたはポインターの自動非表示を有効または無効にします。</p>										
RemoteFXを使用する	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RemoteFXを無効または有効にします。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: mt182LシンクライアントのリモートデスクトップセッションでRemoteFX機能を有効にするには、ホストサーバーを構成する必要があります。 ホストサーバーでRemoteFXを有効にする方法の詳細については、MicrosoftサポートWebサイト support.microsoft.comにアクセスしてください。</p>										
GFX優先モード	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、使用するグラフィック圧縮方法を選択します : RemoteFX、Progressive RemoteFX、またはH.264 / AVC 444。</p> <p>注意: この設定項目は、「RemoteFXの使用」が有効になっている場合にのみ表示されます。</p>										
バルク圧縮を使用する	<p>クリックして、サーバーとクライアント間のデータトラフィックの一括圧縮を有効/無効にします。</p>										

最適化設定	
項目	説明文
接続品質	<p>ネットワーク接続の品質を最もよく表すオプションを選択します。3つのオプション、LAN（非常に高速）、ブロードバンド（高速）、およびモデム（低速）を使用できます。</p> <p>注意: ここで選択すると、このセクションの項目のデフォルトが次のように決定されます。</p>
デスクトップの背景	チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。
フォントスムージング	チェックを入れると、ClearType®テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。
ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する	オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。
メニューとウィンドウのアニメーション	チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。
視覚スタイル	チェックして、クラシックでないテーマを許可します。
永続的なビットマップキャッシング	チェックして、セッションでビットマップのクライアント側キャッシュを許可します。
接続設定	
項目	説明文
マルチメディアリダイレクト	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、マルチメディアリダイレクトを無効または有効にします。</p> <p>有効にすると、クライアントは元の圧縮マルチメディアストリームを受信し、ローカルでデコードして表示します。この機能は、クライアントの負荷を増やしますが、サーバーリソースを節約し、帯域幅の使用を減らし、オーディオとビデオの再生エクスペリエンスを向上させます。</p>
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでUSBフラッシュドライブやメモリーカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをリモートデスクトップセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”を参照してください。</p>
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にmt182Lのローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にして、リモートプリンターセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: mt182Lにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”または“3.4.9 ネットワークプリンターの追加 (P.102)”を参照してください。</p>
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>

パラレルポートマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、パラレルポートマッピングを有効または無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでプリンターやスキャナーなどのパラレルデバイスにアクセスできます。								
スマートカードマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。								
ロードバランス情報	このフィールドを使用して、必要に応じて、目的のリモートデスクトップサービスコレクションの値を指定します。								
サーバステータスチェック	ドロップダウンメニューをクリックして、接続ステータスチェックを有効/無効にします。 注意: リモートセッション用にデプロイされた一部のサーバーは、接続ステータスチェックをサポートしていない場合があります。この機能を有効にすると、リモートセッションが切断されます。この場合は、切断しないように無効にします。								
接続ダイアログの設定									
項目	説明文								
使用して接続情報を表示	ドロップダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウでリモートコンピュータに表示するものを選択します。 [コンピュータ] フィールドまたは [セッション名] フィールド。								
ドメインフィールドを表示	ドロップダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウのドメインフィールドを表示/非表示にします。								
記憶フィールドを表示	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの [資格情報を記憶する] チェックボックスを 表示 または 非表示 にします。								
ローカルリソースの設定									
項目	説明文								
リモートオーディオ再生	ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションが利用可能です： このコンピュータで再生 、 リモートコンピュータで再生 、 再生しない 。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>このコンピュータで再生</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td></tr><tr><td>リモートコンピュータで再生</td><td>リモートコンピュータに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td></tr><tr><td>再生しない</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。</td></tr></table>	オプション	説明文	このコンピュータで再生	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	リモートコンピュータで再生	リモートコンピュータに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	再生しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。
	オプション	説明文							
	このコンピュータで再生	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。							
	リモートコンピュータで再生	リモートコンピュータに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。							
再生しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。								
マルチメディアリダイレクト	ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。次の2つのオプションを使用できます。 このコンピュータからの記録 と 記録しない 。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>このコンピュータからの記録</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。</td></tr><tr><td>記録しない</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。</td></tr></table>	オプション	説明文	このコンピュータからの記録	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。	記録しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。		
	オプション	説明文							
このコンピュータからの記録	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。								
記録しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。								

RemoteFX USBリダイレクト設定	
項目	説明文
マルチメディアリダイレクト	<p>リモートデスクトップセッションでローカルに接続されたUSBデバイスを有効/無効にするには、オン/オフを切り替えます（仮想マシンベースのみ）。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトを使用すると、サーバーでホストされている仮想マシン（ゲストオペレーティングシステムを使用）にUSBデバイスをリダイレクトできます。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトは、セッションベースではなく、仮想マシンベースのリモートデスクトップサービスにのみ適用できます。詳細については、support.microsoft.comのMicrosoftサポートWebサイトにアクセスしてください。</p> <p>クライアント側で、仮想マシンベースのデスクトップでローカルに接続されたUSBデバイスを有効にするには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 目的のUSBデバイスがクライアントに接続されていることを確認します。 2. mt182LでRemoteFXが有効になっていることを確認します（“RemoteFXを使用する (P.148)”を参照）。 3. 使用のRemoteFX USBリダイレクトをチェックするためにクリックしてください。 4. 新しいチェックボックスが表示され、必要なデバイスドライバーが示されます。チェックして、ドライバーを有効にします。 5. [保存]をクリックして適用します。 <p>注意: また、リモートデスクトップセッションでRemoteFX USBリダイレクトを有効にするには、ホストサーバーとそのゲストOSを構成する必要があります。サーバー側の構成手順については、MicrosoftサポートWebサイトsupport.microsoft.comにアクセスしてください。</p>

RDゲートウェイサブタブ

接続設定	
項目	説明文
RDゲートウェイサーバーを使用する	RDゲートウェイサーバーの使用を有効または無効にするには、チェックボックスをオンまたはオフにします。オンにすると、この表に次の2つの項目が表示されます。
サーバー名	RDゲートウェイサーバーの名前を入力します。ネットワーク管理者に尋ねますこの情報。
RDゲートウェイにリモートデスクトップの資格情報を使用する	チェックして、リモートデスクトップコンピューターとRDゲートウェイサーバーの両方に対する認証に同じ資格情報のセットを使用します。
ローカルアドレスに対してRDゲートウェイをバイパスする	オンにすると、ローカルネットワークアドレスとの間のトラフィックがRDゲートウェイサーバー経由でルーティングされなくなります。これにより、RDP接続が速くなる可能性があります。

リモートWebアクセスの接続タイプの設定



注意

- リモートデスクトップの接続タイプの設定の説明については、“リモートデスクトップの接続タイプの設定 (P.144)”を参照してください。
- Webフィードの接続タイプの設定については、“Webフィードの接続タイプの設定 (P.155)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定		
項目	説明文	
セッション名	リモートWebアクセスセッションの名前を入力します。	
接続URL	リモートWebアクセスセッションを配信するサーバーのURLを入力します。	
接続タイプ	この表は、 リモートWebアクセス が選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。	
	3つの接続タイプを使用できます。	
	オプション	説明文
	リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。
	リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
	ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。

共通設定

項目

説明文

起動時に自動起動

mt182Lの起動時に自動でリモートWebアクセスセッションを開くかどうかを選択します（オートスタートモード）。

注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。 3つのモードと優先順位は次のとおりです。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のMicrosoft RDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする
3	クイック接続	<p>ステム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>

注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。

アプリケーション終了時

リモートWebアクセスセッションが終了したときの動作を選択します。 **何もしない、アプリケーションの再起動、アプリケーションの強制再起動、再起動、シャットダウン**の5つのオプションを使用できます。

オプション	説明文
何もしない	mt182LローカルLinuxデスクトップに戻ります。
アプリケーションの再起動	リモートWebアクセスセッションを再度開きます。
アプリケーションの強制再起動	リモートWebアクセスセッションを再度開き、その間のメッセージをスキップします。
再起動	mt182Lを再起動します。
シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。

オプションサブタブ



注意

- リモートWebアクセスの接続タイプの[オプション]サブタブで利用できる設定はありません。

RDゲートウェイサブタブ



注意

- リモートWebアクセスの接続タイプの[RDゲートウェイ]サブタブでは、オプションは利用できません。

Webフィードの接続タイプの設定



注意

- リモートデスクトップの接続タイプの設定の説明については、“リモートデスクトップの接続タイプの設定 (P.144)”を参照してください。
- リモートWebアクセスの接続タイプの設定の説明については、“リモートWebアクセスの接続タイプの設定 (P.151)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定		
項目	説明文	
セッション名	Webフィードセッションの名前を入力します。	
WebフィードURL	Webフィードセッションを配信するサーバーのURLを入力します。	
接続タイプ	この表は、Webフィードが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。 3つの接続タイプを使用できます。	
	オプション	説明文
	リモートデスクトップ	リモートデスクトップ/アプリケーションサービスへのアクセスを選択します。
	リモートWebアクセス	Webブラウザ（Mozilla Firefox）を介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
	ウェブフィード	公開されたデスクトップショートカットを介してリモートアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。
ログイン設定		
項目	説明文	
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。	
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。	
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。	
RemoteAppとデスクトップ接続		
項目	説明文	
今すぐアップデート	クリックすると、サーバーから公開アプリケーションリストを取得して更新します。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、自動、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: RemoteFXが有効になっている場合、ここで選択した色深度に関係なく、32ビット/ピクセルが適用されます。</p> <p>注意: [自動]オプションは、ホストサーバーによって定義された設定を使用します。</p> <p>注意: ホストサーバー上のリモートデスクトップセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>
カーソルの自動非表示	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションでの非アクティブ時のマウスカーソルまたはポインターの自動非表示を有効または無効にします。</p>
RemoteFXを使用する	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RemoteFXを無効または有効にします。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: mt182LシンクライアントのリモートデスクトップセッションでRemoteFX機能を有効にするには、ホストサーバーを構成する必要があります。ホストサーバーでRemoteFXを有効にする方法の詳細については、MicrosoftサポートWebサイト support.microsoft.com にアクセスしてください。</p>
バルク圧縮を使用する	<p>クリックして、サーバーとクライアント間のデータトラフィックの一括圧縮を有効/無効にします。</p>
接続設定	
項目	説明文
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでUSBフラッシュドライブやメモリーカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをリモートデスクトップセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”を参照してください。</p>
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にmt182Lのローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にして、リモートプリンターセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: mt182Lにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”または“3.4.9 ネットワークプリンターの追加 (P.102)”を参照してください。</p>

シリアルポートマッピング	ド롭ダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。	
パラレルポートマッピング	ド롭ダウンメニューをクリックして、パラレルポートマッピングを有効または無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでプリンターやスキャナーなどのパラレルデバイスにアクセスできます。	
スマートカードマッピング	ド롭ダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。 [有効にする] を選択すると、ユーザーはリモートデスクトップセッションでスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。	
ロードバランス情報	このフィールドを使用して、必要に応じて、目的のリモートデスクトップサービスコレクションの値を指定します。	
サーバステータスチェック	ド롭ダウンメニューをクリックして、接続ステータスチェックを有効/無効にします。 注意: リモートセッション用にデプロイされた一部のサーバーは、接続ステータスチェックをサポートしていない場合があります。この機能を有効にすると、リモートセッションが切断されます。この場合は、切断しないように無効にします。	
接続ダイアログの設定		
使用して接続情報を表示	ド롭ダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウでリモートコンピュータに表示するものを選択します。 [コンピュータ] フィールドまたは [セッション名] フィールド。	
ドメインフィールドを表示	ド롭ダウンメニューをクリックして、接続ダイアログウィンドウのドメインフィールドを表示/非表示にします。	
記憶フィールドを表示	ド롭ダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの [資格情報を記憶する] チェックボックスを 表示 または 非表示 にします。	
ローカルリソースの設定		
項目	説明文	
リモートオーディオ再生	ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションが利用可能です： このコンピュータで再生 、 リモートコンピュータで再生 、 再生しない 。	
	オプション	説明文
	このコンピュータで再生	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。
	リモートコンピュータで再生	リモートコンピュータに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。
	再生しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。

マルチメディアリダイレクト	ド롭ダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。 次の2つのオプションを使用できます。このコンピューターからの記録と記録しない。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>このコンピューターからの記録</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。</td></tr><tr><td>記録しない</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。</td></tr></table>	オプション	説明文	このコンピューターからの記録	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。	記録しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。
	オプション	説明文					
このコンピューターからの記録	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。						
記録しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。						
RemoteFX USBリダイレクト設定							
項目	説明文						
マルチメディアリダイレクト	<p>リモートデスクトップセッションでローカルに接続されたUSBデバイスを有効/無効にするには、オン/オフを切り替えます（仮想マシンベースのみ）。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトを使用すると、サーバーでホストされている仮想マシン（ゲストオペレーティングシステムを使用）にUSBデバイスをリダイレクトできます。</p> <p>注意: RemoteFX USBリダイレクトは、セッションベースではなく、仮想マシンベースのリモートデスクトップサービスにのみ適用できます。 詳細については、support.microsoft.comのMicrosoftサポートWebサイトにアクセスしてください。</p> <p>クライアント側で、仮想マシンベースのデスクトップでローカルに接続されたUSBデバイスを有効にするには、次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 目的のUSBデバイスがmt182Lに接続されていることを確認します。2. mt182LでRemoteFXが有効になっていることを確認します（“RemoteFXを使用する (P.148)”を参照）。3. 使用のRemoteFX USBリダイレクトをチェックするためにクリックしてください。4. 新しいチェックボックスが表示され、必要なデバイスドライバーが示されます。 チェックして、ドライバーを有効にします。5. [保存]をクリックして適用します。 <p>注意: また、リモートデスクトップセッションでRemoteFX USBリダイレクトを有効にするには、ホストサーバーとそのゲストOSを構成する必要があります。 サーバー側の構成手順については、MicrosoftサポートWebサイトsupport.microsoft.comにアクセスしてください。</p>						

RDゲートウェイサブタブ



注意

- Webログオンの接続タイプの**[オプション]**サブタブで利用できるオプションはありません。

3.6.6 基本的なICA接続設定の構成

Citrix ICA設定を使用すると、Citrixサービス用のICA接続を構成し、ローカルデスクトップ上にショートカットを作成して、サービスアクセス用の[スタート]メニューを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、作業用の仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスできます。



注意

- Citrixデスクトップ仮想化ソリューションの詳細については、Citrix Webサイト (www.citrix.com) またはCitrix Knowledge Center (support.citrix.com) にアクセスしてください。

6つの接続タイプを使用できます

接続タイプ	説明文	ページ
Webログイン	Webブラウザを介してデスクトップ/アプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	160
StoreFront	StoreFrontを介してデスクトップ/アプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	162
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介してデスクトップサービスにアクセスすることを選択します。	164
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンを介してデスクトップサービスにアクセスすることを選択します。	166
XenApp	XenAppの以前のバージョンを介してアプリケーションサービスにアクセスすることを選択します。	168
サーバー接続	サービス配信サーバーへのアクセスを選択します (XenAppサーバーのみ)。	170



注意

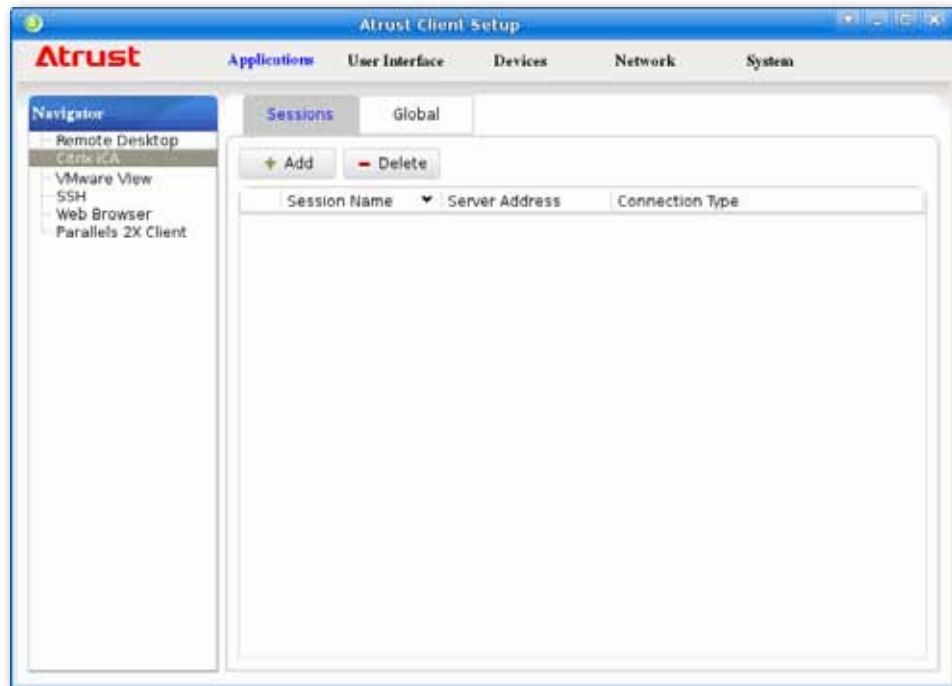
- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン

接続タイプ : Webログイン

Webログイン接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 利用可能なICA接続リストが構成エリアに表示されます。

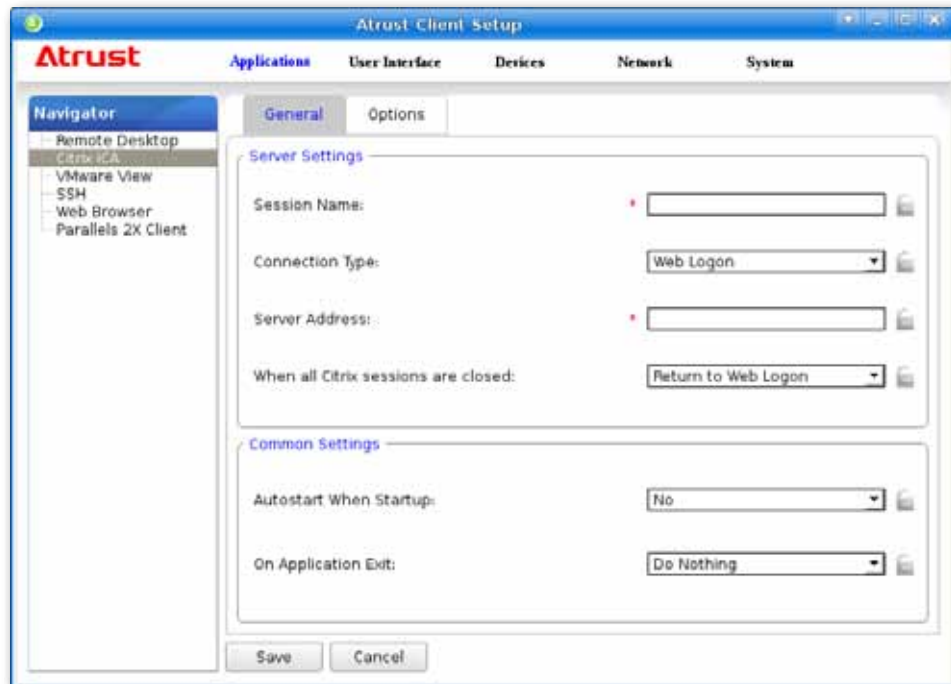


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。

4. 「一般」サブタブで、接続タイプをデフォルトの「Webログオン」のままにして、目的のセッション名と、CitrixサービスにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。



注意

- XenDesktopおよびXenAppの新しいバージョンでは、**サーバーのサブパス**をさらに指定する必要がある場合があります。詳細については、次の表を参照してください。

Citrix製品	接続するコンポーネント	接続アドレス
XenApp 6.5以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
XenDesktop 5.6以前	ウェブインターフェース	IP / URL / FQDN
仮想アプリとデスクトップ (XenAppおよび XenDesktop 7.5以降)	StoreFront	IP / URL / FQDNおよびサブパス 例えば - FQDN: X75.CTX.poc サブパス: /Citrix/StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス: X75.CTX.poc/Citrix/StoreWeb

- FQDNは完全修飾ドメイン名の頭字語です。

5. **[保存]**をクリックして、このICA接続エントリを追加します。アクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”を参照してください。

接続タイプ : StoreFront

StoreFrontの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください：

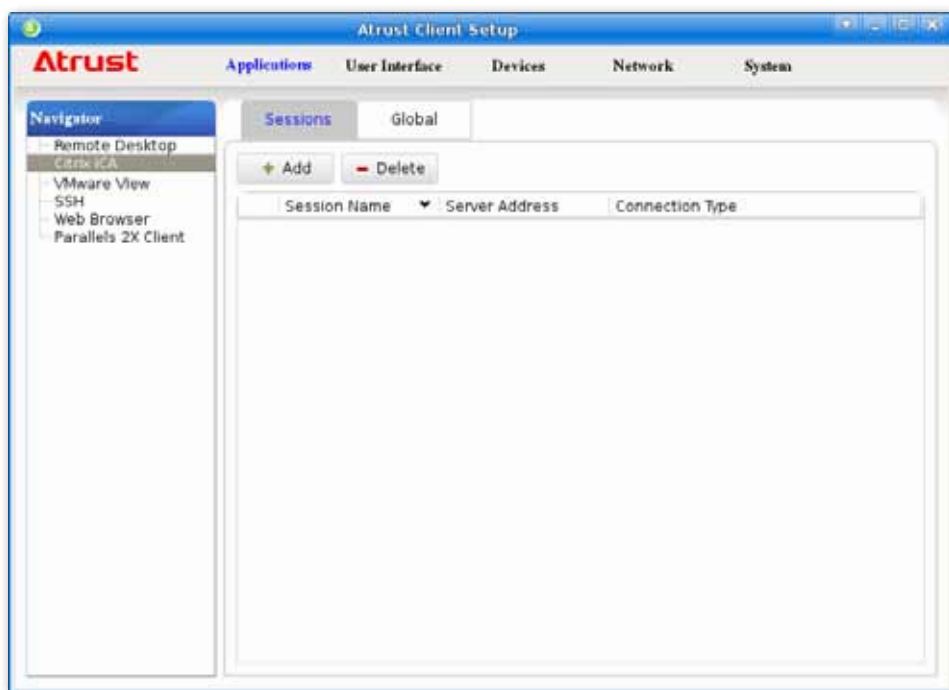


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 利用可能なICA接続リストが構成エリアに表示されます。

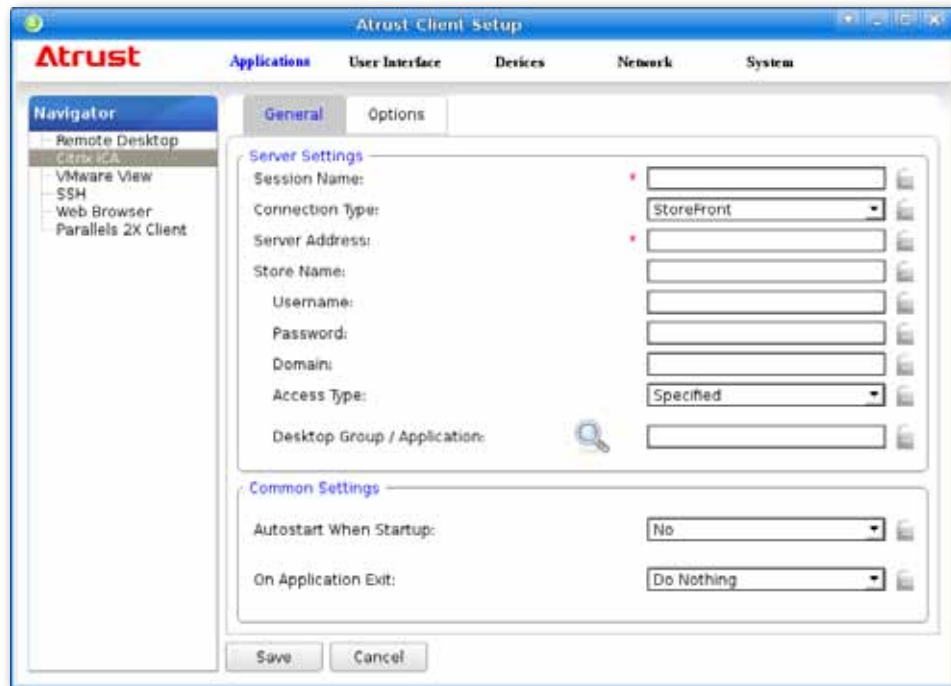


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。


4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして「StoreFront」を選択します。



5. セッション名、仮想アプリケーション/デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、およびデスクトップグループまたはアプリケーションの名前を入力します。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップグループまたはアプリケーションを見つけることができます。

6. [保存]をクリックして確定します。 カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。 その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”を参照してください。

接続タイプ : VDI-in-a-Box

VDI-in-a-Boxの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行します。

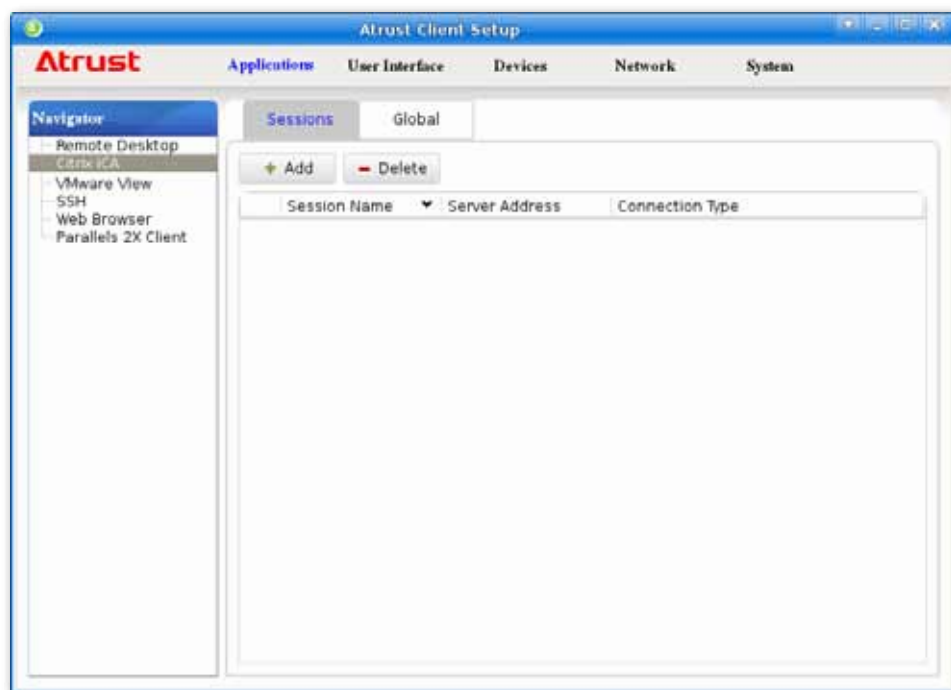


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン

- Atrust Client Setupで、**[アプリケーション]> [Citrix ICA]**をクリックします。
- 利用可能なICA接続リストが構成エリアに表示されます。

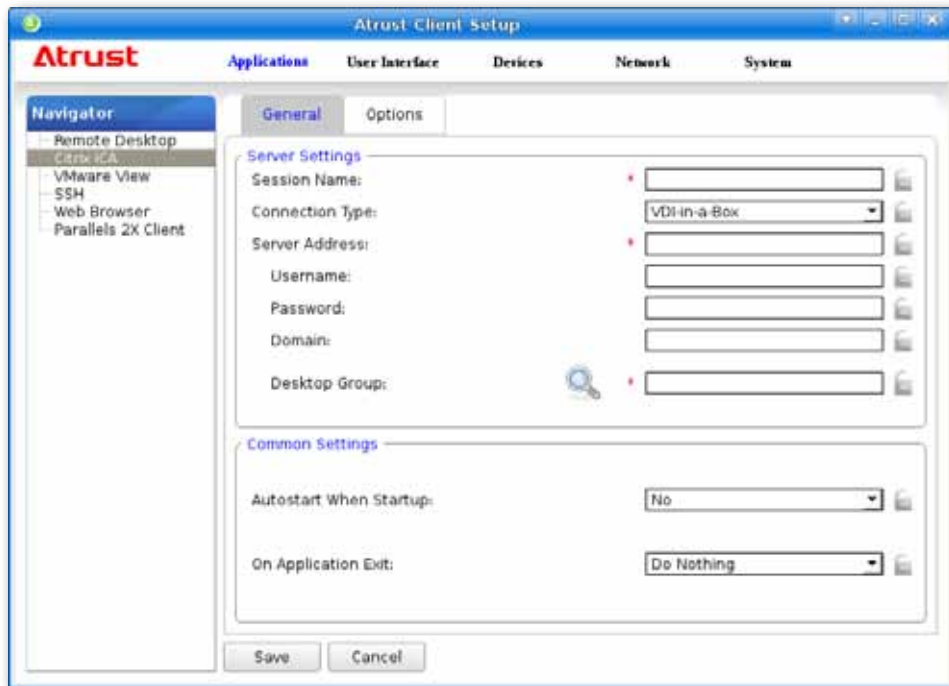


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

- ICA接続リストの上部にある**[追加]**をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。


4. **一般サブタブ**タブで、接続タイプドロップダウンメニューをクリックして、VDI-in-a-Boxを選択します。



5. セッション名、仮想デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、およびデスクトップグループの名前を入力します。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップグループを見つけることができます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。 カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。 その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”を参照してください。

接続タイプ : XenDesktop

XenDesktopの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。

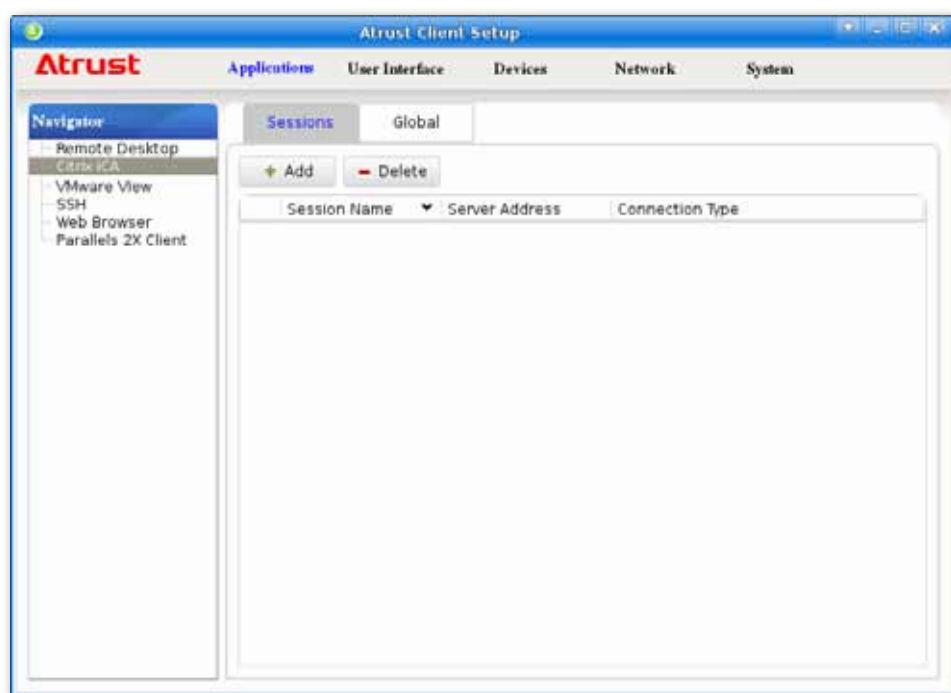


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
2. 利用可能なICA接続リストが構成エリアに表示されます。

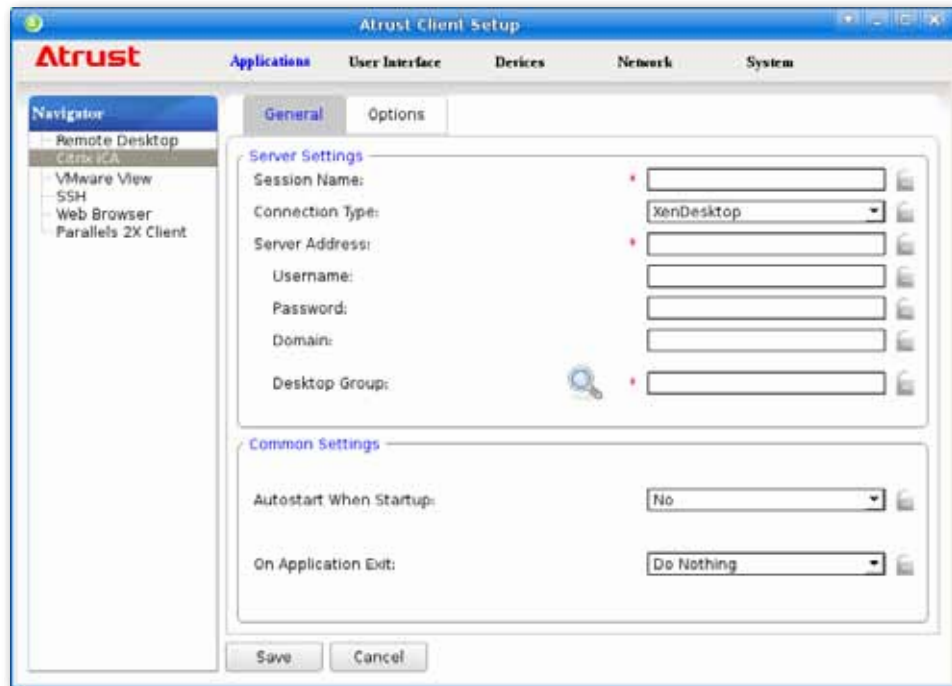


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。


4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして、**XenDesktop**を選択します。



5. セッション名、仮想デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、および目的のデスクトップグループを入力します。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップグループを見つけることができます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。 カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。 その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”を参照してください。

接続タイプ : XenApp

XenAppの接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、以下を実行してください。

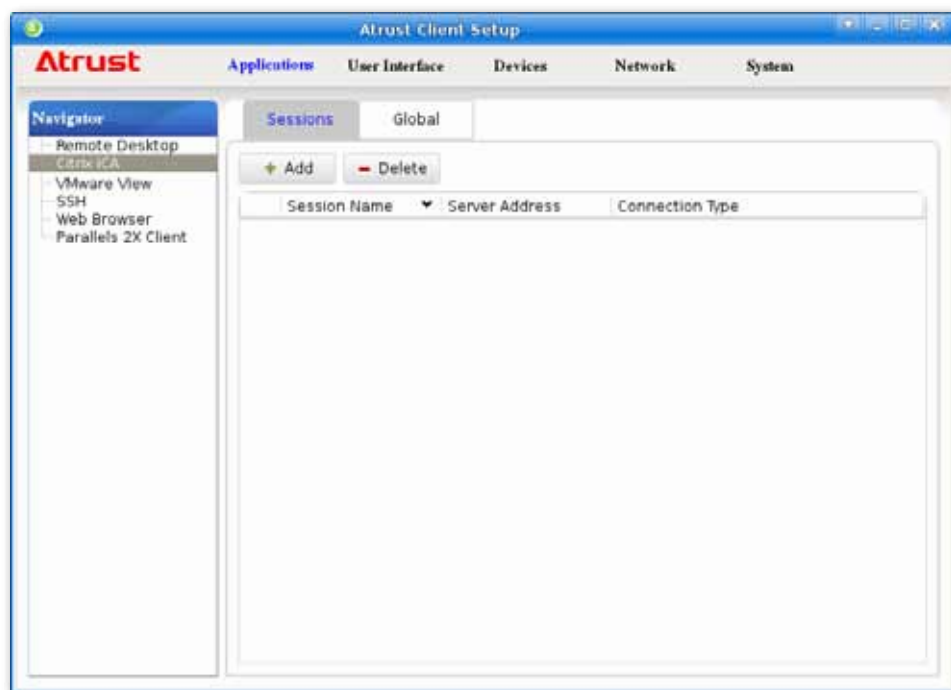


注意

- Citrix製品と推奨される接続タイプについては、次の表を参照してください。

Citrix製品	推奨接続タイプ
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン

- Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]をクリックします。
- 利用可能なICA接続リストが構成エリアに表示されます。

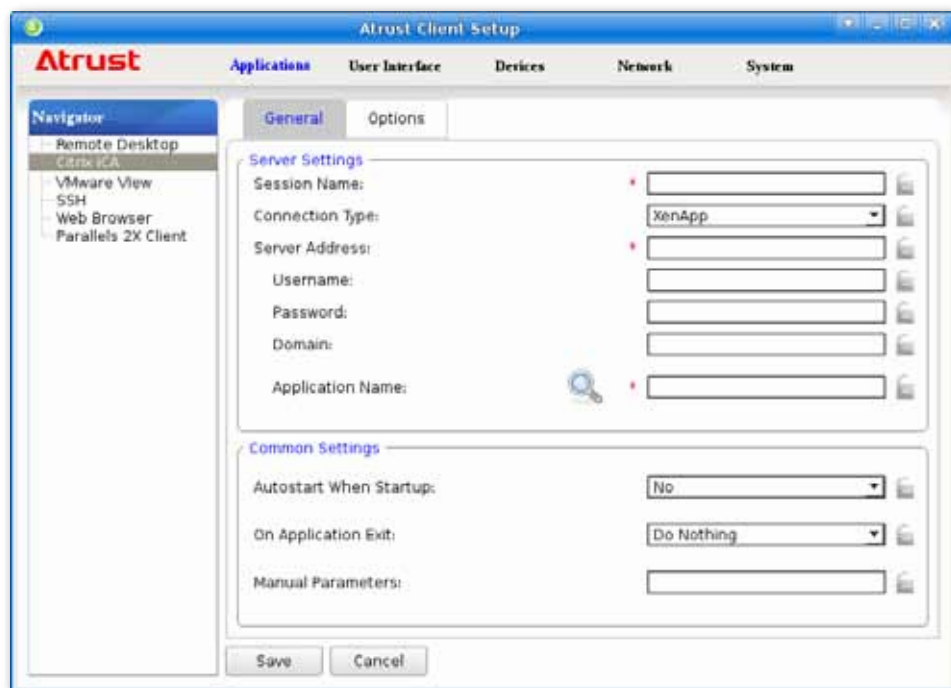


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

- ICA接続リストの上部にある[追加]をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。

4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして、**XenApp**を選択します。



5. セッション名、仮想アプリケーションにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDN、および目的のアプリケーション名を入力します。




注意

- サーバー側の構成によっては、サーバーアドレス（たとえば、XA65P.CTX.poc : **8080**）の**XMLポート番号**も指定する必要がある場合があります。



注意

- 検索アイコンを使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なアプリケーションを見つけることができます。

6. **[保存]**をクリックして確定します。カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”を参照してください。

接続タイプ：サーバー接続

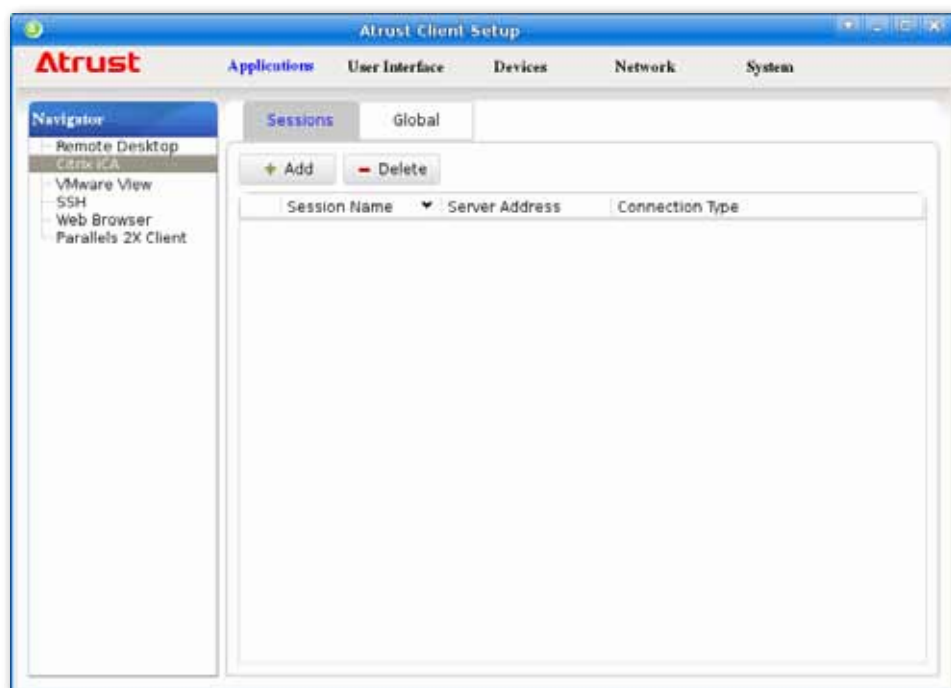
サーバー接続の接続タイプのICA接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。



注意

- この接続タイプは、**管理**のためにXenAppサーバーに接続するために使用され、XenApp 6.5以前のみをサポートします。

1. Atrust Client Setupで、**[アプリケーション]> [Citrix ICA]**をクリックします。
2. 利用可能なICA接続リストが構成エリアに表示されます。

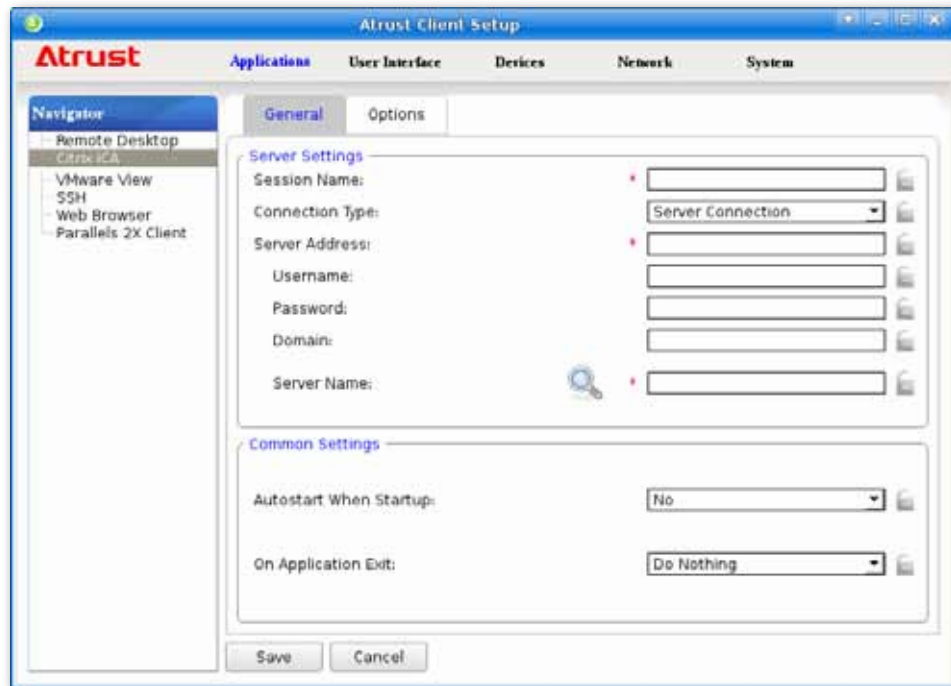


注意

- エントリを作成していない場合、ICA接続リストは空になります。

3. ICA接続リストの上部にある**[追加]**をクリックして、ICA接続の新しいエントリを作成します。

4. 「一般」サブタブで、「接続タイプ」ドロップダウンメニューをクリックして、「サーバー接続」を選択します。



5. セッション名、サーバーアドレス、サーバー名を入力します。




注意

- サーバー側の構成によっては、サーバーアドレス（たとえば、192.168.77.10 : 8080）のXMLポート番号も指定する必要がある場合があります。



注意

- この接続タイプでは、XenAppサーバーへの接続のみがサポートされています。
- サーバー名の検出に役立つ検索アイコンを使用できます。

6. [保存]をクリックして確定します。 カスタマイズされたアクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



注意

- サービス提供の計画とサーバーの構成によっては、サービスアクセス用に他の高度なICA接続設定を構成する必要がある場合があります。 その他の利用可能な設定の詳細については、セクション“3.6.11 ICA接続の詳細設定 (P.182)”を参照してください。

3.6.7 Citrix Receiverバージョンの切り替え

Citrix環境に古いバージョンのCitrix Receiverが必要な場合は、2つのバージョンのCitrix Receiverを切り替えることができます。

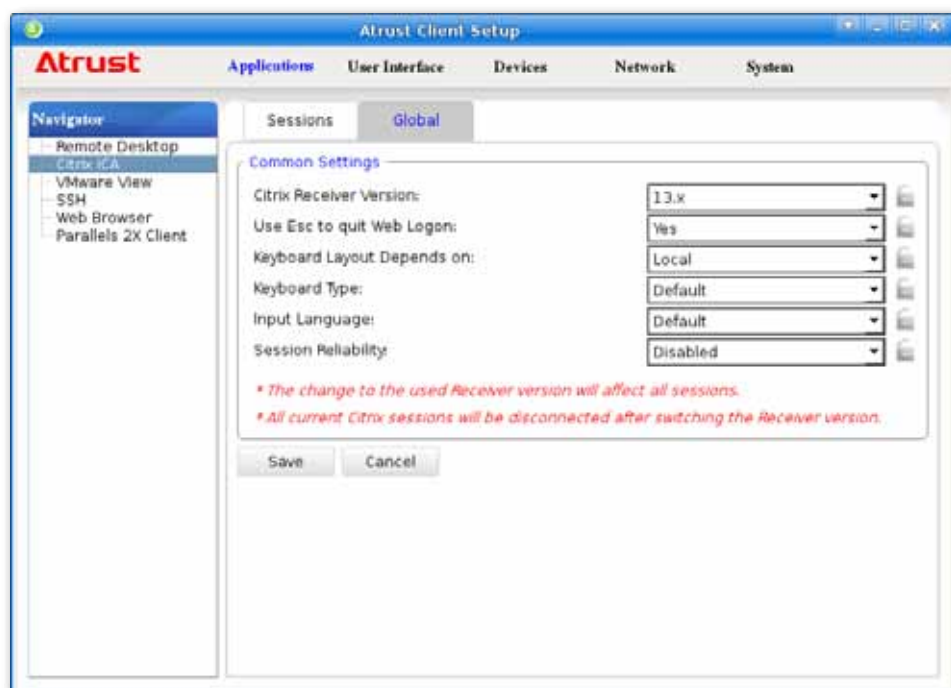
Citrix Receiverのバージョンを変更するには、以下を実行してください：



注意

- これはグローバル設定です。この変更はすべてのCitrix接続に影響します。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]> [グローバル]をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、目的のCitrix Receiverバージョンを選択します。 **12.x**と**13.x**の2つのオプションを使用できます。



ヒント

- デフォルトのCitrix Receiverのバージョンは**13.x**です。
- Citrix製品と推奨されるCitrix Receiverバージョンについては、次の表を参照してください。

Citrix製品	推奨されるレシーバーのバージョン
XenApp 6.5より前	12.x
XenDesktop 5.6より前	12.x
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.x以降)	13.x

3. [保存]をクリックして適用します。

3.6.8 Escを有効または無効にしてWebログイン画面で終了する

Escキーを使用してWebログイン画面を終了できるようにするかどうかを選択できます。

- 「はい」を選択した場合、EscキーとAlt + F4の両方を使用して、Webログイン画面を終了できます。
- 「いいえ」を選択すると、Alt + F4のみが機能します。

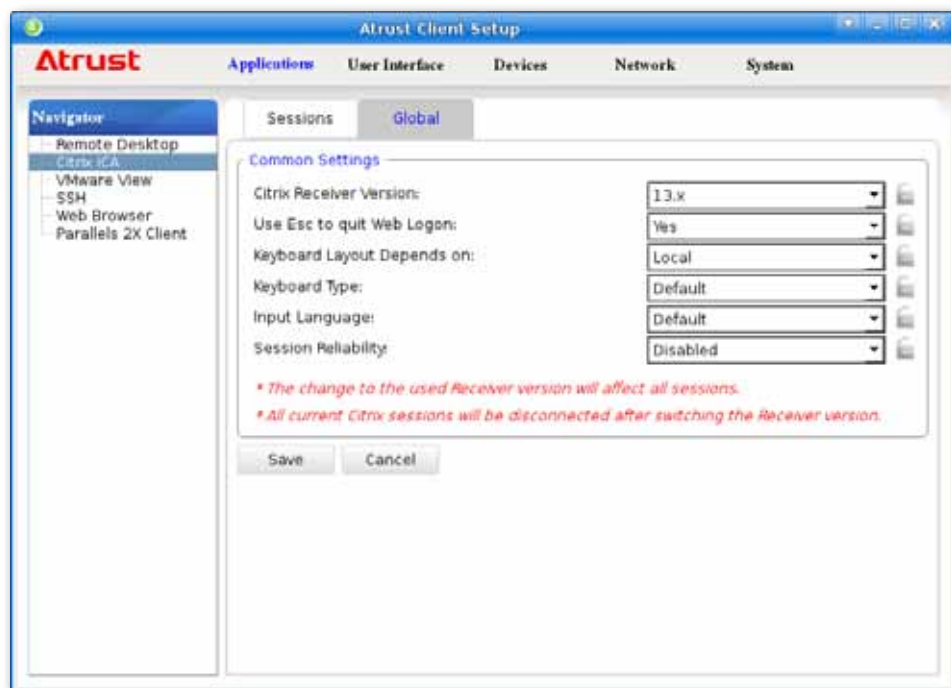
Webログイン画面でEsc to Quitを有効または無効にするには、次の手順を実行します。



注意

- これはグローバル設定です。この変更はすべてのCitrix接続に影響します。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]> [グローバル]をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして[はい]または[いいえ]を選択し、Esc to Quitを有効または無効にします。

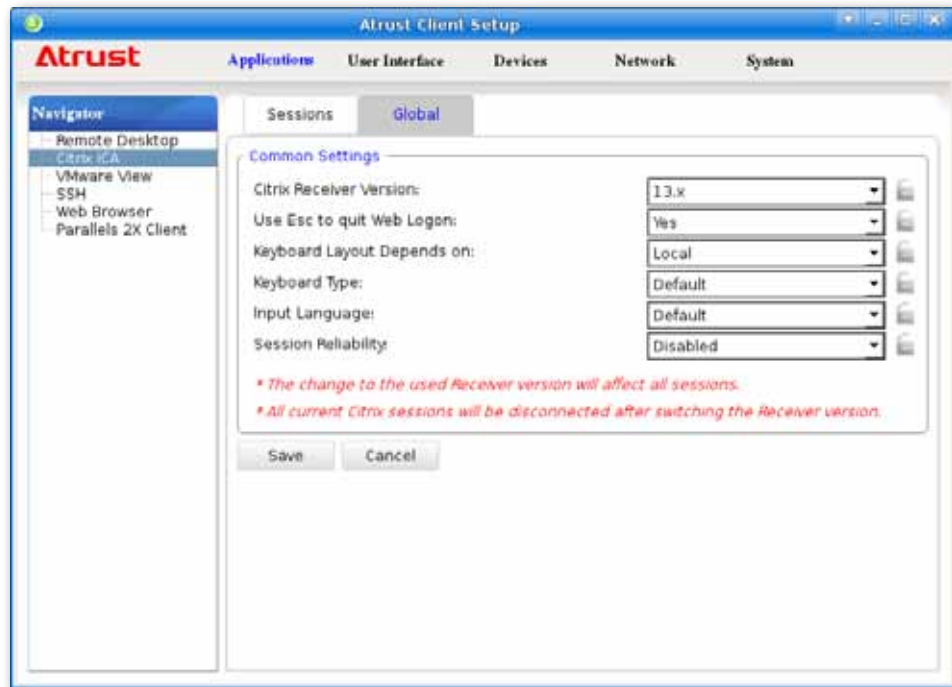


3. [保存]をクリックして適用します。

3.6.9 Citrix ICAセッションのキーボードレイアウトとタイプの設定

すべてのCitrix ICAセッションで使用するキーボードレイアウトとタイプを設定するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Citrix ICA]> [グローバル]をクリックします。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、キーボードレイアウトと目的のキーボードタイプを決定するものを選択します。



注意

- これらはグローバル設定です。変更はすべてのICAセッションに影響します。

3. [保存]をクリックして適用します。

3.6.10 Citrixサービスへのアクセス

StoreFront、VDI-in-a-Box、XenDesktop、XenApp、およびサーバー接続の接続タイプの場合
Citrixサービスにアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. デスクトップ上に作成された（カスタマイズされた）ショートカットをダブルクリックし、必要に応じて資格情報を入力します。
2. 接続タイプと設定に応じて、以下を見つけることができます。
 - 画面上で直接起動したデスクトップまたはアプリケーション
 - デスクトップまたはデスクトップ上のウィンドウに表示されているデスクトップまたはアプリケーションのショートカットにアクセスする

接続タイプがWebログオンの場合

Citrixサービスにアクセスするには、次の手順に従ってください。

1. デスクトップ上に作成された（カスタマイズされた）ショートカットをダブルクリックします。
2. Webブラウザーは、Citrixログオン画面の**フルスクリーン**で起動されます。

Citrixログオン画面の例：XenApp 6.0の基礎



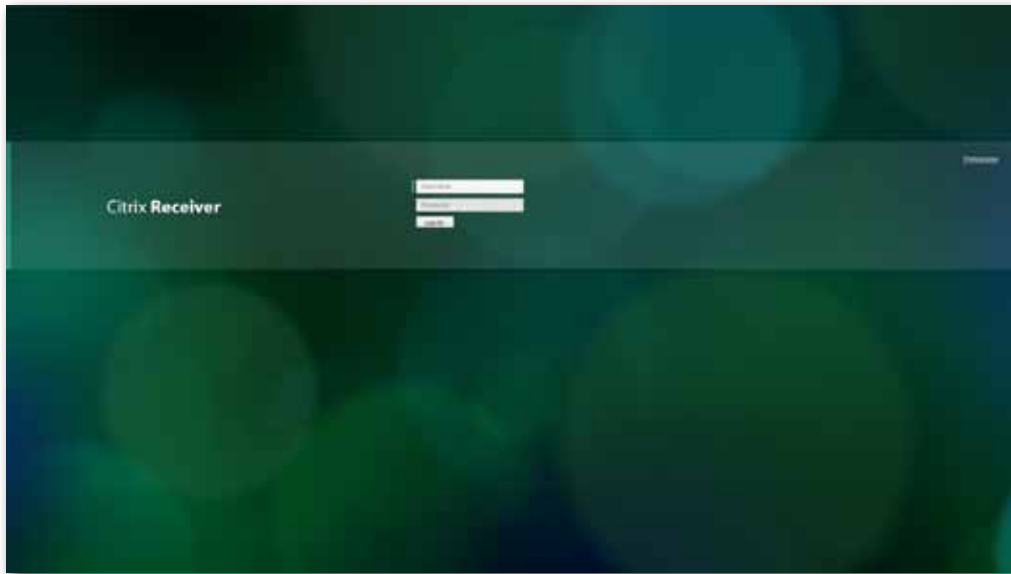
Citrixログオン画面の例 : XenApp 6.5 Platinum



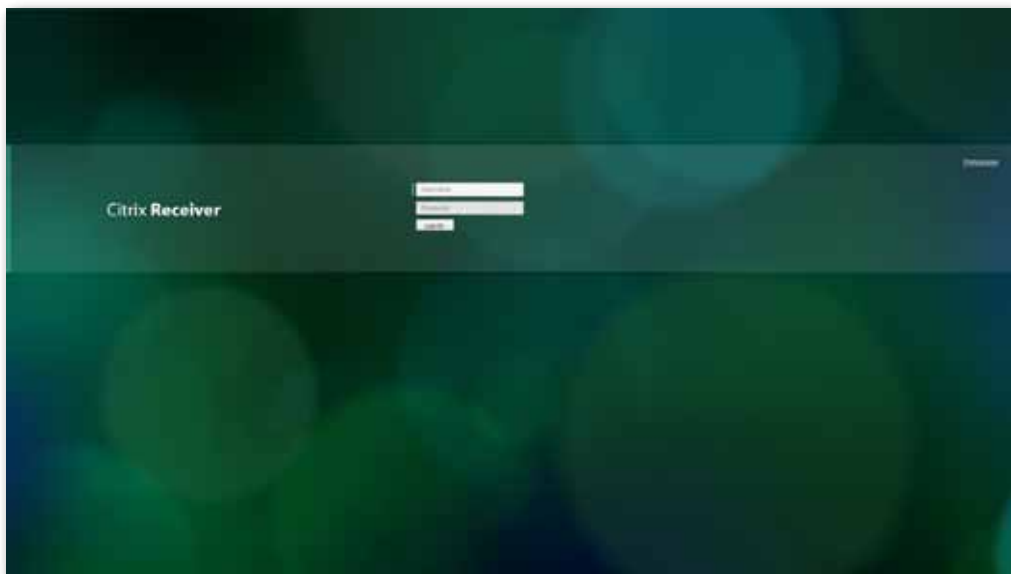
Citrixログオン画面の例 : XenDesktop 5.6 Platinum



Citrixログオン画面の例：VDI-in-a-Box



Citrixログオン画面の例：XenAppおよびXenDesktop 7.5 Platinum



3. 必要な資格情報を入力し、**[ログオン]**をクリックします。



注意

- XenAppサーバーがどのドメインにも属していない場合は、代わりにサーバー名を「ドメイン」フィールドに入力します。

4. デスクトップまたはアプリケーションの選択画面で、目的のデスクトップまたはアプリケーションをクリックして選択します。



注意

- 提供された資格情報に割り当てられている仮想デスクトップのタイプが1つだけの場合は、仮想デスクトップを直接入力できます。

選択画面の例 : XenApp 6.5 Platinum



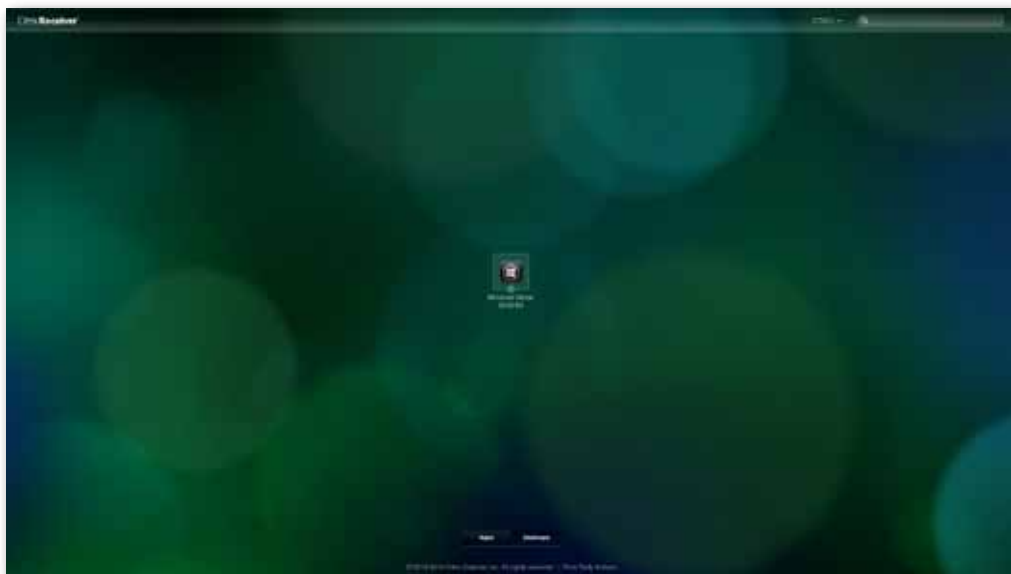
選択画面の例 : XenDesktop 5.6 Platinum



選択画面の例 : XenApp 7.5 Platinum



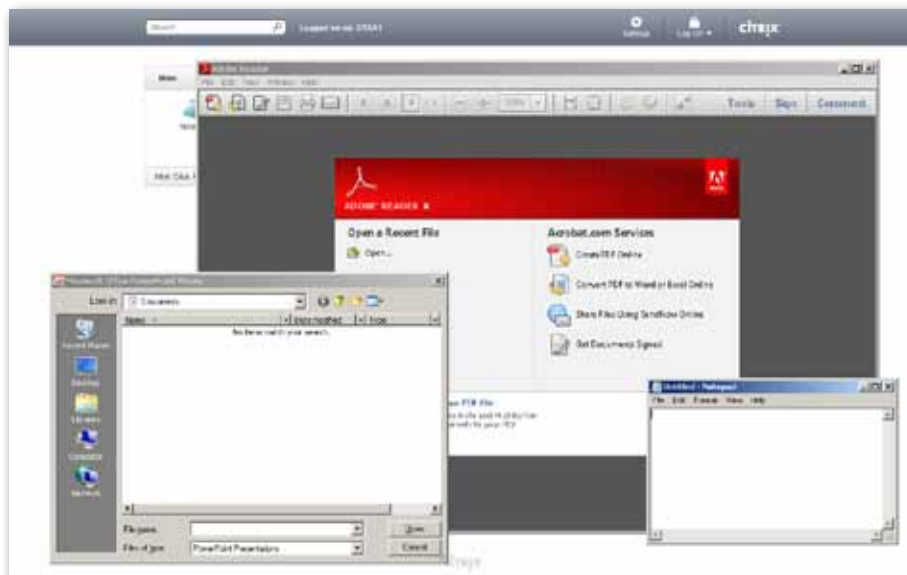
選択画面の例 : XenDesktop 7.5 Platinum



5. 選択した仮想デスクトップまたはアプリケーションが画面に表示されます。

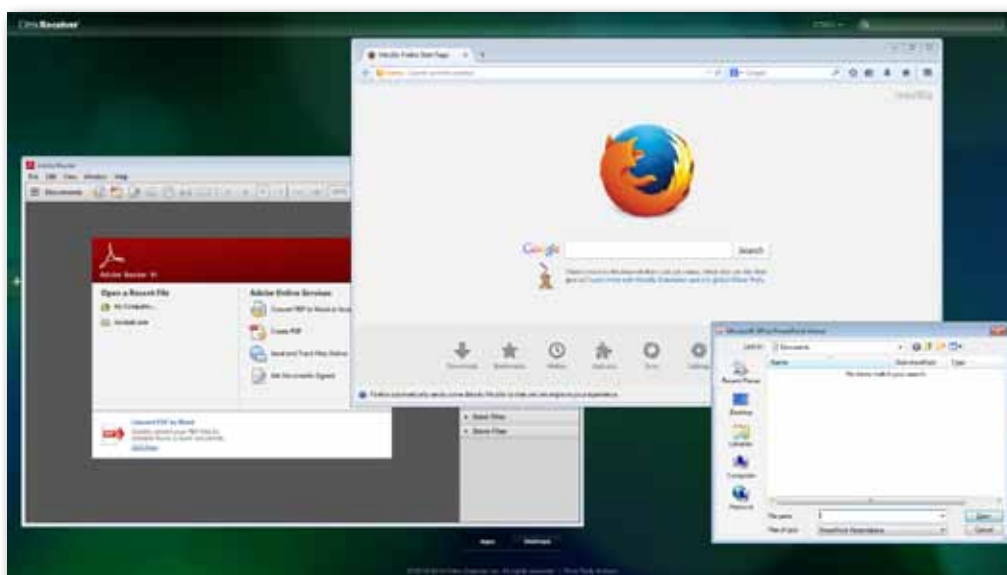
仮想アプリケーションの例

PowerPoint Viewer, Adobe Reader, およびNotepad



仮想アプリケーションの例

Adobe Reader, Mozilla Firefox, およびPowerPoint Viewer



仮想デスクトップの例 Windows 7 Ultimate



仮想デスクトップの例 Windows Server 2008 R2



3.6.11 ICA接続の詳細設定

次の表は、ICA接続の各設定項目の説明です。これらの表を参照して詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。



注意

- 使用可能な設定は、選択した接続タイプによって異なることに注意してください。

Webログオンの接続タイプの設定



注意

- StoreFrontの接続タイプの利用可能な設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.187)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプで利用可能な設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.192)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.197)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.202)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.207)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrixサービスアクセスのブラウザーセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、Webログオンが選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。</p> <p>6つの接続タイプを使用できます</p> <table> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> <tr> <td>Webログオン</td><td>Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>StoreFront</td><td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>XenDesktop</td><td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>XenApp</td><td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>サーバー接続</td><td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td></tr> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table> <tr> <th>Citrix製品</th><th>推奨接続タイプ</th></tr> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td><td>XenApp / Webログオン</td></tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td><td>XenDesktop / Webログオン</td></tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）</td><td>StoreFront / Webログオン</td></tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Box / Webログオン</td></tr> </table>	オプション	説明文	Webログオン	Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン	仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）	StoreFront / Webログオン	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン
オプション	説明文																								
Webログオン	Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン																								
仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）	StoreFront / Webログオン																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン																								

サーバーアドレス	CitrixサービスにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。 詳細については、以下の表を参照してください。	
	Citrix製品	接続するコンポーネント 接続アドレス
	XenApp 6.5以前	ウェブインターフェース IP / URL / FQDN
	XenDesktop 5.6以前	ウェブインターフェース IP / URL / FQDN
すべてのCitrixセッションが閉じられたとき	仮想アプリとデスクトップ (XenAppおよびXenDesktop 7.5以降)	StoreFront IP / URL / FQDNおよびサブパス 例えば - FQDN: X75.CTX.poc サブパス: /Citrix/StoreWeb (デフォルト) 接続アドレス: X75.CTX.poc/Citrix/StoreWeb
	すべてのCitrixセッションが閉じられたときに次に何をするかを選択します。	
	オプション	説明文
	Webログオンに戻る	Webログオン画面のままにします。
	Webログオンを終了する	Webログオン画面を終了します。
	注意: 仮想アプリケーションまたはデスクトップを1つだけ開いて閉じた場合、ここでのオプションが適用されます。	

共通設定

項目	説明文						
起動時に自動起動	<p>mt182Lの起動時に、Citrixサービスにアクセスするためのブラウザセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p>						
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td>1</td><td>アプライアンス</td><td><p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p><p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p><ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする
	No.	モード	説明文				
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする				
2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする					
3	クイック接続	<p>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>					

注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。

| アプリケーション終了時 | Citrixサービスアクセスのブラウザーセッションが終了したときの処理を選択します。 **何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン**の4つのオプションがあります。 | オプション | 説明文 | |----------------|-------------------------------| | 何もしない | ローカルLinuxデスクトップに戻ります。 | | アプリケーションを再起動する | サービスアクセスのためにブラウザセッションを再度開きます。 | | 再起動する | シンクライアントを再起動します。 | | シャットダウン | シンクライアントをオフにします。 | |

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にし、Citrix ICAセッションでアクセスタイプを選択します。3つのオプション、No、Read Only、Read Writeを使用できます。読み取り専用または読み取りと書き込みが選択されている場合、ローカルに接続されたUSBドライブは、起動されたCitrix ICAセッションで使用可能になります。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”をご覧ください。</p>
ローカルシリアルポートのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、mt182Lには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアル-USBアダプターでmt182Lに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>
ローカルプリンターのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、詳細な手順について“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”セクションを参照してください。</p>
接続設定	
項目	説明文
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮を使用	<p>クリックすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効/無効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>
USBリダイレクト設定	
項目	説明文
USBストレージ	<p>これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.64)”を参照してください。</p>
プリンター	
接続されたUSBデバイスをリダイレクト	
差し込まれたUSBデバイス	
リダイレクトルール	

StoreFrontの接続タイプの設定



注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.182)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.192)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.197)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.202)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.207)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、StoreFrontが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。 6つの接続タイプを使用できます</p> <table> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> <tr> <td>Webログオン</td><td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>StoreFront</td><td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>XenDesktop</td><td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>XenApp</td><td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>サーバー接続</td><td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td></tr> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table> <tr> <th>Citrix製品</th><th>推奨接続タイプ</th></tr> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td><td>XenApp / Webログオン</td></tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td><td>XenDesktop / Webログオン</td></tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td><td>StoreFront / Webログオン</td></tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Box / Webログオン</td></tr> </table>	オプション	説明文	Webログオン	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。	Citrix製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログオン	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン
オプション	説明文																								
Webログオン	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。																								
Citrix製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログオン																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン																								

サーバーアドレス	(StoreFrontがホストされている) 仮想デスクトップまたはアプリケーションにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。												
Store Name	必要に応じて、Citrix環境のストア名を入力します。												
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。												
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。												
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。												
アクセスタイプ	<div>ドロップダウンメニューをクリックして、アクセスタイプを選択します。2つのオプション、SpecifiedとAllを使用できます。</div> <table><thead><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr></thead><tbody><tr><td>Specified</td><td><ul style="list-style-type: none">特定のデスクトップ/アプリケーション、またはウィンドウのショートカットにアクセスする</td></tr><tr><td>All</td><td><ul style="list-style-type: none">デスクトップのショートカットにアクセスする</td></tr></tbody></table>	オプション	説明文	Specified	<ul style="list-style-type: none">特定のデスクトップ/アプリケーション、またはウィンドウのショートカットにアクセスする	All	<ul style="list-style-type: none">デスクトップのショートカットにアクセスする						
オプション	説明文												
Specified	<ul style="list-style-type: none">特定のデスクトップ/アプリケーション、またはウィンドウのショートカットにアクセスする												
All	<ul style="list-style-type: none">デスクトップのショートカットにアクセスする												
デスクトップグループ/アプリケーション	デスクトップグループ/アプリケーションの名前を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なデスクトップグループ/アプリケーションを見つけます。												
共通設定													
項目	説明文												
起動時に自動起動	<p>mt182Lの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。</p> <p>注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。</p> <table><thead><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr></thead><tbody><tr><td>1</td><td>アプライアンス</td><td><p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p><p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p><ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr><tr><td>2</td><td>自動起動</td><td><p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p><p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p><ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr><tr><td>3</td><td>クイック接続</td><td><p>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p></td></tr></tbody></table> <p>注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。</p>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする	3	クイック接続	<p>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする										
	2	自動起動	<p>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</p> <p>利用可能なアクションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする										
3	クイック接続	<p>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</p>											

アプリケーション終了時	<div>Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウンの4つのオプションがあります。</div> <table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>何もしない</td><td>ローカルLinuxデスクトップに戻ります。</td></tr><tr><td>アプリケーションを再起動する</td><td>ICAセッションを再度開きます。</td></tr><tr><td>再起動する</td><td>シンククライアントを再起動します。</td></tr><tr><td>シャットダウン</td><td>シンククライアントをオフにします。</td></tr></table>	オプション	説明文	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。	アプリケーションを再起動する	ICAセッションを再度開きます。	再起動する	シンククライアントを再起動します。	シャットダウン	シンククライアントをオフにします。
オプション	説明文										
何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。										
アプリケーションを再起動する	ICAセッションを再度開きます。										
再起動する	シンククライアントを再起動します。										
シャットダウン	シンククライアントをオフにします。										
アプリケーションの再起動時に資格情報を要求する	<div>この設定項目は、「アプリケーションの終了時」で「アプリケーションの再起動」が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。</div>										

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット 、および 自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
ウィンドウモード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のウィンドウモードを選択します。2つのオプション、 レギュラーウィンドウ と シームレスウィンドウ を使用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”をご覧ください。</p>
ローカルシリアルポートのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、mt182Lには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアル-USBアダプターでmt182Lに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>

ローカルプリンターのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、詳細な手順について“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)” セクションを参照してください。</p>								
接続設定									
項目	説明文								
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>								
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>								
H264圧縮を使用	<p>クリックすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効/無効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>								
自動再接続を有効にする	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイトsupport.citrix.comまたはwww.citrix.comにアクセスしてください。</p>								
再試行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。</p>								
再試行間の遅延	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>								
オーディオを有効にする	<p>Check/Uncheck to enable/disable sound in an ICA session.</p>								
オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。高品質、中品質、低品質の3つのオプションを使用できます。</p>								
	<table><thead><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr></thead><tbody><tr><td>高品質</td><td>エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td></tr><tr><td>中品質</td><td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</td></tr><tr><td>低品質</td><td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</td></tr></tbody></table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。
	オプション	説明文							
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。							
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								
オーディオ入力を有効にする	<p>ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。</p>								

Windowsキーの組み合わせ	ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。 次の3つのオプションを使用できます。ローカルコンピューター上、リモートサーバー上、および全画面モードのみ。	
	オプション	説明文
	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。
	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。
	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
接続ダイアログの設定		
項目	説明文	
記憶フィールドを表示	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの[資格情報を記憶する]チェックボックスを表示または非表示にします。	
USBリダイレクト設定		
項目	説明文	
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.64)”を参照してください。	
プリンター		
接続されたUSBデバイスをリダイレクト		
差し込まれたUSBデバイス		
リダイレクトルール		

VDI-in-a-Boxの接続タイプ^oの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.182)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.187)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.197)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.202)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.207)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定

項目	説明文														
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。														
接続タイプ	<p>この表では、VDI-in-a-Boxが選択されている場合に使用可能な設定についてのみ説明します。</p> <p>6つの接続タイプを使用できます</p> <table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>Webログイン</td><td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>StoreFront</td><td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>XenDesktop</td><td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>XenApp</td><td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>サーバー接続</td><td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td></tr></table>	オプション	説明文	Webログイン	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。
	オプション	説明文													
	Webログイン	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。													
	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。													
	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。													
	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。													
	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。													
	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。													
		<p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table><tr><th>Citrix製品</th><th>推奨接続タイプ</th></tr><tr><td>XenApp 6.5以前</td><td>XenApp / Webログイン</td></tr><tr><td>XenDesktop 5.6以前</td><td>XenDesktop / Webログイン</td></tr><tr><td>仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）</td><td>StoreFront / Webログイン</td></tr><tr><td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Box / Webログイン</td></tr></table>	Citrix製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン	仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）	StoreFront / Webログイン	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン			
	Citrix製品	推奨接続タイプ													
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン														
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン														
仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）	StoreFront / Webログイン														
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン														

サーバーアドレス	仮想デスクトップにアクセスできるサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。							
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。							
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。							
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。							
デスクトップグループ/アプリケーション	デスクトップグループ/アプリケーションの名前を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なデスクトップグループ/アプリケーションを見つけます。							
共通設定								
項目	説明文							
起動時に自動起動	mt182Lの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。							
	注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。							
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする
	No.	モード	説明文					
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。					
利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする								
2	自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。						
		利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする						
3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。						
	注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。							

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン の4つのオプションがあります。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動する	ICAセッションを再度開きます。
	再起動する	シンクライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンクライアントをオフにします。
アプリケーションの再起動時に資格情報を要求する	この設定項目は、「 アプリケーションの終了時 」で「 アプリケーションの再起動 」が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット 、および 自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”をご覧ください。</p>
ローカルシリアルポートのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、mt182Lには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアル-USBアダプターでmt182Lに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>

ローカルプリンターのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、詳細な手順について“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”セクションを参照してください。</p>								
接続設定									
項目	説明文								
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>								
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>								
H264圧縮を使用	<p>クリックすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効/無効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>								
自動再接続を有効にする	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイトsupport.citrix.comまたはwww.citrix.comにアクセスしてください。</p>								
再試行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。</p>								
再試行間の遅延	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>								
オーディオを有効にする	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>								
オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。高品質、中品質、低品質の3つのオプションを使用できます。</p>								
	<table><thead><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr></thead><tbody><tr><td>高品質</td><td>エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td></tr><tr><td>中品質</td><td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</td></tr><tr><td>低品質</td><td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</td></tr></tbody></table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。
	オプション	説明文							
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。							
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								

オーディオ入力を有効にする	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
Windowsキーの組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。次の3つのオプションを使用できます。ローカルコンピューター上、リモートサーバー上、および全画面モードのみ。</p> <table> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> <tr> <td>ローカルコンピューター上</td><td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td></tr> <tr> <td>リモートサーバー上</td><td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td></tr> <tr> <td>全画面モードのみ</td><td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td></tr> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
接続ダイアログの設定									
項目	説明文								
記憶フィールドを表示	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの[資格情報を記憶する]チェックボックスを 表示 または 非表示 にします。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.64)”を参照してください。								
プリンター									
接続されたUSBデバイスをリダイレクト									
差し込まれたUSBデバイス									
リダイレクトルール									

XenDesktopの接続タイプ^oの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.182)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.187)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.192)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.202)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.207)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定

項目	説明文													
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。													
接続タイプ	この表は、 XenDesktop が選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。 6つの接続タイプを使用できます													
	オプション	説明文	Webログイン	Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。
	オプション	説明文												
	Webログイン	Webブラウザー（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。												
	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。												
	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。												
	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。												
	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。												
	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。												
	Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。													
<table><tr><th>Citrix製品</th><th>推奨接続タイプ</th></tr><tr><td>XenApp 6.5以前</td><td>XenApp / Webログイン</td></tr><tr><td>XenDesktop 5.6以前</td><td>XenDesktop / Webログイン</td></tr><tr><td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td><td>StoreFront / Webログイン</td></tr><tr><td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Box / Webログイン</td></tr></table>	Citrix製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン				
Citrix製品	推奨接続タイプ													
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログイン													
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログイン													
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログイン													
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログイン													

サーバーアドレス	仮想デスクトップにアクセスできるサーバー（Webインターフェイスがホストされている）のIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。														
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。														
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。														
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。														
デスクトップグループ	デスクトップグループの名前を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なデスクトップグループを見つけます。														
共通設定															
項目	説明文														
起動時に自動起動	mt182Lの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。														
	注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。														
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr><tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">自動起動</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr><tr><td>3</td><td>クイック接続</td><td>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする	2	自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする	3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
	No.	モード	説明文												
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。												
利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする															
2	自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。													
		利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする													
3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。													
	注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。														

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン の4つのオプションがあります。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動する	ICAセッションを再度開きます。
	再起動する	シンクライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンクライアントをオフにします。
アプリケーションの再起動時に資格情報を要求する	この設定項目は、「 アプリケーションの終了時 」で「 アプリケーションの再起動 」が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット 、および 自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”をご覧ください。</p>
ローカルシリアルポートのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。 「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、mt182Lには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアル-USBアダプターでmt182Lに接続する場合、仮想デスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>

ローカルプリンターのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、詳細な手順について“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”セクションを参照してください。</p>				
接続設定					
項目	説明文				
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>				
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>				
H264圧縮を使用	<p>クリックすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効/無効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>				
自動再接続を有効にする	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイトsupport.citrix.comまたはwww.citrix.comにアクセスしてください。</p>				
再試行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。</p>				
再試行間の遅延	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>				
オーディオを有効にする	<p>Check/Uncheck to enable/disable sound in an ICA session.</p>				
オーディオ品質	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。高品質、中品質、低品質の3つのオプションを使用できます。</p>				
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>高品質</td><td>エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td></tr></table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。
	オプション	説明文			
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。			
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。				
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。				

オーディオ入力を有効にする	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
Windowsキーの組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。次の3つのオプションを使用できます。ローカルコンピューター上、リモートサーバー上、および全画面モードのみ。</p> <table> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> <tr> <td>ローカルコンピューター上</td><td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td></tr> <tr> <td>リモートサーバー上</td><td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td></tr> <tr> <td>全画面モードのみ</td><td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td></tr> </table>	オプション	説明文	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
接続ダイアログの設定									
項目	説明文								
記憶フィールドを表示	ドロップダウンメニューをクリックして、ダイアログウィンドウの[資格情報を記憶する]チェックボックスを 表示 または 非表示 にします。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.64)”を参照してください。								
プリンター									
接続されたUSBデバイスをリダイレクト									
差し込まれたUSBデバイス									
リダイレクトルール									

XenAppの接続タイプの設定




注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.182)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.187)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.192)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの使用可能な設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.197)”を参照してください。
- サーバー接続の接続タイプの設定については、“サーバー接続の接続タイプの設定 (P.207)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定																									
項目	説明文																								
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。																								
接続タイプ	<p>この表は、XenAppが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。 6つの接続タイプを使用できます</p> <table> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> <tr> <td>Webログオン</td><td>Webブラウザー (Mozilla Firefox) のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>StoreFront</td><td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>XenDesktop</td><td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>XenApp</td><td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr> <tr> <td>サーバー接続</td><td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します (XenAppサーバーのみ)。</td></tr> </table> <p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table> <tr> <th>Citrix製品</th><th>推奨接続タイプ</th></tr> <tr> <td>XenApp 6.5以前</td><td>XenApp / Webログオン</td></tr> <tr> <td>XenDesktop 5.6以前</td><td>XenDesktop / Webログオン</td></tr> <tr> <td>仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)</td><td>StoreFront / Webログオン</td></tr> <tr> <td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Box / Webログオン</td></tr> </table>	オプション	説明文	Webログオン	Webブラウザー (Mozilla Firefox) のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します (XenAppサーバーのみ)。	Citrix製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン	仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログオン	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン
オプション	説明文																								
Webログオン	Webブラウザー (Mozilla Firefox) のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。																								
XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。																								
サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します (XenAppサーバーのみ)。																								
Citrix製品	推奨接続タイプ																								
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン																								
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン																								
仮想アプリとデスクトップ (XenApp / XenDesktop 7.5以降)	StoreFront / Webログオン																								
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン																								

サーバーアドレス	XenAppサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。									
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。									
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。									
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。									
アプリケーション名	アプリケーション名を入力するか、フィールドの前にある検索アイコン  を使用して、使用可能なアプリケーションを見つけます。									
共通設定										
項目	説明文									
起動時に自動起動	mt182Lの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。									
	注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。									
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td></td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。	<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする	
	No.	モード	説明文							
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。							
利用可能なアクションは次のとおりです。										
<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする										
<table><tr><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">自動起動</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td></td></tr></table>	2	自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。	<ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする					
2			自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。						
				利用可能なアクションは次のとおりです。						
				<ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする						
<table><tr><td>3</td><td>クイック接続</td><td>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td></tr></table>	3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。							
3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。								
	注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。									

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン の4つのオプションがあります。	
	オプション	説明文
	何もしない	ローカルLinuxデスクトップに戻ります。
	アプリケーションを再起動する	ICAセッションを再度開きます。
	再起動する	シンククライアントを再起動します。
	シャットダウン	シンククライアントをオフにします。
アプリケーションの再起動時に資格情報を要求する	この設定項目は、「 アプリケーションの終了時 」で「 アプリケーションの再起動 」が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。	
手動パラメーター	拡張パラメーターを渡すためのパラメーターを入力します。	

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット 、および 自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	この項目は、 通常ウィンドウ が選択されている場合にのみ使用できます。 ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
ウィンドウモード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のウィンドウモードを選択します。2つのオプション、 レギュラーウィンドウ と シームレスウィンドウ を使用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージのマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。 注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”をご覧ください。

ローカルシリアルポートのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、mt182Lには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、それをシリアル-USBアダプターでmt182Lに接続する場合、提供されたアプリケーションでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>
ローカルプリンターのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、詳細な手順について“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”セクションを参照してください。</p>
接続設定	
項目	説明文
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮を使用	<p>クリックすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効/無効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>
ネットワークプロトコル	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、接続に使用するプロトコルを選択します。3つのオプション、TCP / IP、TCP / IP + HTTPサーバーの場所、およびSSL / TLS + HTTPSサーバーの場所を使用できます。</p>
自動再接続を有効にする	ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。
再試行回数	ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。
再試行間の遅延	ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。
オーディオを有効にする	ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。

オーディオ品質	ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。 高品質、中品質、低品質 の3つのオプションを使用できます。	
	オプション	説明文
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。
	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。
	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。
オーディオ入力を有効にする	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。	
Windowsキーの組み合わせ	ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。 次の3つのオプションを使用できます。 ローカルコンピューター上、リモートサーバー上、および全画面モードのみ。	
	オプション	説明文
	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。
	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。
	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
USBリダイレクト設定		
項目	説明文	
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.64)”を参照してください。	
プリンター		
接続されたUSBデバイスをリダイレクト		
差し込まれたUSBデバイス		
リダイレクトルール		

サーバー接続の接続タイプ^oの設定



注意

- Webログオンの接続タイプで利用可能な設定については、“Webログオンの接続タイプの設定 (P.182)”を参照してください。
- StoreFrontの接続タイプの設定については、“StoreFrontの接続タイプの設定 (P.187)”を参照してください。
- VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定については、“VDI-in-a-Boxの接続タイプの設定 (P.192)”を参照してください。
- XenDesktopの接続タイプの使用可能な設定については、“XenDesktopの接続タイプの設定 (P.197)”を参照してください。
- XenAppの接続タイプの設定については、“XenAppの接続タイプの設定 (P.202)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定

項目	説明文														
セッション名	Citrix ICAセッションの名前を入力します。														
接続タイプ	<p>この表は、サーバー接続が選択されている場合に利用可能な設定の説明のみを提供します。</p> <p>6つの接続タイプを使用できます</p> <table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>Webログオン</td><td>Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>StoreFront</td><td>StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>XenDesktop</td><td>XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>XenApp</td><td>XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。</td></tr><tr><td>サーバー接続</td><td>管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。</td></tr></table>	オプション	説明文	Webログオン	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。
	オプション	説明文													
	Webログオン	Webブラウザ（Mozilla Firefox）のインターフェースを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。													
	StoreFront	StoreFrontを介して仮想デスクトップおよびアプリケーションへのアクセスを提供します。													
	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Boxを介して仮想デスクトップへのアクセスを提供します。													
	XenDesktop	XenDesktopの以前のバージョンの仮想デスクトップへのアクセスを提供します。													
	XenApp	XenAppの以前のバージョンの仮想アプリケーションへのアクセスを提供します。													
	サーバー接続	管理用のサーバーへのアクセスを提供します（XenAppサーバーのみ）。													
		<p>Citrix製品と推奨される接続タイプについては、以下の表を参照してください。</p> <table><tr><th>Citrix製品</th><th>推奨接続タイプ</th></tr><tr><td>XenApp 6.5以前</td><td>XenApp / Webログオン</td></tr><tr><td>XenDesktop 5.6以前</td><td>XenDesktop / Webログオン</td></tr><tr><td>仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）</td><td>StoreFront / Webログオン</td></tr><tr><td>VDI-in-a-Box</td><td>VDI-in-a-Box / Webログオン</td></tr></table>	Citrix製品	推奨接続タイプ	XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン	XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン	仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）	StoreFront / Webログオン	VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン			
	Citrix製品	推奨接続タイプ													
XenApp 6.5以前	XenApp / Webログオン														
XenDesktop 5.6以前	XenDesktop / Webログオン														
仮想アプリとデスクトップ （XenApp / XenDesktop 7.5以降）	StoreFront / Webログオン														
VDI-in-a-Box	VDI-in-a-Box / Webログオン														

サーバーアドレス	XenAppサーバーのIPアドレス/ URL / FQDNを入力します。 注意: サーバー接続は、XenAppサーバーへの接続のみをサポートしています。									
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。									
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。									
ドメイン	サーバーのドメインを入力します。									
サーバー名	サーバーの名前を入力します。									
共通設定										
項目	説明文									
起動時に自動起動	mt182Lの起動時に自動でCitrix ICAセッションを開くかどうかを選択します（自動起動モード）。 注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。 3つのモードと優先順位は次のとおりです。									
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td></td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。	<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする	
	No.	モード	説明文							
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。							
			利用可能なアクションは次のとおりです。							
<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする										
<table><tr><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">自動起動</td><td>クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td></td></tr></table>	2	自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。	<ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする					
2			自動起動	クライアントは、目的のCitrix ICAセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。						
				利用可能なアクションは次のとおりです。						
				<ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする						
<table><tr><td>3</td><td>クイック接続</td><td>システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td></tr></table>	3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。							
3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。								
	注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。									

アプリケーション終了時	Citrix ICAセッションが終了したときの処理を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン の4つのオプションがあります。
アプリケーションの再起動時に資格情報を要求する	この設定項目は、「 アプリケーションの終了時 」で「 アプリケーションの再起動 」が選択されている場合にのみ使用できます。ICAセッションの再起動時に資格情報を要求するかどうかを選択するときにクリックします。

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
ツールバー	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix (Desktop Viewer) ツールバーを有効/無効にします。
色深度	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションに必要な色品質を選択します。 16ビット、24ビット 、および 自動 の3つのオプションを使用できます。
ウィンドウサイズ	ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションの目的のウィンドウサイズを選択します。 フルスクリーン、1280x1024、1024x768、800x600 の4つのオプションが利用できます。
デバイスマッピング	
項目	説明文
ローカルUSBストレージのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルUSBドライブのマッピングを有効/無効にします。</p> <p>注意: ローカルのUSBストレージドライブも有効にする必要があります。詳細は“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”をご覧ください。</p>
ローカルシリアルポートのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでローカルシリアルデバイスのマッピングを有効/無効にします。 「はい」を選択すると、ローカルに接続されたシリアルデバイスが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: この設定項目は、mt182Lには適用されません。ただし、シリアルベースのバーコードスキャナーを使用し、シリアル-USBアダプターでmt182Lに接続する場合、仮想サーバーデスクトップでローカルバーコードスキャナーを使用するには、この設定を有効にする必要があります。</p>
ローカルプリンターのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Citrix ICAセッションでのローカルプリンターのマッピングを有効/無効にします。 「はい」を選択すると、ローカルに接続されたプリンターが、起動されたCitrix ICAセッションで使用できるようになります。</p> <p>注意: ローカルに接続されたプリンターを有効にするには、詳細な手順について“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”セクションを参照してください。</p>

接続設定	
項目	説明文
レンダリングタイプ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、エンドポイントまたはサーバーでレンダリングするリソースを選択します。 サーバーレンダリングとクライアントレンダリングの2つのオプションを使用できます。</p> <p>注意: クライアントレンダリングオプションは、システムで使用できない場合があります。</p>
HDXリアルタイムウェブカメラ	<p>この項目は、クライアントレンダリングが選択されている場合にのみ使用できます。</p> <p>「はい」を選択すると、ローカルに接続されたWebカメラをICAセッションで使用できます。</p>
H264圧縮を使用	<p>クリックすると、クライアントでH.264圧縮サポートが有効/無効になり、セッションデータがH.264形式のエンコーディングを使用してサーバー側から送信されるようになります。</p>
ネットワークプロトコル	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、接続に使用するプロトコルを選択します。 3つのオプション、TCP / IP、TCP / IP + HTTPサーバーの場所、およびSSL / TLS + HTTPSサーバーの場所を使用できます。</p>
自動再接続を有効にする	<p>ICAセッションが中断された後の自動再接続を有効/無効にするには、オン/オフにします。</p> <p>注意: XenDesktop ICAセッションでは、自動再接続（自動クライアント再接続）が機能しない場合があります。これは既知の問題です。詳細については、CitrixのWebサイトsupport.citrix.comまたはwww.citrix.comにアクセスしてください。</p>
再試行回数	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行回数を1～10の範囲で選択します。</p>
再試行間の遅延	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、再試行間の遅延時間を5～60秒の範囲で選択します。</p>
オーディオを有効にする	<p>ICAセッションでサウンドを有効/無効にするには、オン/オフにします。</p>

オーディオ品質	ドロップダウンメニューをクリックして、ICAセッションに必要な音質を選択します。 高品質、中品質、低品質 の3つのオプションを使用できます。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>高品質</td><td>エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。</td></tr><tr><td>中品質</td><td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。</td></tr><tr><td>低品質</td><td>エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。</td></tr></table>	オプション	説明文	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。	中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。	低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。
	オプション	説明文							
	高品質	エンドポイントデバイスがサウンドファイルをネイティブのデータ転送速度で再生できるようにします。これは、帯域幅が豊富で音質が重要な接続に推奨されます。							
中品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大64Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が適度に低下します。このオプションはスピーチに適しており、ほとんどのLANベースの接続に推奨されます。								
低品質	エンドポイントデバイスに送信されるすべてのサウンドを最大16Kbpsに圧縮します。その結果、サウンドの品質が大幅に低下します。このオプションは低帯域幅の接続に適しており、低速接続時に妥当なオーディオパフォーマンスを実現します。								
オーディオ入力を有効にする	ICAセッションでオーディオ入力を有効/無効にするには、チェック/チェックを外します。								
Windowsキーの組み合わせ	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。 次の3つのオプションを使用できます。 ローカルコンピューター上、リモートサーバー上、および全画面モードのみ。</p> <table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>ローカルコンピューター上</td><td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td></tr><tr><td>リモートサーバー上</td><td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td></tr><tr><td>全画面モードのみ</td><td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td></tr></table>	オプション	説明文	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
オプション	説明文								
ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。								
リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。								
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
USBリダイレクト設定									
項目	説明文								
USBストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、“Citrix ICAセッションのクイック接続の詳細設定 (P.64)”を参照してください。								
プリンター									
接続されたUSBデバイスをリダイレクト									
差し込まれたUSBデバイス									
リダイレクトルール									

3.6.12 基本的なVMware View接続設定の構成

VMware View設定を使用すると、VMware ViewまたはHorizon ViewサービスのView接続設定を構成し、ローカルデスクトップにショートカットを作成して、サービスアクセス用の[スタート]メニューを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、仕事用のオンデマンドサービスにアクセスできます。

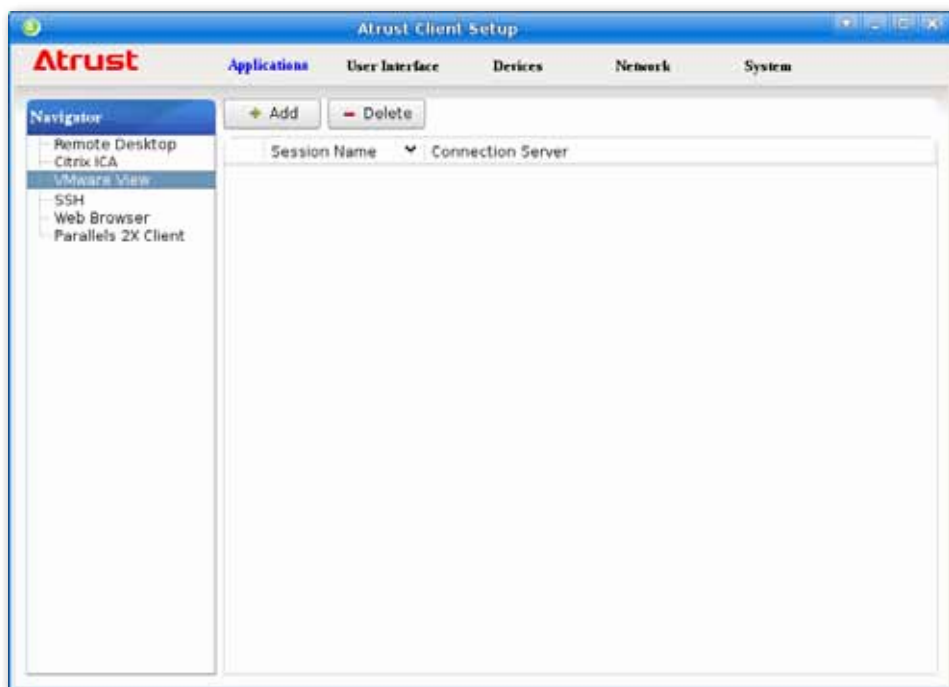


注意

- VMwareデスクトップ仮想化ソリューションの詳細については、VMware Webサイトwww.vmware.comにアクセスしてください。

VMware View接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

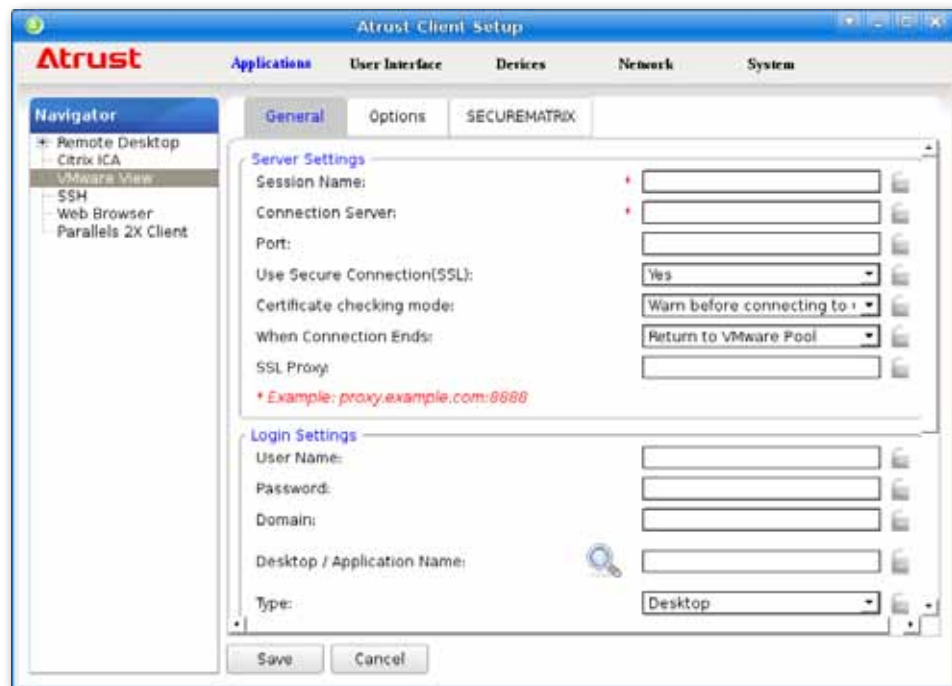
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [VMware View]をクリックします。
2. [接続の表示]リストが構成エリアに表示されます。



注意

- エントリを作成していない場合、接続の表示リストは空になります。

3. [接続の表示]リストの上部にある[追加]をクリックして、[接続の表示]の新しいエントリを追加します。



4. 目的のセッション名とView接続サーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力し、**[保存]**をクリックして確定します。



注意

- これらは、デスクトップにサービスアクセスショートカットを作成するための唯一の必須フィールドです。 サービスへのアクセス期間中に他のデータを提供できます。 必要に応じて、他のデータを入力することもできます。

5. 新しいエントリが[接続の表示]リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。

3.6.13 VMware ViewまたはHorizon Viewサービスへのアクセス

VMware ViewまたはHorizon Viewサービスにアクセスするには、以下を実行してください。

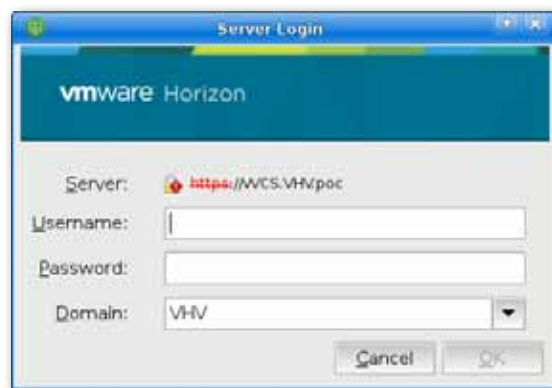
1. デスクトップ上に作成された（カスタマイズされた）アクセスショートカットをダブルクリックします。



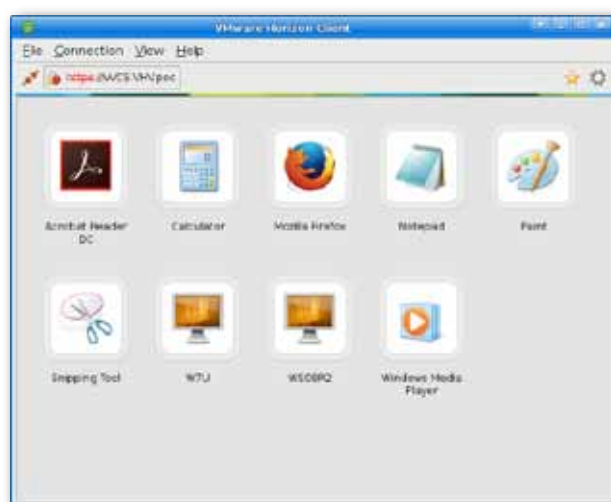
注意

- リモートサーバーに関する証明書メッセージがウィンドウに表示される場合があります。詳細についてはIT管理者に相談し、接続が**最初に**安全であることを確認してください。セキュリティ証明書をインポートするには、“3.2.16 リモートコンピュータの証明書のインポート (P.73)”を参照してください。バイパスするには、**[安全でない接続]**をクリックします。

2. ようこそウィンドウが表示される場合があります。 **[OK]**をクリックして続行します。
3. 資格情報の入力を求めるウィンドウが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力し、[ドメイン]ドロップダウンメニューをクリックしてドメインを選択し、**[OK]**をクリックします。



4. 提供された資格情報に使用できるデスクトップまたはアプリケーション、あるいはその両方がウィンドウに表示されます。



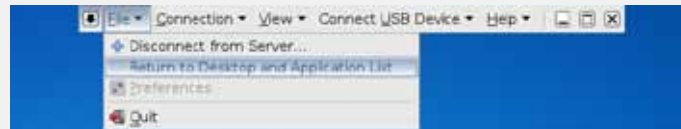
5. ダブルクリックして、目的のデスクトップまたはアプリケーションを選択します。

6. 選択したデスクトップまたはアプリケーションが画面に表示されます。

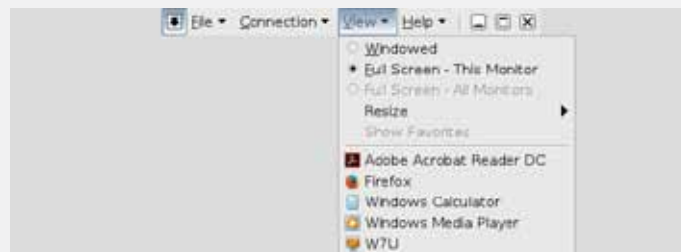


注意

- デスクトップまたはアプリケーションが全画面で表示されます。 あなたはできる :
 - 上部のツールバーで[ファイル]> [デスクトップとアプリケーションのリストに戻る]をクリックして、デスクトップとアプリケーションのリストを呼び出します。




- 上部のツールバーの[表示]をクリックして、仮想デスクトップまたはアプリケーションに切り替えます。



3.6.14 詳細ビュー接続設定の構成

下の表は、ビュー接続の各設定項目の説明です。詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズするには、この表を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定							
項目	説明文						
セッション名	VMware ViewまたはHorizon Viewセッションの名前を入力します。						
接続サーバー	View接続サーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。 注意: View接続サーバーの詳細については、VMwareのWebサイト（ www.vmware.com ）にアクセスしてください。						
ポート	View接続サーバーとの通信に使用するポート番号を入力します。 デフォルト値を使用するには、空白のままにします。						
安全な接続（SSL）を使用する	安全な接続を有効/無効にするためにチェック/チェックを外します。						
証明書チェックモード	ドロップダウンメニューをクリックして、サーバーID証明書を確認するかどうか、および信頼されていないサーバーに接続するかどうかを選択します。 サーバーID証明書を検証しない、信頼できないサーバーに接続する前に警告する、信頼できないサーバーに接続しない の3つのオプションを使用できます。						
接続が終了したとき	ドロップダウンメニューをクリックして、接続が終了したときの動作を選択します。 2つのオプションが利用可能です。 VMwareプールに戻るとVMwareクライアントを終了します。						
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>VMwareプールに戻る</td><td>接続が終了したら、指定された資格情報のデスクトップとアプリケーションのリストに戻ります。</td></tr><tr><td>VMwareクライアントを終了します</td><td>接続が終了したら、VMware Clientを閉じます。 仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、資格情報を再度提供する必要があります。</td></tr></table>	オプション	説明文	VMwareプールに戻る	接続が終了したら、指定された資格情報のデスクトップとアプリケーションのリストに戻ります。	VMwareクライアントを終了します	接続が終了したら、VMware Clientを閉じます。 仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、資格情報を再度提供する必要があります。
	オプション	説明文					
VMwareプールに戻る	接続が終了したら、指定された資格情報のデスクトップとアプリケーションのリストに戻ります。						
VMwareクライアントを終了します	接続が終了したら、VMware Clientを閉じます。 仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするには、資格情報を再度提供する必要があります。						
SSLプロキシ	SSLプロキシのURL / IPアドレス（ポート番号を含む）を入力します（ある場合）。						
ログイン設定							
項目	説明文						
ユーザー名	認証用のユーザー名を入力します。						
パスワード	認証用のパスワードを入力します。						
ドメイン	View接続サーバーのドメイン名を入力します。						
デスクトップ/アプリケーション名	デスクトップ/アプリケーション名を入力します。 または、ユーザーが選択できるように空白のままにします。 注意: 検索アイコン  を使用して、特定の資格情報のセットで使用可能なデスクトップまたはアプリケーションを見つけることができます。						
タイプ	ドロップダウンメニューをクリックして、正しいタイプを選択します。 注意: 前の設定で指定したデスクトップ名に [デスクトップ] を選択します。 アプリケーション名の アプリケーション 。						

アクセス前に確認	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認するかどうかを選択します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td><td>前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認します。指定された資格情報がこの検証に合格しない場合は停止します。</td></tr> <tr> <td>いいえ</td><td>指定された資格情報に、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格がない場合は、そのエラーを無視して、その資格情報で利用できるデスクトップとアプリケーションのリストを提供します。</td></tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	はい	前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認します。指定された資格情報がこの検証に合格しない場合は停止します。	いいえ	指定された資格情報に、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格がない場合は、そのエラーを無視して、その資格情報で利用できるデスクトップとアプリケーションのリストを提供します。		
オプション	説明文								
はい	前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格を確認します。指定された資格情報がこの検証に合格しない場合は停止します。								
いいえ	指定された資格情報に、前の設定項目で提供された仮想デスクトップまたはアプリケーションの資格がない場合は、そのエラーを無視して、その資格情報で利用できるデスクトップとアプリケーションのリストを提供します。								
次のログインのために資格情報を記憶する	ド롭ダウンメニューをクリックして、ログオン資格情報を記憶するかどうかを選択します。								
優先表示プロトコル	<p>ド롭ダウンメニューをクリックして、目的の表示プロトコルを選択します。 手動、Microsoft RDP、PCoIPの3つのオプションを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手動</td><td>目的の表示プロトコルを手動で選択します。</td></tr> <tr> <td>Microsoft RDP</td><td>表示プロトコルとしてMicrosoft RDPを使用します。</td></tr> <tr> <td>PCoIP</td><td>表示プロトコルとしてVMware PCoIPを使用します。</td></tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	手動	目的の表示プロトコルを手動で選択します。	Microsoft RDP	表示プロトコルとしてMicrosoft RDPを使用します。	PCoIP	表示プロトコルとしてVMware PCoIPを使用します。
オプション	説明文								
手動	目的の表示プロトコルを手動で選択します。								
Microsoft RDP	表示プロトコルとしてMicrosoft RDPを使用します。								
PCoIP	表示プロトコルとしてVMware PCoIPを使用します。								
共通設定									
項目	説明文								
非インタラクティブモード	<p>非インタラクティブモードを許可または禁止するには、[はい]または[いいえ]を選択します。デフォルトでは、非インタラクティブモードを使用します。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td><td>非インタラクティブモードが使用されます。[接続設定の表示]で設定が指定されている場合、ユーザーは別の設定を再選択できません。</td></tr> <tr> <td>いいえ</td><td>対話モードが使用されます。ユーザーは、接続設定の表示で設定が指定されている場合でも、別の設定を再選択できます。</td></tr> </tbody> </table>	オプション	説明文	はい	非インタラクティブモードが使用されます。[接続設定の表示]で設定が指定されている場合、ユーザーは別の設定を再選択できません。	いいえ	対話モードが使用されます。ユーザーは、接続設定の表示で設定が指定されている場合でも、別の設定を再選択できます。		
オプション	説明文								
はい	非インタラクティブモードが使用されます。[接続設定の表示]で設定が指定されている場合、ユーザーは別の設定を再選択できません。								
いいえ	対話モードが使用されます。ユーザーは、接続設定の表示で設定が指定されている場合でも、別の設定を再選択できます。								

起動時に自動起動

mt182Lの起動時に、VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを自動的に開くかどうかを選択します（自動起動モード）。

注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。 3つのモードと優先順位は次のとおりです。

No.	モード	説明文
1	アプライアンス	クライアントは、目的のVMware Viewセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。
		利用可能なアクションは次のとおりです。
		<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする
2	自動起動	クライアントは、目的のVMware ViewまたはHorizon Viewセッションで直接起動し、セッションの終了後に構成されたアクションを実行します。
		利用可能なアクションは次のとおりです。
		<ul style="list-style-type: none">ローカルデスクトップに戻る新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする
3	クイック接続	システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。

注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。

アプリケーション終了時

VMware ViewまたはHorizon Viewセッションが終了したときの動作を選択します。
何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウンの4つのオプションがあります。

オプション	説明文
何もしない	ローカルデスクトップに戻ります。
アプリケーションを再起動する	VMware ViewまたはHorizon Viewセッションを再度開きます。
再起動する	シンクライアントを再起動します。
シャットダウン	シンクライアントをオフにします。

オプションサブタブ

ウィンドウ設定

項目	説明文								
解像度	<div><div>ドロップダウンメニューをクリックして、ビューセッションの目的の表示サイズを選択します。フルスクリーン、ラージウィンドウ、スモールウィンドウの3つのオプションを使用できます。</div><table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>フルスクリーン</td><td>選択したビューセッションを全画面で開きます。</td></tr><tr><td>ラージウィンドウ</td><td>選択したビューセッションを大きなウィンドウで開きます。</td></tr><tr><td>スモールウィンドウ</td><td>選択したビューセッションを小さなウィンドウで開きます。</td></tr></table></div>	オプション	説明文	フルスクリーン	選択したビューセッションを全画面で開きます。	ラージウィンドウ	選択したビューセッションを大きなウィンドウで開きます。	スモールウィンドウ	選択したビューセッションを小さなウィンドウで開きます。
オプション	説明文								
フルスクリーン	選択したビューセッションを全画面で開きます。								
ラージウィンドウ	選択したビューセッションを大きなウィンドウで開きます。								
スモールウィンドウ	選択したビューセッションを小さなウィンドウで開きます。								
ウィンドウモード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的のウィンドウモードを選択します。2つのオプション、レギュラーウィンドウとシームレスウィンドウを使用できます。								
ツールバー	セッションでツールバーにアクセスできるかどうかを選択するには、ドロップダウンメニューをクリックします。								

USBリダイレクト設定

項目	説明文
マストレージ	これらの同様の設定の詳細な手順については、66ページの“VMware Viewセッションの高度なクイック接続設定” on page 66を参照してください。
スマートカード	
ヒューマンインターフェイスデバイス	
プリンター	
差し込まれたUSBデバイス	
リダイレクトルール	

接続設定

項目	説明文
プリンターマッピング	<div><div>クリックして、VMware View接続のプリンターマッピングを有効/無効にします。</div><div><div>注意:</div><div>最初にmt182Lのローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加してから、この機能を有効にして、仮想デスクトップセッションでマップされたプリンターを使用する必要があります。</div></div><div><div>注意:</div><div>シンクライアントにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”または“3.4.9 ネットワークプリンターの追加 (P.102)”を参照してください。</div></div><div><div>注意:</div><div>プリンターマッピングを無効にしても、プリンターリダイレクトが有効になっている場合は、プリンターが仮想デスクトップセッションにリダイレクトされる可能性があります（この表の上記の設定を参照）。</div></div></div>

SECUREMATRIXサブタブ

接続設定	
項目	説明文
SECUREMATRIXを使用する	SECUREMATRIX認証を使用する場合にオンにします。
GSB サーバーアドレス	SECUREMATRIX認証サービスのサーバーであるGSBサーバーのサーバーアドレスを入力します。
ユーザー名	ユーザー名（ログインID）を入力します。



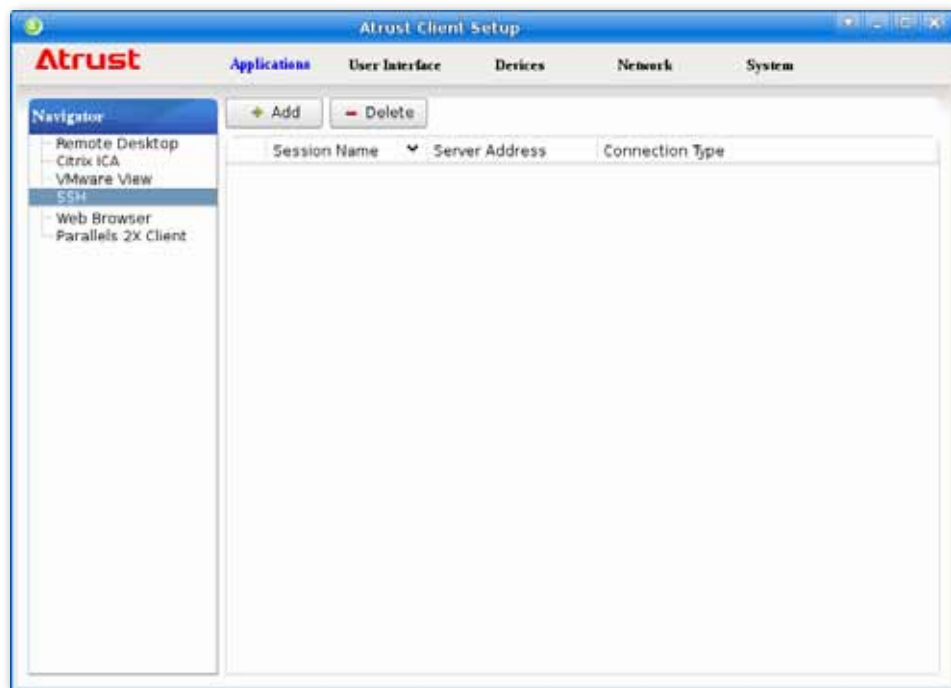
注意

- 詳細については、“A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用 (P.252)”を参照してください。

3.6.15 SSH接続設定の構成

SSH（Secure SHell）接続設定を構成するには、次の手順を実行してください。

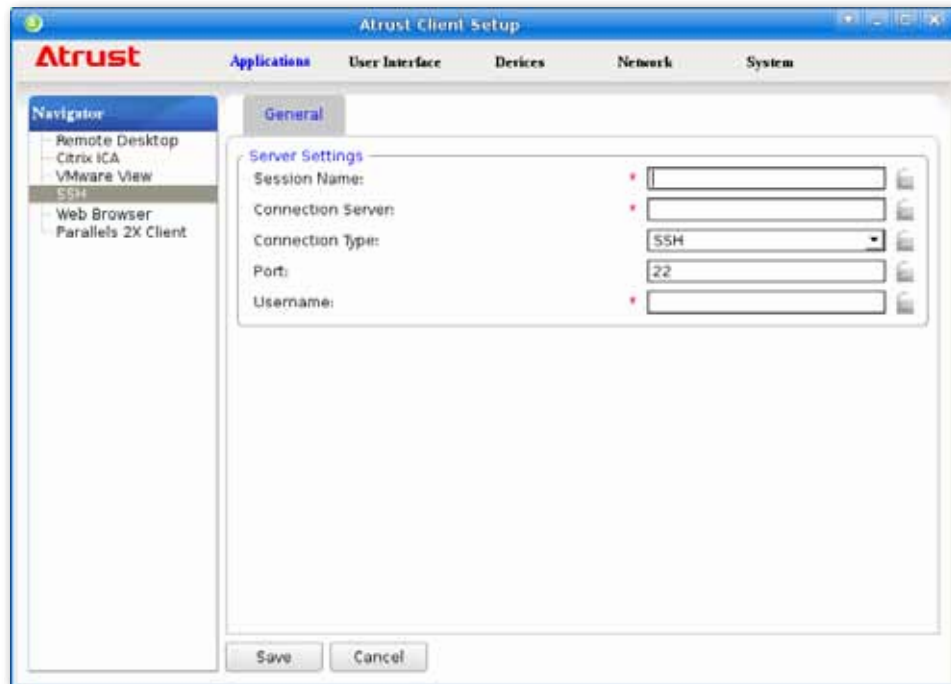
1. Atrust Client Setupで、**[アプリケーション]> [SSH]**をクリックします。
2. SSH接続リストが構成エリアに表示されます。



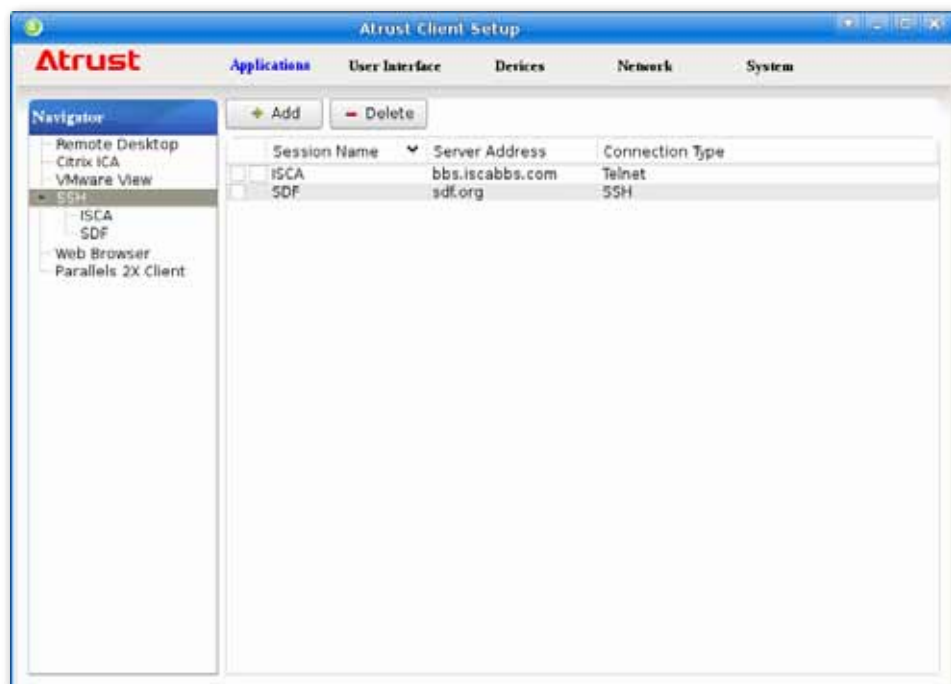
注意

- エントリを作成していない場合、SSH接続リストは空になります。

3. SSH接続リストの上部にある**[追加]**をクリックして、SSH接続の新しいエントリを追加します。



4. ドロップダウンメニューをクリックして、目的の接続タイプを選択します。 **SSH**と**Telnet**の2つのタイプを使用できます。
5. 目的のセッション名、リモートサーバーのコンピューター名またはIPアドレス、ユーザー名を入力し、**[保存]**をクリックして確定します。
6. 新しいエントリがSSH接続リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。

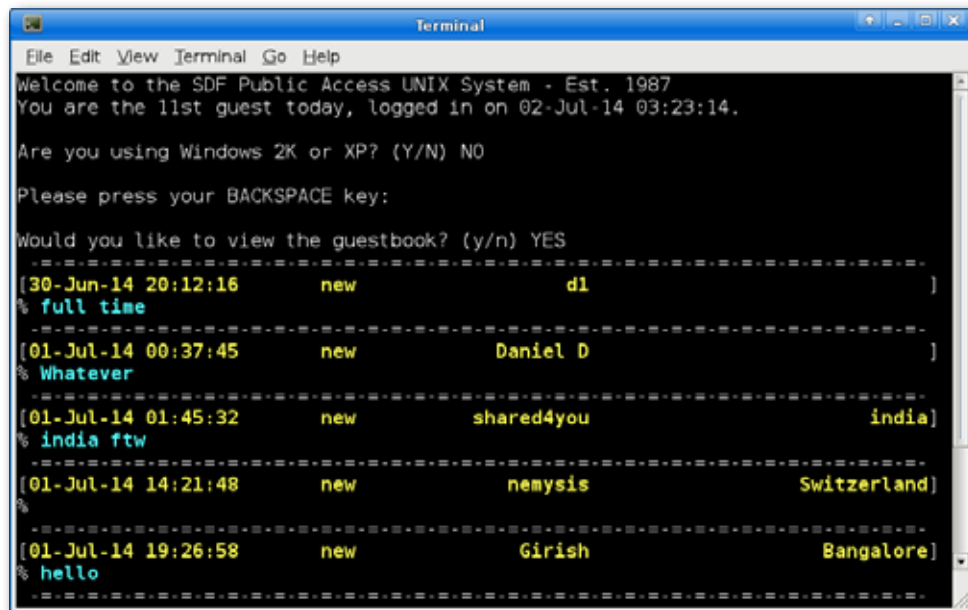


3.6.16 SSHおよびTelnetセッションの起動

SSHまたはTelnetセッションを起動するには、次の手順を実行してください。

1. ローカルデスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウでSSHまたはTelnetセッションが開始します。

例：SSHセッション



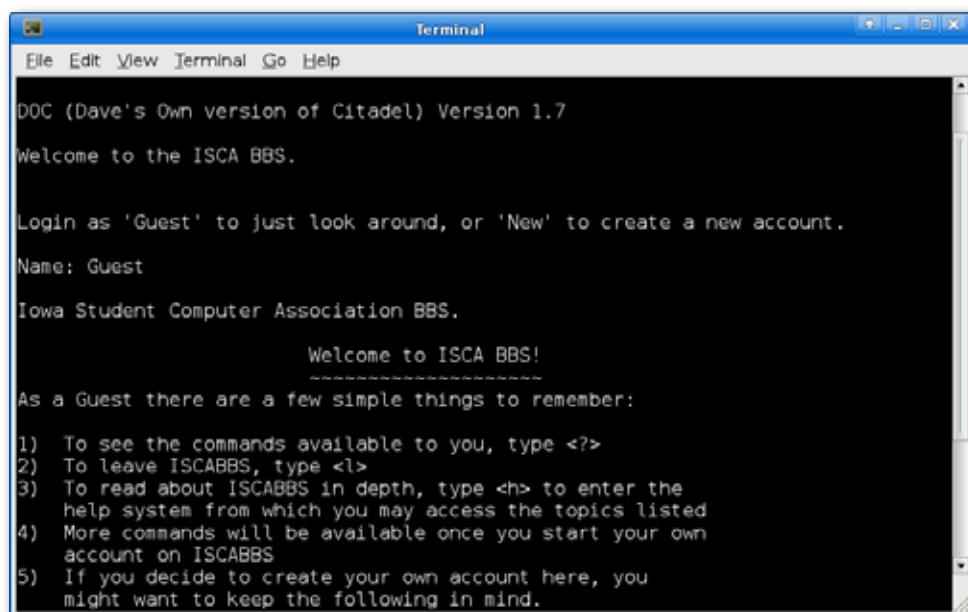
```
Terminal
File Edit View Terminal Go Help
Welcome to the SDF Public Access UNIX System - Est. 1987
You are the 11st guest today, logged in on 02-Jul-14 03:23:14.

Are you using Windows 2K or XP? (Y/N) NO

Please press your BACKSPACE key:

Would you like to view the guestbook? (y/n) YES
-----
[30-Jun-14 20:12:16      new      dl      ]
% full time
-----
[01-Jul-14 00:37:45      new      Daniel D      ]
% Whatever
-----
[01-Jul-14 01:45:32      new      shared4you      india]
% india ftw
-----
[01-Jul-14 14:21:48      new      nemysis      Switzerland]
%
-----
[01-Jul-14 19:26:58      new      Girish      Bangalore]
% hello
-----
```

例：Telnetセッション



```
Terminal
File Edit View Terminal Go Help
DOC (Dave's Own version of Citadel) Version 1.7
Welcome to the ISCA BBS.

Login as 'Guest' to just look around, or 'New' to create a new account.
Name: Guest
Iowa Student Computer Association BBS.

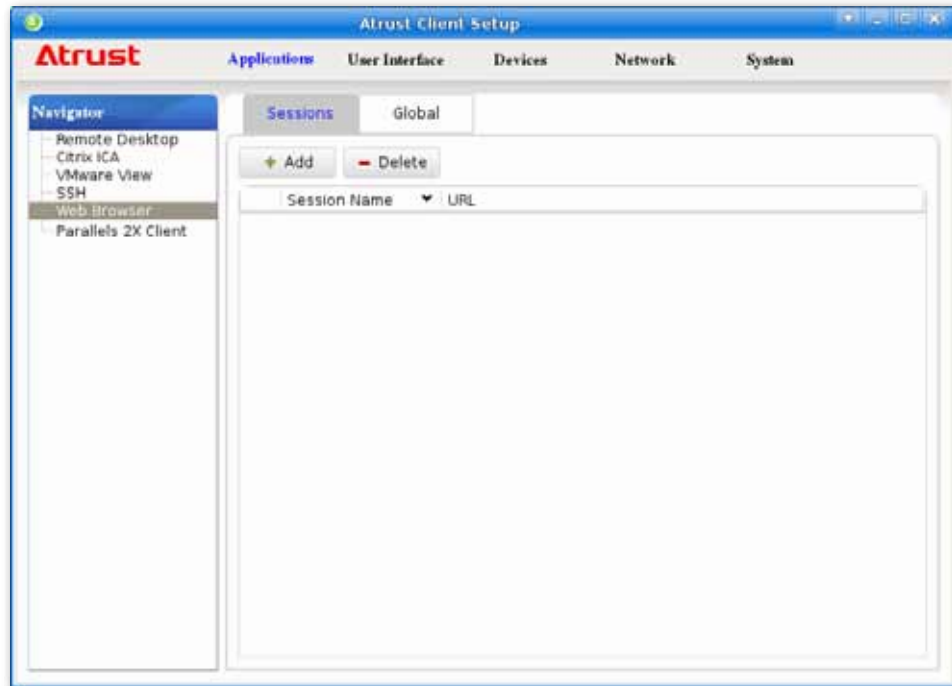
Welcome to ISCA BBS!
-----
As a Guest there are a few simple things to remember:

1) To see the commands available to you, type <?>
2) To leave ISCA BBS, type <l>
3) To read about ISCA BBS in depth, type <h> to enter the
   help system from which you may access the topics listed
4) More commands will be available once you start your own
   account on ISCA BBS
5) If you decide to create your own account here, you
   might want to keep the following in mind.
```

3.6.17 ブラウザセッションの基本設定の構成

ブラウザセッションの基本設定を構成するには、次の手順を実行します。

1. Atrust Client Setupで、「アプリケーション」>「Webブラウザ」をクリックします。
2. Webページアクセスリストが構成エリアに表示されます。

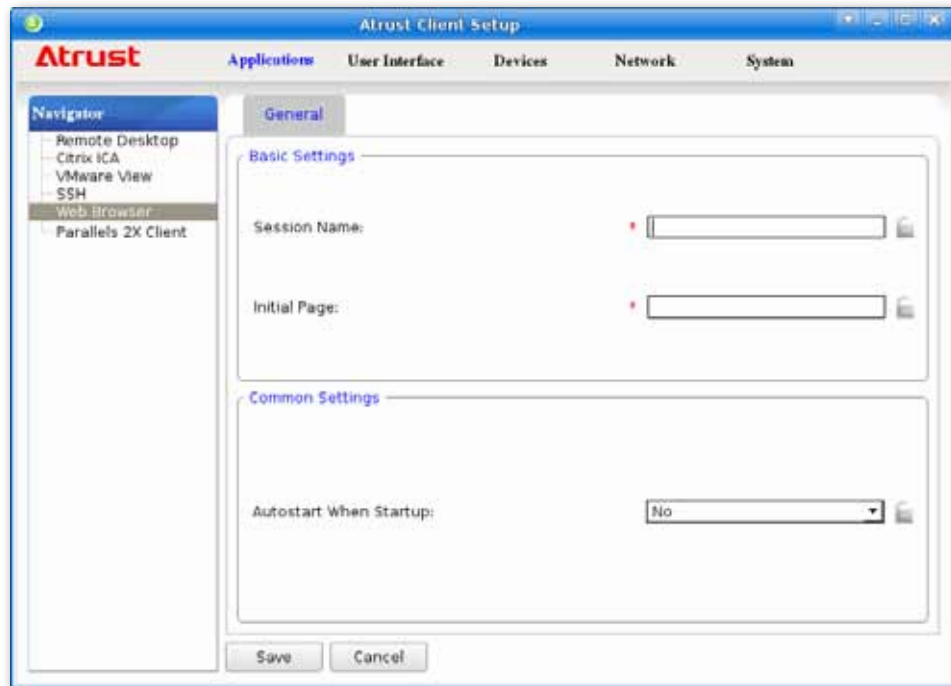


注意

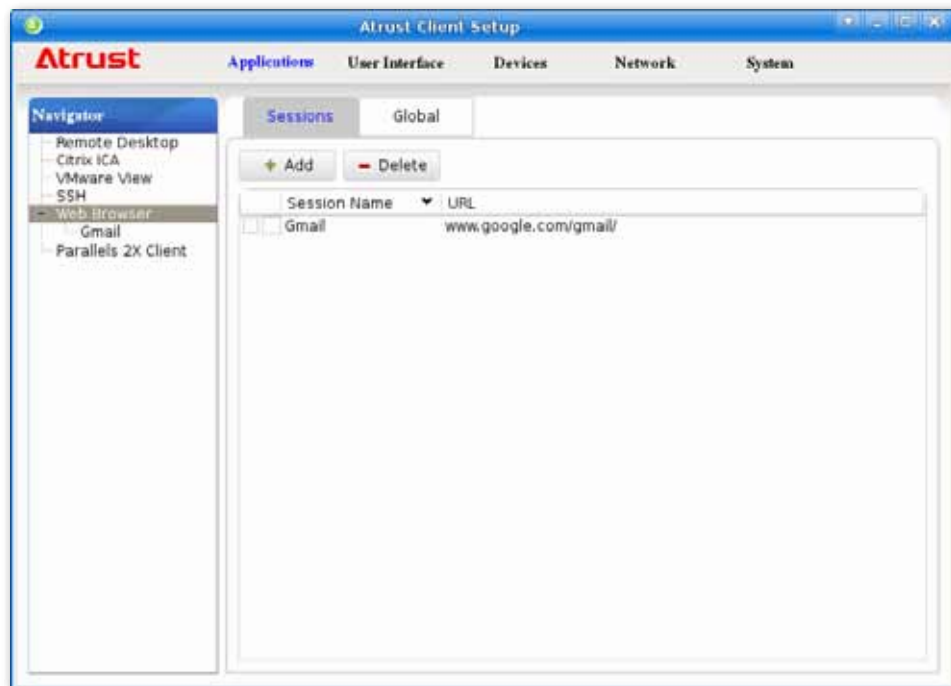
- エントリを作成していない場合、Webページアクセスリストは空になります。

3. Webページのアクセスリストの上部にある[追加]をクリックして、新しいエントリを追加します。 .

4. 目的のセッション名、WebページのURLを入力し、**[保存]**をクリックして確定します。



5. 新しいエントリがWebページのアクセスリストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。

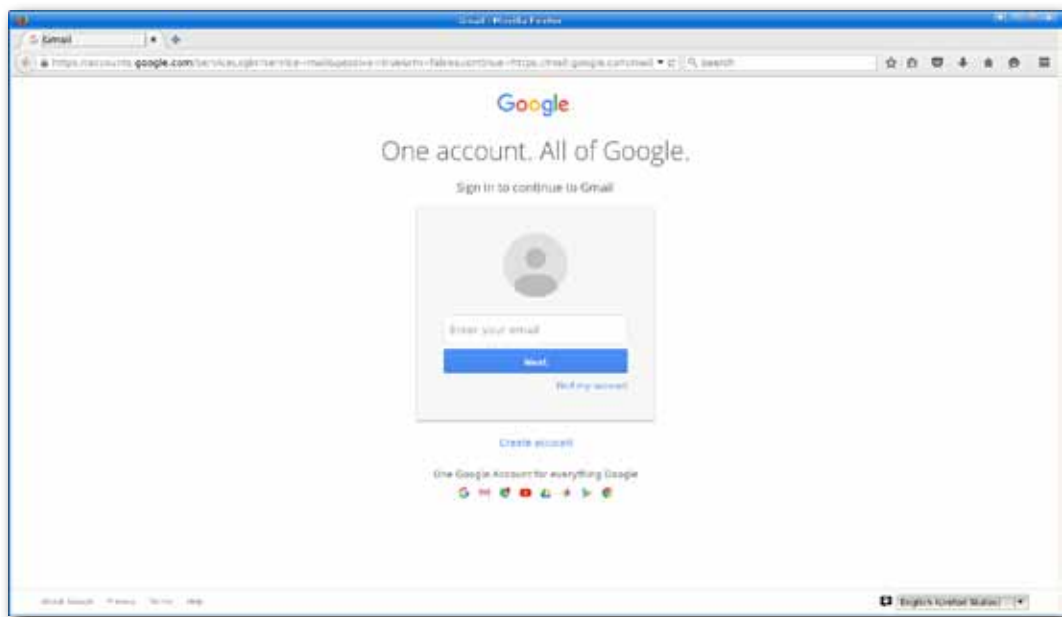


3.6.18 ブラウザセッションの起動

ブラウザセッションを起動するには、次の手順を実行してください。

1. ローカルデスクトップまたは[スタート]メニューで作成したショートカットをダブルクリックします。
2. 開いているブラウザでセッションが開始されます。

例：Gmailログインセッション



3.6.19 ブラウザセッションの詳細設定

次の表は、ブラウザセッションの各設定項目の説明です。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、Webアクセス用にカスタマイズしてください。

一般サブタブ

共通設定

項目	説明文
セッション名	ブラウザセッションの名前を入力します。
初期ページ	WebページのURLを入力します。

共通設定

項目	説明文												
起動時に自動起動	mt182Lの起動時に自動でブラウザセッションを開くかどうかを選択します（オートスタートモード）。												
	注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。 3つのモードと優先順位は次のとおりです。												
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td>1</td><td>アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のブラウザセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td>2</td><td>自動起動</td><td>クライアントは、目的のブラウザセッションで直接起動します。</td></tr><tr><td>3</td><td>クイック接続</td><td>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のブラウザセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする	2	自動起動	クライアントは、目的のブラウザセッションで直接起動します。	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のブラウザセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする										
2	自動起動	クライアントは、目的のブラウザセッションで直接起動します。											
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。											
注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。													

グローバルサブタブ

共通設定	
項目	説明文
ホームページ	Webブラウザに希望のホームページを設定します。

3.6.20 基本的なRAS / RDP接続設定の構成

Parallels 2X Client設定では、RAS / RDP接続設定を構成し、サービスアクセス用のローカルデスクトップと[スタート]メニューにショートカットを作成できます。これらのショートカットを使用するだけで、リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスして作業できます。



注意

- RAS（リモートアプリケーションサーバー）とRDP（リモートデスクトッププロトコル）の詳細については、ParallelsのWebサイト（www.parallels.com）にアクセスしてください。

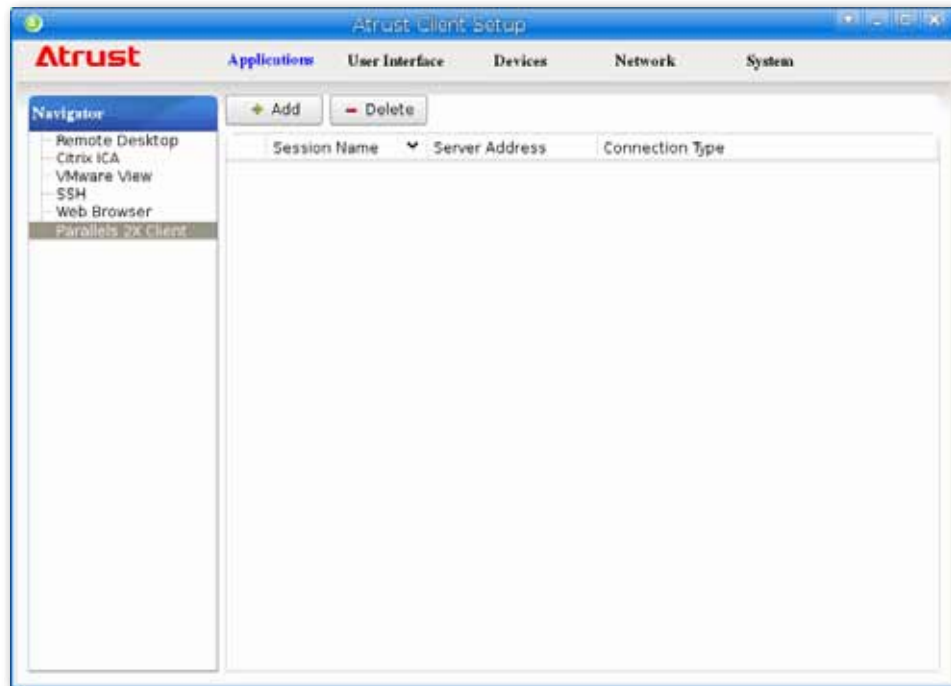
次の2つの接続タイプを使用できます。

接続タイプ	説明文	ページ
Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。	229
標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。	231

接続タイプ : Parallelsリモートアプリケーションサーバー

この接続タイプのRAS接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

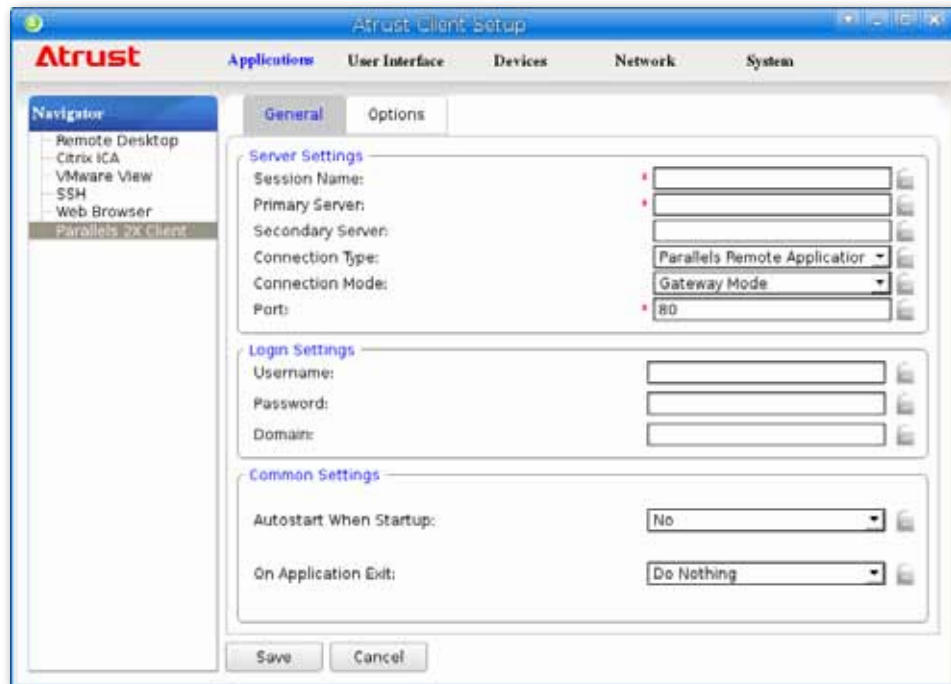
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Parallels 2X Client]をクリックします。
2. RAS / RDP接続リストが構成エリアに表示されます。



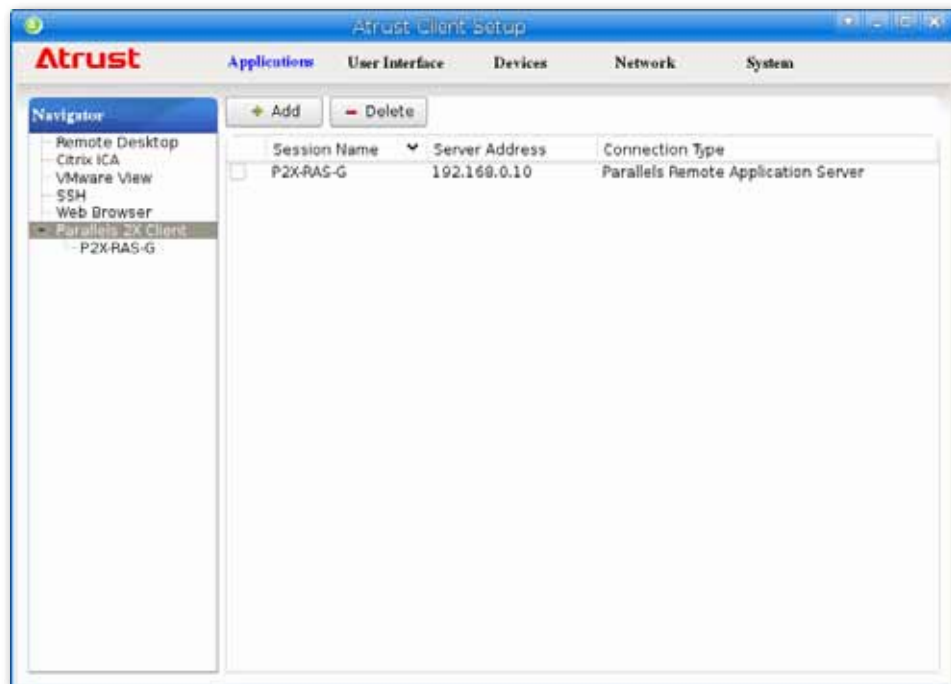
注意

- エントリを作成していない場合、RAS / RDP接続リストは空になります。

3. [RAS / RDP接続]リストの上部にある[追加]をクリックして、RAS接続の新しいエントリを作成します。



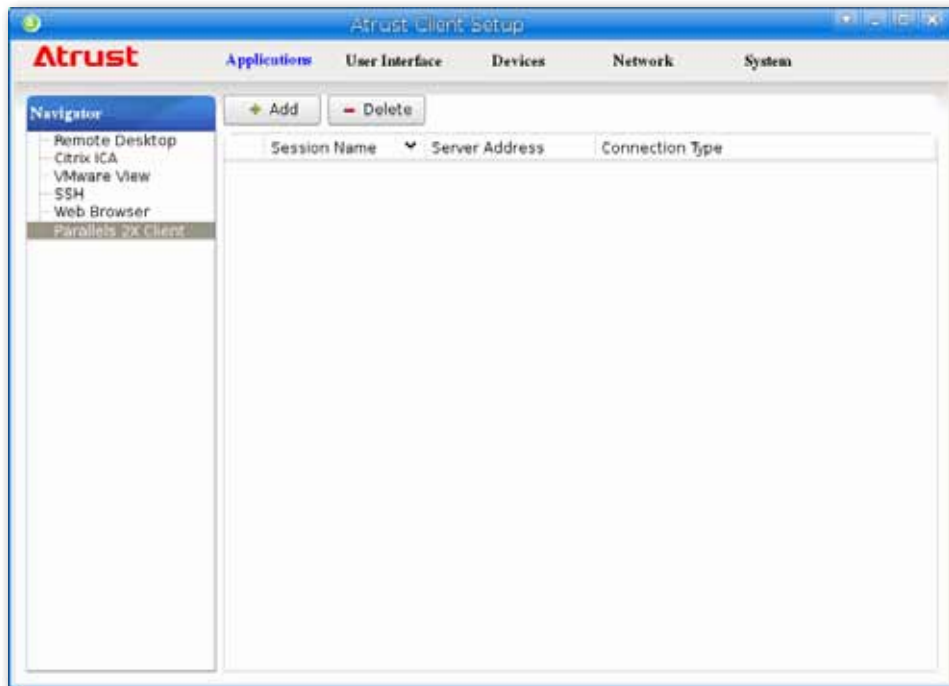
4. [全般]サブタブで、接続タイプとして**Parallelsリモートアプリケーションサーバー**が選択されていることを確認し、[サーバー設定]セクションでセッション名とプライマリサーバーアドレスを入力します。
5. [保存]をクリックして確定します。
6. 新しいエントリが[RAS / RDP接続]リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと[スタート]メニューに自動的に作成されます。



接続タイプ：標準RDP

この接続タイプのRDP接続設定をすばやく構成するには、次の手順を実行してください。

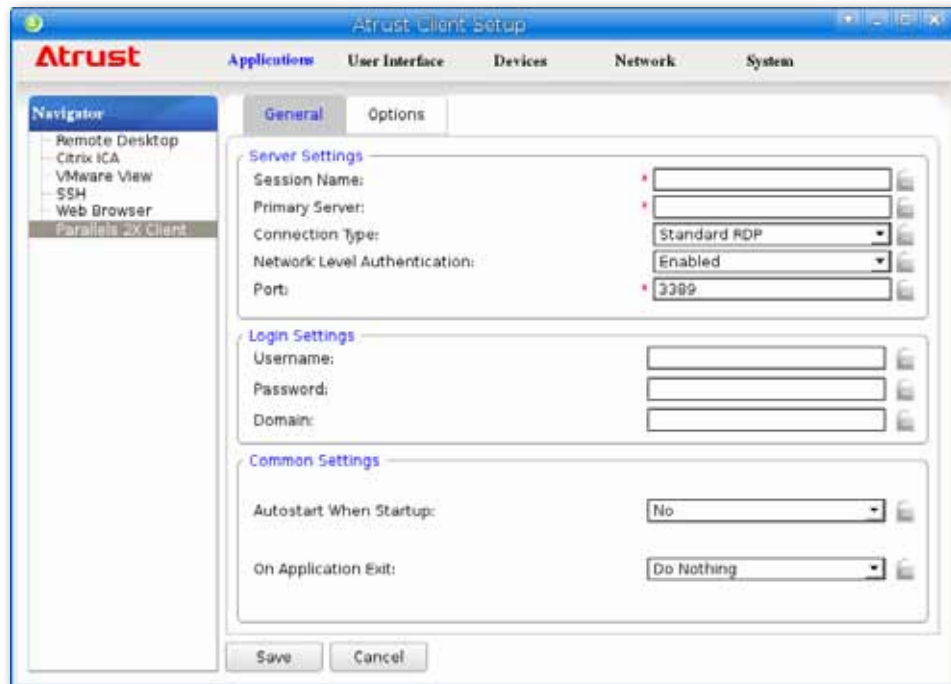
1. Atrust Client Setupで、[アプリケーション]> [Parallels 2X Client]をクリックします。
2. RAS / RDP接続リストが構成エリアに表示されます。



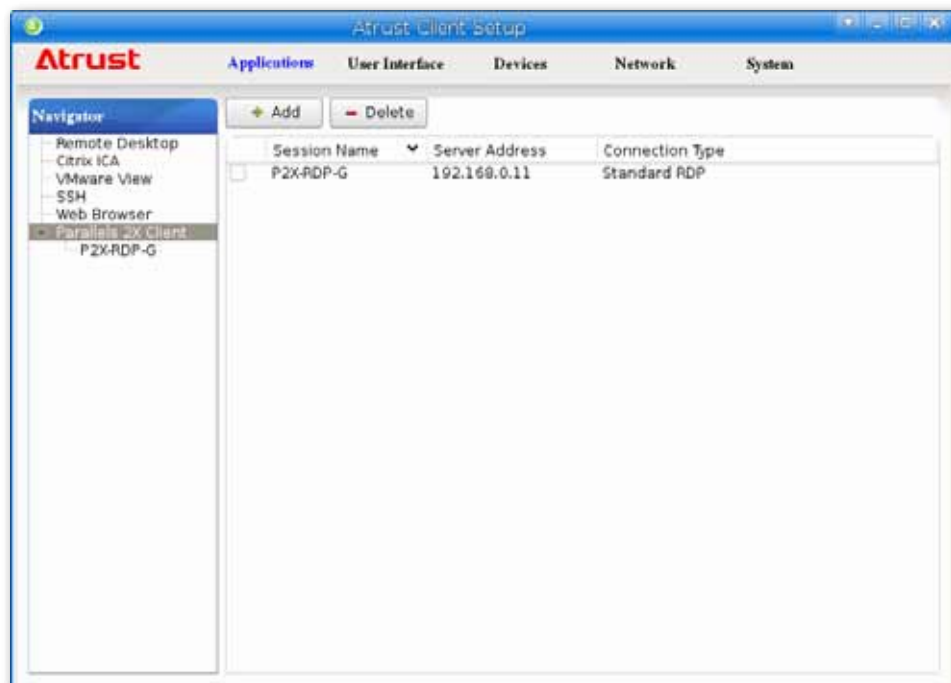
注意

- エントリを作成していない場合、RAS / RDP接続リストは空になります。

3. [RAS / RDP接続]リストの上部にある[追加]をクリックして、RDP接続の新しいエントリを作成します。



4. **[全般]**サブタブで、接続の種類として**[標準RDP]**が選択されていることを確認し、**[サーバー設定]**セクションでセッション名とプライマリサーバアドレスを入力します。
5. **[保存]**をクリックして確定します。
6. 新しいエントリが**[RAS / RDP接続]**リストに追加され、アクセスショートカットがローカルデスクトップと**[スタート]**メニューに自動的に作成されます。



3.6.21 リモートデスクトップまたはアプリケーションへのアクセス

接続タイプ : *Parallels* リモートアプリケーションサーバー

リモートデスクトップまたはアプリケーションにアクセスするには、以下を実行してください。

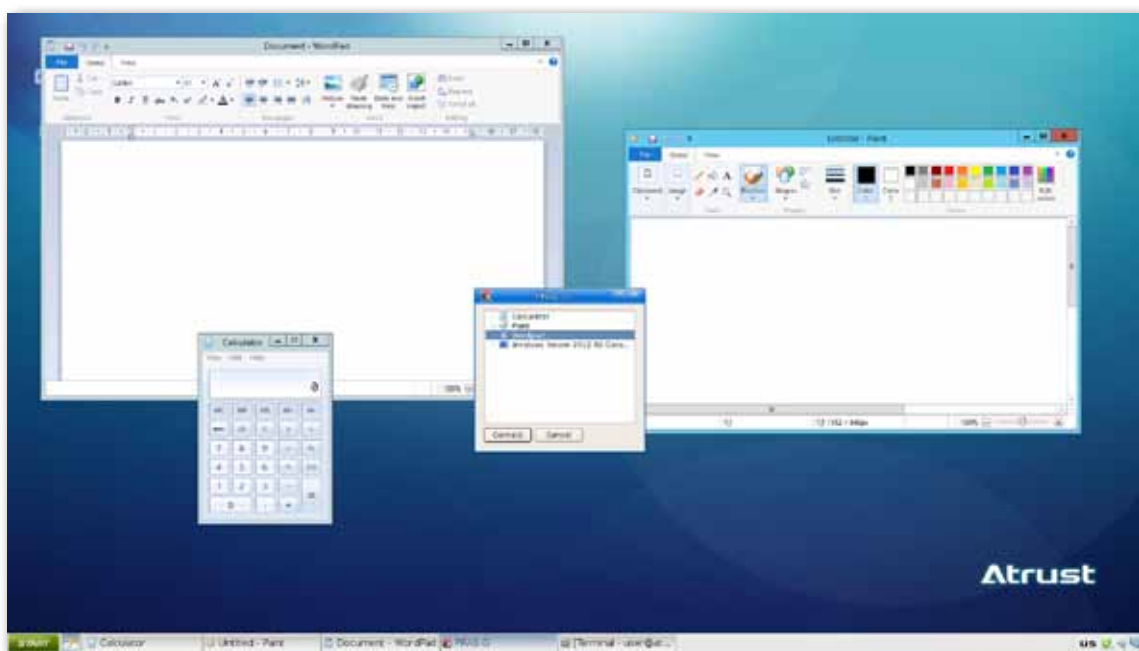
1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウで、必要に応じて資格情報を入力し、**[OK]**をクリックします。

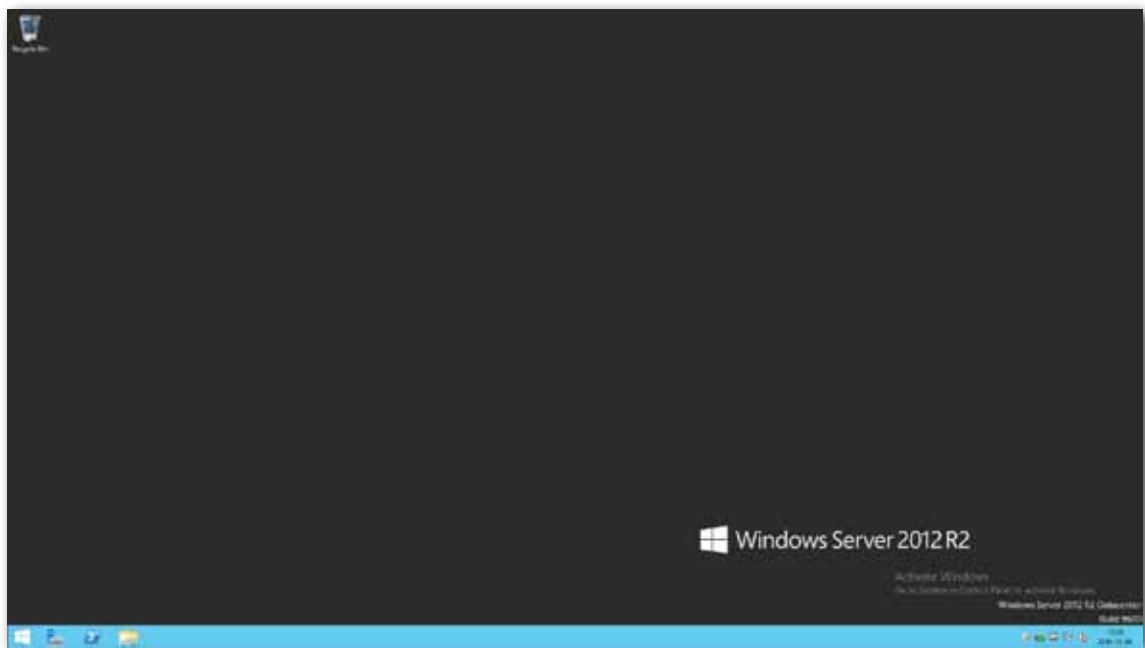


3. 使用可能なアプリケーションとデスクトップがウィンドウに表示されます。



4. 目的のアプリケーションまたはデスクトップをクリックして選択し、**[接続]**をクリックして確認します。
5. アプリケーションまたはデスクトップが画面に表示されます。





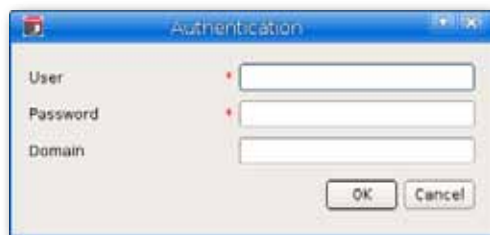
注意

- デスクトップが全画面で表示されます。

接続タイプ：標準RDP

リモートデスクトップにアクセスするには、次の操作を行います。

1. デスクトップに作成されたショートカットをダブルクリックします。
2. 開いたウィンドウで、必要に応じて資格情報を入力し、**[OK]**をクリックします。



3. デスクトップが全画面で表示されます。

3.6.22 高度なRAS / RDP接続設定の構成

以下の表は、RAS / RDP接続の各設定項目の説明です。これらの表を参照して、詳細設定を構成し、ローカルデスクトップのショートカットとサービスアクセスの[スタート]メニューをカスタマイズしてください。



注意

- 使用可能な設定は、選択した接続タイプによって異なることに注意してください。

Parallelsリモートアプリケーションサーバーの接続タイプの設定



注意

- 標準RDPの接続タイプの設定については、“標準RDPの接続タイプの設定 (P.241)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定							
項目	説明文						
セッション名	RAS（リモートアプリケーションサーバー）セッションの名前を入力します。						
プライマリサーバー	RASセッションの配信に使用するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。						
セカンダリサーバー	プライマリサーバーがセッションの配信に失敗した場合に備えて、サーバーの2番目のコンピューター名またはIPアドレス（利用可能な場合）を入力します。						
接続タイプ	<div><p>この表では、Parallelsリモートアプリケーションサーバーが選択されている場合に利用可能な設定についてのみ説明します。</p><p>次の2つの接続タイプを使用できます。</p><table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>Parallelsリモートアプリケーションサーバー</td><td>Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。</td></tr><tr><td>標準RDP</td><td>標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。</td></tr></table></div>	オプション	説明文	Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。	標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文						
Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します。						
標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。						

接続モード	ドロップダウンメニューをクリックして、目的の接続モードを選択します。4つのオプションが利用可能です。	
	オプション	説明文
	ゲートウェイモード	<p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）セキュアクライアントゲートウェイに接続し、最初に利用可能な接続を介してデータをトンネルしました。</p> <p>注意: このモードは、ゲートウェイ経由でのみ到達可能であり、高度なセキュリティを必要としないサーバーに最適です。</p>
	直接モード	<p>最初にRAS（リモートアプリケーションサーバー）のSecure Client Gatewayに接続して最適なサーバーを取得し、次にその特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にある場合に最適です。</p>
	ゲートウェイSSLモード	<p>RAS（リモートアプリケーションサーバー）のセキュアクライアントゲートウェイに安全に接続し、データを暗号化して、最初の利用可能な接続を介してトンネルします</p>
	直接SSLモード	<p>最初にSSLを使用してRAS（リモートアプリケーションサーバー）セキュアクライアントゲートウェイに接続し、最適なサーバーを選択してから、その特定のサーバーに直接接続します。</p> <p>注意: これは、クライアントとサーバーが同じネットワーク上にあり、高度なセキュリティ対策が必要な場合に最適です。</p>
ポート	接続タイプとモードを選択すると、デフォルトで使用するポートが自動的に割り当てられます。必要に応じて別のものを入力します。	
ログイン設定		
項目	説明文	
ユーザー名	認証に使用するユーザー/アカウント名を入力します。	
パスワード	認証に使用するユーザーアカウントのパスワードを入力します。	
ドメイン	<p>サーバーのドメインを入力します。</p> <p>注意: ドメインは、共通のデータベースとセキュリティポリシーを共有するネットワーク上のコンピューターのコレクションです。サーバーがどのドメインにも属していない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>	

共通設定

項目	説明文										
起動時に自動起動	mt182L起動時（自動起動モード）にRASセッションを自動で開くかどうかを選択します。 注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。 3つのモードと優先順位は次のとおりです。										
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td>1</td><td>アプライアンス</td><td>クライアントは、目的のRASセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは、目的のRASセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする				
	No.	モード	説明文								
	1	アプライアンス	クライアントは、目的のRASセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする								
	<table><tr><td>2</td><td>自動起動</td><td>クライアントは、目的のRASセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。<ul style="list-style-type: none">Not to do anything新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする</td></tr></table>	2	自動起動	クライアントは、目的のRASセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">Not to do anything新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする							
2	自動起動	クライアントは、目的のRASセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。 利用可能なアクションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">Not to do anything新しいセッションを再開するシンククライアントの再起動シンククライアントをオフにする									
<table><tr><td>3</td><td>クイック接続</td><td>デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td></tr></table>	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。								
3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。									
注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。											
アプリケーション終了時	Parallel 2Xセッションが終了したときの動作を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン の4つのオプションがあります。										
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>何もしない</td><td>何もしないこと。</td></tr><tr><td>アプリケーションを再起動する</td><td>RASセッションを再度起動します。</td></tr><tr><td>再起動する</td><td>mt182Lを再起動します。</td></tr><tr><td>シャットダウン</td><td>mt182Lの電源を切ります。</td></tr></table>	オプション	説明文	何もしない	何もしないこと。	アプリケーションを再起動する	RASセッションを再度起動します。	再起動する	mt182Lを再起動します。	シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。
	オプション	説明文									
	何もしない	何もしないこと。									
	アプリケーションを再起動する	RASセッションを再度起動します。									
	再起動する	mt182Lを再起動します。									
シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。										

オプションサブタブ

ウィンドウ設定	
項目	説明文
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RASセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、8ビット、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: グラフィックスアクセラレーションでRemoteFXが有効になっている場合、ここでは32ビット/ピクセルのみを選択できます。</p> <p>注意: ホストサーバー上のRASセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>
グラフィックアクセラレーション	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、グラフィックアクセラレーションを設定します。4つのオプション、なし、基本、RemoteFX、RemoteFXアダプティブを使用できます。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: ここでRemoteFXを選択すると、32ビット/ピクセルの色深度が色深度で自動的に選択されます。</p>
デスクトップセッションにすべてのモニターを使用する	オンにすると、接続されたモニターとセカンダリモニターを拡張画面として使用できます。
すべてのモニターにまたがるデスクトップ	オンにすると、起動したデスクトップがすべての接続されたモニターにまたがります。
公開アプリケーション	
項目	説明文
プライマリモニターのみを使用する	オンにすると、起動したアプリケーションがプライマリモニターのみに表示されます。接続されている他のモニターは使用されず、ユーザーはアプリケーションウィンドウをそれらのモニターに移動することもできません。
最適化設定	
項目	説明文
接続品質	<p>ネットワーク接続の品質を最もよく表すオプションを選択します。3つのオプション、LAN（非常に高速）、ブロードバンド（高速）、およびモデム（低速）を使用できます。</p> <p>注意: ここで選択すると、このセクションの項目のデフォルトが次のように決定されます。</p>
デスクトップの背景	チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。
フォントスムージング	チェックを入れると、ClearType®テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。
ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する	オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。
メニューとウィンドウのアニメーション	チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。
テーマ	チェックして、クラシックでないテーマを許可します。

接続設定									
項目	説明文								
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効]を選択すると、ユーザーはRASセッションでUSBフラッシュドライブやメモリーカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをRASセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”を参照してください。</p>								
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRASセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: 最初にmt182Lのローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加し、次にこの機能を有効にしてRASセッションでそのプリンターを使用する必要があります。</p> <p>注意: mt182Lにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”または“3.4.9 ネットワークプリンターの追加 (P.102)”を参照してください。</p>								
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRASセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>								
スマートカードマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRASセッションのスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。</p>								
クリップボードのマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、クリップボードマッピングを有効/無効にします。</p>								
ローカルリソースの設定									
項目	説明文								
リモートオーディオ再生	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。3つのオプションが利用可能です：このコンピューターで再生、リモートコンピューターで再生、再生しない。</p>								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>このコンピューターで再生</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td></tr><tr><td>リモートコンピューターで再生</td><td>リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。</td></tr><tr><td>再生しない</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。</td></tr></table>	オプション	説明文	このコンピューターで再生	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	リモートコンピューターで再生	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。	再生しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。
	オプション	説明文							
	このコンピューターで再生	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。							
リモートコンピューターで再生	リモートコンピューターに接続されているオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでオーディオを再生できます。								
再生しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ再生を無効にします。								

マルチメディアリダイレクト	ドロップダウンメニューをクリックして、リモートデスクトップセッションのオーディオ再生設定を構成します。 次の2つのオプションを使用できます。 このコンピューターからの記録と記録しない。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>このコンピューターからの記録</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。</td></tr><tr><td>記録しない</td><td>ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。</td></tr></table>	オプション	説明文	このコンピューターからの記録	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。	記録しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。		
	オプション	説明文							
	このコンピューターからの記録	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用して、リモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を許可します。							
記録しない	ローカルに接続されたオーディオデバイスを使用したリモートデスクトップセッションでのオーディオ録音を無効にします。								
Windowsキーの組み合わせ	ドロップダウンメニューをクリックして、Windowsキーの組み合わせを適用する場所を選択します。 次の3つのオプションを使用できます。 ローカルコンピューター上、リモートサーバー上、および全画面モードのみ。								
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>ローカルコンピューター上</td><td>ローカルデスクトップにのみ適用されます。</td></tr><tr><td>リモートサーバー上</td><td>仮想デスクトップにのみ適用されます。</td></tr><tr><td>全画面モードのみ</td><td>デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。</td></tr></table>	オプション	説明文	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。	全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。
	オプション	説明文							
	ローカルコンピューター上	ローカルデスクトップにのみ適用されます。							
	リモートサーバー上	仮想デスクトップにのみ適用されます。							
全画面モードのみ	デスクトップが全画面モードで実行されている場合にのみ、仮想デスクトップに適用されます。								
プロキシ設定									
項目	説明文								
プロキシサーバーを使用する	プロキシサーバーを利用する場合はチェックを入れ、詳細を指定してください。								
プロキシタイプ	ドロップダウンメニューをクリックして、使用するプロトコルに応じてプロキシサーバーのタイプを選択します。 4つのオプション、 SOCKS 4 、 SOCKS 4A 、 SOCKS 5 、 および HTTP 1.1 を使用できます。								
プロキシホスト	プロキシサーバーのIPアドレスを指定します。								
プロキシポート	プロキシサービスに使用するポートを指定します。								
プロキシ資格情報を使用する	プロキシサーバーにユーザー認証が必要かどうかを確認し、資格情報を指定します。								
ユーザー名	プロキシサーバーのユーザー/アカウント名を入力します。								
パスワード	ユーザーアカウントのパスワードを入力します。								
追加の設定									
項目	説明文								
圧縮	ドロップメニューをクリックして、データトラフィックの圧縮を有効/無効にします。								

標準RDPの接続タイプの設定



注意

- Parallelsリモートアプリケーションサーバーの接続タイプの設定については、“Parallelsリモートアプリケーションサーバーの接続タイプの設定 (P.235)”を参照してください。

一般サブタブ

サーバー設定							
項目	説明文						
セッション名	RDPセッションの名前を入力します。						
プライマリサーバー	RDPセッションの配信に使用するサーバーのコンピューター名またはIPアドレスを入力します。						
接続タイプ	<p>この表は、標準RDPが選択されている場合に使用可能な設定の説明のみを提供しています。次の2つの接続タイプを使用できます。</p> <table> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> <tr> <td>Parallelsリモートアプリケーションサーバー</td><td>Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します</td></tr> <tr> <td>標準RDP</td><td>標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。</td></tr> </table>	オプション	説明文	Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します	標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。
オプション	説明文						
Parallelsリモートアプリケーションサーバー	Parallelsリモートアプリケーションサーバーを介してリモートデスクトップおよびアプリケーションにアクセスすることを選択します						
標準RDP	標準のMicrosoftリモートデスクトップサービスを介してリモートデスクトップにアクセスすることを選択します。						
ネットワークレベルの認証	<p>ネットワークレベル認証を有効/無効にします。</p> <p>注意: ネットワークレベル認証は、ログオン画面が表示されてセッションが作成される前にユーザーの認証を要求することにより、サーバーのセキュリティを強化するために使用される認証方法です。これは、リモートコンピュータを悪意のあるユーザーやソフトウェアから保護するのに役立つ、より安全な認証方法です。</p>						
ポート	接続タイプとモードを選択すると、デフォルトで使用するポートが自動的に割り当てられます。必要に応じて別のものを入力します。						
ログイン設定							
項目	説明文						
ユーザー名	プロキシサーバーのユーザー/アカウント名を入力します。						
パスワード	ユーザーアカウントのパスワードを入力します。						
ドメイン	<p>サーバーのドメインを入力します。</p> <p>注意: ドメインは、共通のデータベースとセキュリティポリシーを共有するネットワーク上のコンピューターのコレクションです。サーバーがどのドメインにも属していない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>						

共通設定

項目	説明文												
起動時に自動起動	mt182L起動時（自動起動モード）にRDPセッションを自動で開くかどうかを選択します。 注意: mt182Lには、似ているが異なる3つのモードがあり、すべてが有効になっている場合、1つのモードのみが有効になります。3つのモードと優先順位は次のとおりです。												
	<table><tr><th>No.</th><th>モード</th><th>説明文</th></tr><tr><td rowspan="4">1</td><td rowspan="4">アプライアンス</td><td>クライアントは目的のリモートデスクトップセッションを使用して直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td></td></tr></table>	No.	モード	説明文	1	アプライアンス	クライアントは目的のリモートデスクトップセッションを使用して直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。	<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする				
	No.	モード	説明文										
	1	アプライアンス	クライアントは目的のリモートデスクトップセッションを使用して直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。										
			利用可能なアクションは次のとおりです。										
<ul style="list-style-type: none">新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする													
<table><tr><td rowspan="4">2</td><td rowspan="4">自動起動</td><td>クライアントは目的のRDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。</td></tr><tr><td>利用可能なアクションは次のとおりです。</td></tr><tr><td><ul style="list-style-type: none">何もしない新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする</td></tr><tr><td></td></tr></table>	2	自動起動	クライアントは目的のRDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。	利用可能なアクションは次のとおりです。	<ul style="list-style-type: none">何もしない新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする								
2			自動起動	クライアントは目的のRDPセッションで直接起動し、セッションを終了した後、構成されたアクションを実行します。									
				利用可能なアクションは次のとおりです。									
				<ul style="list-style-type: none">何もしない新しいセッションを再開するシンクライアントの再起動シンクライアントをオフにする									
<table><tr><td rowspan="2">3</td><td rowspan="2">クイック接続</td><td>デフォルト有効。システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。</td></tr><tr><td></td></tr></table>	3	クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。										
3			クイック接続	デフォルト有効。 システム起動後クライアントはAtrustクイック接続画面に入ります。									
	注意: 自動開始モードを使用するには、アプライアンスモードが無効になっていることを確認してください。												
アプリケーション終了時	RDPセッションが終了したときの動作を選択します。 何もしない、アプリケーションを再起動する、再起動する、シャットダウン の4つのオプションがあります。												
	<table><tr><th>オプション</th><th>説明文</th></tr><tr><td>何もしない</td><td>何もしないこと。</td></tr><tr><td>アプリケーションを再起動する</td><td>RDPセッションを再度起動します。</td></tr><tr><td>再起動する</td><td>mt182Lを再起動します。</td></tr><tr><td>シャットダウン</td><td>mt182Lの電源を切ります。</td></tr><tr><td></td><td></td></tr></table>	オプション	説明文	何もしない	何もしないこと。	アプリケーションを再起動する	RDPセッションを再度起動します。	再起動する	mt182Lを再起動します。	シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。		
	オプション	説明文											
	何もしない	何もしないこと。											
	アプリケーションを再起動する	RDPセッションを再度起動します。											
	再起動する	mt182Lを再起動します。											
シャットダウン	mt182Lの電源を切ります。												

オプションサブタブ

ウィンドウ設定											
項目	説明文										
色深度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RDPセッションに必要な色深度を選択します。5つのオプション、8ビット、15ビット、16ビット、24ビット、32ビットを使用できます。</p> <p>注意: グラフィックスアクセラレーションでRemoteFXが有効になっている場合、ここでは32ビット/ピクセルのみを選択できます。</p> <p>注意: ホストサーバー上のRDPセッションの色深度の上限を構成できます。この場合、ここで選択する色深度に関係なく、値は定義された制限を超えることはできません。</p>										
解像度	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、RDPセッションで目的のディスプレイ解像度を選択します。フルスクリーン、ラージウィンドウ、ミディアムウィンドウ、スモールウィンドウの4つのオプションを使用できます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>オプション</th><th>説明文</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>フルスクリーン</td><td>ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。</td></tr> <tr> <td>ラージウィンドウ</td><td>大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td></tr> <tr> <td>ミディアムウィンドウ</td><td>中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td></tr> <tr> <td>スモールウィンドウ</td><td>小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。</td></tr> </tbody> </table> <p>注意: ローカルデスクトップの表示解像度を構成するには、セクション “3.3.3 表示設定の構成 (P.80)”を参照してください。</p>	オプション	説明文	フルスクリーン	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。	ラージウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。	ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。	スモールウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。
オプション	説明文										
フルスクリーン	ローカルデスクトップと同じディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを全画面で開きます。										
ラージウィンドウ	大きなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
ミディアムウィンドウ	中程度のディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
スモールウィンドウ	小さなディスプレイ解像度でリモートデスクトップセッションを開きます。										
グラフィックアクセラレーション	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、グラフィックアクセラレーションを設定します。4つのオプション、なし、基本、RemoteFX、RemoteFXアダプティブを使用できます。</p> <p>注意: Windows® RemoteFX™は、リモートデスクトップユーザーにネットワーク経由でリッチなユーザーエクスペリエンスを提供するテクノロジーです。</p> <p>注意: ここでRemoteFXを選択すると、32ビット/ピクセルの色深度が色深度で自動的に選択されます。</p>										
デスクトップセッションにすべてのモニターを使用する	オンにすると、接続されたモニターとセカンダリモニターを拡張画面として使用できます。										
すべてのモニターにまたがるデスクトップ	オンにすると、起動したデスクトップがすべての接続されたモニターにまたがります。										
公開アプリケーション											
項目	説明文										
プライマリモニターのみを使用する	オンにすると、起動したアプリケーションがプライマリモニターのみに表示されます。接続されている他のモニターは使用されず、ユーザーはアプリケーションウィンドウをそれらのモニターに移動することもできません。										

最適化設定	
項目	説明文
接続品質	<p>ネットワーク接続の品質を最もよく表すオプションを選択します。3つのオプション、LAN（非常に高速）、ブロードバンド（高速）、およびモデム（低速）を使用できます。</p> <p>注意: ここで選択すると、このセクションの項目のデフォルトが次のように決定されます。</p>
デスクトップの背景	チェックすると、デスクトップの背景が使用されます。
フォントスムージング	チェックを入れると、ClearType®テクノロジーを使用して、フォントを明確で滑らかにします。
ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する	オンにすると、ウィンドウのドラッグ中にウィンドウの内容が表示されます。
メニューとウィンドウのアニメーション	チェックすると、メニューとウィンドウのアニメーションが表示されます。
テーマ	チェックして、クラシックでないテーマを許可します。
接続設定	
項目	説明文
USBストレージマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、USBストレージマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでUSBフラッシュドライブやメモリカードリーダーなどのローカルUSBストレージデバイスにアクセスできます。</p> <p>注意: Atrust Client Setupでは、ローカルに接続されたUSBストレージデバイスの使用を有効または無効にすることもできます。ローカルに接続されたUSBストレージデバイスをRDPセッションで使用するには、まずそれらを有効にする必要があります。デフォルトは有効です。</p> <p>注意: USBストレージデバイスの使用を設定するには、セクション“3.4.3 USBストレージデバイスの設定の構成 (P.94)”を参照してください。</p>
プリンターマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、プリンターマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでローカルプリンターまたはネットワークプリンターにアクセスできます。</p> <p>注意: mt182Lのローカルプリンターまたはネットワークプリンターを最初に追加し、RDPセッションでそのプリンターを使用するには、ここでこの機能を有効にする必要があります。</p> <p>注意: mt182Lにローカルプリンターまたはネットワークプリンターを追加する方法の詳細については、“3.4.8 ローカルプリンターの追加 (P.99)”または“3.4.9 ネットワークプリンターの追加 (P.102)”を参照してください。</p>
シリアルポートマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、シリアルポートマッピングを有効/無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでバーコードスキャナーなどのシリアルデバイスにアクセスできます。</p>
スマートカードマッピング	<p>ドロップダウンメニューをクリックして、スマートカードマッピングを有効または無効にします。</p> <p>[有効にする]を選択すると、ユーザーはRDPセッションでスマートカードリーダーを介してスマートカードにアクセスできます。</p>
クリップボードのマッピング	ドロップダウンメニューをクリックして、クリップボードマッピングを有効/無効にします。

付録

この章では、mt182Lシンククライアントの詳細設定、メンテナンス、およびアップグレードについて説明します。

A.1 mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットする

mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットする方法	249
-----------------------------	-----

A.2 mt182Lのファームウェアの更新

mt182Lのファームウェアを更新する4つの方法	250
--------------------------	-----

A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用

SECUREMATRIX認証を有効にする	252
SECUREMATRIX認証の使用する	254
パスワードパターンを変更する	257

A.4 オートセットアップのフローチャート

オートセットアップモードでの動作のシーケンス	259
------------------------	-----

A.1 mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットする

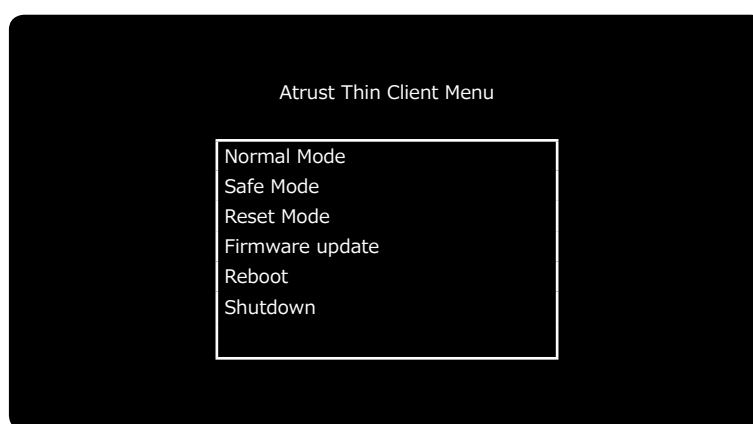
mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットするには、次の手順を実行してください。



警告

- mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットすると、Atrust Client Setupの現在の設定がすべて消去され、すべての設定がデフォルトに戻ります。

- mt182Lを再起動します。
- POST（パワーオンセルフテスト）期間中に、キーボードのEscキーを押して、Atrustシンクライアントメニューに入ります。



注意

- このメニューが画面に表示されるまで、約15秒かかることがあります。
- Atrustシンクライアントメニューでは、**通常モード、セーフモード、リセットモード、ファームウェアの更新、再起動、シャットダウン**の6つのオプションを使用できます。各オプションの説明については、以下の表を参照してください。

メニューオプション	説明文
通常モード	通常の起動手順として、mt182Lを起動します。
セーフモード	現在の画面解像度設定をクリアしてリセットします。
リセットモード	mt182Lを工場出荷時のデフォルトにリセットします。
ファームウェアの更新	mt182Lのファームウェアをネットワーク経由で更新します。
再起動	mt182Lを再起動します。
シャットダウン	mt182Lをシャットダウンします。

- キーボードの矢印キーを使用して[**リセットモード**]を選択し、キーボードのEnterキーを押して続行します。
- 確認を求めるメッセージが表示されます。キーボードの**y**をクリックして確認します。
- 完了したら、キーボードの**Enter**キーを押してシステムを再起動します。

A.2 mt182Lのファームウェアの更新

mt182Lのファームウェアを更新するには、4つの方法があります。

メソッド	説明文
Atrustシンククライアントメニュー	リモートコンピュータからファームウェアをダウンロードし、シンククライアントのファームウェアを更新します。
USBフラッシュドライブ	Recovery USB Disk Creatorによって作成されたUSBフラッシュドライブでファームウェアを更新します。
Atrustクライアントのセットアップ	Atrust Client Setupを使用して、シンククライアントでローカルにファームウェアの更新を開始します。
Atrustデバイスマネージャー	Atrust Device Managerを使用して、リモートコンピュータでリモートからファームウェアの更新を開始します。

Atrustシンククライアントメニューの使用

Atrustシンククライアントメニューを使用してファームウェアを更新するには、次の手順に従ってください。

1. シンククライアントをネットワークに接続し、再起動します。
2. POST（パワーオンセルフテスト）期間中に、キーボードの**Esc**キーを押して、Atrustシンククライアントメニューに入ります。
3. **[ファームウェアの更新]**を選択し、画面の指示に従ってタスクを完了します。



注意

- ネットワーク経由でファームウェアサーバーのIPアドレスを指定する必要があります。ファームウェアサーバーは、Atrustデバイスマネージャーがインストールされ、クライアントファームウェアファイルがAtrustデバイスマネージャーを介してインポートされるサーバーです。
- Atrustデバイスマネージャーの詳細については、Atrustデバイスマネージャーのユーザーズマニュアルを参照してください。

USBフラッシュドライブの使用

Recovery USB Disk Creatorによって作成されたUSBフラッシュドライブを使用してファームウェアを更新するには、次の手順を実行します。



注意

- リカバリUSBディスククリエーターを使用してUSBフラッシュドライブを作成する方法については、USBクリエーターのクイックガイドを参照してください。

1. USBフラッシュドライブを接続し、シンククライアントを再起動します。
2. POST期間中に**F7**キーを押して、Boot Deviceメニューに入ります。
3. そのメニューでUSBフラッシュドライブを選択して、Atrustシンククライアント回復システム画面に入ります。画面の指示に従って、タスクを完了します。

Atrust Client Setupの使用

Atrust Client Setupを使用してファームウェアを更新するには、セクション“3.2.7 管理コンピューターからのファームウェアの更新 (P.56)”を参照してください。

Atrustデバイスマネージャーの使用

Atrustデバイスマネージャーを使用してファームウェアを更新するには、Atrustデバイスマネージャーのユーザーズマニュアルを参照してください。

A.3 VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用

カスタムVMware接続のSECUREMATRIX認証を有効にする

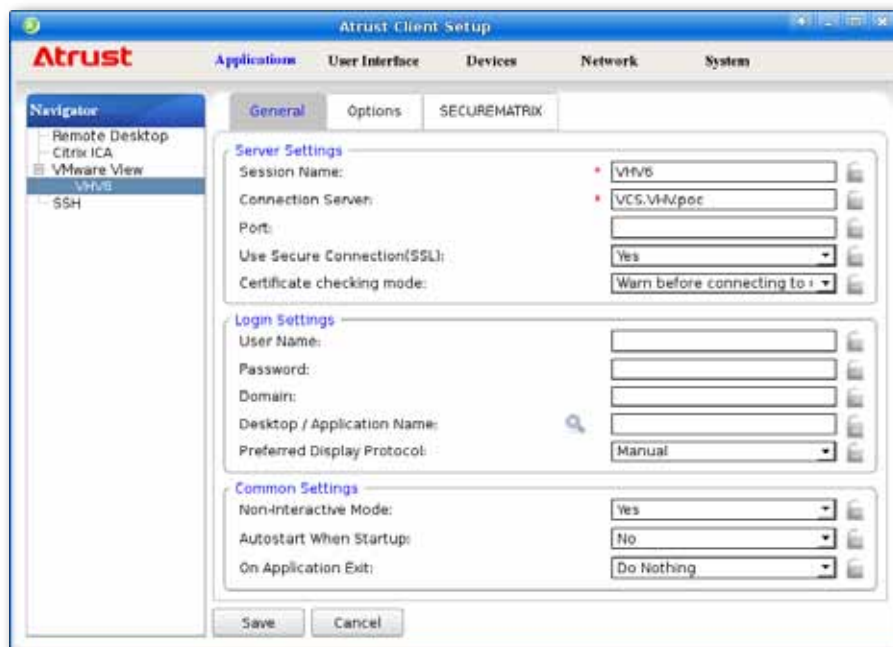
カスタムVMware接続でSECUREMATRIX認証を有効にするには、次の手順を実行してください。



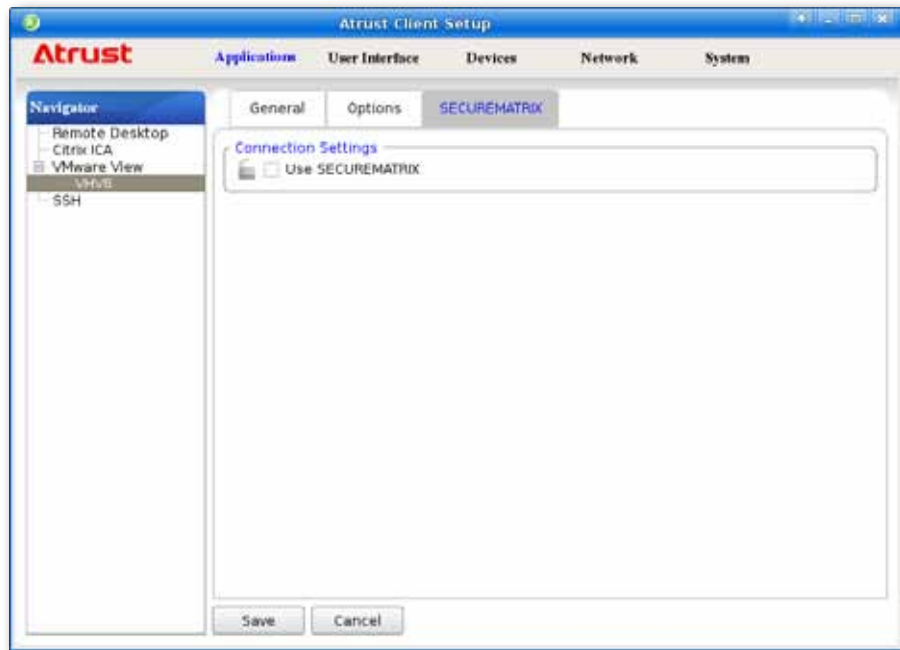
注意

- SECUREMATRIX認証は、クイック接続モードでは使用できません。

- ローカルデスクトップで、[スタート]> [設定]> [Atrustクライアントセットアップ]をクリックして、Atrustクライアントセットアップを起動します。
- [アプリケーション]> [VMware]> [追加]をクリックして、接続設定の新しいエントリを作成します。
- [全般]タブで、目的のセッション名とView接続サーバーのサーバーアドレスを入力します。



- [SECUREMATRIX]タブで、[SECUREMATRIXを使用する]をクリックしてオンにします。



注意

- デフォルトでは、SECUREMATRIX認証は無効になっています。

5. SECUREMATRIX関連情報を入力するための2つのフィールドが表示されます。GSBサーバー（SECUREMATRIX認証サービスのサーバー）のサーバーアドレスを入力します。

6. 必要に応じて他の接続設定を構成し、**[保存]**をクリックして確定します。
7. アクセスショートカットは、ローカルデスクトップと[スタート]メニューに作成されます。

VMware接続でのSECUREMATRIX認証の使用

VMware接続でSECUREMATRIXが有効になっている場合、以下の手順と手順に従ってSECUREMATRIX認証を使用します。

1. ローカルデスクトップまたは[スタート]メニューのショートカットをクリックします。
2. SECUREMATRIX認証のログインIDを要求するウィンドウが表示されます。



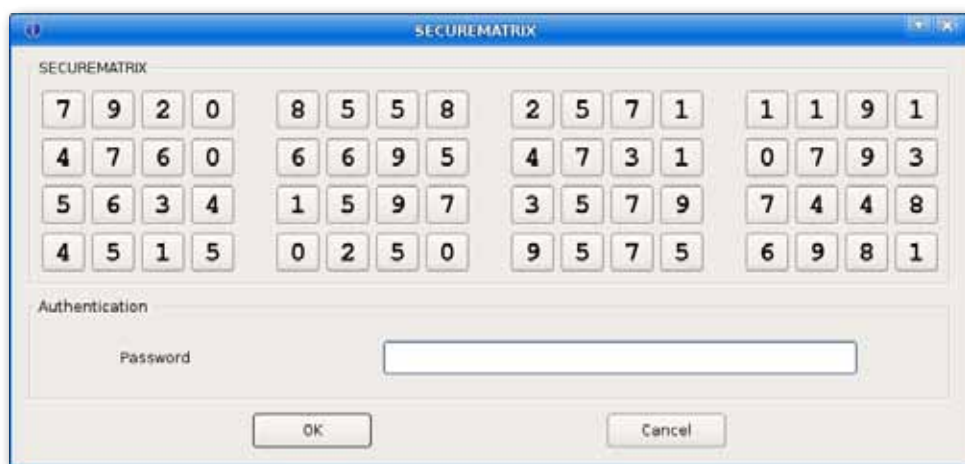
3. ログインIDを入力し、**[OK]**をクリックして確認します。



注意

- パスワードパターンを変更するには、[パスワードの変更]をクリックします。詳しくは“SECUREMATRIX認証のパスワードパターンの変更 (P.257)”をご覧ください。

4. SECUREMATRIXウィンドウが表示され、パスワードの入力を求められます。



5. キーボードを使用してパスワードパターンの下に数字を入力するか、ウィンドウで直接数字をクリックし、**[OK]**をクリックして確定します。



ヒント

- たとえば、パスワードパターンが次のように表示されている場合は、**0、0、4、5、1、3、6、2**の順に番号を入力またはクリックします。



- SECUREMATRIX認証が完了すると、メッセージが表示されます。[OK]をクリックして続行します。



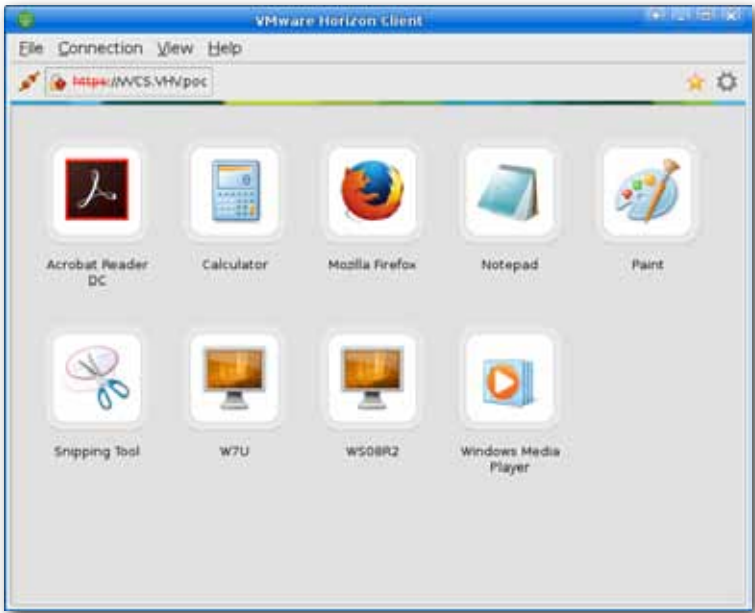
- VMware仮想デスクトップおよびアプリケーションにアクセスするための認証情報を提供するように求めるメッセージが表示されます。[OK]をクリックして続行します。



- 開いたウィンドウで資格情報を入力し、[OK]をクリックして続行します。



- デスクトップとアプリケーションのリストが表示されます。ダブルクリックして、目的のデスクトップまたはアプリケーションを選択します。



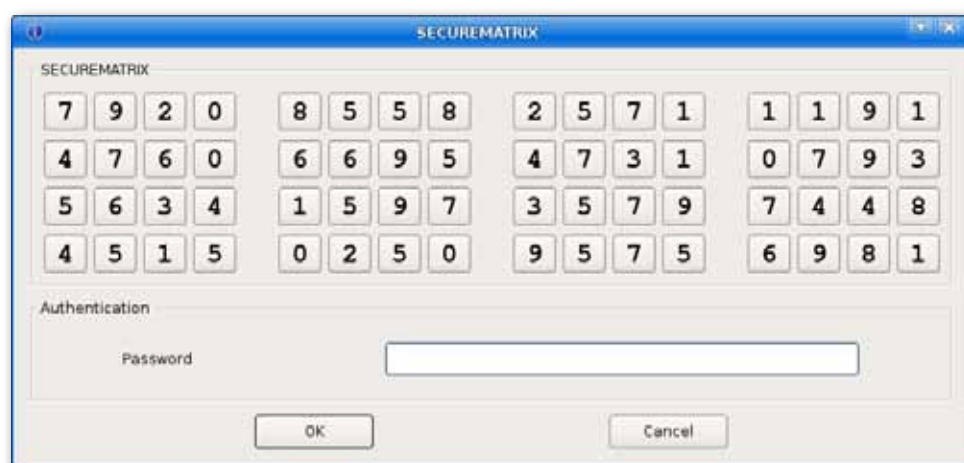
SECUREMATRIX認証のパスワードパターンの変更

SECUREMATRIX認証のパスワードパターンを変更するには、次の手順を実行してください。

1. 表示されるログインIDの入力を求めるウィンドウで、ログインIDを入力し、**[パスワードの変更]**をクリックします。



2. **古いパスワードパターン**の下の数字を入力またはクリックし、**[OK]**をクリックして続行します。



3. **新しいパスワードパターン**の下の数字を入力またはクリックし、**[OK]**をクリックして続行します。

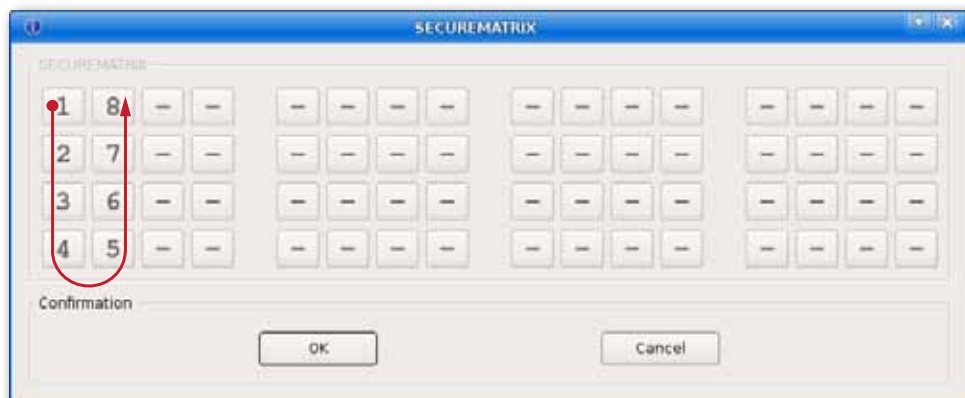
新しいパスワードパターン
例えば



4. **新しいパスワードパターン**の下にある数字をもう一度入力またはクリックし、**[OK]**をクリックして続行します。



5. **新しいパスワードパターン**を番号順に示し、確認を求めるウィンドウが表示されます。**[OK]**をクリックして確認します。

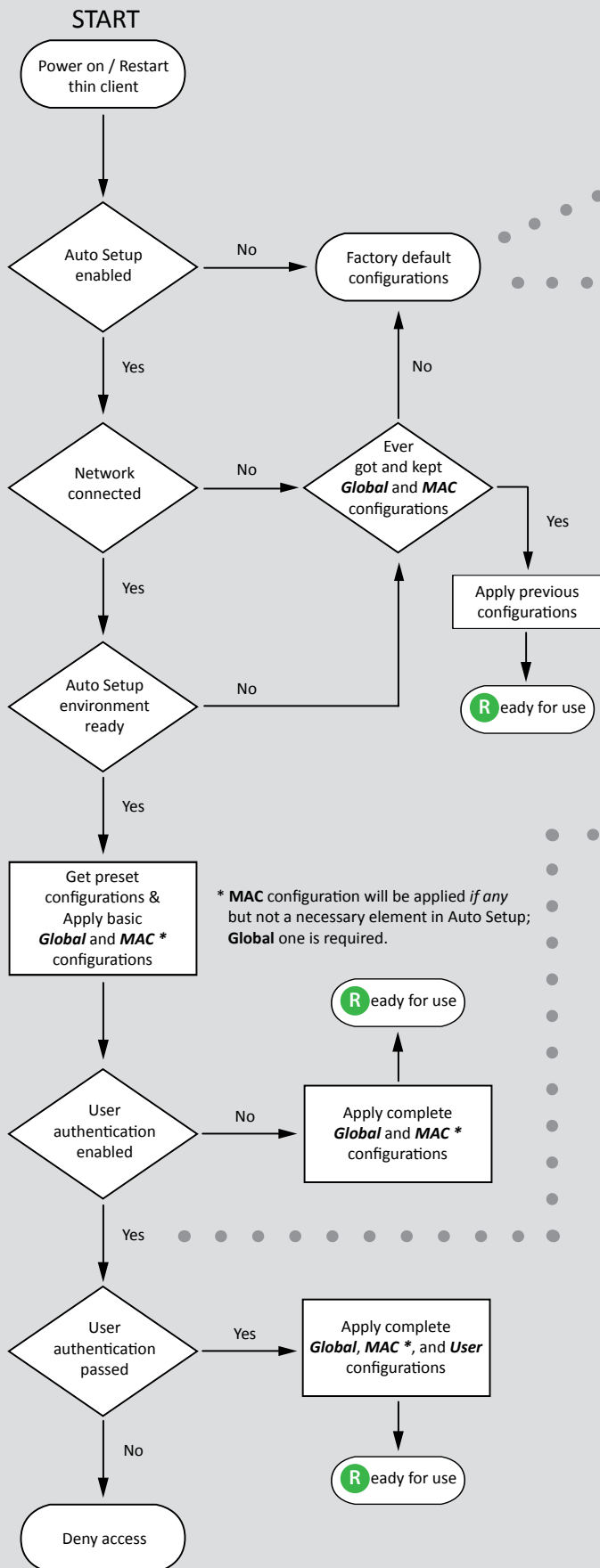


A.4 オートセットアップのフローチャート

オートセットアップモードでの動作のシーケンスは**次のページ**をご覧ください。

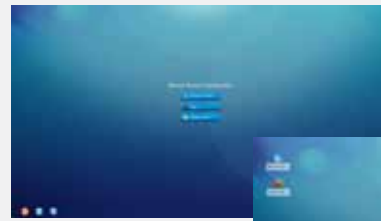
詳細については、オートセットアップのためのユーザーズ・ガイドを参照してください。

フローチャート



スクリーン

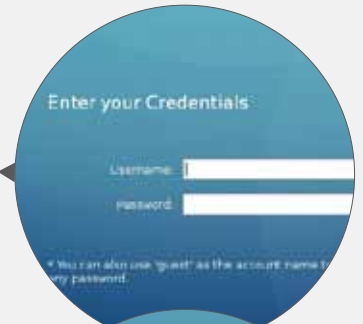
移植できないシンクライアントは、
クイック接続画面から始まります



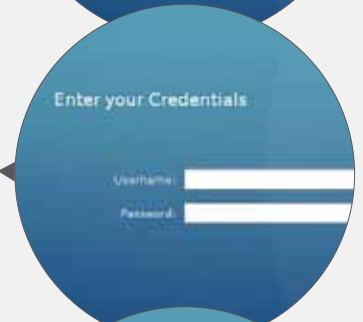
ポータブルシンクライアント
はローカルデスクトップから
始まります



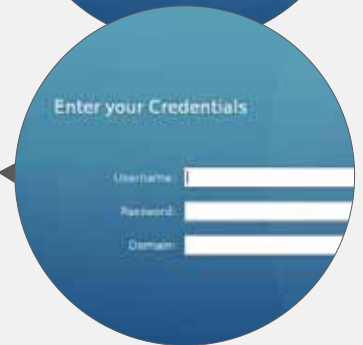
ゲストが有効なユーザー認証を
使用したログオン画面



ゲストが無効なユーザー認証を
使用したログオン画面



Active Directory認証を
使用したログオン画面



自動セットアップが有効になっている場合、ユーザー環境はプリセット構成によって異なる場合があります。

オートセットアップの要件

- オートセットアップは、エンドポイントデバイスを有効に
- オートセットアップ環境とメカニズム
- ネットワーク接続
- 使用する仮想化サービスのターゲット

仕様書

Atrust mt182Lモバイルシンクライアント

プロセッサ	Intel® Atom® x5-E8000, Quad-core, 1.04 GHz, 最大 2.0 GHz
システムメモリ	2 GB
フラッシュメモリー	4 GB
ディスプレイ	タイプ: 14", FHD 1920 x 1080
キーボード/ タッチパッド	キーボード: テンキーを含む完全なレイアウト タッチパッド: 2ボタングライドパッド
サウンド	内蔵スピーカー
I / Oインターフェース	<div>左側:</div> <div>右側:</div> <div>ディスプレイとベース:</div> <div>1 x DC IN</div> <div>2 x USB-A (USB 3.1 Gen 1)</div> <div>2 x 内蔵マイク</div> <div>1 x HDMI</div> <div>1 x USB-C (USB 3.1 Gen 1)</div> <div>1 x ウェブカメラ</div> <div>2 x 内蔵スピーカー</div> <div>1 x USB-C (USB 3.1 Gen 1)</div> <div>1 x オーディオコンボジャック</div> <div>1 x 指紋センサー</div>
ネットワーキング	USB-to-LANアダプター: USB-A (USB 3.1)、10/100/1000 Mbイーサネット Wi-Fi 802.11 ac/a/b/g/n (M.2インターフェース) Bluetooth 4.2
ACアダプター	入力: 100-240 V, 50-60 Hz 出力: 19 V, 3.42 A, 65 W
バッテリー	内蔵充電式バッテリー 3290 mAh
オペレーティング・システム	Atrust Linux
サポートされているプロトコル	Microsoft RDP with RemoteFX / Citrix ICA with HDX / VMware PCoIP
マネジメント	Atrust Client Setup / Atrustデバイスマネージャ
セキュリティ	ケンジントンセキュリティスロット
寸法	(W)322 x (D)222 x (H)15.95 mm
重量	1.20 kg (約)
環境	<div>動作温度: 0° C ~ 35° C</div> <div>非動作温度: -20° C ~ 60° C</div> <div>動作湿度 (Rh): 10% ~ 90% (non-condensing)</div> <div>非動作時の湿度 (Rh): 5% ~ 95%</div>

Atrust